

NetVehicle 取扱説明書



NetVehicle-GX5

応用編





はじめに

このたびは、NetVehicle-GX5 をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

NetVehicle-GX5（以降、NetVehicle と略します）は、INS ネット 64 などの ISDN 回線や OCN、DA 64/128 などのデジタル専用線を使用して、インターネットサービスプロバイダやルータとの LAN-WAN 通信を行うための小型ルータです。

NetVehicle では WWW ブラウザを使用して、各種設定を簡単に行うことができます。また、設定画面は WWW のホームページと同じハイパーテキスト形式になっているので、設定方法や設定項目の説明をクリックひとつで参照できます。

インターネットや LAN をさらに活用するために、NetVehicle をご利用ください。

2002 年 8 月

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All rights reserved, Copyright© 富士通株式会社 1999-2002



目次

はじめに	1
取扱説明書の構成と使いかた	10
マークについて	11
本書における商標の表記について	12

第1章 設定リファレンス 13

「詳細設定」で設定する	14
詳細設定メニューを表示する	15
回線情報設定	16
LAN 情報設定	18
ルーティング情報設定 (LAN 情報)	20
相手情報設定	21
ネットワーク情報設定	22
接続先情報設定	25
ポートルーティング情報設定	28
ルーティング情報設定 (ネットワーク情報)	29
IP フィルタリング情報	30
静的 NAT 情報設定	31
不特定相手情報設定	32
PPP 受諾認証情報	34
装置情報設定	35
モデム情報設定	38
パスワード情報設定	41
E メールエージェント情報設定	42
メールチェック情報設定	44
宛先メールアドレス設定	46
条件設定	47
TEL メール情報設定	48
ProxyDNS 情報	49
ProxyDNS 情報設定(順引き)	50
ProxyDNS 情報設定(逆引き)	51
ホストデータベース情報	52
ホストデータベース情報設定	53
スケジュール情報	54
月間／週間予約設定	55
電話番号変更予約設定	56
マルチ TA 情報	57
アナログ共通情報	58
アナログポート 1 / 2 情報	60
発信規制情報設定 (発信抑止)	63
発信規制情報設定 (発信許可)	64
送出着信番号情報	65

識別着信情報	66
識別着信情報設定	67
識別着信情報設定（デフォルト定義）	68
識別着信情報設定（公衆電話着信）	69
識別着信情報設定（発信者番号非通知着信）	70

第2章 NetVehicleをいろいろな接続形態で使う 71

複数プロバイダと端末型接続する	72
事業所 LAN どうしを ISDN で接続する	75
事業所 A の NetVehicle を設定する	76
事業所 B の NetVehicle を設定する	80
インターネットと LAN に同時接続する	81
外部のパソコンと接続する（TA&PHS）	85
事業所 LAN どうしを専用線で接続する	90
本社の NetVehicle を設定する	91
支店の NetVehicle を設定する	93
OCN エコノミーと接続する	94

第3章 NetVehicleの便利な機能を活用する 99

マルチ NAT 機能（アドレス変換機能）を使う	100
NAT 機能の選択基準	102
端末型接続でインターネットゲームをする	103
ネットワーク型接続でサーバを公開する	105
IP フィルタリング機能を使う	108
接続形態に応じたセキュリティ方針を決める	109
IP フィルタリングの条件	109
外部の特定サービスへのアクセスのみ許可する	112
外部から特定サーバへのアクセスのみ許可する	115
利用者が意図しない発信を防ぐ	119
特定アドレスへのアクセスを禁止する	121
回線が接続している時だけ許可する	122
マルチルーティングを利用する	124
パソコンごとに別々のプロバイダを利用する（ソースアドレスルーティング機能）	124
目的ごとに別々のプロバイダに接続する（ポートルーティング機能）	124
課金単位でプロバイダを切り替える	126
DNS サーバを使いこなす（ProxyDNS）	128
DNS サーバの自動切り替え機能	128
DNS サーバアドレスの自動取得機能	131
DNS 問い合わせタイプフィルタ機能	132
DNS サーバ機能	133
DHCP サーバ機能を使う	134
DHCP サーバ機能を使う	135
DHCP スタティック機能を使う	136
外部のパソコンから着信接続する（アクセスサーバ機能）	137
認証 ID による接続相手の識別	141
外出先や自宅から会社のパソコンを起動させる（リモートパワーオン機能）	144
コールバック機能を利用する	146
CBCP 方式でコールバック要求する	147
CBCP 方式でコールバック応答する	149
無課金コールバックでコールバック要求する	151

無課金コールバックでコールバック応答する	152
マルチ TA 機能を使う	154
モデムを使ってアナログ回線と通信する	165
特定の URL へのアクセスを禁止する (URL フィルタ機能)	169
通信料金を節約する (課金制御機能)	171
E メールエージェント機能を使う	174
メールチェック機能	175
リモートメールチェック機能	177
メール転送機能	179
メール一覧送信機能	181
TEL メール機能	183
メール着信通知機能	186
スケジュール機能を使う	187
ブザー機能を使う	189
操作パネルの動作を設定する	190
留守モードの動作を設定する	192

第 4 章 NetVehicle のアナログ機能を利用する 195

スタンバイモードで使用する	196
アナログ機器を利用するにあたって	197
内線通話・内線転送機能を使う	198
内線通話をする	198
外からかかってきた電話をもう一方のアナログポートに転送する	198
L モード (メッセージ到着お知らせ) 機能を使う	200
メッセージ到着お知らせ機能を設定する	200
登録した番号への発信を規制する	203
識別着信機能を使う	204
相手電話番号識別機能を使う (優先着信機能)	205
着信電話番号識別機能を使う	207
疑似迷惑電話お断りを使う	209
疑似キャッチホンを使う	211
疑似着信転送を使う	213
疑似三者通話を使う	215
疑似通信中転送を使う	217
フレックスホンを使う	219
フレックスホンのいろいろな機能を使う	220
フレックスホン自動切り替え機能を使う	224
INS ボイスワープを利用する	225
発信者番号表示 (ナンバー・ディスプレイ) を使う	227
発信者番号表示 (キャッチホン・ディスプレイ) を使う	229
発信者番号通知の設定を変更する	231
発信者電話番号を選択する	232
無鳴動 FAX 受信機能を使う	233
i・ナンバー着信機能を使う	234
サブアドレスを設定する	235
ダイヤルイン／グローバル着信機能を使う	236
ダイヤルイン／グローバル着信機能を設定する	236
モデムダイヤルイン機能を使う	238
モデムダイヤルイン機能を設定する (その 1: 自局電話番号を送出する)	238

モデムダイヤルイン機能を設定する（その 2：任意の番号を送出する）	241
アナログダイヤルイン機能を使う	244
アナログダイヤルイン機能を設定する（その 1：自局電話番号を送出する）	244
アナログダイヤルイン機能を設定する（その 2：任意の番号を送出する）	246
リバースパルス送出機能を使う	248
電話機を利用して設定を変更する	249
時計を設定する	250
IP アドレスを設定する	250
アナログ機能を設定する	251
着信転送先の設定を行う	253
TEL メールの設定を行う	254
メールチェックを実行する	254
メール着信を消去する	254
留守状態の設定を行う	255
留守モードの設定を行う	255
外線から設定を変更する（無課金）	256
設定変更用暗証番号を設定する	256
外線からアナログ機能の設定を変更する	257
外線から着信転送先の設定を行う	258
外線から TEL メールの設定を行う	259
外線から留守状態の設定を行う	260
留守状態を確認する（無課金）	261

第 5 章 運用管理とメンテナンス 263

操作メニューを使う	264
操作メニューを表示する	264
手動で回線を接続する／切断する	264
手動でチャンネルを増やす／減らす	265
ネットワークの接続を確認する	266
時計を設定する	266
テレホーダイ機能を使う	267
留守モードの ON/OFF を設定する	268
表示メニューを使う	269
表示メニューを表示する	269
回線接続状況を確認する	270
課金情報で運用状況を確認する	270
IP 統計情報を見る	272
電子メール着信通知を見る	273
チャンネル統計情報を見る	274
回線ログ情報で運用状況を確認する	274
システムログを見る	275
ルーティング情報を見る	275
現在時刻を見る	275
経過時間情報を見る	275
掲示板に投稿する	276
掲示板を見る	277
メンテナンスメニューを使う	278
メンテナンスメニューを表示する	278
バージョン情報	279
PPP フレームトレース情報を見る	279
エラーログ情報	280
NetVehicle のファームウェアを更新する	280

オンラインサポート機能	281
構成定義情報を退避する／復元する	282
電話番号を変更する	283

付録 285

PPP フレームトレース情報詳細	286
ISDN 理由表示番号一覧	288
液晶ディスプレイメッセージ一覧	290
NetVehicle の状態を表すメッセージ	290
データ通信の状態を表すメッセージ	291
アナログ通信の状態を表すメッセージ	293
用語集	297
Q&A	302
「詳細設定」で設定できる項目	320
索引	325

はじめに	1
コピーライトについて	9
安全上のご注意	11
警告表示について	11
電池に関するご注意	13
メンテナンスに関するご注意	13
使用上のご注意	14
ファームウェアの更新について	14
避雷対策について	14
セキュリティの確保について	14
電波障害自主規制について	14
ハイセイフティについて	14
取扱説明書の構成と使いかた	15
本書の使いかた	16
マークについて	17
本書における商標の表記について	17
NetVehicle でできること	18

第1章 お使いになる前に 21

梱包内容／各部の名称と働きを確認する	22
NetVehicle 前面	23
NetVehicle 背面	25
NetVehicle 側面	26
NetVehicle 底面	28
NTT 回線加入契約の内容を確認する	29
「INS ネット 64」または「INS ネット 64・ライト」を新規に申し込む場合は	29
プロバイダとの契約内容を確認する	31
プロバイダと新規に契約する場合は	32

第2章 NetVehicle と回線をつなぐ 33

ISDN 回線をつなぐ	34
NetVehicle の接続手順	34
ISDN 回線をつなぐ	35
アナログ機器をつなぐ	36
アース線をつなぐ	37
電源をつなぐ	37
電話が利用できることを確認する	38
専用線をつなぐ	39
NetVehicle の接続手順	39
専用線をつなぐ	40
電源をつなぐ	40
アナログ回線をつなぐ（モデム接続）	41
NetVehicle の接続手順	41
アナログ回線をつなぐ	42
電源をつなぐ	42

第3章 パソコンを設定する 43

パソコンを LAN でつなぐ場合は	44
LAN カードを用意する	44
TCP/IP プロトコルを利用できるようにする	44
WWW ブラウザを用意する	50
パソコンを USB でつなぐ場合は	52
USB ケーブルでつなぐ	53
USB ドライバを準備する	54
TCP/IP プロトコルを利用できるようにする	55
WWW ブラウザを用意する	57

第4章 NetVehicle とパソコンをつなぐ 59

新規に LAN を構築する	60
パソコンをつなぐ	60
ハブを使って LAN を構築する	61
既存の LAN を構築する	62
ネットワークの状況を確認する	62
IP アドレスを設定する	63
NetVehicle をつなぐ	64

第5章 NetVehicle を設定する 65

設定を始める	66
NetVehicle とパソコンの電源を入れる	66
WWW ブラウザを起動して NetVehicle のトップページを表示させる	66
時計を設定する	68
設定方法を選ぶ	70
「かんたん設定」で設定する場合	70
「詳細設定」で設定する場合	70
「かんたん設定」で設定する（インターネットへ ISDN 接続のとき）	71
「かんたん設定」で設定する（インターネットへフレッツ・ISDN 接続のとき）	77
「かんたん設定」で設定する（インターネットへ専用線接続のとき）	81
「かんたん設定」で設定する（インターネットへモデム接続のとき）	85
「かんたん設定」で設定する（オフィスへ ISDN 接続のとき）	90
「かんたん設定」で設定する（オフィスへ専用線接続のとき）	94
「かんたん設定」で設定する（アナログ設定）	97
電話機を使って設定する	98
時計を設定する	98
IP アドレスを設定する	99
アナログ機能を設定する	100
着信転送先の設定を行う	102
TEL メールの設定を行う	103
メールチェックを実行する	103
メール着信を消去する	103
留守状態の設定を行う	104
留守モードの設定を行う	104
操作パネルで設定する	105
時計を設定する	106
IP アドレスを設定する	107

第6章 利用料金に関するご注意 109

回線料金がおかしいと思ったら	110
超過課金の見分け方	110
超過課金が発生した原因を調べる	110
課金情報を確認する	114
操作パネルで課金情報を確認する	116

第7章 困ったときには..... 117

通信ができない場合には	118
起動時の動作に関するトラブル	118
NetVehicle 設定時のトラブル	119
回線への接続に関するトラブル	120
データ通信に関するトラブル	123
アナログ機器に関するトラブル	124
その他のトラブル	125
ご購入時の状態に戻すには	126
故障した場合には	127

付録..... 129

バックアップ用電池について	130
電池に関するご注意	130
電池をセットする	131
停電時の動作について	132
縦置きでご使用になるには	133
モバイルポートをご使用になるには	134
スイッチ設定例	135
NetVehicle の DSU を使用して他の ISDN 機器をつなぐ	135
NetVehicle を既設の DSU に接続する	137
USB ドライバを削除する	139
USB ドライバを更新する	141
ダイヤル操作早見表	144
操作パネル早見表	147
NTT との契約が必要な機能	150
添付 CD-ROM の内容について	151
仕様	152
ハードウェア仕様	152
ソフトウェア仕様	153
設定内容をメモする	155
索引	156



取扱説明書の構成と使いかた

本書では、NetVehicleの機能について詳しく説明しています。また、NetVehicleの機能を活用できるように設定例を中心に載せています。リファレンス形式になっていますので必要な情報だけ参照してお使いいただけます。

NetVehicleを理解していただくために、取扱説明書は以下の2種類をご用意しています。

- ・ 応用編（本書） : NetVehicleの多様な機能の詳細を載せています。NetVehicleの機能を活用していただくためにお読みください。
- ・ 基本編 : NetVehicleの基本的な使い方を載せています。NetVehicleを接続して設定を行い、通信ができるようになるまでを説明しています。詳細な機能に関する情報は応用編にあります。

NetVehicleのトップページと取扱説明書の記載内容とが異なる場合は、各ページの指示に従って設定を行ってください。また、NetVehicleのトップページから富士通のNetVehicleのサポートページをワンタッチで参照できます。より高度な使い方や、本書に掲載されている以外の各種設定例、機能追加などは、NetVehicleのサポートページを参照してください。NetVehicleに関する最新の情報を入手できます。

本書の構成

応用編（本書）の構成と各章の内容を示します。

章タイトル	内 容	主な項目
第1章 設定リファレンス	詳細設定メニューの各ページで設定する情報を項目ごとに説明しています。	・ 詳細設定メニュー
第2章 NetVehicleを いろいろな 接続形態で使う	NetVehicleの代表的な接続形態のいくつかを紹介しています。	・ 端末型接続 ・ LANをISDN接続 ・ LANを専用線接続
第3章 NetVehicleの 便利な機能を活用 する	NetVehicleの便利な機能の活用方法について説明しています。	・ マルチNAT ・ IPフィルタリング ・ DHCPサーバ機能
第4章 NetVehicleの アナログ機能を利用する	NetVehicleにつないだアナログ機器を利用する方法を説明しています。	・ スタンバイモード ・ 内線通話、転送機能 ・ サブアドレス
第5章 運用管理と メンテナンス	NetVehicleで、ISDN回線の運用状況などの管理や確認を行う方法を説明しています。	・ 操作メニュー ・ 表示メニュー ・ メンテナンスメニュー
付 録	本書で使われている用語や、FAQなどを説明しています。	・ 用語集 ・ Q & A

基本編の構成

基本編の構成と各章の内容を示します。

章タイトル	内 容	主な項目
第1章 お使いになる前に	NetVehicleを使う前に必要な準備などを説明しています。	・ 梱包物／各部名称の確認
第2章 NetVehicleと回線をつなぐ	NetVehicleとISDN回線、および専用線をつなぐ方法を説明しています。	・ 回線をつなぐ ・ 電話をかける
第3章 パソコンを設定する	利用するパソコンの準備を説明しています。	・ LANでつなぐ ・ USBでつなぐ
第4章 NetVehicleとパソコンをつなぐ	NetVehicleとパソコンをつなぐ方法を説明しています。	・ IPアドレスの設定 ・ LAN接続方法
第5章 NetVehicleを設定する	NetVehicleでの基本的な設定方法を説明しています。	・ かんたん設定 ・ アナログ機器設定 ・ 操作パネル設定
第6章 利用料金に関するご注意	NetVehicleを使用して、利用料金が正常かどうかを確認する方法、および異常が発生した場合の対処方法を説明しています。	・ 回線状況の確認 ・ 課金状況の確認
第7章 困ったときには	トラブル発生時の対処方法を説明しています。	・ トラブルシューティング ・ ご購入時の状態に戻す
付 録	補足情報を載せています。	・ 電池の入れ方 ・ ダイヤル操作早見表 ・ 設定内容メモ

マークについて

本書で使用しているマーク類は、次のような内容をあらわしています。



NetVehicleをお使いになるうえで役に立つ知識を、コラム形式で説明しています。



こんな事に気をつけて

NetVehicleをご使用になる際に、注意していただきたいことを説明します。



操作手順で説明しているものの他に、補足情報を説明しています。



操作方法など関連事項を説明している箇所を示します。



警告 製造物責任法 (PL) 関連の警告事項をあらわしています。NetVehicleをお使いの際は必ず守ってください。



注意 製造物責任法 (PL) 関連の注意事項をあらわしています。NetVehicleをお使いの際は必ず守ってください。

■ 本書における商標の表記について

Microsoft、Windows および Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Macintosh は、アップルコンピュータ社の商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Acrobat、Adobe Acrobat ロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。

Netscape Communications、Netscape Communications logo、Netscape Navigator、Netscape は、米国 Netscape Communications Corporation の登録商標です。

AMD、AMD 社ロゴマーク、ならびにその組み合わせは、Advanced Micro Devices, Inc. の登録商標です。

Magic Packet、PCnet は Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

AMD and the AMD Logo are registered trademarks and Magic Packet and PCnet are trademarks of Advanced Micro Devices, Inc.

本書に記載されているその他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中では® および™ マークは省略しています。

Windows® Me の正式名称は、Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system です。

Windows® 98 の正式名称は、Microsoft® Windows® 98 operating system です。

Windows® 95 の正式名称は、Microsoft® Windows® 95 operating system です。

Windows® 2000 の正式名称は、Microsoft® Windows® 2000 operating system です。

Windows NT® 4.0 の正式名称は、Microsoft® Windows NT® Server network operating system Version 4.0、または Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0 です。

Windows NT® 3.51 の正式名称は、Microsoft® Windows NT® Server network operating system Version 3.51、または Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 3.51 です。



設定リファレンス

この章では、
NetVehicle の代表的な接続形態のいくつかを紹介します。

「詳細設定」で設定する	14
詳細設定メニューを表示する	15
回線情報設定	16
LAN 情報設定	18
ルーティング情報設定 (LAN 情報)	20
相手情報設定	21
ネットワーク情報設定	22
接続先情報設定	25
ポートルーティング情報設定	28
ルーティング情報設定 (ネットワーク情報)	29
IP フィルタリング情報	30
静的 NAT 情報設定	31
不特定相手情報設定	32
PPP 受諾認証情報	34
装置情報設定	35
モデム情報設定	38
パスワード情報設定	41
E メールエージェント情報設定	42
メールチェック情報設定	44
宛先メールアドレス設定	46
条件設定	47
TEL メール情報設定	48
ProxyDNS 情報	49
ProxyDNS 情報設定(順引き)	50
ProxyDNS 情報設定(逆引き)	51
ホストデータベース情報	52
ホストデータベース情報設定	53
スケジュール情報	54
月間／週間予約設定	55
電話番号変更予約設定	56
マルチ TA 情報	57
アナログ共通情報	58
アナログポート 1 / 2 情報	60
発信規制情報設定 (発信抑止)	63
発信規制情報設定 (発信許可)	64
送出着信番号情報	65
識別着信情報	66
識別着信情報設定	67
識別着信情報設定 (デフォルト定義)	68
識別着信情報設定 (公衆電話着信)	69
識別着信情報設定 (発信者番号非通知着信)	70



「詳細設定」で設定する

「かんたん設定」の場合とは異なり、「詳細設定」では設定項目を個別に設定し、各項目を組み合わせで通信できる状態にします。詳細設定メニューでは、「ルータ設定」および「アナログ設定」の設定が行えます。



「「詳細設定」で設定できる項目」(P.320)



こんな事に気をつけて

- 「詳細設定」だけで設定する場合、「回線情報」「LAN 情報」「相手情報」は必ず設定してください。
- 「詳細設定」で設定したあとで「かんたん設定」を行うと、「詳細設定」で設定した内容が無効になります。
ただし、パスワード情報、アナログ情報、ファームウェア更新情報は有効です。

詳細設定で設定する場合は、次のような手順で操作します。

1. NetVehicle のトップページで画面上部の「詳細設定」アイコンをクリックします。
詳細設定メニューが表示されます。
2. 詳細設定メニュー（画面左側）の設定項目名をクリックします。
設定画面（画面右側）が表示されます。各ページで設定情報を指定します。
3. 「更新」ボタンをクリックします。
入力した設定情報を元に戻す場合は、「キャンセル」ボタンをクリックします。
複数のページで設定が必要な場合は、各ページで情報を指定して、「更新」ボタンをクリックします。
4. 「設定反映」または「再起動」ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。
他にも設定項目がある場合は、1)～2) をくり返し、最後に「設定反映」または「再起動」ボタンをクリックすると、すべての設定した内容が一度に有効になります。



「詳細設定」で設定する場合は、更新する内容により、再起動が必要となる場合があります。再起動が必要な場合は「再起動」ボタンが表示され、再起動なしに設定情報を反映できる場合は、「設定反映」ボタンが表示されますので、メッセージに従って処理を進めてください。

クリックするボタンにより、NetVehicle は以下のように動作します。

- 「再起動」ボタン : 通話中やデータ通信中の場合、通話およびデータ通信は切断されます。
- 「設定反映」ボタン : 通話中やデータ通信中の場合、通話は切断されません。
データ通信は切断されます。ただし、マルチ TA 機能を利用したデータ通信は切断されません。

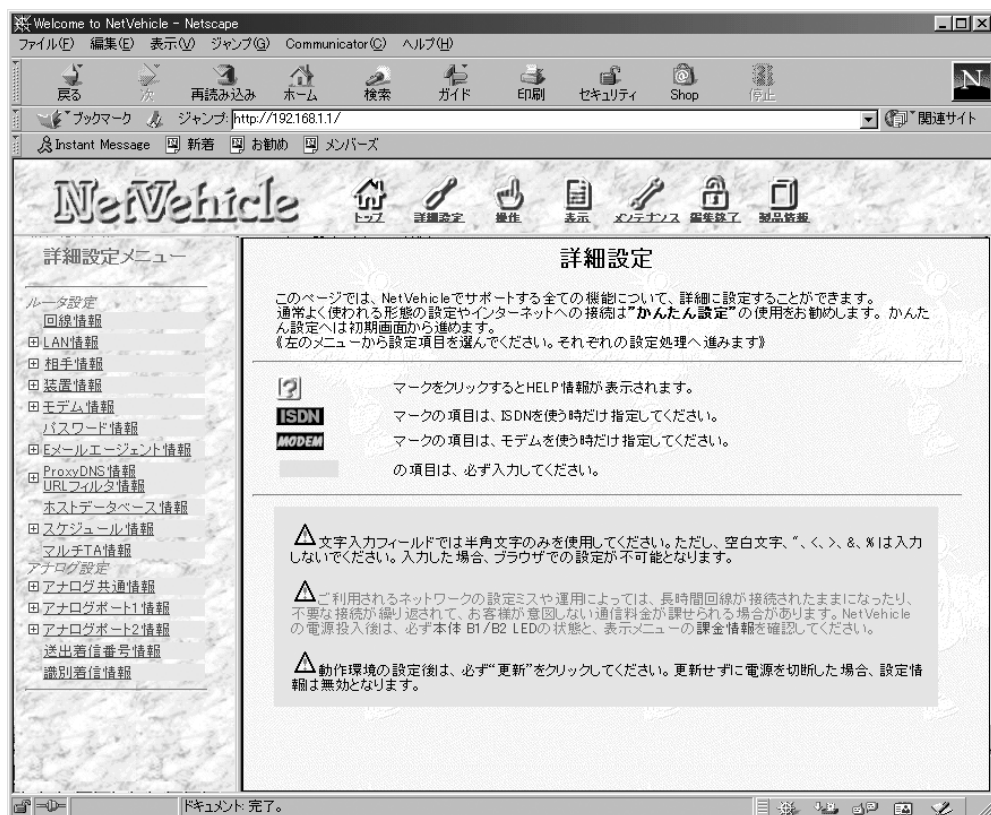


◆ 「更新+設定反映ボタン」

各ページの「更新」「キャンセル」ボタンの横に「更新+設定反映」ボタンが表示されます。指定した情報を更新して、すぐに有効にする場合は「更新+設定反映」ボタンをクリックしてください。

詳細設定メニューを表示する

NetVehicleのトップページで画面上部の「詳細設定」アイコンをクリックすると、詳細設定メニューが表示されます。



詳細設定メニュー（画面左側）に表示される設定項目をクリックすると、各設定画面が表示されます。また、設定項目名の左側に表示されている+、-をクリックすると詳細な設定項目名を表示／非表示にすることができます。

- + : クリックすると、詳細な設定項目名が表示されます。設定項目名をクリックすると指定した設定画面が表示されます。
- - : クリックすると、詳細な設定項目名が非表示になります。



回線情報設定

回線情報設定

回線情報

回線インタフェース

☒ ISDN
☐ HSD(64Kbps)
☐ HSD(128Kbps)

ISDN情報

自動ダイヤル

☐ すべて禁止
☒ 相手毎に設定

着信動作

☐ すべて禁止
☒ 相手毎に設定

しない

する

チェックする番号1

電話番号を指定

サブアドレス

チェックする番号2

電話番号を指定

サブアドレス

グローバル着信

☒ 利用する
☐ 利用しない

網契約に従う

しない

する

通知する電話番号

通知するサブアドレス

回線接続保持タイム

2 時間

しない

する

上限時間

0 日

制御動作

☒ 発信抑止
☐ システムログ出力のみ

上限金額

3000 円

制御動作

☒ 発信抑止
☐ システムログ出力のみ

データを入力後、更新をクリックしてください。

更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。

入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

更新 + 設定反映

キャンセル

回線情報

使用する回線の種類を設定します。

回線インタフェース

以下の3つから使用する回線を選択します。

ISDN

INSネット64などのISDN接続の場合にチェックします。

HSD (64Kbps) ハイ・スーパー・デジタル (HSD) DA64 などの専用線の場合にチェックします。

HSD (128Kbps) ハイ・スーパー・デジタル (HSD) DA128 などのOCNエコノミーや専用線の場合にチェックします。

[ISDN 情報]

以下の項目は、ISDN を選択した場合だけ設定します。

自動ダイヤル

通信データが発生したときに自動的にダイヤルするかどうかを設定します。

すべて禁止

NetVehicleからの自動ダイヤルを禁止したいときに“すべて禁止”をチェックします。

いかなる通信データ発生時にも自動的にダイヤルしません。

相手毎に設定

相手情報のネットワーク情報設定で対象を設定します。

着信動作

外からNetVehicleに対して着信を要求してきたときの動作を設定します。

すべて禁止

着信を装置全体として禁止したい時に“すべて禁止”をチェックします。データ通信の着信をすべて拒否し、発信専用となります。

相手毎に設定

相手情報のネットワーク情報の接続先情報設定で設定します。

自局番号チェック

ダイヤルイン番号やサブアドレスを利用して着信機器を識別するかどうかを選択します。

しない

着信時に自局の電話番号をチェックしません。

する

ダイヤルイン番号やi・ナンバー、サブアドレスを利用して着信機器を識別します。

この番号は2つまで設定できます。

チェックする番号は、以下の中から選択します。

- ・電話番号を指定
- ・i・ナンバー情報 1 (契約者回線番号)
- ・i・ナンバー情報 2 (追加の番号)
- ・i・ナンバー情報 3 (追加の番号)

“電話番号を指定”を選択すると、右の記入欄に電話番号を32桁まで設定できます。

また、いずれを選択した場合にもサブアドレスは19桁まで設定できます。

“電話番号を指定”を選択し、右の記入欄に電話番号を記述せずにサブアドレスのみを設定した場合は

16

第1章 設定リファレンス

電話番号は任意となります。
グローバル着信を行う場合は“グローバル着信”を
“利用する”に設定します。



グローバル着信→「ダイヤルイン/グローバル
着信機能を使う」(P.236)

発信者番号通知

発信者番号通知の内容を変えたい場合に設定します。通常は“網契約に従う”の状態です。

網契約に従う

回線の加入契約で選択した内容の設定になります。

しない

接続先に自分の電話番号を通知しません。

する

通知する電話番号とサブアドレスも設定します。電話番号は32桁まで、サブアドレスは19桁まで設定できます。なお、PIAFS(64Kbps)発信時には、設定したサブアドレスは無視され相手に通知されません。

回線接続保持タイマ

回線接続保持タイマは操作メニューでテレホーダイ開始をクリックすることにより有効になります。無通信監視タイマによる切断を無効とする時間を0～24時間の範囲で設定します。通信時間監視タイマを設定した時刻から設定時間が経過するまでの間、無通信状態が続いても、無通信監視タイマによる切断は行われません。

課金制御

通信総時間と課金合計金額による自動発信制限を行うかどうかを選択します。

しない

課金制御を行いません。

する

時間による制御と課金による制御が行え、両方を同時に使うこともできます。上限時間は0～999時間、上限金額は0～9999999円の範囲で指定できます。なお、0または空白を設定した場合は、その機能は無効となります。



LAN 情報設定

LAN情報設定

IPアドレス セカンダリIPアドレス ダイナミックルーティング
スタティックルーティング DHCP

[IPアドレス]

IPアドレス	192 168 1 1
ネットマスク	24 255.255.255.0
ブロードキャストアドレス	ネットワークアドレス+オール1

※DHCP 機能使用時、IPアドレスを変更する場合は DHCP 機能の“割当て先アドレス”も確認してください。

[セカンダリIPアドレス]

IPアドレス	
ネットマスク	24 255.255.255.0
ブロードキャストアドレス	ネットワークアドレス+オール1

[ダイナミックルーティング機能]

RIP 送信	☒ 送信しない ☐ V1で送信する ☐ V2で送信する
RIP 受信	☒ 受信しない ☐ V1で受信する ☐ V2で受信する
《RIP 送信時は加算するメトリック値を設定してください。》 メトリック値 0	
《RIP V2 使用時で認証パケットを破棄しない時はRIP V2パスワードを設定してください。》 認証パケット ☒ 破棄する ☐ 破棄しない パスワード	

[スタティックルーティング情報一覧]

宛先IPアドレス	宛先アドレスマスク	中継ルータアドレス	メトリック値	修正/削除
				追加 全削除

[DHCP機能]

DHCPサ ーバ機能	☒ 使用しない	
	☐ 使用する	
	割当て先アドレス	
	割当てアドレス数	
	リース期間	1 日
	デフォルトルータ広報	
	DNSサーバ広報	
	セカンダリDNSサーバ広報	
ドメイン名広報		
※“割当て先アドレス”がNetVehicleのIPアドレスと同じネットワークアドレス内であることを確認してください。		

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新+設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[IP アドレス]

NetVehicle の IP アドレスを設定します。

IP アドレス/ネットマスク

NetVehicle の LAN 側の IP アドレスとネットマスクを設定します。

△注意

IP アドレスに 0.0.0.0 を設定すると通信ができなくなります。

ブロードキャストアドレス

NetVehicle の LAN 側のブロードキャストアドレスを以下の中から選択します。

- 0.0.0.0
- 255.255.255.255
- ネットワークアドレスのホスト部をオール0にしたもの
- ネットワークアドレスのホスト部をオール1にしたもの

通常は“ネットワークアドレス+オール1”から変更する必要はありません。

[セカンダリ IP アドレス]

NetVehicle は LAN 側に複数の IP アドレスを持つことができます。複数の IP アドレスを使用したい場合にはここを設定します。

△注意

セカンダリIPアドレスの属するネットワークには、以下のサービスは行いません。

- RIP の送受信
- DHCP 機能

[ダイナミックルーティング情報]

ダイナミックルーティングを行うためのルーティング情報を設定します。

RIP 送信

RIP 情報を送信するかどうかを選択します。

送信しない

RIP 情報を送信しません。

V1 で送信する

RIP V1 を使用して、30 秒ごとに RIP 情報を送信します。

V2 で送信する

RIP V2 を使用して、30 秒ごとに RIP 情報を送信します。

RIP 受信

RIP 情報を受信するかどうかを選択します。

受信しない

RIP 情報を受信しません。

V1 で受信する

RIP V1 を使用して受信します。

V2 で受信する

RIP V2 を使用して受信します。

メトリック値

RIP 送信時に加算するメトリック値を設定します。

認証パケット

RIP V2 使用時にのみ有効な設定です。RIP V2 では、同一パスワードグループでのみ、RIP 情報の交換を行うことができます。

破棄する

パスワード認証による RIP 情報の交換は行いません。

破棄しない

パスワード認証による RIP 情報の交換を行います。パスワードを 16 文字以内の半角英数字で設定します。

[スタティックルーティング情報一覧]

現在 LAN 側に設定されているスタティックルーティングのテーブルが表示されています。

スタティックルーティングの定義は装置全体で 32 個まで設定できます。[追加] ボタンまたは [修正] ボタンをクリックすると、「ルーティング情報設定」ページに進みます。

なお、[修正] ボタンを選択して表示されるページでは、メトリック値と中継ルータアドレスのみの修正となります。その他の情報を修正したい場合には、一度削除を行ってから追加を行ってください。

[DHCP 機能]**DHCP サーバ機能**

NetVehicle を LAN 側ネットワークの DHCP サーバとして使用するかどうかを選択します。

使用しない

NetVehicle を DHCP サーバとして使用しません。

使用する

NetVehicle の DHCP サーバ機能を使用します。以下の項目を指定します。

割当て先頭 IP アドレス

DHCP サーバ機能により、割り当てる連続したアドレス群の先頭の IP アドレスを設定します。

割当てアドレス数

DHCP サーバ機能で割り当てるアドレス数を 1 ～ 32 の範囲で指定します。

△注意

なお、ホストデータベース機能を使用すると特定の DHCP クライアントに対して固有の IP アドレスを割り当てるができます。この場合の IP アドレスは、割当て先頭 IP アドレスと割当てアドレス数によって規定される動的割り当て範囲である必要はありません。

リース期間

DHCP サーバ機能により割り当てた IP アドレスを貸し出す期間を、1 時間以上、365 日未満の範囲で指定します。0 を指定すると無期限を意味します。

デフォルトルータ広報

DHCP サーバで広報するデフォルトルータの IP アドレスを設定します。省略、または 0.0.0.0 を設定すると、DHCP サーバによる広報を行いません。

DNS サーバ広報

DNS サーバの IP アドレスを設定します。省略、または 0.0.0.0 を設定すると、DHCP サーバによる広報を行いません。ProxyDNS を使用する場合は、NetVehicle の IP アドレスを設定します。

セカンダリ DNS サーバ広報

セカンダリ DNS サーバの IP アドレスを設定します。省略、または 0.0.0.0 を設定すると、DHCP サーバによる広報を行いません。

ドメイン名広報

ドメイン名を半角英数字 80 文字以内で設定します。省略した場合は、DHCP サーバによる広報を行いません。

**ダイナミックルーティングとスタティックルーティング**

スタティックルーティングとは、目的とする接続先へ到達するまでのルートを一から設定しておき、常に固定的なルートを選択してデータ通信を行います。それに対して、ダイナミックルーティングはルータ間でルーティング情報をやりとりすることで、その都度ネットワークに応じて最適なルートを選択してデータ通信を行うものです。



ルーティング情報設定 (LAN 情報)

ルーティング情報設定

ネットワーク

☐ デフォルトルート

中継ルータアドレス

☐ ネットワーク指定

宛先IPアドレス

宛先アドレスマスク 0 (0.0.0.0)

中継ルータアドレス

メトリック値 1

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 更新 + 設定反映 キャンセル

このページでは、ルーティング情報を固定で設定できます。ただし、デフォルトルート指定は装置に1つしか設定できません。

ネットワーク

デフォルトルートまたはネットワーク指定を選択し、あて先および中継先のネットワークを指定します。

デフォルトルート

ネットワーク指定されていないあて先をもつパケットの転送先を指定します。

ネットワーク指定

パケットを転送するあて先のネットワークを指定します。

メトリック値

ここで設定したルーティング情報をRIPで送信する場合のメトリック値を指定します。



相手情報設定

相手情報設定

ネットワーク情報 着信相手識別情報 受諾認証ID情報

《接続するネットワークの情報を設定します。接続できるネットワークは16個までです》
《相手の電話番号を特定せず、パソコンからの着信のみを行いたい場合は不特定相手の設定を行ってください》

[ネットワーク情報一覧] ?

ネットワーク	WAN側IPアドレス	自動ダイヤル	NAT	その他	修正／削除
接続先情報					
不特定相手着信					修正
ISDN MODEM					
追加 全削除					

《着信相手識別情報は着信相手のネットワークを特定するための情報を設定します》
《発信者番号によって相手特定した場合には参照されません》

[着信相手識別情報] ISDN MODEM ?

着信許可	☐ する ☒ しない
認証方式	☒ PAP ☒ CHAP
MP 接続	☒ しない
	☐ する
	BAP/BACP 利用 ☐ する ☒ しない
コールバック応答	☐ する ☒ しない

[受諾認証ID情報一覧] ISDN MODEM ?

認証ID	修正／削除
	追加 全削除

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 更新 + 設定反映 キャンセル

MP 接続

着信時にMP接続を受け付けるかどうかを設定します。“する”をチェックした場合には、BAP/BACPの利用可否についても設定します。

コールバック応答

着信時にコールバック応答を行うかどうかを指定します。

[受諾認証ID 情報一覧]

着信時に受け付ける認証IDの一覧です。32個まで設定できます。ここにはないIDでも、各接続先情報の受諾認証情報に記述されているIDであれば、着信は受け付けます。[追加] ボタンまたは[修正] ボタンをクリックすると、「PPP 受諾認証情報」ページに進みます。

[ネットワーク情報一覧]

接続相手のネットワーク情報の一覧です。ネットワークの定義は16個まで設定できます。[追加] ボタンまたは[修正] ボタンをクリックすると、「ネットワーク情報設定」ページに進みます。
「不特定相手着信」欄の[修正] ボタンをクリックすると、「不特定相手情報設定」ページに進みます。

[着信相手識別情報]

発信者番号による識別が行われなかった相手からの着信について利用される情報です。

着信許可

発信者番号による識別が行われなかった相手からの着信を許可するかどうかを指定します。

認証方式

着信時に利用する認証プロトコルをチェックします。いずれのプロトコルもチェックしなかった場合には、認証は行いません。



ネットワーク情報設定

ネットワーク情報設定

基本情報 接続先情報 MP情報
ダイナミックルーティング スタティックルーティング IPフィルタリング
NAT情報 静的NAT情報

【基本情報】

ネットワーク名	
データ圧縮	☒ VJ
WAN側IPアドレス	☐ 設定しない ☐ 設定する 相手IPアドレス 自側IPアドレス
MTUサイズ	1500 バイト
自動ダイヤル	☒ する ☐ しない
ISDN MODEM	☒ 使用する ☐ 使用しない
MSS書き換え	☐ 使用する ☒ 使用しない MSS書き換え バイト

《接続先は、各ネットワークの合計で16箇所まで設定でき、複数のプロバイダを利用条件により切替えることができます。》

【接続先一覧】 ISDN MODEM

優先順位	接続先	マルチルーティング	ソース	ポート	接続制限	電話番号	修正/削除

【MP情報】 ISDN

MP回線初期リンク数	1
アナログ使用時遅延	☒ する ☐ しない
トラフィックによる増減	☐ しない ☒ する 回線使用率 増減条件 10 % 10 秒 回線増減条件 40 % 60 秒
受信バケット順序制御	☒ する ☐ しない

【ダイナミックルーティング機能】

RIP送信	☒ 送信しない ☐ V1で送信する ☐ V2で送信する
RIP受信	☒ 受信しない ☐ V1で受信する ☐ V2で受信する

《RIP 送信時は加算するメトリック値を設定してください。》
メトリック値 0

《RIP V2使用時に認証バケットを破棄しない時はRIP V2パスワードを設定してください。》
☐ 破棄する
☒ 破棄しない
パスワード

【スタティックルーティング情報一覧】

宛先IPアドレス	宛先アドレスマスク	メトリック値	修正/削除

【IPフィルタリング情報一覧】

優先順位	動作	プロトコル	送信元IPアドレス/マスク	送信元ポート番号	TCP接続要求	修正/削除/移動
			宛先IPアドレス/マスク	宛先ポート番号		

【NAT情報】

NATの使用	☒ 使用しない ☐ NAT ☐ マルチNAT
グローバルアドレス	
アドレス個数	1 個
アドレス割当てタイマ	時間
NATセキュリティ	☐ 通常 ☒ 高い
フラグメント順序変更	☒ 使用しない ☐ 使用する

【静的NAT情報一覧】(マルチNATを選択時のみ有効)

プライベートアドレス	プライベートポート番号	グローバルアドレス	グローバルポート番号	プロトコル	修正/削除

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新+設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 更新+設定反映 キャンセル

【基本情報】

ルーティングの対象となるネットワークの情報を設定します。

ネットワーク名

このネットワークを識別するための名称を半角英字8文字以内で設定します。

データ圧縮

送受信するデータの圧縮を行う機能です。データ圧縮のアルゴリズムは、VJ Compressing TCP/IP Headers をサポートします。使用する設定をした場合でも、実際にデータ圧縮を行うかどうかは相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

WAN側IPアドレス

WAN側のIPアドレスを固定で使用するかどうかを選択します。

設定しない

WAN側のIPアドレスを固定で設定しません。

設定する

固定で使用するWAN側のIPアドレスを設定します。“相手IPアドレス”または“自側IPアドレス”の一方だけを指定し、他方を省略することも可能です。
主にプロバイダ接続する場合やNetVehicleどうしの接続の場合には、両方とも省略することができます。NetVehicle以外の装置との接続のように対等

な関係で接続する場合は、両方ともWAN側のIPアドレスを指定してください。

MTU サイズ

最大パケット送信サイズ (Maximum Transmission Unit) を 200 ～ 1500 バイトの範囲で設定します。

自動ダイヤル

通信データ発生時に自動的にダイヤルするかどうかを選択します。使用する場合は、通信データ発生時に自動的にダイヤルします。

回線情報で自動ダイヤルを“すべて禁止”としている場合には自動ダイヤルは行いません。自動ダイヤルを行いたい場合は回線情報の自動ダイヤルを“相手毎に設定”としてください。

MSS 書き換え

MSS書き換え機能を設定します。MSS書き換え機能を使用する場合は、“使用する”を選択し、書き換えサイズを0または160～1460の範囲で指定します。0を指定した場合はMSS書き換え機能が無効となります。

[接続先一覧]

現在設定されている接続先の情報です。マルチルーティングを行う場合には、優先順位の1から順に評価され最初に条件が成立した接続先にデータが流れます。接続先の定義は装置全体で16個まで設定できます。[追加] ボタンまたは[修正] ボタンをクリックすると、「接続先情報設定」ページに進みます。

[MP 情報]

MP (MultilinkPPP) に関する情報を設定します。

MP 回線初期リンク数

回線接続時に接続するチャネル数を指定します。

アナログ使用時縮退

MPで2本のチャネルを使用している時に、アナログ電話がかかってきたり、アナログ電話の受話器を上げたりした場合に、チャネルを1本に減らしてアナログ機器が使えるようにすることができます。これを行う場合には“する”をチェックします。

トラフィックによる増減

回線負荷に応じて帯域幅(1B,2B)を自動的にコントロールする機能を使用するかどうかを設定します。使用する場合は、回線増減の条件も指定します。指定した回線使用率を超えた(削減の場合は下回った)状態が“猶予時間”以上続いた時点で、回線の接続(削減の場合は切断)を行います。回線使用率は0～100%、猶予時間は0～3600秒の範囲で指定できます。

受信パケット順序制御

MPを使用すると、パケットの順序が入れ替わって届く場合があります。その順序を正しいものに並べ変えて受信する場合は“する”にチェックします。

[ダイナミックルーティング機能]

ダイナミックルーティングを行うためのルーティング情報を設定します。

RIP 送信

RIP 情報を送信するかどうかを選択します。なお、送信する設定にすると、30秒ごとにRIP情報を送信します。

⚠注意

ISDNの場合、RIP情報を送信すると思わぬ課金(定期発信または長時間接続)が発生します。

RIP 受信

RIP 情報を受信するかどうかを選択します。

メトリック値

RIP 送信時に加算するメトリック値を設定します。

認証パケット

RIP V2 使用時にのみ有効な設定です。RIP V2 では、同一パスワードグループでのみ、RIP情報の交換を行うことができます。

破棄する

パスワード認証によるRIP情報の交換は行いません。

破棄しない

パスワード認証によるRIP情報の交換を行います。パスワードを16文字以内の半角英数字で設定します。

[スタティックルーティング情報一覧]

現在このネットワークに設定されているスタティックルーティングのテーブルが表示されています。スタティックルーティングの定義は装置全体で32個まで設定できます。[追加] ボタンまたは [修正] ボタンをクリックすると、「ルーティング情報設定」ページに進みます。

なお、[修正] ボタンを選択して表示されるページでは、メトリック値のみの修正となります。その他の情報を修正したい場合には、一度削除を行ってから追加を行ってください。

[IP フィルタリング情報一覧]

現在このネットワークに設定されている IP フィルタリングの定義の一覧です。処理は優先順位 1 から順に行われます。IP フィルタリングの定義は装置全体で 32 個まで設定できます。[追加] ボタンまたは [修正] ボタンをクリックすると、「IP フィルタリング情報」ページに進みます。

[NAT 情報]

NAT に関する情報を設定します。

NAT の使用

NAT を使用するかどうかを選択します。マルチ NAT を使うと複数の端末を同時に使用できます。NAT を使用しない場合には、以降の設定は無効です。

グローバルアドレス

特定のグローバルアドレスを使用したい時に、指定します。設定しない場合は自動で割り当てられます。

アドレス個数

複数個のグローバルアドレスを使用する場合には、上述のグローバルアドレスを先頭とし連続した複数のアドレスを指定できます。その個数を 1～16 の範囲で指定します。

アドレス割当てタイマ

アドレス変換情報は一定の時間該当する通信が行われないと、自動的に解放されます。解放するための猶予時間を 0～24 時間の範囲で指定します。0 を指定すると、回線が切断されるまで情報は解放されません。

NAT セキュリティ

通常

相手サーバが NAT を使用している場合など、要求先とは別のアドレスから応答する場合に選択します。

高い

ftp や dns の要求した相手からの応答かをチェックします。

フラグメント順序変更

NAT は、フラグメントされたパケットの順序が前後逆転して受信した場合、そのパケットを破棄します。フラグメントされたパケットの順序が逆転しないように、あらかじめパケットを整列させる機能を使う場合は“使用する”を選択します。

[静的 NAT 情報一覧]

NAT を使用すると、アドレス変換情報は固定で持つこともできます。現在設定されている固定のアドレス変換情報を表示しています。

静的 NAT の定義は装置全体で 32 個まで設定できます。[追加] ボタンまたは [修正] ボタンをクリックすると、「静的 NAT 情報設定」ページに進みます。



接続先情報設定

接続先情報設定	
基本情報	マルチルーティング
着信情報	発信者番号識別による着信情報
[基本情報]	
接続先名	
ダイヤル1	電話番号 サブアドレス 相手種別 ISDN
ダイヤル2	電話番号 サブアドレス 相手種別 ISDN
ダイヤル3	電話番号 サブアドレス 相手種別 ISDN
DNSサーバ	
MP接続	☐ しない ☐ する BAP/BACP利用 ☐ する ☒ しない ※ 発信者番号による識別で番号をチェックしない場合は着信相手識別情報の設定が有効
無通信監視タイム	60 秒
課金単位時間	昼間(月～金) 08:00～19:00 0 秒 夜間(土日の昼間) 19:00～23:00 0 秒 深夜・早朝 23:00～08:00 0 秒
回線接続保持機能	☐ 使用する ☒ 使用しない
[マルチルーティング]	
ソースアドレスルーティング	ローカルホストIPアドレス アドレスマスク 0 0 0 0 0
ポートルーティング	ポート番号 [サーバホスト名 修正/削除] 追加 全削除
接続制限	☐ 指定した時間を超えて接続しない 時間 ☐ 指定した課金を超えて接続しない 円
[発信情報]	
送信認証情報	送信認証ID 認証パスワード
コールバック要求	☒ しない ☐ する ISDN コールバック方式 GBCP コールバックウェイトタイム 60 秒 コールバック電話番号 コールバックサブアドレス
[着信情報]	
着信許可	☐ する ☒ しない
受話認証情報	認証ID 認証パスワード

[発信者番号識別による着信情報] ISDN	
発信者番号による識別	☐ 番号チェックをしない ☒ 番号チェックをする
チェック番号	電話番号 サブアドレス ※ 未設定時は基本情報の番号でチェックする
認証方式	☒ PAP ☒ CHAP
コールバック応答	☒ しない ☐ する コールバック方式 GBCP コールバックウェイトタイム 10 秒 コールバック電話番号 コールバックサブアドレス

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新+設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 更新+設定反映 キャンセル

[基本情報]

接続先ごとに固有の情報を設定します。

接続先名

この接続先を識別するための名称を半角英数字8文字以内で設定します。この名前は手動接続の際にも使用されます。

ダイヤル 1/2/3

接続に用いる電話番号は3つまで設定できます。ダイヤル1の電話がかからない時にはダイヤル2に、ダイヤル2がかからない時にはダイヤル3にダイヤルします。相手種別は送信時にものみ参照されます。着信時には自動認識します。モデム接続の場合、電話番号にポーズコードの指定も可能です。

電話番号

電話番号は32桁以内で指定してください。電話番号には、0～9、*、#が指定できます。

サブアドレス

サブアドレスは19桁以内で設定してください。PIAFS(64Kbps)着信時には、設定したサブアドレスは無視されます。また、モデム接続の場合、設定したサブアドレスは無視されます。

相手種別

相手の種別をISDN、32kPIAFS、64kPIAFS(NTT DoCoMo方式)、64kPIAFS(DDI Pocket方式)、モデムの中から選択して指定します。

DNS サーバ

接続の際に使用するDNSサーバのIPアドレスを設定します。ProxyDNSを使用する際に必要となります。省略、または0.0.0.0を設定した場合は、自動取得となります。255.255.255.255を設定した場合は使用しません。また、このアドレスはPPPのネゴシエーションの中で相手から要求があった場合、相手に受け渡すDNSサーバアドレスとしても使用されます。

MP 接続

MP 接続を行うかどうかを選択します。

しない

接続時に MP 接続を行いません。

する

MP 接続をする場合には、BAP/BACPの利用可否についても指定できます。ただし、発信者番号による識別が行われなかった相手からの着信については、相手情報の着信相手識別情報の設定が参照されます。

無通信監視タイマ

ISDN 回線の無通信監視タイマを 0 ～ 3600 秒の範囲で設定します。ここで設定した時間、通信が行われなかった場合は、ISDN 回線を自動的に切断します。なお、0 を設定した場合、自動切断を行いません。

課金単位時間

各時間帯の課金単位時間を 0.0 ～ 3600.0 秒の範囲で指定します。ここで設定した時間は無通信監視による回線切断のときに参照され、同一料金で最大の接続時間を得よう回線切断タイミングを調整します。なお、昼間時間帯に 0 を設定した場合、課金単位の調整は行いません。また、夜間時間帯や深夜・早朝時間帯に 0 を設定した場合、その前の時間帯の設定を利用します。

⚠注意

この機能を使用するときは、操作メニューの時刻設定を用いて NetVehicle の内部時計を正しく設定してください。内部時計が正しく設定されていない場合、課金単位時間は昼間の値のみが使われます。また、祝日には対応していません。

回線接続保持機能

回線接続保持機能はテレホーダイ契約されている電話番号向けの機能です。テレホーダイ機能の動作中に、この接続先を回線接続保持の対象とするかどうかを選択します。

[マルチルーティング]

従来の IP ルーティングに加え、ローカルホスト IP アドレス、ポート番号および接続制限の組み合わせによるルーティングを行います。

ソースアドレスルーティング

ローカルホスト IP アドレスによるルーティングを行います。この接続先に送信するパケットをローカルホスト IP アドレスによって定義できます。

ローカルホスト IP アドレス、アドレスマスクの組合せにより、対象となるローカルホスト IP アドレスが決定されます。

⚠注意

すべての接続先に対してソースアドレスルーティングが設定されている状態では、NetVehicle のファームウェア更新や通信確認 (ping) 等は行えません。必ず 1 つはソースアドレスルーティングを行わない接続先を定義してください。

ポートルーティング

ポート番号によるルーティングを行います。この接続先に送信するパケットをポート番号 (サービス) によって定義できます。ポートルーティングの定義は装置全体で 32 個まで設定できます。

接続制限

この接続先に対する発信抑制を接続時間と課金によって行うことができます。時間は 0 ～ 999 時間、金額は 0 ～ 999,999 円の範囲で設定できます。モデム接続の場合には課金額による発信抑止の設定は無効となります。

[発信情報]

接続先に対しての発信に関する情報を設定します。

送信認証情報

発信時に使用する認証 ID とパスワードをそれぞれ 64 桁以内で設定します。

コールバック要求

コールバック要求を行うかどうかを選択します。コールバック要求とは、いったん接続して認証を行ったあとに回線を切断して、相手から電話をかけ直してもらう機能です。

しない

コールバック要求を行いません。

する

コールバック要求をする場合は以下の項目も設定してください。

コールバック方式

コールバックを行う場合の方式を CBCP または 無課金 の中から選択します。Microsoft 製品や CBCP 方式をサポートしている装置とのコールバックを行う場合は“CBCP”を選択してください。NetVehicle どちらのコールバックを行う場合には“無課金”も選択できます。“無課金”ではコールバック要求側には電話料金はかかりません。

コールバックウェイトタイマ

コールバック要求後の着信待ち時間を 0 ～ 60 秒の範囲で指定します (推奨時間 60 秒)。コールバックがうまくいかないときは、この時間を長くしてみてください。

コールバック電話番号

コールバックで相手側にダイヤルしてもらう電話番号を 32 桁以内で指定します。この電話番号は、CBCP 方式によるコールバックにのみ有効です。

コールバックサブアドレス

コールバックで相手側にダイヤルしてもらう電話番号のサブアドレスを半角英数字を使用して 19 文字以内で指定します。このサブアドレスは、CBCP 方式によるコールバックにのみ有効です。

[着信情報]

接続先からの着信に関する情報を設定します。接続先の特定に使用します。

着信許可

この接続先からの着信を許可するかどうかを設定します。

受諾認証情報

着信時に受け付ける認証 ID とパスワードをそれぞれ 64 桁以内で設定します。発信者番号によってこの接続先を識別できる場合は、この情報を省略し、代わりに相手情報の受諾認証 ID 情報を使うことができます。

[発信者番号識別による着信情報]

発信者番号によって識別した相手の着信に関する情報を設定します。

発信者番号による識別

着信時の相手識別の方法には、発信者番号通知を用いる方法と、認証 ID を用いる方法があります。

番号チェックをしない

発信者番号通知を用いて相手を識別しません。以下の設定は設定しても、参照されません。

番号チェックをする

発信者番号通知を用いて相手を識別します。以下の情報を設定してください。

チェック番号

相手識別に使用する電話番号を 32 桁以内、サブアドレスを 19 桁以内で設定します。省略時は基本情報の値を使用します。なお、PIAFS (64 Kbps) 着信時には、設定したサブアドレスは無視されます。

認証方式

着信時に利用する認証プロトコルをチェックします。いずれもチェックしないときには、その相手からの着信については認証を行いません。

コールバック応答

相手からのコールバック要求を受け付けるかどうかを選択します。

しない

相手からコールバック要求があっても、コールバック応答行いません。

する

コールバック要求に応答する場合は以下の項目を指定します。

コールバック方式

コールバックを行う場合の方式を CBCP または 無課金 の中から選んでください。Microsoft 製品や CBCP 方式をサポートしている装置とのコールバックを行う場合は“CBCP”を選択します。NetVehicle どちらのコールバックを行う場合には“無課金”も選択できます。“無課金”ではコールバック要求側には電話料金はかかりません。

コールバックウェイトタイマ

コールバック要求を受け、回線切断後、発信を行うまでの待ち時間を 0 ～ 60 秒の範囲で指定します (推奨 10 秒)。コールバックがうまくいかないときは、この時間を長くしてみてください。

コールバック電話番号

コールバック要求を受け、自側がダイヤルする電話番号を 32 桁以内で指定します。

コールバックサブアドレス

コールバック要求を受け、自側がダイヤルする電話番号のサブアドレスを半角英数字を使用して 19 文字以内で指定します。



ポートルーティング情報設定

ポートルーティング情報設定

ポートルーティング情報

ポート番号

ftp

（番号指定: "その他"を選択時のみ有効です）

サーバホスト名

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

更新 + 設定反映

キャンセル

この機能は ProxyDNS を使用する場合のみ有効です。

[ポートルーティング情報]

ポート番号によるルーティングを行います。この接続先に送信するパケットをポート番号（サービス）によって定義できます。

ポート番号

ポートルーティングの対象となるサービスを選択します。“その他”を選ぶと、ポート番号を 1 ～ 65535 の 10 進数を使用して直接指定することができます。

サーバホスト名

ポートルーティングの対象となるホスト名を半角英数字 80 文字以内で設定します。



ルーティング情報設定 (ネットワーク情報)

1

ルーティング情報設定

?

ネットワーク	☐ デフォルトルート
	☒ ネットワーク指定
	宛先IPアドレス 宛先アドレスマスク 0.0.0.0
メトリック値 1	

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

このページでは、ルーティング情報を固定で設定できません。ただし、デフォルトルート指定は装置に 1 つしか設定できません。

ネットワーク

あて先および中継先のネットワークを指定します。

デフォルトルート

ネットワーク指定されていないあて先をもつパケットの転送先をデフォルトに指定します。

ネットワーク指定

パケットを転送するあて先のネットワークを指定します。

メトリック値

ここで設定したルーティング情報をRIPで送信する場合のメトリック値を指定します。



IP フィルタリング情報

IPフィルタリング情報

動作	☒ 透過 ☐ 透過(接続中のみ) ☐ 遮断
プロトコル	すべて (番号指定: "その他"を選択時のみ有効です)
送信元情報	IPアドレス: アドレスマスク: 0.0.0.0 ポート番号:
宛先情報	IPアドレス: アドレスマスク: 0.0.0.0 ポート番号:
TCP接続要求	☒ 対象 ☐ 対象外

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 | 更新 + 設定反映 | キャンセル

送信元／宛先情報

IP アドレス／アドレスマスク

フィルタリング条件として IP アドレスとアドレスマスクを設定します。

チェック対象となったパケットの IP アドレスと定義したアドレスマスクの論理積と、定義した IP アドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致したことになります。

ポート番号

フィルタリング条件としてポート番号を 1 ～ 65535 の 10 進数または 'any' で設定します。'any' を設定した場合はすべてのポート番号をフィルタリングの対象とします。また、ポート番号を複数指定する場合は ';' で区切ります。範囲指定の場合は '-' で区切ります。ただし、送信元情報と宛先情報で合わせて 10 組までです。

TCP 接続要求

TCP プロトコルでのコネクション接続要求をフィルタリングの対象に含めるかどうかを設定します。

優先順位の高い定義より順にパケットのチェックを行います。すべての条件が合致した場合に定義された動作を行います。ただし、分割されたパケットに対しては正しく扱えません。

動作

IP フィルタリングの動作を以下の 3 つから選択します。

透過

条件と一致した場合にパケットを透過します。

透過 (接続中のみ)

条件と一致した場合に、ISDN 回線が接続されていればパケット透過し、切断されていれば遮断します。

遮断

条件と一致した場合にパケットを遮断します。

プロトコル

フィルタリング条件としてプロトコルを以下の 5 つから選択します。

- すべて (0)
- tcp (6)
- udp (17)
- icmp (1)
- その他

“その他”を選択した場合、プロトコル番号を 0 ～ 255 の 10 進数で指定してください。



静的 NAT 情報設定

静的 NAT 情報設定

プライベート IP 情報	IP アドレス	
	ポート番号	すべて (番号指定: "その他"を選択時のみ有効です)
グローバル IP 情報	IP アドレス	
	ポート番号	すべて (番号指定: "その他"を選択時のみ有効です)
プロトコル	すべて (番号指定: "その他"を選択時のみ有効です)	

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

・ ah (51)

・ その他

"その他" を選択した場合、プロトコル番号を 0 ～ 255 の 10 進数で指定してください。

プライベート IP 情報

固定でアドレス変換を行う場合にローカルネットワーク側の IP アドレスとポート番号を指定してください。IP アドレスは省略できません。

ポート番号を指定する場合は、1～65535 の範囲で指定してください。なお、グローバルポート番号を範囲指定した場合には、その範囲のグローバルポート番号は、指定したプライベートポート番号を先頭とした範囲へ変換されます。例えば、プライベートポート番号に 1000 を指定し、グローバルポート番号に 10000～11000 を指定すると、グローバルポート番号の 10000～11000 はプライベートポート番号の 1000～2000 に変換されます。

グローバル IP 情報

固定でアドレス変換を行う場合に WAN 側の IP アドレスとポート番号を設定してください。IP アドレスは省略できます。省略した場合、すべてのグローバルアドレスに対して有効な設定となります。ポート番号を指定する場合は、1～65535 の 1 つ、または '!' で区切った 1 組の範囲を指定してください。

プロトコル

固定でアドレス変換を行う場合に対象となるプロトコルを以下の 7 つから選択します。

- ・ すべて (0)
- ・ tcp (6)
- ・ udp (17)
- ・ icmp (1)
- ・ esp (50)



不特定相手情報設定

不特定相手情報設定

基本情報

MP情報

IPフィルタリング情報

【基本情報】

割当先頭アドレス

同時接続許可数

DNSサーバ

データ圧縮

無通信監視タイマ

【MP情報】

MP回線初期リンク数

アナログ使用時縮退

トラフィックによる増減

受信パケット順序制御

【IPフィルタリング情報一覧】

優先順位	動作	プロトコル	送信元IPアドレス/マスク	送信元ポート番号	宛先IPアドレス/マスク	宛先ポート番号	TCP接続要求	修正／削除／移動
追加 全削除								

データを入力後、更新をクリックしてください。

更新してすぐに設定反映したい場合は、更新＋設定反映をクリックしてください。

入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

更新＋設定反映

キャンセル

データ圧縮

送受信するデータの圧縮を行う機能です。データ圧縮のアルゴリズムは、VJ Compressing TCP/IP Headers をサポートします。使用する設定をした場合でも、実際にデータ圧縮を行うかどうかは、相手ホストとのネゴシエーションで決まります。

無通信監視タイマ

ISDN 回線の無通信監視タイマを 0 ～ 3600 秒の範囲で設定します。ここで設定した時間、通信が行われなかった場合は、ISDN 回線を自動的に切断します。なお、0 を設定した場合、自動切断を行いません。

【MP 情報】

MP（MultilinkPPP）に関する情報を設定します。

MP 回線初期リンク数

回線接続時に接続するチャンネル数を指定します。

アナログ使用時縮退

MP で 2 本のチャンネルを使用している時に、アナログ電話がかかってきたり、アナログ電話の受話器を上げたりした場合に、チャンネルを 1 本に減らしてアナログ機器が使えるようにするかどうかを選択します。

する

電話を使用するときに、データ通信で使用中のチャンネルを 1 本解放します。

しない

データ通信中は電話が使えないようにします。

トラフィックによる増減

回線負荷に応じて帯域幅（1B,2B）を自動的にコントロールする機能を使用するかどうかを選択します。

しない

トラフィックに応じた帯域幅のコントロールを行いません。

する

使用する場合は、回線増減の条件も指定します。指定した回線使用率を超えた（削減の場合は下回った）状態が“猶予時間”以上続いた時点で、回線の接続（削減の場合は切断）を行います。回線使用率は 0 ～ 100%、猶予時間は 0 ～ 3600 秒の範囲で指定できます。

【基本情報】

相手情報で定義されたどの相手とも判断できなかった着信相手に対する動作に関する情報設定します。

割当先頭アドレス

着信相手に対して、割り当てる先頭の IP アドレスを指定します。同時接続許可数と組み合わせて範囲（許可数）を指定します。

割当先頭アドレスを省略した場合は、不特定相手からの着信は行われません。

同時接続許可数

割当先頭アドレスを先頭に、同時接続許可数分の IP アドレスが割り当てられます。

DNS サーバ

相手から要求があったときに、通知する DNS サーバの IP アドレスを設定します。

32

第1章 設定リファレンス

受信パケット順序制御

MPを使用すると、パケットの順序が入れ替って届く場合があります。その順序を正しいものに並べ変えて受信するかどうかを選択します。

する

順序を正しいものに並べ変えて受信します。

しない

届いた順序で表示します。

[IP フィルタリング情報一覧]

現在設定されている IP フィルタリングの定義の一覧です。処理は優先順位 1 から順に行われます。IP フィルタリングの定義は装置全体で 32 個まで設定できます。
[追加] ボタンまたは [修正] ボタンをクリックすると、「IP フィルタリング情報」ページに進みます。



PPP 受諾認証情報

PPP受諾認証情報

[受諾認証情報] 

受諾認証ID	
受諾認証パスワード	

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[受諾認証情報]

主に不特定相手からの着信時の認証に使用する情報です。

着信時に受け付ける相手の認証 ID とパスワードをそれぞれ 64 桁以内で設定します。

[ブザー音設定]

NetVehicleは様々な事象に応じてブザーを鳴らすことができます。ここでは、各事象についてブザーを鳴らすか鳴らさないかを設定します。[TEST] ボタンをクリックするとブザー音の試し聞きができます。

課金制御通知音

回線情報の課金制御で設定した上限時間または上限金額を超えて発信した場合に、警告音のブザーが鳴ります。

回線接続音

回線が正常に接続された (ISDN 呼制御レベルの接続) ことを知らせるブザーが鳴ります。

回線エラー通知音

発信失敗 / 接続中の回線エラー (回線ログに残るエラー) が発生したことを知らせるブザーが鳴ります。

課金単位時間通知音

課金単位時間が設定されている時、回線接続中にこの設定値を経過するごとにブザーが鳴ります。

装置起動音

装置の電源を入れて起動が完了すると、ブザーが鳴ります。

メール着信通知音

メール着信通知を受信したことを通知するブザーが鳴ります。

[ファームウェア更新情報]

ファームウェアを入れ替えたり、レベルアップを行うときに、転送元となるホストに接続するための情報を設定します。ファームウェアの更新操作はメンテナンスメニューから行えます。

転送元ホスト名

更新ファームウェアが存在するホスト名を半角英数字 128 文字以内で設定します。
ドット表記の IP アドレスを設定することもできます。ただし、通常は変更の必要はありません。
ProxyDNS が設定されていない場合、ホスト名指定によるファームウェア更新は行えません。

ログイン ID

ファームウェア更新用のログイン ID を 16 文字以内で設定できます。ただし、通常は変更の必要はありません。

ログインパスワード

ファームウェア更新用のパスワードを 32 文字以内で設定できます。通常は、NetVehicle 管理者のメールアドレスをここに記述します。

ファイルロケーション

更新用ファームウェアのロケーションを 80 文字以内で設定できます。ただし、通常は変更の必要はありません。

[オンラインサポート情報]

オンラインサポート接続

オンラインサポート接続をするかどうかを指定してください。センタ側からのオンラインサポート接続を許可する場合には“ する ”、拒否する場合には“ しない ”をチェックします。オンラインサポート接続を許可するときにセンタ電話番号と暗証番号のいずれもが設定されていない場合、LAN ポート用の MAC アドレスが認証に使用されます。

センタ電話番号

オンラインサポートを受け付ける相手電話番号を 32 桁以内で指定します。

暗証番号

オンラインサポートを受け付ける相手との暗証番号を半角英数字を使用して 19 桁以内で指定します。



オンラインサポートとは

ISDN回線に接続された遠隔地 (リモート側) の NetVehicle を、管理者側 (センター側) の NetVehicle を使用して直接設定する機能です。本機能では PPP による IP 接続を必要としないので、ご購入時の状態のまま、NetVehicle を設定することが可能です。ただし、専用線 (HSD) では使用できません。

以下の手順で設定を行うことができます。

- 1) WWW ブラウザを使用してセンター側の NetVehicle のトップメニューを開きます。
- 2) 「メンテナンスメニュー」の「オンラインサポート」で、リモート側の電話番号と暗証番号を指定し、「オンラインサポート開始」ボタンをクリックします。
- 3) 正常に接続された以降は、センター側の NetVehicle を設定するのと同様の手順でリモート側の設定を行うことができます。
- 4) 「メンテナンスメニュー」の「オンラインサポート」で、「オンラインサポート終了」ボタンをクリックしてオンラインサポートを終了します。

△注意

- ・ 本機能を使用しての発信にはINS ネット 64 の「ユーザー間情報通知サービス」を使用するため、1回の発信につき1メッセージ分の料金が通信料金とは別にかかります。
- ・ オンラインサポート中は、ISDN 回線は接続されたままとなります。無通信監視タイマによる自動切断は行われません。設定終了後は必ずオンラインサポートを終了し回線が切断されたことを確認してください。
- ・ 暗証番号にはリモート側の NetVehicle に設定された暗証番号を指定してください。一致しない場合は接続できません。なお、リモート側の NetVehicle がご購入時の状態、またはオンラインサポート情報未設定の場合は、暗証番号としてMACアドレスを指定することにより接続できます。MACアドレスは装置底面に表記されているとおり半角小文字の英数字で指定してください。
- ・ 本機能を利用するには、センタ側とリモート側に同一機種種の NetVehicle を使用してください。ただし、バージョンが異なる場合、設定できない項目もあります。

[操作パネル情報]

FUNCTION ボタン動作

FUNCTION ボタンに動作を割り当てることができません。

なし

FUNCTION ボタンを押しても何も実行しません。

スタンバイモード切替え

FUNCTION ボタンを押すと、スタンバイモードの ON/OFF を切り替えられます。

回線切断

すべての回線を切断します。

MP チャンネル数増減

使用するチャンネル数を増やすか、または減らします。

メール着信消去

FUNCTION ボタンを押すと、メール着信情報をクリアします。

HUB 状態表示

FUNCTION ボタンを押すと、HUB のリンク状態を表示します。

着信転送切替え

着信転送の有効／無効を切り替えます。

疑似着信転送切替え

疑似着信転送の有効／無効を切り替えます。

メールチェック

メールチェックを開始します。

留守モード切替え

留守モードの ON / OFF を切り替えます。

発信履歴

発信履歴・着信履歴の表示順序を選択します。

バックライト

液晶ディスプレイのバックライトの点灯 / 消灯を“自動”“点灯”“消灯”から選択してください。“自動”を選択した場合は、回線接続中、パネル操作中にバックライトが点灯します。“回線を接続してから5秒後に消灯する”をチェックすると回線を接続してから5秒後にバックライトが消灯します。

[留守モード情報]

留守モードに割り当てる動作を選択します。装置のアナログポートに接続されている電話機、パネル操作、操作メニュー、またはスケジュール機能により、留守モードの切り替えができます。

スタンバイモードで動作する

留守モード中はスタンバイモードになります。

メールを転送する

メールチェックで取得したメールを転送します。

メールの一覧を送信する

メールチェックで取得したメールの一覧を送信します。

TEL メールを送信する

アナログポートに接続されている電話機の着信履歴をメールで送信します。

着信転送

着信転送を行う

アナログポートに接続されている電話機の着信を着信転送します。

疑似着信転送を行う

アナログポートに接続されている電話機の着信を疑似着信転送します。

アナログの留守確認機能を使用する

外線から留守／在宅を確認できます。

解除する時にメールチェックを行う

留守モードを解除する時にメールチェックを行います。



モデム情報設定

モデム情報設定 MODEM

モデム情報ファイル読み込み

基本情報 ATコマンド情報 レスポンスコード情報

[モデム情報ファイル読み込み] ?

モデム情報ファイル 参照...

次へ

[基本情報] ?

モデム名	
シリアルポート通信速度	115200 ▾
ATコマンドタイムアウト時間	80 秒
ダイヤル種別	☒ トーン ☐ バルス
スピーカの使用	☐ on ☒ 呼毎 ☐ off
スピーカ音量	☐ 大 ☒ 中 ☐ 小
ダイヤルトーン検知	☒ 検知する ☐ 検知しない

[ATコマンド情報] ?

初期化	
切断	
応答	
ダイヤル	先行文字 バルス トーン
ダイヤルトーン検知	検知する 検知しない
スピーカ	ON 呼毎 OFF 音量大 音量中 音量小

[レスポンスコード情報] ?

[OK]

☐ レスポンスコード 修正/削除
追加 全削除

[CONNECT]

☐ レスポンスコード 修正/削除
追加 全削除

[RING]

☐ レスポンスコード 修正/削除
追加 全削除

[NO CARRIER]

☐ レスポンスコード 修正/削除
追加 全削除

[ERROR]

☐ レスポンスコード 修正/削除
追加 全削除

[NO DIALTONE]

☐ レスポンスコード 修正/削除
追加 全削除

[BUSY]

☐ レスポンスコード 修正/削除
追加 全削除

[NO ANSWER]

☐ レスポンスコード 修正/削除
追加 全削除

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新+設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新 更新+設定反映 キャンセル

[モデム情報ファイル読み込み]

NetVehicleはモデムに添付されるモデム情報ファイルを読み込むことによって、モデムの設定を行います。モデム情報ファイルはWindows® 95/98用のものを使用してください。

モデム情報ファイル

直接ファイル名を入力するか、[参照] ボタンをクリックしてファイルを選択してください。

[基本情報]

モデム名

モデムの名前を半角英数字64文字以内で指定してください。モデム情報ファイル読み込みを利用した場合には、そこで選択したモデム名が表示されます。

シリアルポート通信速度

NetVehicleとモデム間のシリアルポートの通信速度を指定してください。

AT コマンドタイムアウト時間

モデムに対してATコマンドを送信してから応答を待つ時間を 1 ～ 999 秒の範囲で指定してください。

ダイヤル種別

接続する電話回線に応じてトーンまたはパルスを選択してください。NetVehicleのアナログポートに接続する場合には、トーンを選択します。

トーン

ダイヤルをトーンで行います。

パルス

ダイヤルをパルスで行います。

スピーカの使用

モデムのスピーカの鳴り方を指定してください。

on

常に ON にします。

呼毎

ダイヤル時のみ ON にします。

off

常に OFF にします。

スピーカ音量

モデムのスピーカの音量を指定してください。

大

スピーカの音量を大に指定します。

中

スピーカの音量を中に指定します。

小

スピーカの音量を小に指定します。

ダイヤルトーン検知

モデムが発信する際にダイヤルトーンを検知する／しないを選択してください。通常は「検知する」を指定します。

検知する

ダイヤル時にダイヤルトーンを検知します。

検知しない

ダイヤル時にダイヤルトーンを検知しません。

[AT コマンド情報]

各種ATコマンドを128文字以内で設定してください。初期化、切断、応答の場合は、AT から復帰文字までのコマンド全体を指定します。

コマンドに復帰文字 (CR) を設定する場合は \r を、改行文字 (LF) を設定する場合は \n を、円記号を設定する場合には \ を指定してください。初期化の AT コマンド情報は、” で区切って複数指定できます。ダイヤル、ダイヤルトーン検知、スピーカの場合には AT や復帰文

字を除いた、各機能を示す文字列のみを指定してください。
モデム情報ファイル読み込みを利用した場合には設定は不要です。

初期化

モデムを初期化するATコマンドを指定してください。

切断

モデムが回線を切断するためのATコマンドを指定してください。

応答

モデムが着信に応答する場合に使用するATコマンドを指定してください。

ダイヤル

先行文字

ダイヤルを実行するATコマンドを指定してください。

パルス

パルスダイヤルを示すパラメタを指定してください。

トーン

トーンダイヤルを示すパラメタを指定してください。

ダイヤルトーン検知

検知する

ダイヤルトーンを検知することを設定するATコマンドを指定します。

検知しない

ダイヤルトーンを検知しないことを設定するATコマンドを指定します。

スピーカ

ON

モデムのスピーカを常にONにすることを設定するATコマンドを指定します。

呼毎

モデムのスピーカのダイヤル時のみONにすることを設定するATコマンドを指定します。

OFF

モデムのスピーカを常にOFFにすることを設定するATコマンドを指定します。

音量大

モデムのスピーカの音量を大にすることを設定するATコマンドを指定します。

音量中

モデムのスピーカの音量を中にすることを設定するATコマンドを指定します。

音量小

モデムのスピーカの音量を小にすることを設定する
AT コマンドを指定します。

[レスポンスコード情報]

NetVehicle がモデムに対して送信した AT コマンドに対する、モデムからの応答の文字列を 64 文字以内で指定してください。

OK

直前の AT コマンドを受け付けたことを示す文字列を指定します。

CONNECT

相手と接続したことを示す応答の文字列を指定します。

RING

呼び出し信号を検出したことを示す文字列を指定します。

NO CARRIER

相手から切断されたことを示す文字列を指定します。

ERROR

直前の AT コマンドがコマンドエラーになったことを示す文字列を指定します。

NO DIALTONE

ダイヤルトーンを検知することに失敗したことを示す文字列を指定します。

BUSY

話中であることを示す音を検知したことを示す文字列を指定します。

NO ANSWER

ATD@コマンド使用時に、5 秒間無音状態が検出されなかったことを示す文字列を指定します。



パスワード情報設定

パスワード情報設定



新しいログインパスワード	
ログインパスワードの確認	

《設定以外のサービスについてもパスワードの問い合わせが必要な場合は以下のチェックをしてください。》

- ☒ 操作 (手動接続/切断、テレホーダイなどのISDN回線もしくはモデム接続の運用)
- ☒ 表示 (課金情報、ルーティング情報などの運用情報の表示)
- ☒ メンテナンス (バージョン情報の表示、ファームウェア更新など)

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

NetVehicle を操作する際のパスワードを半角英数字 16 文字以内で指定します。パスワード入力によって操作の制限が解除される時間は 10 分間です。それ以降の操作ではあらためてパスワードが要求されます。

なお、パスワードは更新直後から有効になります。操作メニュー、表示メニュー、メンテナンスメニューの操作に関しても、必要に応じてパスワードを有効に設定できます。

新しいログインパスワード

設定するログインパスワードを指定します。

ログインパスワードの確認

上で設定したパスワードと同じパスワードを入力します。

操作

チェックすると、操作メニューを使用する場合に上で設定したパスワードが有効になります。

表示

チェックすると、表示メニューを使用する場合に上で設定したパスワードが有効になります。

メンテナンス

チェックすると、メンテナンスメニューを使用する場合に上で設定したパスワードが有効になります。



E メールエージェント情報設定

Eメールエージェント情報設定

メールチェック情報一覧 TELメール情報 メール着信通知情報

[メールチェック情報一覧] ?

ユーザ情報	停止	ユーザ名	メール転送 一覧送信	確認時間	修正／削除
追加 全削除					

システムログ ☒ 出力する ☐ 出力しない

[TELメール情報] ISDN ?

TELメール	☐ 使用する ☒ 使用しない			
送信情報				
アナログポート	メールアドレス	送信周期	修正	削除
アナログポート1	-	-	修正	削除
アナログポート2	-	-	修正	削除

システムログ ☒ 出力する ☐ 出力しない

[メール着信通知情報] ISDN ?

メール着信通知	☒ 使用する ☐ 使用しない
サブアドレスチェック	☐ チェックしない ☒ 回線情報の自局番号でチェックする ☐ 以下の値でチェックする
サブアドレス	

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新+設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

△注意

メール着信通知機能を使用するには、プロバイダが“インターネットメールの自動着信通知サービス”をサポートしている必要があります。

[メールチェック情報一覧]

登録されているメールチェック情報の一覧です。

[追加] または [修正] ボタンをクリックすると「メールチェック情報設定」ページに進みます。

メールチェック情報は10個まで設定できます。

同時刻に複数のメールチェックを実行した場合、メールチェックの実行が多少ずれる場合があります。

停止

チェックすると、メールチェックを一時的に停止します。

システムログ

メールチェックのシステムログを出さない場合は、出力しないを選択します。

[TELメール情報]

TELメール

使用する

着信履歴をメールで送信します。

使用しない

着信履歴をメールで送信しません。

送信情報

指定されているTELメール情報の一覧です。

TELメール情報はアナログポートごとに設定できます。

[修正] ボタンをクリックすると「TELメール情報設定」ページに進みます。

システムログ

TELメール送信のシステムログを出さない場合は、出力しないを選択します。



Eメールエージェント機能には以下の機能があります。

・メールチェック機能

メールチェックとは、POP3プロトコルを使用して、指定時間にPOP3サーバにメールが到着しているかどうかを確認する機能です。メールが到着していれば、メールの件数、差出人、題名、送信時刻を取得します。

・メール転送機能

指定時刻になるとPOP3サーバに到着しているメールを指定したメールアドレスに転送する機能です。

・メール一覧送信機能

指定時刻になるとPOP3サーバに到着しているメールの一覧情報を指定したメールアドレスに転送する機能です。

・TELメール機能

アナログポートの着信履歴を着信ごとまたは一定時間ごとにメールで送信する機能です。

・メール着信通知機能

メールが到着したことを通知する機能です。プロバイダの“インターネットメールの自動着信通知サービス”を利用します。プロバイダから受信者あてにメールの着信通知を発信し、メールが到達したことを利用者端末に伝えるサービスです。

[メール着信通知情報]

メール着信通知

使用する

プロバイダから受信者あてにメールの着信通知を発信し、メールが到着したことを利用者端末に伝えるサービスを利用します。

使用しない

メール着信通知を使用しません。

サブアドレスチェック

プロバイダから通知されるメール着信通知を、サブアドレスにより制限できます。

チェックしない

すべてのサブアドレスでメール着信通知を受け付けます。

回線情報の自局番号でチェックする

回線情報の自局番号チェックの定義に従います。この場合は、自局番号チェックで許可されないサブアドレスを含むメール着信通知は無視します。

以下の値でチェックする

指定したサブアドレスを含むメール着信通知のみを受け付けます。サブアドレスは半角英数字 19 文字以内で指定してください。



メールチェック情報設定

メールチェック情報設定		
メールチェック情報	メール転送/一覧送信情報	メール転送条件
[メールチェック情報]		
ユーザ名		
パスワード		
POP3サーバ	ホスト名 ポート番号 番	
確認時間	☒ 時刻で指定 [曜日] [時] [分] [曜日] [時] [分] [曜日] [時] [分] ☐ 間隔で指定 [] 分 メールチェックを行わない時間帯を指定する場合は、開始時刻/終了時刻を指定してください。 [] : [] から [] : [] [] : [] から [] : []	
自動消去	☐ 使用する ☒ 使用しない	
APOP認証	☐ 使用する ☒ 使用しない	
リモートメールチェックID		
件数のLCD表示	☒ する ☐ しない	
[メール転送/一覧送信情報]		
転送/一覧送信	☐ メールを転送する ☐ メール一覧を送信する	
SMTPサーバ	ホスト名 ポート番号 番	
宛先メールアドレス	追加 全削除	
差出人変更	☒ しない ☐ する 差出人メールアドレス	
転送サイズ指定	☒ しない ☐ する 本文が半角で、約 文字以内 《メールを転送する場合のみ有効です》	
一覧形式	☒ 1件を複数行で送信 ☐ 1件を1行で送信 《メール一覧を送信する場合のみ有効です》	
[メール転送条件]		
動作	☒ 全て転送する ☐ 条件に従う	
条件	☒ 以下の条件を満たさない場合は転送する ☐ 以下の条件を満たさない場合は転送しない	
優先順位	条件 転送 修正/削除/移動 追加 全削除	
データを入力後、更新をクリックしてください。 更新してすぐに設定反映したい場合は、更新+設定反映をクリックしてください。 入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。		
更新 更新+設定反映 キャンセル		

[メールチェック情報]

メールチェックとは、POP3 プロトコルを使用して、指定時間になると POP3 サーバにメールが到着しているかどうかを確認する機能です。メールが到着していれば、メールの件数、差出人、題名、送信時刻を取得します。

指定時間になると、回線を自動接続します。あらかじめ相手情報を設定してください。

△注意

POP3サーバがPOP3のオプションコマンド（UIDL, TOP）を実装していない場合はメール件数のみ取得します。

ユーザ名

POP3サーバにアクセスするためのユーザ名を32文字以内で指定します。

パスワード

POP3サーバにアクセスするためのパスワードを32文字以内で指定します。

POP3 サーバ

ホスト名には POP3 サーバ名もしくは、POP3 サーバの IP アドレスを 80 文字以内で指定します。ポート番号は必要に応じて変更してください。

確認時間

POP3 サーバにメールの到着を確認する時間を、時刻または間隔で指定します。間隔で指定する場合は、5分～30日の範囲で指定してください。

自動消去

パソコンのメーラなどからメールサーバにアクセスしたときに、メールチェックで取得した情報を自動的に消去する場合は、“使用する”をチェックします。

APOP 認証

POP3サーバとの認証をAPOPで行う場合は、“使用する”をチェックします。

⚠注意

APOP 認証を使用する場合は、POP3 サーバが APOP 認証をサポートしている必要があります。

リモートメールチェック ID

リモートメールチェック ID を半角英数字 19 文字以内で設定してください。

リモートメールチェック ID をサブアドレスとして NetVehicle に電話をかけると、遠隔地からメールチェック、メール転送、メール一覧送信を実行することができます。

件数の LCD 表示

POP3 サーバに到着しているメールの件数を LCD (液晶ディスプレイ) に表示させる場合は、“する”をチェックします。

複数のメールチェック情報が設定されている場合、または、メール着信通知を使用している場合は、各情報の合計が LCD に表示されます。

[メール転送／一覧送信情報]

メール転送とは、メールチェックで取得したメールを指定した宛先メールアドレスに転送する機能です。

メール一覧送信とは、メールチェックで取得したメールの送信時刻 (Date)、差出人 (From)、題名 (Subject) の一覧を指定の宛先メールアドレスに送信する機能です。

1 回のメールチェックで転送できるメール件数は、1 ユーザにつき 50 件までです。

転送できるメールの文字数は半角で約 6144 文字、行数は 200 行まで (いずれも本文のみ) です。このサイズを超えた部分は切り捨てられます。

サイズを超えたメールがマルチパートで構成されている場合は、「転送できないサイズのメールが届いています。」というメールが送信されます。

複数の接続先を使用していると別プロバイダ経由で SMTP サーバを使用することがあり、SPAM などの不正メール対策のためにメールの送信が行えない場合があります。

プロバイダによっては、別プロバイダ経由でも POP の認証を行ったあとであればメールの送信を行うことができる場合があります。

詳しくはプロバイダにお問い合わせください。

転送／一覧送信

使用する機能をチェックします。

SMTP サーバ

ホスト名には SMTP サーバ名または SMTP サーバの IP アドレスを 80 文字以内で指定します。

ポート番号は必要に応じて変更してください。

宛先メールアドレス

宛先メールアドレス (To) を半角 80 文字以内で指定します。

宛先メールアドレスは、5 個まで設定できます。

差出人変更

SMTP サーバの差出人制限によりメールの転送、一覧送信が行えない場合があります。この場合は、差出人を変更することによりメールの転送、一覧送信ができるようになります。

差出人メールアドレスを変更する場合は、“する”をチェックして、差出人メールアドレスを設定してください。

差出人メールアドレスを変更した場合、ここで指定した差出人メールアドレスを使用して、メールの転送、一覧送信を行います。

差出人メールアドレス

差出人メールアドレスを半角 80 文字以内で指定します。

転送サイズ指定

転送するメールのサイズを 1 ～ 6144 文字の範囲で指定します。

一覧形式

送信するメール一覧の形式をチェックします。

[メール転送条件]

動作

メール転送条件を指定する場合、“条件に従う”をチェックして条件を指定してください。

条件

指定されているメール転送条件の一覧です。転送条件は装置全体で 40 個まで指定できます。[追加] ボタンをクリックすると「条件設定」ページに進みます。

条件として“条件を満たさない場合は転送する”または“条件を満たさない場合は転送しない”を選択します。



宛先メールアドレス設定

宛先メールアドレス設定

?

メールアドレス

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

更新 + 設定反映

キャンセル

宛先メールアドレス (To) を半角 80 文字以内で設定します。宛先メールアドレスは 5 個まで設定できます。



条件設定

条件設定

☒ する ☐ しない

差出人に が含まれる
または、

宛先に が含まれる
または、

題名に が含まれる

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

転送

条件を満たす場合にメールを転送するかどうかを設定します。

条件

差出人 (From)・宛先 (To)・題名 (Subject) を転送条件として設定できます。

それぞれ半角 40 文字以内 (全角 20 文字以内) で設定してください。



TEL メール情報設定

TELメール情報設定	
《メール送信を行う前にPOP認証を行う必要がある場合は、認証情報の設定を行ってください》	
[アナログポート1]	
宛先メールアドレス	
差出人メールアドレス	
SMTPサーバ	ホスト名 ポート番号 25
認証情報	☒ POP認証しない ☐ POP認証する
	ユーザー名 パスワード
	POP3サーバ ホスト名 ポート番号 110 番
	APOP認証 ☐ 使用する ☒ 使用しない
送信周期	☒ 着信毎 ☐ 一定周期 分 毎
	TELメールの送信を行わない時間帯を指定する場合は、開始時刻/終了時刻を指定してください。 : から : : から :
送信情報	☒ 発信者番号と着信番号を送信する ☐ 発信者番号のみを送信する
データを入力後、更新をクリックしてください。 更新してすぐに設定反映したい場合は、更新+設定反映をクリックしてください。 入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。	
更新 更新+設定反映 キャンセル	

TELメールとは、アナログポートの着信履歴を着信毎あるいは一定時間毎にメールで送信する機能です。メール送信時には回線を自動接続します。あらかじめ相手情報を設定してください。

TELメールの開始がメールチェックとかさなる場合、TELメールの実行が多少ずれる場合があります。

[アナログポート 1,2]

宛先メールアドレス

宛先メールアドレス (To) を半角 80 文字以内で指定します。

差出人メールアドレス

差出人メールアドレス (From) を半角 80 文字以内で指定します。

SMTP サーバ

ホスト名にはSMTPサーバ名またはSMTPサーバのIPアドレスを80文字以内で指定します。
ポート番号は必要に応じて変更してください。

認証情報

TELメールの送信を行う前にPOP認証を行う場合は、“POP認証する”をチェックします。

複数の接続先を使用していると別プロバイダ経由でSMTPサーバを使用することがあり、SPAMなどの不正メール対策のためにメールの送信が行えない場合があります。

プロバイダによっては、別プロバイダ経由でもPOPの認証を行ったあとであればメールの送信を行うことができる場合があります。

詳しくはプロバイダにお問い合わせください。

ユーザ名

POP3サーバにアクセスするためのユーザ名を32文字以内で指定します。

パスワード

POP3サーバにアクセスするためのパスワードを32文字以内で指定します。

POP3 サーバ

ホスト名にはPOP3サーバ名またはPOP3サーバのIPアドレスを80文字以内で指定します。
ポート番号は必要に応じて変更してください。

APOP 認証

POP3サーバとの認証をAPOPで行う場合は、“使用する”をチェックします。

△注意

APOP認証を使用する場合は、POP3サーバがAPOP認証をサポートしている必要があります。

送信周期

着信履歴をメールで送信するタイミングを、“着信毎”または“一定周期”で指定します。

一定周期で指定する場合は、5分～7日の範囲で指定してください。

送信情報

メールで送信する着信履歴の情報を、“発信者番号と着信番号を送信する”または“発信者番号のみを送信する”を指定します。



ProxyDNS 情報

1

ProxyDNS情報

このページではProxyDNSとURLフィルタの設定ができます。URLフィルタは順引き情報で設定します。

[順引き情報](#) [逆引き情報](#)

[順引き情報一覧]

優先順位	ドメイン名 タイプ	動作	DNSサーバアドレス/ ネットワーク名	修正／削除／移動
	送信元IPアドレス/ マスク			
追加 全削除				

[逆引き情報一覧]

優先順位	ネットワークアドレス	動作	DNSサーバアドレス/ ネットワーク名	修正／削除／移動
追加 全削除				

更新した情報は、設定反映後に有効になります。

[設定反映](#)

[＜Eメールエージェント情報へ＞](#) [ホストデータベース情報へ＞](#)

[逆引き情報一覧]

逆引き情報はIPアドレスによりDNSサーバを切り替える範囲を指定する場合に使用します。32個まで定義できます。[追加] ボタンまたは[修正] ボタンをクリックすると、「ProxyDNS 情報設定（逆引き）」ページに進みます。



ProxyDNSには以下の機能があります。

・DNS サーバの自動切替え機能

パソコンにNetVehicleのIPアドレスをDNSサーバとして登録しておくと、接続先によって問い合わせるDNSサーバを自動的に切り替えます。

・DNS サーバ機能

ホストデータベース情報にホスト名とIPアドレスのペアを登録しておくと、ProxyDNSは該当ホスト名へのアクセスを登録されたIPアドレスへのアクセスとして切り替えます。

・URL フィルタ機能

特定のドメイン名（範囲指定も可）へのアクセスを禁止することができます。この機能は順引き情報設定にて設定します。

・問い合わせタイプフィルタ機能

送信元IPアドレス範囲から送信される特定の問い合わせのタイプのDNSパケットを破棄することができます。この機能は順引き情報設定にて設定します。

[順引き情報一覧]

順引き情報はドメイン名によりDNSサーバを切り替える範囲を指定する場合に使用します。32個まで定義できます。[追加] ボタンまたは[修正] ボタンをクリックすると、「ProxyDNS 情報設定（順引き）」ページに進みます。



ProxyDNS 情報設定(順引き)

ProxyDNS 情報設定(順引き)

URLフィルタ機能を使用する場合は、ドメイン名に対象URLを指定し、動作で廃棄するを選択します。

ドメイン名	
タイプ	すべて (番号指定 "その他"を選択時のみ有効です。)
送信元情報	IPアドレス
	アドレスマスク
動作	☒ 廃棄する ☐ 接続先のDNSサーバへ問い合わせる ネットワーク名 ☐ 設定したDNSサーバへ問い合わせる DNSサーバアドレス

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

ドメイン名

対象とするドメイン名の範囲を半角英数字80文字以内で指定します。範囲指定には、次のように、'*'または '?' が使用できます。なお、ドメイン名のチェックには大文字／小文字の区別はありません。

'*': 0文字以上の任意の文字に一致する。

'?': 1文字の任意文字に一致する。

《例》

条件：

www.*.com

一致：

www.testa.com

www.test1.test.com

条件：

test

一致：

www.test.com

test.com

test.co.jp

条件：

www.test?.com

一致：

www.test1.com

www.test2.com

www.testA.com

タイプ

対象とする問い合わせタイプを次の5つから選んでください。

- すべて (PTRを除く)
- A (1)
- SOA (6)
- SRV (33)
- その他

“その他”を選択した場合、問い合わせタイプを1～11,13～65535の10進数で指定してください。

送信元IP アドレス／マスク

フィルタリング条件として送信元IPアドレスとアドレスマスクを設定してください。チェック対象となったパケットのIPアドレスマスクと定義したアドレスマスクの論理積と、定義したIPアドレスとアドレスマスクの論理積が等しい場合に条件に一致したことになります。

動作

対象ドメインに対する動作を指定します。以下の3つの動作から選択します。

廃棄する

該当ドメインの転送を無効にするフィルタを設定します。URLフィルタとして利用する場合に指定します。

接続先のDNSサーバへ問い合わせる

接続先情報で設定されたDNSサーバへ問い合わせます。どのネットワークで使用するかを指定します。指定したネットワークに複数の接続先が登録されている場合は、マルチルーティングと優先順位に従って接続先を決定します。

設定したDNSサーバへ問い合わせる

特定のDNSサーバへ問い合わせます。問い合わせるDNSサーバのIPアドレスを指定します。



ProxyDNS 情報設定(逆引き)

1

ProxyDNS情報設定(逆引き)

IPアドレス	
アドレスマスク	0 0 0 0
動作	☒ 廃棄する
	☐ 接続先のDNSサーバへ問い合わせる
	☐ 設定したDNSサーバへ問い合わせる
	ネットワーク名
	DNSサーバアドレス

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新+設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

IP アドレス/アドレスマスク

対象とするネットワークの範囲を IP アドレスとアドレスマスクの組み合わせで指定します。

動作

対象ドメインに対する動作を指定します。以下の 3 つの動作から選択します。

廃棄する

該当ネットワークの転送を無効にするフィルタを設定します。

接続先の DNS サーバへ問い合わせる

接続先情報で設定された DNS サーバへ問い合わせます。どのネットワークで使用するかを指定します。指定したネットワークに複数の接続先が登録されている場合は、マルチルーティングと優先順位に従って接続先を決定します。

設定した DNS サーバへ問い合わせる

特定の DNS サーバへ問い合わせます。問い合わせる DNS サーバの IP アドレスを指定します。



ホストデータベース情報

ホストデータベース情報

	ホスト名	IPアドレス	MACアドレス	Wake-up-ID	修正	削除
1					修正	削除
2					修正	削除
3					修正	削除
4					修正	削除
5					修正	削除
6					修正	削除
7					修正	削除
8					修正	削除
9					修正	削除
10					修正	削除
11					修正	削除
12					修正	削除
13					修正	削除
14					修正	削除
15					修正	削除
16					修正	削除
17					修正	削除
18					修正	削除
19					修正	削除
20					修正	削除
21					修正	削除
22					修正	削除
23					修正	削除
24					修正	削除
25					修正	削除
26					修正	削除
27					修正	削除
28					修正	削除
29					修正	削除
30					修正	削除
31					修正	削除
32					修正	削除

全削除

更新した情報は、設定反映後に有効になります。

設定反映

< ProxyDNS/URLフィルタ情報へ

スケジュール情報へ >

Hint

ホストデータベースには以下の機能があります。

- DNS サーバ機能

「ホスト名」「IP アドレス」のペアを登録することにより、ProxyDNS の DNS サーバ機能を使用することができます。

- リモートパワーオン機能

「MAC アドレス」「Wake-up-ID」のペアを登録することにより、Wakeup on LAN 機能を使用することができます。

- DHCP スタティック機能

「IP アドレス」「MAC アドレス」のペアを登録することにより、DHCP で割り当てられる IP アドレスを端末固有のものとすることができます。

登録されているホストデータベース情報の一覧です。
[修正] ボタンをクリックすると、「ホストデータベース
情報設定」ページに進みます。



ホストデータベース情報設定

1

ホストデータベース情報設定



ホスト名	
IPアドレス	
MACアドレス	
Wake-up-ID	

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

ホスト名

DNSサーバ機能で使用されます。80文字以内で設定します。使える文字は半角のアルファベット・数字・ハイフン・ピリオドのみで、その他の記号は使用できません。

IP アドレス

DNSサーバ機能およびDHCPスタティック機能で使用されます。

MAC アドレス

DHCP スタティック機能およびリモートパワーオン機能で使用されます。MAC アドレスは以下の形式で設定します。

xx:xx:xx:xx:xx:xx (xx は 2 桁の 16 進数)

Wake-up-ID

NetVehicle は、ISDN 接続を契機にして、NetVehicleと同じセグメント上に存在するMagic Packet対応システムの電源を投入することができます。リモートパワーオン機能使用時に、Magic Packetを送出するLAN機器の識別IDを半角英数字を使用して19文字以内で設定します。



スケジュール情報

スケジュール情報

このページでは、スケジュール予約情報を設定できます。発着信の制御や課金情報のクリアを定期的に実行するように設定できます。また、指定した日に接続先の電話番号などを変更することができます。

△ スケジュール機能を使用する際には、正しい時刻が設定されているか確認してください。現在の時刻はWed Aug 4 14:44:19 1999 です。

月間／週間予約 電話番号変更予約

【月間／週間予約一覧】

[?] [2]

動作	予約時刻	終了時刻	周期	修正／削除	
1 課金情報クリア	00:00	-	毎週金曜	修正	削除
2	-	-	-	修正	削除
3	-	-	-	修正	削除
4	-	-	-	修正	削除
5	-	-	-	修正	削除
6	-	-	-	修正	削除
7	-	-	-	修正	削除
8	-	-	-	修正	削除
9	-	-	-	修正	削除
10	-	-	-	修正	削除
11	-	-	-	修正	削除
12	-	-	-	修正	削除
13	-	-	-	修正	削除
14	-	-	-	修正	削除
15	-	-	-	修正	削除
16	-	-	-	修正	削除
全削除					

【電話番号変更予約一覧】

[?] [2]

実行日時	電話番号変更情報	修正／削除	
1	-	修正	削除
2	-	修正	削除
3	-	修正	削除
4	-	修正	削除
全削除			

更新した情報は、設定反映後に有効になります。

設定反映

< ホストデータベース情報へ

マルチTA情報へ >

△注意

スケジュール機能を使用する前に、必ず NetVehicle の時刻設定を操作メニューから行ってください。

【月間／週間予約一覧】

現在設定されている月間または週間の予約が表示されています。[修正] ボタンをクリックすると、「月間／週間予約設定」ページに進みます。

【電話番号変更予約一覧】

現在設定されている電話番号変更の予約が表示されています。[修正] ボタンをクリックすると、「電話番号変更予約設定」ページに進みます。



月間／週間予約設定

1

月間／週間予約設定

動作

予約時刻

☒ 毎日
☐ 毎週 ☐ 日曜日 ☐ 月曜日 ☐ 火曜日 ☐ 水曜日
☐ 木曜日 ☐ 金曜日 ☐ 土曜日
☐ 毎月 日

終了時刻

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

動作

以下の中から予約する処理動作を選択します。

- ・発信抑止
- ・着信抑止
- ・テレホーダイ
- ・課金情報クリア
- ・強制切断
- ・スタンバイモードへ移行
- ・スタンバイモードを解除
- ・留守モードへ移行
- ・留守モードを解除

予約時刻

選択した動作を実行（開始）する時刻と実行周期を設定します。

終了時刻

選択した動作を終了する時刻を設定します。動作として発信抑止、着信抑止、テレホーダイを選択した場合にのみ設定可能です。ここで予約時刻よりも早い時刻を指定した場合、それは翌日の時刻になります。



電話番号変更予約設定

電話番号変更予約設定

実行日時 年 月 日 時 分

変更前 1		変更後 1	
変更前 2		変更後 2	
変更前 3		変更後 3	
変更前 4		変更後 4	

電話番号変更情報

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

全構成定義情報で定義されている電話番号について、指定時刻に電話番号の変更を行うことができます。なお、指定時刻にデータ通信を行っている、といったん通信が切れ、設定反映されます。

実行日時

電話番号を変更する日時を西暦で指定します。

電話番号変更情報

変更前と変更後の電話番号をそれぞれ32桁以内で指定します。



マルチ TA 情報

マルチTA情報 **ISDN**

マルチTAの使用 ☐ 使用しない ☒ 使用する

同時アクセス数 1

アクセス制限

☒ 全て許可する

☐ 下記のパソコンのみ許可する

IPアドレス

アドレスマスク 0 0.0.0.0

強制切断タイマ 10 時間

接続先情報

電話番号

サブアドレス

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

この機能は、LAN で接続されたパソコンから仮想ダイヤルアップアダプタを通じて ISDN の B チャンネルヘダイレクトに接続できるサービスです。

⚠ 注意

パソコン側は、Microsoft® Windows® のダイヤルアップネットワークにおける VPN（仮想プライベートネットワーク）機能を使用します。

マルチ TA の使用

マルチ TA を使用するかどうかなを選択します。

使用しない

マルチ TA を使用しません。以下の設定は無効となります。

使用する

マルチ TA を使用します。以下の項目を設定します。

同時アクセス数

マルチ TA として使用する ISDN の B チャンネルの数を設定します。

アクセス制限

全て許可する

すべてのパソコンが利用できます。

下記のパソコンのみ許可する

定義した IP アドレスとアドレスマスクの論理積に合致するパソコンのみ利用できます。

強制切断タイマ

データ通信時の強制切断タイマを 0 ～ 24 時間の範囲で設定します。

0 を設定した場合には切断は行われません。

⚠ 注意

ブラウザ画面からの強制切断操作ではマルチ TA 接続は切断されません。ダイヤルアップネットワークの切断操作を行ってください。

スケジュールによる発呼抑止／強制切断はマルチ TA 接続では無効です。

接続先情報

接続先の電話番号、サブアドレスを設定します。電話番号は 32 桁以内、サブアドレスは 19 桁以内で設定します。

⚠ 注意

Microsoft® Windows® のダイヤルアップネットワークにおける VPN 機能に設定した電話番号、サブアドレスより NetVehicle に設定した電話番号、サブアドレスが優先されます。



アナログ共通情報

アナログ共通情報 ISDN

このページでは、アナログポート1,2に共通する情報を設定できます。

[網契約関連設定](#) [装置動作設定](#)

【網契約に関連する設定項目】

電話番号	
フレックスホン	☒ フレックスホン ☐ 疑似フレックスホン 三者通話 ☒ 使用しない ☐ 使用する 通信中転送 ☒ 使用しない ☐ 使用する
着信転送	☒ 使用しない ☐ 着信転送 ☐ 疑似着信転送 契約者番号の転送先 ポート1のダイヤルインの転送先 ポート2のダイヤルインの転送先 鳴り分け番号1の転送先 鳴り分け番号2の転送先 鳴り分け番号3の転送先 ※グローバル着信ありの場合の転送先は契約者番号の転送先に設定してください 転送元トーク ☐ あり ☒ なし 転送トーク ☐ あり ☒ なし ※疑似着信転送を使用する場合、転送元／転送トークの指定は無効になります
トナンバー	☒ 使用しない ☐ 使用する [トナンバー情報1] 鳴り分け番号1 動作モード ポート1のみ着信 [トナンバー情報2] 鳴り分け番号2 動作モード ポート2のみ着信 [トナンバー情報3] 鳴り分け番号3 動作モード 両ポート着信

【装置の動作に関連する設定項目】

設定変更用電話番号	
留守状態設定	☒ 在宅 ☐ 留守
留守確認用番号	
ダイヤル桁間タイマ	5秒
フッキング時間	☐ 早い ☒ 標準 ☐ 速い
機能ボタン使用	☒ する(1回入力) ☐ する(2回入力) ☐ しない
外線リング音	リング音1
内線リング音	リング音2

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新+設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

【網契約に関連する設定項目】

ISDN 回線加入契約の内容に関する情報を設定します。

電話番号

自局の電話番号を半角数字 32 桁以内で指定します。区切り文字として、-、(、)が使用できます。この番号は、発信者番号通知機能を使用する場合、アナログ発信時に網に通知されます。また、着信時には網から自局番号が通知されない場合、当番号をシステムログにて表示します。

フレックスホン

フレックスホン

フレックスホンを使用するには NTT と契約する必要があります。

疑似フレックスホン

疑似フレックスホン機能を使用します。疑似フレックスホン機能を使用すると、NTT との契約がなくても疑似的にフレックスホン（三者通話、通信中転送）を利用できます。

三者通話

通話中にその通話を保留して、別の相手に電話をかけることができます。同時に三者で通話することもできます。

通信中転送

通話中に別の相手に電話を転送することができます。

着信転送

かかってきた電話を、契約者番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号、または鳴り分け番号ごとに別の電話に自動で転送することができます。転送先電話番号を半角数字 32 桁以内で指定します。区切り文字として、-、(、)が使用できます。

使用しない

着信転送を行いません。

着信転送

着信転送を使用するには NTT と契約する必要があります。

着信転送を使用する場合に、以下の「転送元トーク」を流すかどうかを指定します。

「電話が転送されます。」など

着信転送を使用する場合に、以下の「転送トーク」を流すかどうかを指定します。

「ただいま電話を転送しますので、そのままお待ちください。」など

疑似着信転送

疑似着信転送機能を使用して着信転送を行います。疑似着信転送機能を使用すると、NTTとの契約がなくても疑似的に着信転送を利用できます。

i・ナンバー

電話番号を追加し、電話機ごとに鳴り分けができます。i・ナンバーを使用するにはNTTと契約する必要があります。

使用しない

i・ナンバーを使用しません。

使用する

i・ナンバーを使用します。鳴り分け番号および動作モードを指定します。

鳴り分け番号1には、契約者番号を半角数字32桁以内で指定してください。鳴り分け番号2、3には、iナンバーサービス契約時に通知される契約者番号以外の番号を半角数字32桁以内で指定してください。

[装置の動作に関連する設定項目]

NetVehicleにつないだアナログ機器を利用する際、その接続機器の動作に関する情報を設定します。

設定変更用暗証番号

外線からの設定変更時に使用する暗証番号を0～9までの数字4桁で設定します。

留守状態設定

「在宅」または「留守」を選択します。

「留守」を設定した場合、外線からサブアドレス（留守確認用番号）付き発信することで、無課金で留守状態を確認することができます。留守確認用番号の設定が必要です。

留守確認用番号

外線からの留守状態確認時に使用する確認用番号を0から9までの数字4桁で設定します。

ダイヤル桁間タイマ

アナログポートに接続した電話やFAXからダイヤルしたときに、最後のダイヤル入力からINSネット64に発信するまでの時間を変更することができます。

フッキング時間

電話機のキャッチボタン（フックボタン、フラッシュボタン）が正常に動作しない場合に認識時間を変更することができます。

#機能ボタン使用

「#」を機能ボタンとして使用するかどうかを設定します。

外線／内線リング音

外線用、内線用のリング音を選択できます。リング音1は「リーン・リーン」、リング音2は「リンリン・リンリン」、リング音3は「リンリンリン・リンリンリン」です。



アナログポート 1 / 2 情報

アナログポート1情報 ISDN

このページでは、アナログポート1に関する情報を設定することができます。

[網契約関連設定](#) [装置動作設定](#) [発信規制情報設定](#)

【網契約に関連する設定項目】

ダイヤルイン番号	
グローバル着信	☒ する ☐ しない
発信者番号通知	☐ する ☐ しない ☒ 網契約に従う
キャッチホン	☐ キャッチホン ☒ 使用しない ☐ 疑似キャッチホン
Lモード (メッセージ到着お知らせ)	☒ 使用しない ☐ 使用する Lモード契約電話番号 契約者回線番号 ▼

【装置の動作に関連する設定項目】

接続機器	☒ 電話 ☐ FAX(キャッチホン着信) ☐ モデム ☐ FAX ☐ FAX(無鳴動強制着信) ☐ FAX(無鳴動識別着信) ☐ なし
サブアドレス	
発信/着信選択	☒ 発信着信 ☐ 発信のみ ☐ 着信のみ
受話音量	☒ 小 ☐ 中 ☐ 大
リバーサル送受	☐ 送受する ☒ 送受しない
通話中着信音送受時間	0 秒 ▼
フレックスホン自動切替	☐ 使用する ☒ 使用しない
通信前情報通知	☒ 使用しない ☐ モデム信号での通知 ☒ ナンバー・ディスプレイを使用する ☐ モデムダイヤルインを使用する ☐ メッセージあり情報を通知する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + モデムダイヤルインを使用する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + メッセージあり情報を通知する 使用モード設定: モード1 ▼
メッセージあり状態表示	☒ メッセージありをランプ表示しない ☐ メッセージありをランプ表示する
キャッチホン・ディスプレイ	使用しない ▼

【発信規制情報設定】

外線発信を抑制する局番または電話番号		追加/削除
発信抑制電話番号		追加
全削除		
外線発信を許可する局番または電話番号		追加/削除
発信許可電話番号		追加
全削除		

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新+設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

【網契約に関連する設定項目】

ISDN 回線加入契約の内容に関する情報を設定します。

ダイヤルイン番号

ダイヤルイン番号を 32 桁以内で設定します。

INSネット64の契約時にダイヤルインサービスを契約されている場合は、ダイヤルイン番号を設定することにより、装置背面のTEL1、TEL2に接続されているアナログ機器を呼び分けることができます。

ダイヤルイン番号をいずれかのポートに割り振り、割り振った側の設定を行ってください。

なお、ダイヤルインサービスの契約で、「グローバル着信利用を選択しない」場合は、契約者回線番号もダイヤルイン番号としてご利用になれます。

INSネット64の契約内容(ダイヤルインサービス、グローバル着信利用)、本装置の設定内容(ダイヤルイン番号、グローバル着信)、および相手がダイヤルした番号によって着信条件が変わります。

グローバル着信

INSネット64契約の内容が以下のいずれかに該当し、相手が契約者回線番号をダイヤルした場合、この設定により、装置背面のTEL1、TEL2に接続されているアナログ機器の呼出しを選択することができます。

- ・ダイヤルインサービスを契約していない
- ・ダイヤルインで「グローバル着信利用」で契約している

する

呼出したいポートには、“する”を設定します。

INSネット64の契約内容(ダイヤルインサービス、グローバル着信利用)、本装置の設定内容(ダイヤルイン番号、グローバル着信)、および相手がダイヤルした番号によって着信条件が変わります。

しない

グローバル着信しません。

発信者番号通知

発信者番号(契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号)を着信者側に通知するサービスです。発信者はポート毎に通知するかしないか、または網契約内容に従うかを選択することができます。ダイヤルイン番号または鳴り分け番号を通知する場合は、「ダイヤルイン番号」に通知する電話番号を設定してください。

する

発信者番号を相手に通知します。

しない

発信者番号を相手に通知しません。

網契約に従う

INS ネット 64 申込時の契約内容に従います。

キャッチホン

通話中に別の相手からの着信があると、その通話を保留して新しい相手と通話することができます。

キャッチホン

キャッチホンを使用します。

キャッチホンを使用するには NTT と契約する必要があります。

使用しない

キャッチホンを使用しません。

疑似キャッチホン

フレックスホン未契約の場合は、“疑似キャッチホン”を選択すると疑似的にキャッチホンが使用できます。

接続機器でモデム／FAX を指定したポートには、通信を妨げないためにキャッチホン動作は行いません。

L モード（メッセージ到着お知らせ）

該当するアナログポートで L モード（メッセージ到着お知らせ）を使用するかどうかを指定します。「使用する」を選択する場合は、契約した電話番号を選択します。この機能を使用する場合は、NTT と契約する必要があります。

[装置の動作に関連する設定項目]

NetVehicle のアナログポート 1（TEL1）につないだアナログ機器を利用する際、その接続機器の動作に関する情報を設定します

接続機器

アナログポート 1 に接続する機器を以下の中から選択します。

電話

電話を接続する場合に指定します。

FAX（キャッチホン着信）

電話つき FAX を接続し、発信時は FAX の動作、着信時は電話として動作させる場合に指定します。

モデム

モデムを接続する場合に指定します。

FAX

FAX を接続する場合に指定します。

FAX（無鳴動強制着信）

無鳴動着信機能（FAX を受信したときに、着信音を鳴らさずに応答する機能）を備えた FAX を接続する場合に指定します。

FAX（無鳴動識別着信）

無鳴動着信機能を備えた FAX を接続する場合に指定します。相手が G3 FAX の場合だけ無鳴動着信を行います。

なし

アナログポート 1 は使用できません。

サブアドレス

サブアドレスを半角英数字 19 文字以内で指定します。

サブアドレス番号を設定し、相手が発信する時にそのサブアドレスを指定することで、装置背面の TEL1、TEL2 に接続されているアナログ機器を呼び分けることができます。

なお、相手がアナログ電話網から発信する場合には、サブアドレスが使えないので、この指定による呼び分けはご利用になれません。

NetVehicle のサブアドレス設定および、相手側のサブアドレスの利用状況によって着信条件が変わります。

発信／着信選択

該当するポートが発信専用／着信専用または発着信可能が指定します。

受話音量

該当するアナログポートの受話音量を指定します。

リバースパルス送出

該当するアナログポートにてリバースパルス信号を送出するかどうかを選択します。リバースパルスは、外から電話がかかってきて通話中に相手から電話を切った場合に、通話が終了したことを通知する信号です。例えば、留守番電話で相手が切断了したら同時にメッセージの録音を終了する機能を備えているときに有効です。

送出する

リバースパルス信号を送出します。

送出しない

リバースパルス信号を送出しません。

通話中着信音送出時間

外線通話中に第三者からの着信があると通話中に着信音が聞こえます。この通話中に着信音を送出し続ける時間を 0 ～ 30 秒の範囲で選択できます。0 を指定すると、第三者が切断するまで送出し続けます。

なお、指定時間が経過し、通話中に着信音が聞こえなくなっても第三者が切断しなければ、フッキングにより第三者と通話ができます。

フレックスホン自動切替

フレックスホンを利用して通話中に、話している相手が電話を切断した場合、自動的に保留になっていた相手と通話できるようにする機能です。

使用する

フレックスホン自動切替機能を使用します。

使用しない

フレックスホン自動切替機能を使用しません。

通信前情報通知

アナログポートでの通信（通話）を開始する前にアナログ通信機器に対して情報を通知する機能です。

使用しない

通信前情報通知機能を使用しません。

モデム信号での通知

ナンバー・ディスプレイ対応アナログ機器をご使用の場合、“ナンバー・ディスプレイを使用する”、“ナンバー・ディスプレイを使用する+モデムダイヤルインを使用する”もしくは“ナンバー・ディスプレイを使用する+メッセージあり情報を通知する”をチェックすることにより、アナログ通信機器に相手電話番号を表示することができます。チェックすることにより、アナログ機器に相手番号を表示することができます。リング音の異常や回線切断等のトラブルが起こる場合がありますので、ナンバー・ディスプレイ未対応のアナログ機器をご使用の際には、チェックしないでください。

NTTのナンバー・ディスプレイサービスを契約されていない場合、アナログ電話網からの電話に関しては、相手番号は表示されません。

また、相手側の契約内容により相手番号が表示されない場合もあります。

使用モード設定を“モード1”にして正常に動作しない場合は、“モード2”にしてください。

モデムダイヤルイン対応アナログ機器をご使用の場合、“モデムダイヤルインを使用する”または、“ナンバーディスプレイを使用する+モデムダイヤルインを使用する”をチェックすることにより、電話やFAXなど機能ごとに個別の番号を持つことができます。着信したときに、モデム信号で着信番号を電話機に通知します。

使用モード設定を“モード1”にして正常に動作しない場合は、“モード2”にしてください。Lモードをご使用の場合、“メッセージあり情報を通知する”もしくは“ナンバー・ディスプレイを使用する+メッセージあり情報を通知する”をチェックすることにより、アナログ通信機器に網より通知されたメッセージの有無を通知することができます。使用モード設定を“モード1”にして正常に動作しない場合は、“モード2”にしてください。

PB信号での通知

アナログダイヤルイン対応アナログ機器をご使用の場合、電話やFAXなど機能ごとに個別の番号を持つことができます。着信したときに、PB信号で着信番号を電話機に通知します。

メッセージあり状態表示

網より通知されたLモードのメッセージの有無をランプ点滅により表示するかを指定できます。

キャッチホン・ディスプレイ

キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ通信機器をご使用の場合、「キャッチホン・ディスプレイ」の設定を「使用する（モード1）」にすることにより、アナログ通信機器に話中着信相手番号を表示することができます。キャッチホン・ディスプレイ機能をご使用の際は、キャッチホンの設定を行う必要があります。NTTのナンバー・ディスプレイサービスを契約されていない場合、アナログ電話網からの電話に関しては、相手電話番号は表示されません。また、相手側の契約内容により相手電話番号が表示されない場合もあります。「使用する（モード1）」で正常に動作しない場合は、「使用する（モード2）」、「使用する（モード3）」または「使用する（モード4）」にしてください。

[発信規制情報設定]

規制したい局番や電話番号を登録しておき、その番号に対しての外線発信を規制することができます。ポートごとに指定できます。[追加] ボタンまたは[修正] ボタンをクリックすると、「発信規制情報設定」ページに進みます。



発信規制情報設定（発信抑止）

1

発信規制情報設定(アナログポート1)

[外線発信抑止番号設定]



抑止番号

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

更新 + 設定反映

キャンセル

[外線発信抑止番号設定]

あらかじめ外線発信を抑止したい局番や電話番号を登録しておきます。ポートごとに発信を抑止する番号を指定できます。

抑止番号

外線発信を抑止したい番号を半角数字32桁以内で指定します。



発信規制情報設定（発信許可）

発信規制情報設定(アナログポート1)

[外線発信許可番号設定]



許可番号

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

更新 + 設定反映

キャンセル

[外線発信許可番号設定]

あらかじめ外線発信を規制したい局番や電話番号を登録しておきます。ポートごとに発信を許可する番号を指定できます。

許可番号

外線発信を許可したい番号を32桁以内で指定します。



送出着信番号情報

1

送出着信番号情報 ISDN

このページでは、アナログポートの送出着信番号を設定できます。

[送出着信番号情報]	
番号送出方法設定	☒ 網から通知された番号を送出する ☐ 指定された番号を送出する
送出番号設定	・ 契約者番号での着信時
	・ ポート1のダイヤルイン番号での着信時
	・ ポート2のダイヤルイン番号での着信時
	・ 鳴り分け番号1での着信時
	・ 鳴り分け番号2での着信時
	・ 鳴り分け番号3での着信時

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[送出着信番号情報]

モデムダイヤルイン、アナログダイヤルイン時に、接続機器に送出する着信番号についての設定ができます。

番号送出方法設定

接続機器に対して送出する着信番号の送出方法を設定できます。

送出番号設定

それぞれの着信番号ごとに、機器に対して送出する番号を指定することができます。



識別着信情報

識別着信情報 [ISDN]

このページでは、アナログポートの識別着信情報を設定できます。
識別着信情報は最大10定義まで設定できます。

【識別着信共通情報】

識別着信
優先リング回数

5 回

識別リング音

☒ 相手電話番号識別

リング音3

☐ 着信電話番号識別

契約者番号

リング音1

ポート1のダイヤルイン番号

リング音3

ポート2のダイヤルイン番号

リング音3

鳴り分け番号1

リング音1

鳴り分け番号2

リング音3

鳴り分け番号3

リング音3

【識別着信情報一覧】

識別定義名	相手電話番号	相手サブアドレス	動作モード	修正／削除
デフォルト定義			両ポート着信	修正
公衆電話着信			両ポート着信	修正
発信者番号非通知着信			両ポート着信	修正

追加

全削除

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新＋設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

更新＋設定反映

キャンセル

【識別着信情報一覧】

現在設定されている識別着信情報が表示されています。
デフォルト定義、公衆電話着信、発信者番号非通知着信と、それ以外に10個まで設定できます。[追加] ボタンまたは[修正] ボタンをクリックすると、「識別着信情報設定」ページに進みます。

デフォルト定義

識別着信情報で、相手先に設定されていない相手からかかってきた電話の着信時の動作を指定します。

公衆電話着信

公衆電話からかかってきた電話の着信時の動作を指定します。

発信者番号非通知着信

発信者番号を通知してこない電話の着信時の動作を指定します。

【識別着信共通情報】

着信時に相手の発信者番号によって異なる着信時の呼び出し動作を指定できます。ここでは、識別着信情報の一覧にある相手先すべてに共通する動作を設定します。

識別着信優先リング回数

優先ポートとして指定したポートのみ呼び出すリングの回数を指定します。指定回数呼び出しても受話器を取らない場合は、両ポートの呼び出しを行います。

設定範囲は1～10です。

識別リング音

相手電話番号によって識別するか、着信電話番号によって識別するかを選択できます。

識別着信用のリング音を選択できます。リング音1は「リーン・リーン」、リング音2は「リンリン・リンリン」、リング音3は「リンリンリン・リンリンリン」です。

66

第1章 設定リファレンス



識別着信情報設定

識別着信情報設定

【識別着信情報】

識別定義名

相手電話番号

相手サブアドレス

動作モード

両ポート着信

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

更新 + 設定反映

キャンセル

【識別着信情報】

相手電話番号および相手サブアドレスをキーとして相手を特定し、着信時の呼び出し動作を変えることができます。

相手先の定義は 10 個まで指定できます（識別着信用リング音で呼び出します）。

識別定義名

登録する識別着信情報の名称を半角英数字 16 文字以内で設定します。

相手電話番号

登録する相手の電話番号を市外局番から半角数字 32 桁以内で指定します。

相手サブアドレス

必要に応じて、着信相手を識別するためのサブアドレスを半角英数字 19 文字以内で指定します。

動作モード

該当相手からの着信があった時の動作を指定します。

⚠注意

利用する際には、NTT のナンバー・ディスプレイサービスの契約が必要です。ただし、相手の方が INS ネット 64 から発信者番号を通知して電話をかけて来た場合は未契約の場合でも利用できます。



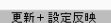
識別着信情報設定（デフォルト定義）

識別着信情報設定

【識別着信情報】 

動作モード  両ポート着信

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映をしたい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[識別着信情報]

デフォルト定義には、相手先に設定されていない相手からの着信の場合の動作を指定します。

動作モード

相手先に設定されていない相手からの着信があった時の動作を指定します。

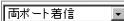


識別着信情報設定(公衆電話着信)

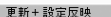
1

識別着信情報設定

【公衆電話着信情報】 

動作モード 

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

[識別着信情報]

公衆電話着信には、公衆電話からの着信の場合の動作を指定します。

動作モード

公衆電話からの着信があった時の動作を指定します。



識別着信情報設定 (発信者番号非通知着信)

識別着信情報設定

【発信者番号非通知着信情報】

動作モード

両ポート着信

データを入力後、更新をクリックしてください。
更新してすぐに設定反映したい場合は、更新 + 設定反映をクリックしてください。
入力したデータを元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

更新

更新 + 設定反映

キャンセル

[識別着信情報]

発信者番号非通知着信には、相手から発信者番号が通知されない場合の動作を指定します。公衆電話からの着信は、発信者番号非通知着信に含まれません。

動作モード

発信者番号非通知の着信があった時の動作を指定します。



NetVehicle をいろいろな接続形態で使う

この章では、
NetVehicle の代表的な接続形態のいくつかを紹介します。

複数プロバイダと端末型接続する	72
事業所 LAN どうしを ISDN で接続する	75
事業所 A の NetVehicle を設定する	76
事業所 B の NetVehicle を設定する	80
インターネットと LAN に同時接続する	81
外部のパソコンと接続する (TA&PHS)	85
事業所 LAN どうしを専用線で接続する	90
本社の NetVehicle を設定する	91
支店の NetVehicle を設定する	93
OCN エコノミーと接続する	94



複数プロバイダと端末型接続する

「マルチルーティング（ソースアドレスルーティング）機能」を使うと、パソコンのIPアドレスごとに接続先を変えることができます。

ここでは、パソコンが複数あって、それぞれのパソコンが別のプロバイダに加入しているような場合、NetVehicleの「マルチルーティング（ソースアドレスルーティング）機能」を使って、それぞれ自分が加入するプロバイダに接続する場合を例に説明します。

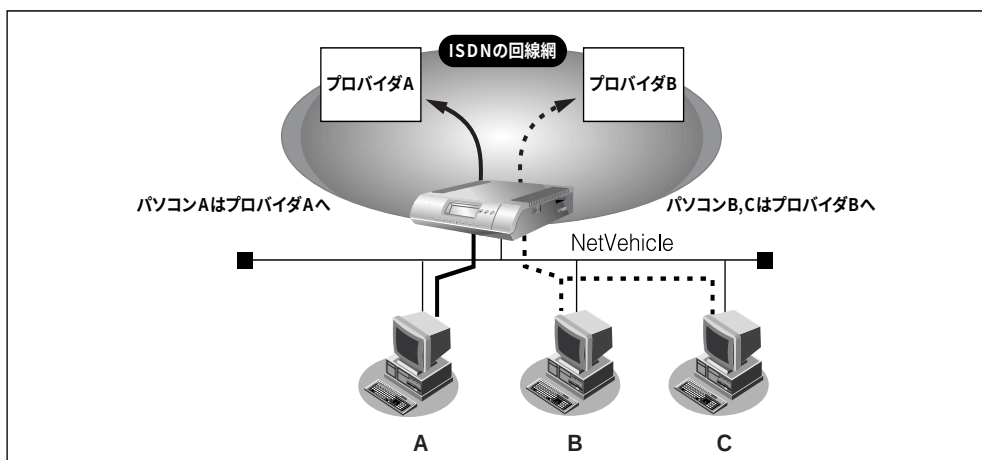


こんな事に気をつけて

設定を行う前に、必ず NetVehicle をご購入時の状態に戻してください。以前の設定が残っていると、設定例の手順で設定できなかったり手順どおり設定しても通信できないことがあります。



■基本編 「ご購入時の状態に戻すには」(P.126)



通信条件

- パソコン A はプロバイダ A (ISP-A) へ接続する
- パソコン A の IP アドレス : 192.168.1.2/32
- プロバイダ A (ISP-A) の接続先 : 03-2222-1111
- パソコン A 以外はプロバイダ B (ISP-B) へ接続する
- マルチ NAT を使用する



こんな事に気をつけて

文字入力フィールドには半角文字 (0～9、A～Z、a～z、および記号) だけを使用してください。ただし、空白文字、「」、「<」、「>」、「&」、「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

1. かんたん設定のインターネットへの「ISDN 接続」でプロバイダ B の設定を行います。



プロバイダの登録→■基本編 「かんたん設定」で設定する（インターネットへISDN 接続のとき）（P.71）

詳細設定でプロバイダ A の情報を追加する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。

「相手情報設定」ページが表示されます。

2. [ネットワーク情報一覧] で「internet」欄の[修正] ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

3. [接続先一覧] で[追加] ボタンをクリックします。

「接続先情報設定」ページが表示されます。

4. プロバイダ A の情報を指定します。

[基本情報] で以下の項目を指定します。

- 接続先名 → ISP-A（プロバイダ A の名称）
- ダイヤル1（電話番号） → 03-2222-1111（プロバイダ A より提示された接続先の電話番号）

[基本情報]	
接続先名	ISP-A
電話番号	03-2222-1111
サブアドレス	
相手種別	ISDN

[マルチルーティング] で以下の項目を指定します。

- ソースアドレスルーティング（ローカルホスト IP アドレス） → 192.168.1.2
(パソコン A の IP アドレス)
- ソースアドレスルーティング（アドレスマスク） → 32

補足 この例では対象となるパソコンが1台のため、255.255.255.255となります。IP アドレスとアドレスマスクを組合せることにより、複数の IP アドレスを対象とすることができます。

[マルチルーティング]	
ソースアドレスルーティング	ローカルホストIPアドレス 192.168.1.2
	アドレスマスク 32 (255.255.255.255)

[発信情報] で以下の項目を指定します。

- 送信認証情報（送信認証 ID） → プロバイダ A から提示された内容
- 送信認証情報（認証パスワード） → プロバイダ A から提示された内容

[発信情報]	
送信認証情報	送信認証ID papa
	認証パスワード ****

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

5. [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

6. ISP-A の優先順位が「1」でない場合は、移動先の優先順位に「1」を入力し [移動] ボタンをクリックします。すでに優先順位が「1」になっている場合は、手順 9. へお進みください。

!! こんな事に気をつけて

接続先には優先度があるため、マルチルーティングの設定をしない接続先の優先度を高くすると、優先度の低いマルチルーティング設定は無効となります。接続先の優先順位に気をつけてください。

.....

7. [NAT 情報] で以下の項目を指定します。

■ NAT の使用 → マルチ NAT

[NAT 情報] 

NAT の使用 ☐ 使用しない ☐ NAT ☒ マルチ NAT

 このマルチ NAT は、動的 NAT を意味します。

 動的 NAT → 「マルチ NAT 機能（アドレス変換機能）を使う」（P.100）

8. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



◆ 「ソースアドレスルーティング機能」を使うとき、IP アドレスの割り当てはどうするの？

「DHCP サーバ機能」を利用すると、DHCP サーバは空いている IP アドレスを要求のあったパソコンに順次割り当てていきます。このため、パソコンの IP アドレスが変わることがあります。

ところで、NetVehicle がサポートしている「IP フィルタリング機能」、「静的 NAT 機能」、「マルチルーティング機能」などは、パソコンの IP アドレスが常に固定されていないと使いにくい場合があります。そこで、これらの機能を使用しながら NetVehicle の DHCP サーバも利用できるように、「DHCP スタティック機能」が用意されています。

LAN（Ethernet）で通信する機器には MAC アドレスという固有のアドレスが設定されています。MAC アドレスは世界中で絶対に重複しないように管理されているため、この値から機器を特定できるのです。

 DHCP スタティック機能の設定 → 「DHCP スタティック機能を使う」（P.136）



事業所LAN どうしをISDNで接続する

ここでは、ISDN 回線を介して2つの事業所（事業所A、事業所B）のネットワークを接続する場合を例に説明します。

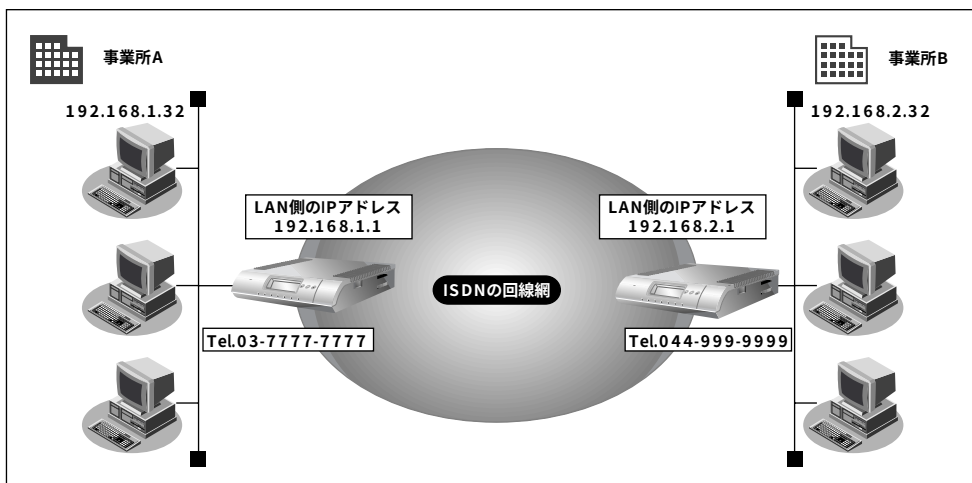


こんな事に気をつけて

設定を行う前に、必ずNetVehicleをご購入時の状態に戻してください。以前の設定が残っていると、設定例の手順で設定できなかったり手順どおり設定しても通信できないことがあります。



■基本編 「ご購入時の状態に戻すには」(P.122)



通信条件

- ユーザ認証IDとユーザ認証パスワード（事業所A：東京事業所）
送信時 kawasaki、kawapass
受諾時 tokyo、tokyopass
- ユーザ認証IDとユーザ認証パスワード（事業所B：川崎事業所）
送信時 tokyo、tokyopass
受諾時 kawasaki、kawapass
- 電話番号
東京事業所：03-7777-7777
川崎事業所：044-999-9999
- NetVehicleのLAN側のネットワークアドレス/ネットマスク
東京事業所：192.168.1.0/24
川崎事業所：192.168.2.0/24
- スタティックルーティング機能を使用する
- DHCPサーバ機能は使用しない



こんな事に気をつけて

文字入力フィールドには半角文字（0～9、A～Z、a～z、および記号）だけを使用してください。ただし、空白文字、「」、「<」、「>」、「&」、「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

事業所 A の NetVehicle を設定する

回線接続情報（事業所 A）を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「回線情報」をクリックします。
「回線情報設定」ページが表示されます。

2. [回線情報] で以下の項目を指定します。

- 回線インタフェース → ISDN



必要に応じて上記以外の項目を設定します。

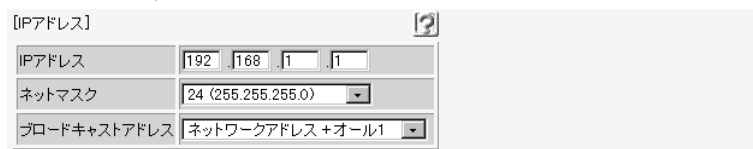
3. [更新] ボタンをクリックします。

LAN 情報（事業所 A）を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「LAN 情報」をクリックします。
「LAN 情報設定」ページが表示されます。

2. [IP アドレス] で以下の項目を指定します。

- IP アドレス → 192.168.1.1 (NetVehicle の LAN 側の IP アドレス)
- ネットマスク → 24
- ブロードキャストアドレス → ネットワークアドレス + オール 1



[DHCP 機能] で以下の項目を指定します。

- DHCP サーバ機能 → 使用しない



必要に応じて上記以外の項目を設定します。

3. [更新] ボタンをクリックします。

接続先の情報（事業所 B）を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。

「相手情報設定」ページが表示されます。

2. [ネットワーク情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

3. [基本情報] で以下の項目を指定します。

- ネットワーク名 → kaisya（接続するネットワークの名称）
- 自動ダイヤル → する

[基本情報] ?	
ネットワーク名	kaisya
データ圧縮	☒ VJ
WAN側IPアドレス	☒ 設定しない ☐ 設定する
	相手IPアドレス 自側IPアドレス
MTUサイズ	1500 バイト
自動ダイヤル ISDN MODEM	☒ する ☐ しない

[NAT 情報] で以下の項目を指定します。

- NAT の使用 → 使用しない

[NAT 情報] ?	
NAT の使用	☒ 使用しない ☐ NAT ☐ マルチNAT

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

4. [接続先一覧] で [追加] ボタンをクリックします。

「このページの情報が変更されています。更新しますか？」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。

「接続先情報設定」ページが表示されます。

5. [基本情報] で以下の項目を指定します。

- 接続先名 → kawasaki
- ダイヤル1（電話番号） → 044-999-9999

[基本情報]	
接続先名	kawasaki
ダイヤル1	電話番号 044-999-9999
	サブアドレス
	相手種別 ISDN

[発信情報] で以下の項目を指定します。

- 送信認証情報（送信認証ID） → プロバイダ A から提示された内容
- 送信認証情報（認証パスワード） → プロバイダ A から提示された内容

[発信情報]	
送信認証情報	送信認証ID tokyo
	認証パスワード ****

[着信情報] で以下の項目を指定します。

- 着信許可 → する
- 受諾認証情報（認証ID） → kawasaki
- 受諾認証情報（認証パスワード） → kawapass

[着信情報]	
着信許可	☒ する ☐ しない
受諾認証情報	認証ID kawasaki
	認証パスワード *****

[発信者番号識別による着信情報] で以下の項目を指定します。

- 発信者番号による識別 → 番号チェックをする

[発信者番号識別による着信情報]	
発信者番号による識別	☐ 番号チェックをしない ☒ 番号チェックをする

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

6. [更新] ボタンをクリックします。

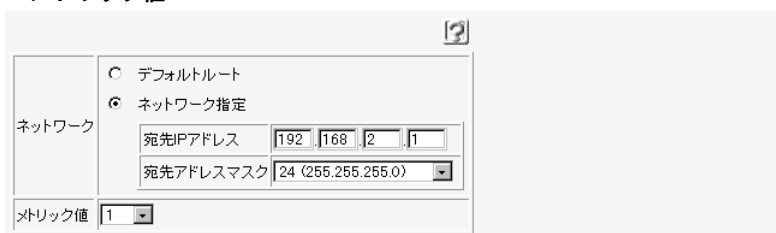
「ネットワーク情報設定」ページに戻ります。

7. [スタティックルーティング情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。

「ルーティング情報設定」ページが表示されます。

8. 以下の項目を指定します。

- ネットワーク → ネットワーク指定
- 宛先 IP アドレス → 192.168.2.1 (接続先となる NetVehicle の IP アドレス)
- 宛先アドレスマスク → 24 (接続先となる NetVehicle のアドレスマスク)
- メトリック値 → 1



The screenshot shows a network configuration window with a help icon (?) in the top right. On the left, there is a tab labeled 'ネットワーク' (Network). The main area has two radio buttons: 'デフォルトルート' (Default Route) and 'ネットワーク指定' (Network Specification), with the latter being selected. Below these, there are three input fields: '宛先IPアドレス' (Destination IP Address) with the value '192.168.2.1', '宛先アドレスマスク' (Destination Address Mask) with a dropdown menu showing '24 (255.255.255.0)', and 'メトリック値' (Metric Value) with a dropdown menu showing '1'.

9. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

事業所 B の NetVehicle を設定する

「事業所 A の NetVehicle を設定する」を参考に、事業所 B の NetVehicle を設定します。その際、特に指定のないものは、東京事業所と同じ設定にします。

回線接続情報（事業所 B）を設定する

[回線情報]

- 回線インタフェース → ISDN

LAN 情報（事業所 B）を設定する

[IP アドレス]

- IP アドレス → 192.168.2.1（NetVehicle の LAN 側の IP アドレス）
- ネットマスク → 24
- ブロードキャストアドレス → ネットワークアドレス + オール 1

[DHCP 機能]

- DHCP サーバ機能 → 使用しない

接続先の情報（事業所 A）を設定する

「ネットワーク情報設定」

[基本情報]

- ネットワーク名 → kaisya（接続するネットワークの名称）
- 自動ダイヤル → する

[NAT 情報]

- NAT の使用 → 使用しない

「接続先情報設定」

[基本情報]

- 接続先名 → tokyo
- ダイヤル 1（電話番号） → 03-7777-7777

[発信情報]

- 送信認証情報（送信認証 ID） → kawasaki
- 送信認証情報（認証パスワード） → kawapass

[着信情報]

- 着信許可 → する
- 受諾認証情報（認証 ID） → tokyo
- 受諾認証情報（認証パスワード） → tokyopass

「ルーティング情報設定」

- ネットワーク → ネットワーク指定
- 宛先 IP アドレス → 192.168.1.1（接続先となる NetVehicle の IP アドレス）
- 宛先アドレスマスク → 24（接続先となる NetVehicle のアドレスマスク）
- メトリック値 → 1



インターネットとLANに同時接続する

ISDNのBチャネルを2つ使うと、インターネットとLANをシームレスに使えます。ここでは、インターネットでWWWを利用しながら会社のLANにも接続する場合を例に説明します。

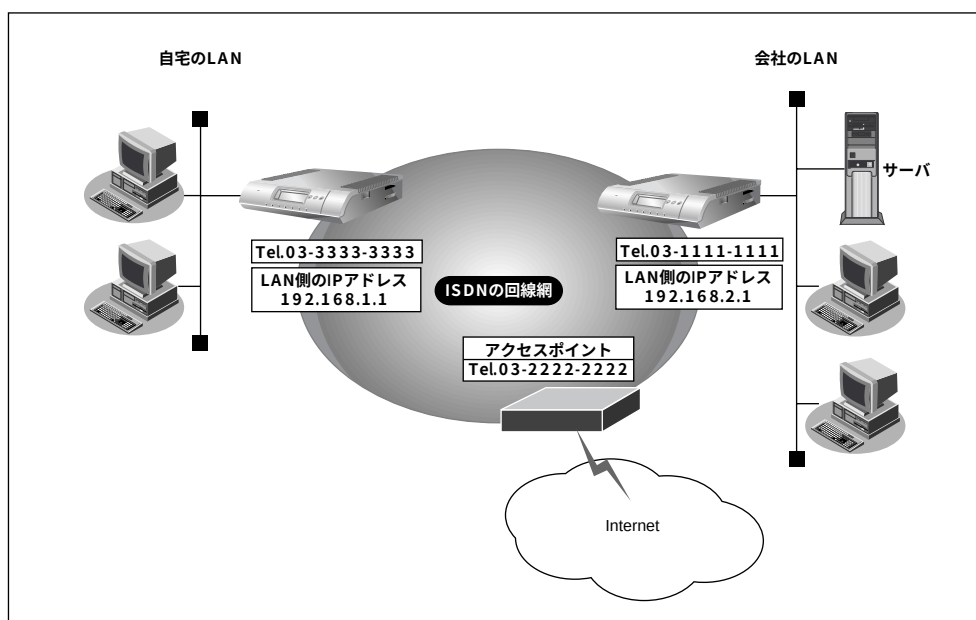


こんな事に気をつけて

設定を行う前に、必ずNetVehicleをご購入時の状態に戻してください。以前の設定が残っていると、設定例の手順で設定できなかったり手順どおり設定しても通信できないことがあります。



■基本編 「ご購入時の状態に戻すには」(P.126)



通信条件

- スモールオフィスで新規にLANを構築する
- 会社にはネットワーク型ダイヤルアップ接続を行う
 - 会社のルータが接続されている電話番号 : 03-1111-1111
 - 送信認証ID / 送信認証パスワード : officeid、officepass
- プロバイダには端末型ダイヤルアップ接続する
 - 接続先の電話番号 : 03-2222-2222
 - DNSサーバ : 192.10.10.10
 - ユーザ認証ID : tokyoid
 - ユーザ認証パスワード : tokyopass



こんな事に気をつけて

文字入力フィールドには半角文字(0～9、A～Z、a～z、および記号)だけを使用してください。ただし、空白文字、「」、「<」、「>」、「&」、「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

かんたん設定でインターネット接続の設定を行う

1. **かんたん設定**でインターネットへの「ISDN 接続」をクリックします。
「かんたん設定（インターネットへISDN 接続）」ページが表示されます。

2. **[必須設定]** で以下の項目を指定します。

- 接続先の電話番号 → 03-2222-2222（プロバイダから提示された内容）
- ユーザ認証ID → tokyoid（プロバイダから提示された内容）
- ユーザ認証パスワード → tokyopass（プロバイダから提示された内容）

[必須設定] ISDN		[?]
接続先の電話番号	03-2222-2222	
ユーザ認証ID	tokyoid	
ユーザ認証パスワード	*****	

[オプション設定] で以下の項目を指定します。

- DNS サーバ → 192.10.10.10（プロバイダから提示されたDNSサーバのIPアドレス）
- 接続ネットワーク名 → internet（接続するネットワークの名称）
- 接続先名 → ISP-A（プロバイダの名称）

DNSサーバ	☐ 自動取得 192 . 10 . 10 . 10
接続先の電話番号2	
接続先の電話番号3	
無通信監視タイマ	60 秒
課金単位時間	0 秒
接続ネットワーク名	internet
接続先名	ISP-A

3. **[設定終了]** ボタンをクリックします。
NetVehicle が再起動されます。

2

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] で[追加] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [基本情報] で以下の項目を指定します。

- ネットワーク名 → kaisya (接続するネットワークの名称)
- 自動ダイヤル → する

基本情報

ネットワーク名

データ圧縮 ☒ VJ

WAN側IPアドレス

☒ 設定しない
☐ 設定する

相手IPアドレス
 自側IPアドレス

MTUサイズ バイト

自動ダイヤル **ISDN MODEM**

☒ する ☐ しない

- [NAT 情報]** で以下の項目を指定します。

- NAT の使用 → 使用しない

[NAT情報]

NATの使用 ☒ 使用しない ☐ NAT ☐ マルチNAT

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

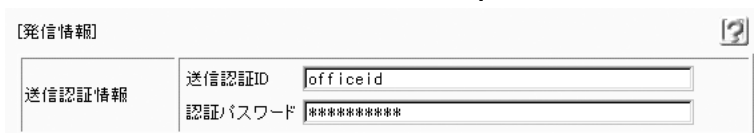
- 4.** [接続先一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「このページの情報が変更されています。更新しますか?」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。

- ## 5. [基本情報] で以下の項目を指定します。
- 接続先名 → office（接続先の名称）
 - ダイヤル1（電話番号） → 03-1111-1111（接続先の電話番号）

【基本情報】	
接続先名	office
ダイヤル1	電話番号 03-1111-1111
	サブアドレス
	相手種別 ISDN

【発信情報】で以下の項目を指定します。

- 送信認証情報（送信認証ID） → officeid
- 送信認証情報（認証パスワード） → officepass



必要に応じて上記以外の項目を設定します。

6. 【更新】ボタンをクリックします。

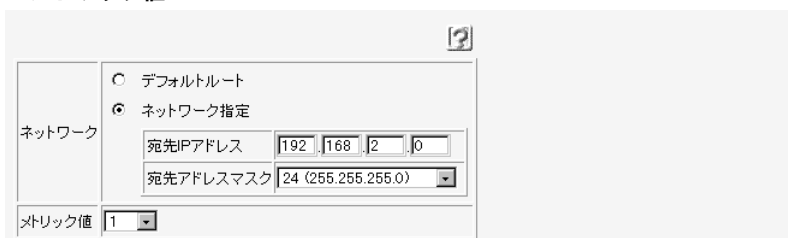
「ネットワーク情報設定」ページに戻ります。

7. 【スタティックルーティング情報一覧】で【追加】ボタンをクリックします。

「ルーティング情報設定」ページが表示されます。

8. 以下の項目を指定します。

- ネットワーク → ネットワーク指定
- 宛先IPアドレス → 192.168.2.0（接続先のネットワークアドレス）
- 宛先ネットマスク → 24（接続先のネットマスク）
- メトリック値 → 1



9. 【更新+設定反映】ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



こんな事に気をつけて

- NetVehicleのIPアドレスを変更した場合、再起動後にNetVehicleにアクセスするためには、URLを変更する必要があります。また、パソコン側の設定変更および再起動を行ってください。
- 会社LAN上のホスト名の名前解決を行う場合は、ProxyDNSの設定が必要です。



ProxyDNSの設定のしかた→「DNSサーバを使いこなす（ProxyDNS）」(P.128)



外部のパソコンと接続する (TA&PHS)

ここでは、ISDN 回線経由で外部から NetVehicle への着信接続と LAN 側から外部のパソコンへの発信接続を許可した接続形態の場合を例に説明します。

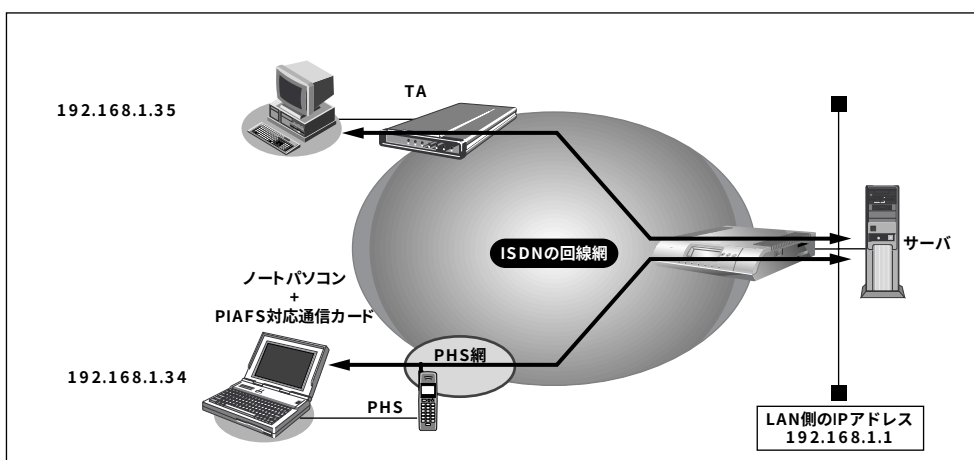


こんな事に気をつけて

設定を行う前に、必ず NetVehicle をご購入時の状態に戻してください。以前の設定が残っていると、設定例の手順で設定できなかったり手順どおり設定しても通信できないことがあります。



■基本編 「ご購入時の状態に戻すには」(P.126)



通信条件

< ノートパソコン + PHS (NTT DoCoMo) >

- 受諾認証 ID : mobileid
- 受諾認証パスワード : mobilepass
- 送信認証 ID : phsid
- 送信認証パスワード : phspass
- 割り当て IP アドレス : 192.168.1.34
- 電話番号 : 070-1234-5678
- PHS 通信速度 : 64 Kbps

< パソコン + TA >

- 受諾認証 ID : sohoid
- 受諾認証パスワード : sohopass
- 送信認証 ID : homeid
- 送信認証パスワード : homepass
- 割り当て IP アドレス : 192.168.1.35
- 電話番号 : 03-1234-5678
- NetVehicle の LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.1.0 / 24



アクセスサーバの設定について (着信接続のみの場合) → 「外部のパソコンから着信接続する (アクセスサーバ機能)」(P.137)

 NetVehicleのLAN側のネットワークと同一のネットワークアドレスを別ネットワークのパソコンに割り当てることによって、Proxy ARPが自動的に動作し、ISDN回線経由で接続されたパソコンがLAN上に存在するように扱えます。



◆ Proxy ARP とは

Ethernet上で通信する場合、相手を識別するためにMACアドレスが使用されます。このとき、IPアドレスとMACアドレスの対応付けを行う手段としてARP（Address Resolution Protocol）が使用されます。

ブロードキャストでARP要求を発行することにより、LAN上で自分のIPアドレスに関連するARP要求であると認識したパソコンは、自分のMACアドレスを送り返します。Proxy ARPとは、パソコンから送られてくるARP要求に対して、実際のパソコンの代わりに応答する機能です。



!! こんな事に気をつけて

文字入力フィールドには半角英数文字のみを使用してください。ただし、空白文字、「|」、「<」、「>」、「&」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

.....

回線情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「回線情報」をクリックします。
「回線情報設定」ページが表示されます。

2. [回線情報] で以下の項目を指定します。

- 回線インタフェース → ISDN



画面には「[回線情報]」というタブがあり、その下に「回線インタフェース」というラベルがあります。その右側には3つのラジオボタンがあり、それぞれ「ISDN」、「HSD(64Kbps)」、「HSD(128Kbps)」と表示されています。現在、「ISDN」が選択されています。

3. [更新] ボタンをクリックします。

接続先（ノートパソコン+ PHS）情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。

2. [ネットワーク情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

3. [基本情報] で以下の項目を指定します。

- ネットワーク名 → outside (接続するネットワークの名称)
- WAN 側 IP アドレス → 設定する
- 相手 IP アドレス → 192.168.1.34
- 自側 IP アドレス → 192.168.1.1
- 自動ダイヤル → する

[基本情報]	
ネットワーク名	outside
データ圧縮	☒ VJ
WAN側IPアドレス	☐ 設定しない ☒ 設定する
	相手IPアドレス 192 . 168 . 1 . 34 自側IPアドレス 192 . 168 . 1 . 1
MTUサイズ	1500 バイト
自動ダイヤル ISDN MODEM	☒ する ☐ しない

[NAT 情報] で以下の項目を指定します。

- NAT の使用 → 使用しない

[NAT 情報]	
NAT の使用	☒ 使用しない ☐ NAT ☐ マルチNAT

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

4. [接続先一覧] で [追加] ボタンをクリックします。

「このページの情報が変更されています。更新しますか？」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。

「接続先情報設定」ページが表示されます。

5. [基本情報] で以下の項目を指定します。

- 接続先名 → PHS (接続先の名称)
- 電話番号 → 070-1234-5678
- 相手種別 → 64kPIAFS (NTT DoCoMo 方式)

[基本情報]	
接続先名	PHS
ダイヤル1	電話番号 070-1234-5678
	サブアドレス
	相手種別 64kPIAFS(NTT DoCoMo 方式)

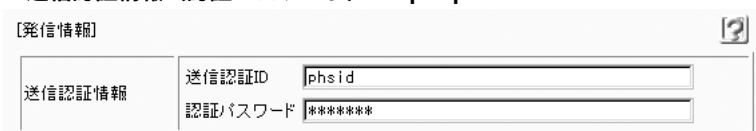


こんな事に気をつけて

PIAFS 64Kbpsを使用する場合、発信側からサブアドレスを発信しても通知されないため、着信時の接続先情報でサブアドレスを指定しても無効となります。

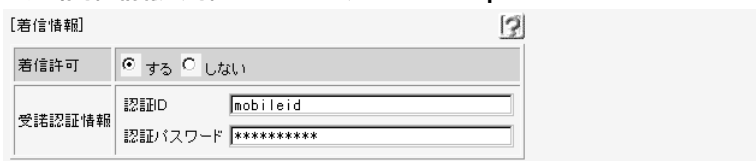
[発信情報] で以下の項目を指定します。

- 送信認証情報（送信認証 ID） → phsid
- 送信認証情報（認証パスワード） → phspass



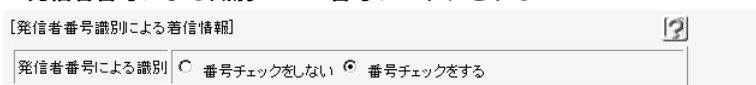
[着信情報] で以下の項目を指定します。

- 着信許可 → する
- 受諾認証情報（認証 ID） → mobileid
- 受諾認証情報（認証パスワード） → mobilepass



[発信者番号識別による着信情報] で以下の項目を指定します。

- 発信者番号による識別 → 番号チェックをする



必要に応じて上記以外の項目を設定します。

6. [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページに戻ります。

接続先（パソコン+ TA）情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [基本情報] で以下の項目を指定します。
 - ネットワーク名 → home（接続するネットワークの名称）
 - WAN 側 IP アドレス → 設定する
 - 相手 IP アドレス → 192.168.1.35
 - 自側 IP アドレス → 192.168.1.1
 - 自動ダイヤル → する

[NAT 情報] で以下の項目を指定します。

- NAT の使用 → 使用しない

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

- 4.** [接続先一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「このページの情報が変更されています。更新しますか？」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。

- 5.** [基本情報] で以下の項目を指定します。

- 接続先名 → TA (接続先の名称)
- 電話番号 → 03-1234-5678
- 相手種別 → ISDN

[発信情報] で以下の項目を指定します。

- 送信認証情報 (認証ID) → homeid
- 送信認証情報 (認証パスワード) → homepass

[着信情報] で以下の項目を指定します。

- 着信許可 → する
- 受諾認証情報 (認証ID) → sohoid
- 受諾認証情報 (認証パスワード) → sohopass

[発信者番号による着信識別] で以下の項目を指定します。

- 発信者番号による識別 → 番号チェックをする

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

- 6.** [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



事業所 LAN どうしを専用線で接続する

ここでは、高速デジタル専用線（DA128）を介して2つの事業所（本社、支店）のネットワークを接続する場合を例に説明します。

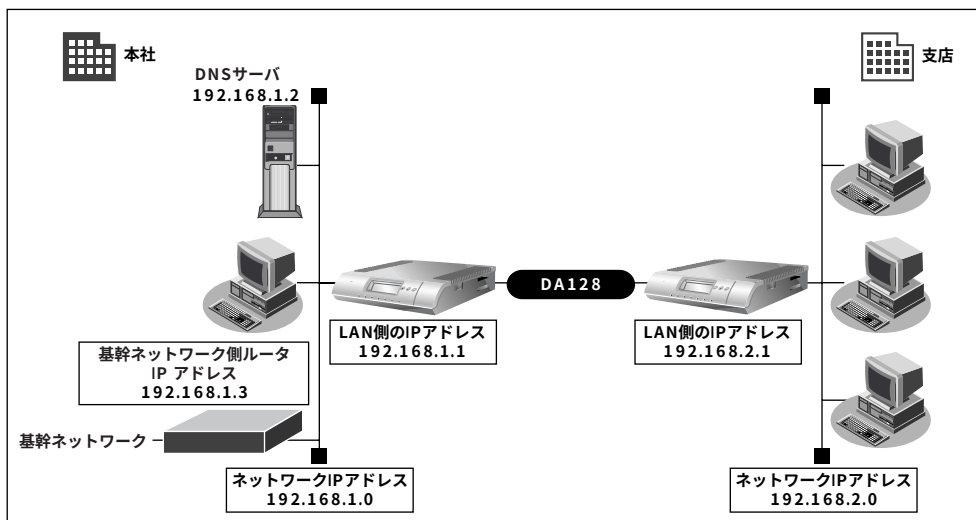


こんな事に気をつけて

設定を行う前に、必ず NetVehicle をご購入時の状態に戻してください。以前の設定が残っていると、設定例の手順で設定できなかったり手順どおり設定しても通信できないことがあります。



■基本編 「ご購入時の状態に戻すには」(P.126)



通信条件

[本社]

- 専用線（128Kbps）を使用する
- DHCP サーバ機能は使用しない
- アドレス変換機能は使用しない
- DNS サーバ : 192.168.1.2
- LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.1.0/24
- NetVehicle の IP アドレス : 192.168.1.1
- 基幹ネットワーク側ルータ IP アドレス : 192.168.1.3

[支店]

- LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.2.0/24
- NetVehicle の IP アドレス : 192.168.2.1



この例では、本社に DNS サーバが存在し IP アドレスを固定にする必要があるため、本社側では DHCP サーバ機能は使用しない条件にしました。



こんな事に気をつけて

文字入力フィールドには半角文字（0～9、A～Z、a～z、および記号）だけを使用してください。ただし、空白文字、「」、「<」、「>」、「&」、「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

■ 本社の NetVehicle を設定する

回線情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「回線情報」をクリックします。
「回線情報設定」ページが表示されます。

2. [回線情報] で以下の項目を指定します。

- 回線インタフェース → HSD (128Kbps)



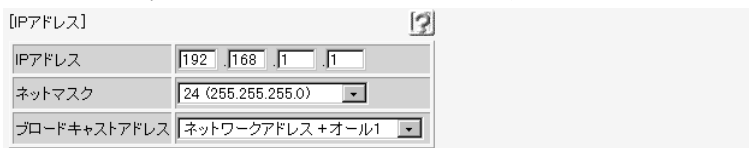
3. [更新] ボタンをクリックします。

LAN 情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「LAN 情報」をクリックします。
「LAN 情報設定」ページが表示されます。

2. [IP アドレス] で以下の項目を指定します。

- IP アドレス → 192.168.1.1 (NetVehicle の LAN 側の IP アドレス)
- ネットマスク → 24
- ブロードキャストアドレス → ネットワークアドレス + オール 1



[DHCP 機能] で以下の項目を指定します。

- DHCP サーバ機能 → 使用しない



必要に応じて上記以外の項目を設定します。

3. [スタティックルーティング情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「ルーティング情報設定」ページが表示されます。

4. 以下の項目を指定します。

- ネットワーク → デフォルトルート
- 中継ルータアドレス → 192.168.1.3 (基幹ネットワーク側 IP アドレス)
- メトリック値 → 1

ネットワーク

☒ デフォルトルート

中継ルータアドレス 192.168.1.3

☐ ネットワーク指定

宛先IPアドレス

宛先アドレスマスク 0 (0.0.0.0)

中継ルータアドレス

メトリック値 1

5. [更新] ボタンをクリックします。

接続先の情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。

2. [ネットワーク情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

3. [基本情報] で以下の項目を指定します。
 - ネットワーク名 → Siten1 (接続するネットワークの名称)

[基本情報]

ネットワーク名 Siten1

[NAT 情報] で以下の項目を指定します。

- NAT の使用 → 使用しない

[NAT 情報]

NAT の使用 ☒ 使用しない ☐ NAT ☐ マルチNAT

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

4. [スタティックルーティング情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「このページの情報が変更されています。更新しますか?」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
「ルーティング情報設定」ページが表示されます。

5. 以下の項目を指定します。

- ネットワーク → ネットワーク指定
- 宛先 IP アドレス → 192.168.2.1 (接続先の IP アドレス)
- 宛先アドレスマスク → 24 (接続先のアドレスマスク)
- メトリック値 → 1

6. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

支店の NetVehicle を設定する

「かんたん設定 (インターネットへ専用線接続)」で設定する

[必須設定]

- NetVehicle の IP アドレス → 192.168.2.1 (NetVehicle の LAN 側の IP アドレス)
- NetVehicle のネットマスク → 24
- 使用する回線速度 → 128Kbps
- DNS サーバ → 192.168.1.2

[オプション設定]

- 接続ネットワーク名 → kaisya (接続するネットワークの名称)
- アドレス変換 → 使用しない



「かんたん設定 (インターネットへ専用線接続)」の省略値ではデフォルトルートを設定します。また、「かんたん設定 (オフィスへ専用線接続)」の省略値では相手ルータの IP アドレスとネットマスクを元にスタティックルートを設定します。この設定例では本社のネットワーク内に基幹ネットワークにつながるルータが存在します。このため本社側への経路をデフォルトルートとする必要があります。それでここでは「かんたん設定 (インターネットへ専用線接続)」を使用しています。ただし、この場合 DHCP サーバが動作するので、DHCP サーバ機能を使用しない場合は「詳細設定」で設定を変更してください。本社のネットワークに基幹ネットワークにつながるルータが存在しない場合は、「かんたん設定 (オフィスへ専用線接続する)」で設定できます。



- 基本編 「かんたん設定 (インターネットへ専用線接続)」の省略値について (P.84)、
- 基本編 「かんたん設定 (オフィスへ専用線接続)」の省略値について (P.96)



OCN エコノミーと接続する

ここでは、OCN エコノミーと接続する際に、LAN 側に接続されたパソコンの台数が割り当てられた IP アドレスより多い場合を例に説明します。パソコンの台数が割り当て IP アドレス以下の場合については、基本編の「かんたん設定」で設定する（インターネットへ専用線接続のとき）（P.81）を参照してください。

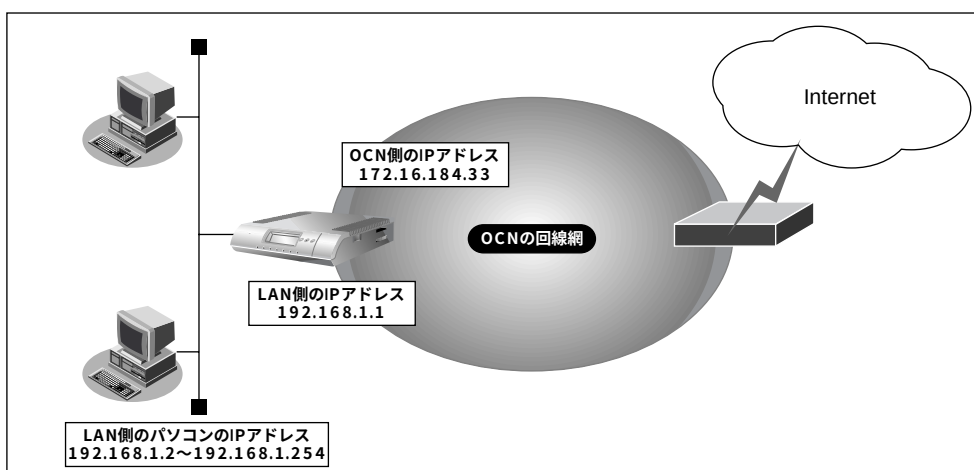


こんな事に気をつけて

設定を行う前に、必ず NetVehicle をご購入時の状態に戻してください。以前の設定が残っていると、設定例の手順で設定できなかったり手順どおり設定しても通信できないことがあります。



■基本編 「ご購入時の状態に戻すには」（P.126）



通信条件

- ネットワークアドレス : 172.16.184.32/29
- NetVehicle の IP アドレス : 172.16.184.33
- OCN エコノミー（専用線：128Kbps）を使用する
- OCN 側の DNS サーバを使用する : 192.10.10.10
- OCN より提示されたドメイン名 : domain.ocn.ne.jp
- 接続されたパソコンの台数が割り当てられた IP アドレス（5+1）よりも多い（253+1）
- 割り当て IP アドレス
 - ネットワークアドレス : 172.16.184.32
 - ホストアドレス : 172.16.184.33 ~ 172.16.184.38
 - ブロードキャストアドレス : 172.16.184.39
- プライベートアドレスで LAN を構築する
 - LAN 側のネットワークアドレス : 192.168.1.0/24
 - LAN 側の NetVehicle の IP アドレス : 192.168.1.1
 - LAN 側のパソコンの IP アドレス : 192.168.1.2 ~ 192.168.1.254



こんな事に気をつけて

文字入力フィールドには半角文字（0～9、A～Z、a～z、および記号）だけを使用してください。ただし、空白文字、「」、「<」、「>」、「&」、「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

1. かんたん設定でインターネットへの「専用線接続」をクリックします。
「かんたん設定（インターネットへ専用線接続）」ページが表示されます。

2. [必須設定] で以下の項目を指定します。

- NetVehicleのIPアドレス → 192.168.1.1
- ネットマスク → 24
- 使用する回線速度 → 128Kbps
- DNSサーバ → 192.10.10.10（OCNより提示された内容）

[必須設定] 

NetVehicleのIPアドレス	192 . 168 . 1 . 1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
使用する回線速度	☐ 64Kbps ☒ 128Kbps
DNSサーバ	192 . 10 . 10 . 10

- [オプション設定] で以下の項目を指定します。

- 接続ネットワーク名 → 接続するネットワークの名称
- ドメイン名 → domain.ocn.ne.jp（OCNより提示されたドメイン名）
- アドレス変換 → マルチNAT
- アドレス変換（グローバルアドレス） → 172.16.184.34（アドレス変換でパソコンに割り当てる連続したIPアドレスの先頭）
- アドレス変換（アドレス個数） → 5（連続したグローバルアドレスの個数）

 この例ではOCNより割り当てられるIPアドレスは8個です。そのうちネットワークアドレス（1個）、ブロードキャストアドレス（1個）、NetVehicleのIPアドレス（1個）を除いた5個がパソコンに割り当てることができるIPアドレスとなります。

[オプション設定] 

接続ネットワーク名	internet
ドメイン名	domain.ocn.ne.jp
アドレス変換	☐ 使用しない
	☒ マルチNAT
	グローバルアドレス 172 . 16 . 184 . 34 アドレス個数 5 個

3. [設定終了] ボタンをクリックします。
再起動後に、通信できる状態になります。

アドレス変換情報を設定する

 OCNサポートからNetVehicleに向かってPINGのテストを行う場合があるため、NetVehicleにはグローバルアドレスを割り当てておく必要があります。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] でかんたん設定で設定したネットワーク名の欄の[修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. 「静的 NAT 情報一覧」で[追加] ボタンをクリックします。
「静的 NAT 情報設定」ページが表示されます。
4. 以下の項目を指定します。
 - プライベート IP 情報 (IP アドレス) → 192.168.1.1
 - プライベート IP 情報 (ポート番号) → すべて
 - グローバル IP 情報 (IP アドレス) → 172.16.184.33
 - グローバル IP 情報 (ポート番号) → すべて

 こんな事に気をつけて

- NetVehicle の IP アドレスを変更した場合、再起動後に NetVehicle にアクセスするためには、パソコンの再起動および URL を変更する必要があります。
- 動的 NAT と静的 NAT が混在する場合、動的 NAT で使用する IP アドレスと静的 NAT で使用する IP アドレスは重複しないようにしてください。

.....

プライベートIP情報	IPアドレス	192.168.1.1
	ポート番号	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)
グローバルIP情報	IPアドレス	172.16.184.33
	ポート番号	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)

5. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

 こんな事に気をつけて

ネットワーク型接続でマルチ NAT を使用する際には、グローバルアドレスの設定が必須となります。なお、端末型接続では、接続時にグローバルアドレスが割り当てられるため、設定は不要です。

.....

ログインパスワードを設定する



こんな事に気をつけて

OCN エコノミーを使用する場合、NetVehicle にグローバル IP アドレスを割り振られ telnet など接続が可能となるため、ログインパスワードを設定してアクセスを制限しなくてはなりません。

2

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「パスワード情報」をクリックします。
「パスワード情報設定」ページが表示されます。

2. 以下の項目を指定します。

- 新しいログインパスワード → himitu
- ログインパスワードの確認 → himitu

新しいログインパスワード	*****	
ログインパスワードの確認	*****	

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



NetVehicle の便利な 機能を活用する

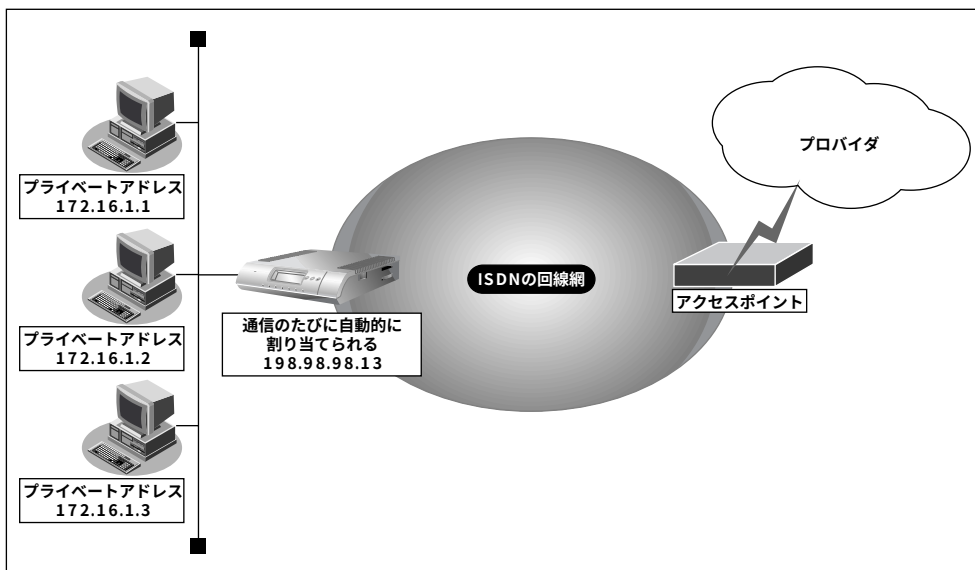
この章では、
NetVehicle の便利な機能の活用方法について説明します。

マルチ NAT 機能（アドレス変換機能）を使う	100
NAT 機能の選択基準	102
端末型接続でインターネットゲームをする	103
ネットワーク型接続でサーバを公開する	105
IP フィルタリング機能を使う	108
接続形態に応じたセキュリティ方針を決める	109
IP フィルタリングの条件	109
外部の特定サービスへのアクセスのみ許可する	112
外部から特定サーバへのアクセスのみ許可する	115
利用者が意図しない発信を防ぐ	119
特定アドレスへのアクセスを禁止する	121
回線が接続している時だけ許可する	122
マルチルーティングを利用する	124
パソコンごとに別々のプロバイダを利用する（ソースアドレスルーティング機能） ..	124
目的ごとに別々のプロバイダに接続する（ポートルーティング機能） ..	124
課金単位でプロバイダを切り替える	126
DNS サーバを使いこなす（ProxyDNS）	128
DNS サーバの自動切り替え機能	128
DNS サーバアドレスの自動取得機能	131
DNS 問い合わせタイプフィルタ機能	132
DNS サーバ機能	133
DHCP サーバ機能を使う	134
DHCP サーバ機能を使う	135
DHCP スタティック機能を使う	136
外部のパソコンから着信接続する（アクセスサーバ機能）	137
認証 ID による接続相手の識別	141
外出先や自宅から会社のパソコンを起動させる（リモートパワーオン機能） ..	144
コールバック機能を利用する	146
CBCP 方式でコールバック要求する	147
CBCP 方式でコールバック応答する	149
無課金コールバックでコールバック要求する	151
無課金コールバックでコールバック応答する	152
マルチ TA 機能を使う	154
モデムを使ってアナログ回線と通信する	165
特定の URL へのアクセスを禁止する（URL フィルタ機能）	169
通信料金を節約する（課金制御機能）	171
E メールエージェント機能を使う	174
メールチェック機能	175
リモートメールチェック機能	177
メール転送機能	179
メール一覧送信機能	181
TEL メール機能	183
メール着信通知機能	186
スケジュール機能を使う	187
プザー機能を使う	189
操作パネルの動作を設定する	190
留守モードの動作を設定する	192



マルチNAT機能（アドレス変換機能）を使う

NetVehicle はアドレス変換機能（NAT 機能）をサポートしています。NAT 機能は LAN 内に接続された複数台のパソコンで使用するプライベートアドレスを NetVehicle に割り当てたグローバルアドレスに変換する機能です。NAT 機能を使用すると限られた数のグローバルアドレスでそれ以上の数のパソコンを接続できます。例えば、端末型接続でプロバイダからもらえる 1 台分のグローバルアドレスを使って、複数台のパソコンからインターネットに接続できます。また、LAN 内に接続されたパソコンのプライベートアドレスは外部からわからないため、外部からの不正なアクセスを遮断できます。



- 補足** ・プライベートアドレスとグローバルアドレスについて
- プライベートアドレスとは、ユーザが自由に割り当てることができる IP アドレスです。
- グローバルアドレスとは、インターネット上のホストを識別するために、InterNIC などのアドレス管理機構から割り当てられる世界で唯一の IP アドレスです。プロバイダ接続の場合はプロバイダからもらえます。
- ・LAN どうしを接続する場合（事業所間など）、両方プライベートアドレスとなることがあります。
- NetVehicle では便宜上、WAN 側のアドレスをグローバルアドレス、LAN 側のアドレスをプライベートアドレスといいます。
- ・「端末型接続」と「ネットワーク型接続」はインターネットに接続する際の IP アドレスの割り当て方が異なります。
- 端末型接続は、アクセスポイントに接続するごとにグローバルアドレスがプロバイダから動的に割り当てられます。
- ネットワーク型接続は、LAN を単位として接続する形態で、あらかじめプロバイダからグローバルアドレスが割り当てられます。プロバイダ接続の場合は契約時の申し込み台数に応じてグローバルアドレスが割り当てられます。

NAT 機能を使うと、すでに LAN を構築している場合も、プライベートアドレスを変更することなくインターネットに接続できるようになります。しかし、同時に接続できる台数は、割り当てられたグローバルアドレスの個数に限られます。これを解決するために、マルチ NAT 機能があります。マルチ NAT 機能を使うと、ポート番号を使って、割り当てられたグローバルアドレスの個数以上のパソコンを接続できます。

マルチ NAT 機能とは、以下の 2 つの機能で構成されます。

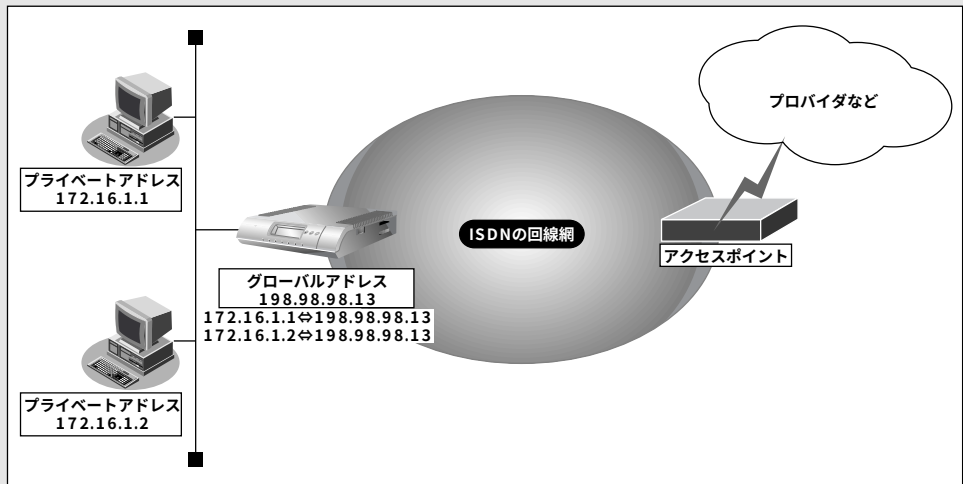
- 動的 NAT
- 静的 NAT

補足 カタログ等で説明するマルチ NAT 機能は基本 NAT、動的 NAT、静的 NAT の総称です。



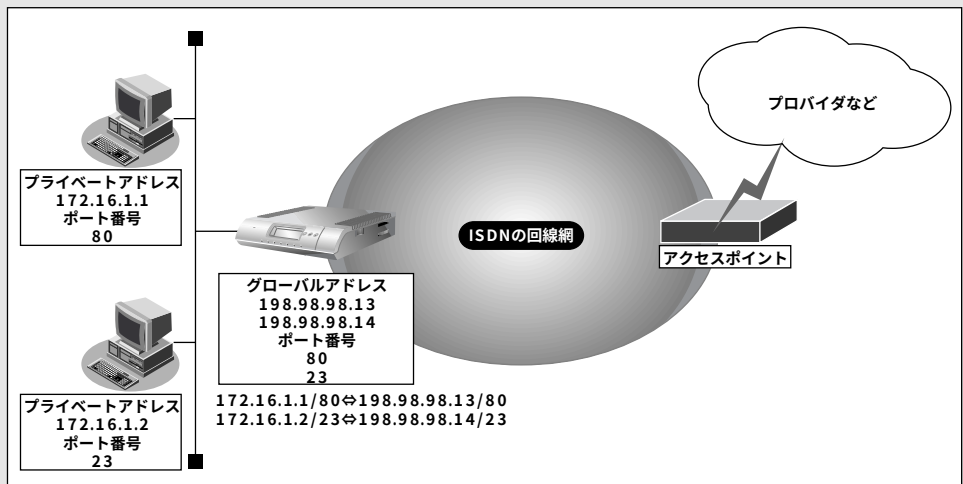
◆動的 NAT とは

基本 NAT 機能は、プライベートアドレスとグローバルアドレスを 1 対 1 に対応づけます。インターネットに同時に接続できるパソコンの台数はプロバイダと契約したグローバルアドレスの個数です。「動的 NAT」を使えば、使用可能なグローバルアドレスの個数以上のパソコンが同時に接続できます。



◆静的 NAT とは

基本 NAT 機能は、通信発生のたびに空いているグローバルアドレスを割り当てます。そのため、LAN 上の Web サーバを公開するような場合には適していません。「静的 NAT」を使えば、特定のパソコンやアプリケーションに同じ IP アドレス、ポート番号を割り当てるので、この問題が解決できます。



NAT 機能の選択基準

ネットワーク環境および使用目的によって、適切な NAT 機能を設定する必要があります。選択基準を以下に示します。

NAT 機能が必要な場合

- 端末型ダイヤルアップ接続する場合
- プロバイダから割り当てられたグローバルアドレスより多くのパソコン（端末）を接続する場合（ここでいう端末には NetVehicle も含まれます）
- 既存のネットワークのアドレスをそのまま使用したい場合
- 自側のネットワークのアドレスを隠したい場合

●基本 NAT で十分な場合

- 端末型ダイヤルアップ接続で、同時に接続するパソコン台数が 1 台の場合
- ネットワーク型接続で、同時に接続するパソコン台数がグローバルアドレス数以下の場合

●動的 NAT が必要な場合

- 端末型ダイヤルアップ接続で、同時に複数のパソコンから接続する場合
- 同時に接続するパソコンの台数がグローバルアドレス数を超える場合

●静的 NAT が必要な場合

- 外部にサービスを公開したい場合（WWW サーバ、FTP サーバなど）
- IP アドレスを意識して動作するアプリケーションを使用する場合

IP アドレスを意識して動作するアプリケーションの一つとしてインターネットゲームがあります。インターネットゲームはそれぞれ独自のデータ形式を持ち、データ中に IP アドレスを含むものがあります。アドレス変換をする場合には、データ中の IP アドレスも意識しなくてはならないため、インターネットゲームごとの個別対応が必要となります。

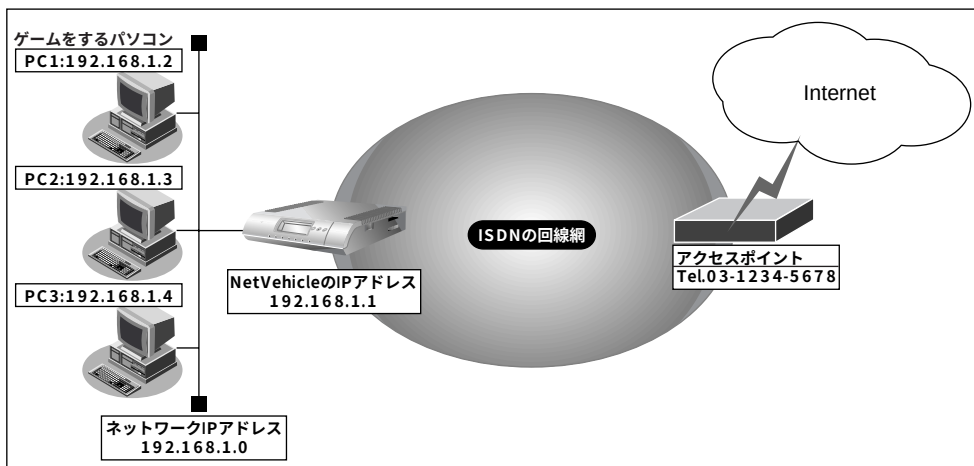
NetVehicle では、すべてのインターネットゲームに個別対応しているわけではありません。対応しているものは、特別な設定をせずに動作が可能となります。また、未対応のものでも、静的 NAT 機能を利用することで動作が可能になるものがあります。

〈補足〉・インターネットゲームを行う場合、マルチ NAT を設定しても同時接続台数は 1 台になる場合があります。

・対応確認済みのゲームやその他のアプリケーションについては、NetVehicle のサポートページを参照してください。

■ 端末型接続でインターネットゲームをする

ここでは、個別対応していないインターネットゲームをするために、静的 NAT 機能を使用する例を説明します。



通信条件

- ISDN に接続する
- 端末型ダイヤルアップ接続を行う
- 既存の LAN を使用する
- ゲームをするパソコンの IP アドレス : 192.168.1.2
- 接続先の電話番号 : 03-1234-5678
- ユーザ認証 ID : userid
- ユーザ認証パスワード : userpass
- ネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.1.0/24
- ブロードキャストアドレス : 192.168.1.255

!! こんな事に気をつけて

- 文字入力フィールドには半角文字 (0 ~ 9、A ~ Z、a ~ z、および記号) だけを使用してください。ただし、空白文字、「」、「<」、「>」、「&」、「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。
- データの中に IP アドレスを含むゲームはこの方法でもご利用になれません。

● (補足) ・ この設定例の方法でゲームを行えるのは 1 台のパソコンだけです。

・ 対応確認済みのゲームについては、NetVehicle のサポートページを参照してください。

かんたん設定でダイヤルアップ接続の情報を設定する

1. **かんたん設定**でインターネットへの「ISDN 接続」をクリックします。
「かんたん設定（インターネットへISDN 接続）」ページが表示されます。
2. **[必須設定]** で以下の項目を指定します。
 - 接続先の電話番号 → 03-1234-5678（プロバイダから提示された内容）
 - ユーザ認証ID → userid（プロバイダから提示された内容）
 - ユーザ認証パスワード → userpass（プロバイダから提示された内容）

【必須設定】 **ISDN** 

接続先の電話番号	03-1234-5678
ユーザ認証ID	userid
ユーザ認証パスワード	*****

3. **[設定終了]** ボタンをクリックします。
NetVehicle が再起動されます。

ルータ設定でアドレス変換情報を設定する

1. **詳細設定メニュー**のルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. **[ネットワーク情報一覧]** でかんたん設定で登録したネットワーク情報の欄の**[修正]** ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. **[静的 NAT 情報一覧]** で**[追加]** ボタンをクリックします。
「静的 NAT 情報設定」ページが表示されます。
4. 以下の項目を指定します。
 - プライベート IP 情報（IP アドレス） → 192.168.1.2
 - プライベート IP 情報（ポート番号） → すべて
 - グローバル IP 情報（IP アドレス） → なにも設定しない
 - グローバル IP 情報（ポート番号） → すべて
 - プロトコル → すべて

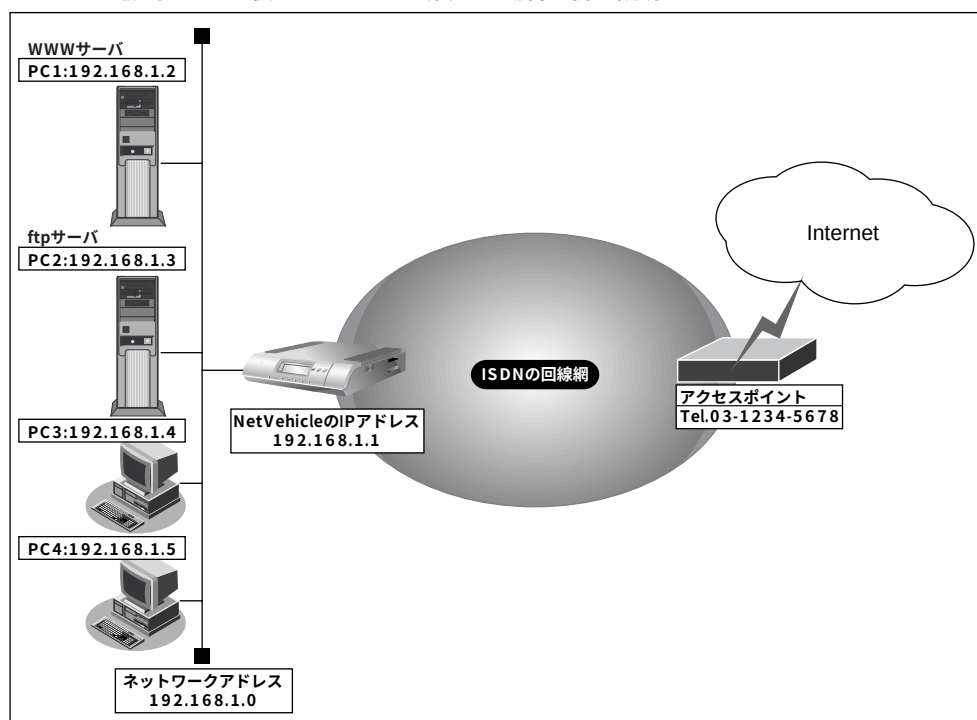


プライベートIP情報	IPアドレス	192.168.1.2
	ポート番号	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)
グローバルIP情報	IPアドレス	
	ポート番号	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)
プロトコル	すべて (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)	

5. **[更新+設定反映]** ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

■ ネットワーク型接続でサーバを公開する

ここでは、静的 NAT を使ってサーバを公開する場合を例に説明します。



通信条件

- ISDN に接続する
- ネットワーク型接続を行う
- 既存の LAN を使用する
- 割り当てネットワークアドレス : 10.10.10.96/29
- www、ftp に割り当てる IP アドレス : 10.10.10.100
- 接続先の電話番号 : 03-1234-5678
- ユーザ認証 ID : userid
- ユーザ認証パスワード : userpass
- ネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.1.0/24
- ブロードキャストアドレス : 192.168.1.255



こんな事に気をつけて

文字入力フィールドには半角文字 (0～9、A～Z、a～z、および記号) だけを使用してください。ただし、空白文字、「」、「<」、「>」、「&」、「%」は入力しないでください。入力した場合、ブラウザでの設定が不可能となります。

かんたん設定でダイヤルアップ接続の情報を設定する

1. **かんたん設定**でインターネットへの「ISDN 接続」をクリックします。
「かんたん設定（インターネットへISDN 接続）」ページが表示されます。
2. **[必須設定]** で以下の項目を指定します。
 - 接続先の電話番号 → 03-1234-5678（プロバイダから提示された内容）
 - ユーザ認証ID → userid（プロバイダから提示された内容）
 - ユーザ認証パスワード → userpass（プロバイダから提示された内容）

[必須設定] **ISDN** 

接続先の電話番号	03-1234-5678
ユーザ認証ID	userid
ユーザ認証パスワード	*****

3. **[設定終了]** ボタンをクリックします。
NetVehicle が再起動されます。

ルータ設定でアドレス変換情報を設定する

1. **詳細設定メニュー**のルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. **[ネットワーク情報一覧]** でかんたん設定で登録したネットワーク情報の欄の **[修正]** ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. **[NAT 情報]** で以下の項目を設定します。
 - NAT の使用 → マルチ NAT
 - グローバルアドレス → 10.10.10.100
 - アドレス個数 → 3
 - NAT セキュリティ → 高い

 **NAT セキュリティ**で「高い」を選択した場合、ftp や DNS が要求した相手からの応答かどうかをチェックします。相手サーバがNATを使用している場合など、要求先とは別のアドレスから応答する場合には、「通常」を選択してください。

 **こんな事に気をつけて**

ネットワーク型接続でマルチ NATを使用する際には、グローバルアドレスの設定が必須となります。なお、端末型接続では、接続時にグローバルアドレスが割り当てられるため、設定は不要です。

.....

[NAT 情報] 

NAT の使用	☐ 使用しない ☐ NAT ☒ マルチ NAT
グローバルアドレス	10 . 10 . 10 . 100
アドレス個数	3 個
アドレス 割当て タイム	5 分
NAT セキュリティ	☐ 通常 ☒ 高い

4. [静的 NAT 情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。

「このページの情報は変更されています。更新しますか？」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。

「静的 NAT 情報設定」ページが表示されます。

5. 以下の項目を指定します。

- プライベート IP 情報 (IP アドレス) → 192.168.1.2
- プライベート IP 情報 (ポート番号) → www
- グローバル IP 情報 (IP アドレス) → 10.10.10.98
- グローバル IP 情報 (ポート番号) → www

!! こんな事に気をつけて

動的 NAT と静的 NAT が混在する場合、動的 NAT で使用する IP アドレスと静的 NAT で使用する IP アドレスは重複しないようにしてください。

6. [更新] ボタンをクリックします。

「ネットワーク情報設定」ページに戻ります。

7. 上記の手順 4. ～ 5. を参考に、以下の情報を設定します。

- プライベート IP 情報 (IP アドレス) → 192.168.1.3
- プライベート IP 情報 (ポート番号) → ftp
- グローバル IP 情報 (IP アドレス) → 10.10.10.99
- グローバル IP 情報 (ポート番号) → ftp

8. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



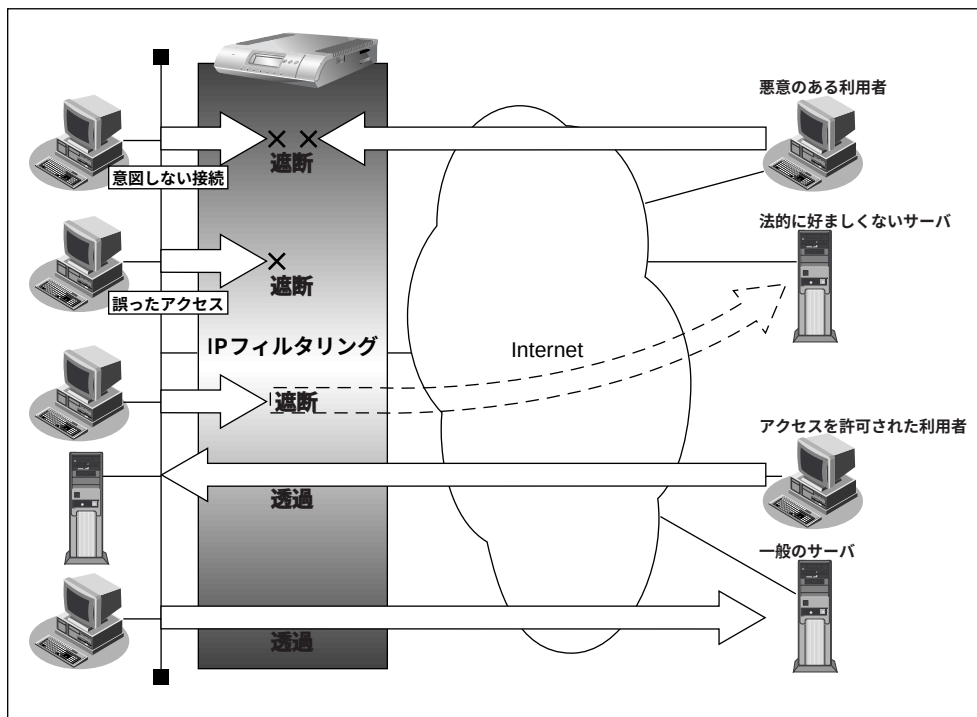
◆同時に接続できる台数

機能	同時接続台数およびセッション数	備考
基本NAT機能	グローバルIPアドレス数 セッション数制限なし	割り当て時間内は外部からの通信も可能
動的NAT機能	接続台数制限なし 最大256セッションまで	外部からの通信は不可能
静的NAT機能	最大32個まで割り当て可能 +動的NAT	プライベートアドレスとポートをグローバルアドレスとポートに割り当てできる 割り当てたアドレスとポートに関しては外部からの通信も可能



IP フィルタリング機能を使う

NetVehicleを経由してインターネットに送出される、またはインターネットから受信したパケットをIPアドレスとポート番号の組み合わせで制御することにより、ネットワークのセキュリティを向上させたり、回線への異常課金を防止することができます。



ネットワークのセキュリティを向上させるには、次の要素について考える必要があります。

- ネットワークのセキュリティ方針
- ルータ以外の要素（ファイアウォール、ユーザ認証など）

NetVehicleは、パスワードを設定したり「IP フィルタリング機能」などを使って、ネットワークのセキュリティを向上させることができます。



こんな事に気をつけて

- ProxyDNS を設定している場合、IP フィルタを設定しても効果はありません。
- NetVehicleなどのルータでは、コンピュータウィルスの感染を防ぐことはできません。パソコン側でウィルス対策ソフトを使うなど、別の手段が必要です。



補足 NAT 機能にも、セキュリティを向上させる効果があります。



参照 NAT 機能を使う→「マルチ NAT 機能（アドレス変換機能）を使う」（P.100）

接続形態に応じたセキュリティ方針を決める

インターネットに接続する場合でも LAN どうしを接続する場合でも、データの流れるには「外部から内部へ」、「内部から外部へ」という 2 つの方向があります。セキュリティを決める場合は、2 つの方向について考慮する必要があります。

●「外部から内部へ」流れるデータに対するセキュリティ方針の例

- インターネット（ネットワーク型接続）の場合
特定の packets を受け取らないようにする
- インターネット（専用線接続）の場合
非公開ホストへのアクセスを拒否する
- LAN どうしを接続する（ISDN 回線を使用）場合
アクセスポイント電話番号が外部に知られたときの対策を立てておく
- LAN どうしを接続する（専用線を使用）場合
内部ユーザによる不要なアクセスを防ぐ

●「内部から外部へ」流れるデータに対するセキュリティ方針の例

- インターネットの場合
法的に問題のあるサイトなどへのアクセスを制限する
- LAN どうしを接続する場合
内部ユーザによる不要なアクセスを防ぐ

〔補足〕 IP フィルタリング機能は「外部から内部へ」流れるデータと「内部から外部へ」流れるデータに対し機能します。内部にあるパソコン間のデータ（LAN 内のデータ）に対しては機能しません。

IP フィルタリングの条件

NetVehicle では、以下の条件を指定することで、データの流れを制限できます。

- 動作
- プロトコル
- 送信元情報（IP アドレス／アドレスマスク／ポート番号）
- 宛先情報（IP アドレス／アドレスマスク／ポート番号）
- TCP 接続要求

動作	遮断	NetVehicle を介した通信が不可能
	透過	NetVehicle を介した通信が可能
	透過（接続中）	NetVehicle を介した通信が回線が接続されている時だけ可能
プロトコル	すべて	IP 通信はすべて対象
	UDP	UDP 通信のみ対象
	TCP	TCP 通信のみ対象
	ICMP	ICMP 通信（PING コマンド）のみ対象
	その他	上記以外の指定
送信元情報	IP アドレス	対象となる IP アドレス
宛先情報 （項目共通）	アドレスマスク	論理積を算出するのに利用
	ポート番号	対象となるポート番号
TCP 接続要求	対象	すべて対象
	対象外	TCP コネクション確立パケットのみ対象外



◆ TCP 接続要求とは

TCPプロトコルでのコネクション確立要求をフィルタリングの対象にするかどうかを指定するものです。フィルタリングの動作に透過、プロトコルにTCPを指定した場合に有効です。TCPプロトコルはコネクション型であるため、コネクション確立要求を発行し、それに対する応答を受信することにより、コネクションを開通します。したがって、一方からのコネクションを禁止する場合でも、コネクション確立要求だけを遮断し、その他の応答や通常データなどを透過させるように設定しないと通信できません。

フィルタリングの動作に透過、TCP接続要求に対象外を指定した場合に、コネクション確立要求だけを禁止する設定となり、対象となるアドレスからのコネクション接続を禁止できます。

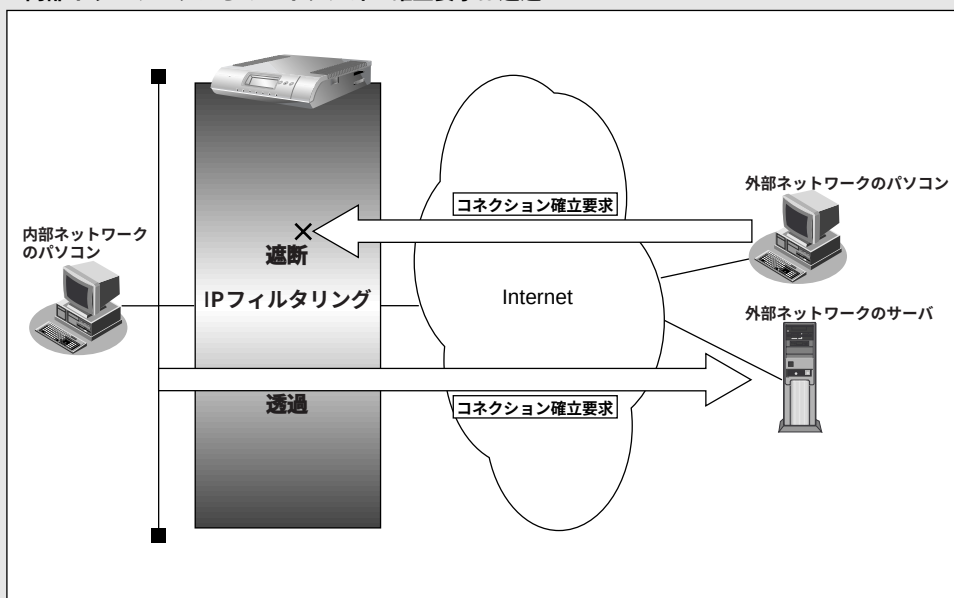
次にTCPパケットとフラグ設定について説明します。TCPパケット内にはSYNフラグとACKフラグの2つの制御フラグがあります。このフラグの組み合わせにより、TCPパケットの内容が分かります。以下に対応表を示します。

制御フラグ		TCPパケットの内容
SYN	ACK	
1	0	コネクションの確立要求
1	1	確立後の承認応答
0	1	確認応答、通常のデータ

この表から、制御フラグの組み合わせがSYN=1 ACK=0の場合に、TCPパケットがコネクションの確立要求を行うことがわかります。つまり、IPパケットが禁止されているIPアドレスからの送信を禁止すれば、TCP/IPサービスのフィルタリングが行えます。

以下に、telnet（ポート番号23）を例に説明します。

- ・外部ネットワークからのコネクション確立要求は遮断
- ・内部ネットワークからのコネクション確立要求は透過



◆ IP アドレスとアドレスマスクの決め方

フィルタリング条件の要素として「IP アドレス」と「アドレスマスク」があります。制御対象となるパケットはNetVehicleに届いたパケットのIPアドレスとアドレスマスクの論理積の結果が、指定したIPアドレスと一致したものに限りです。



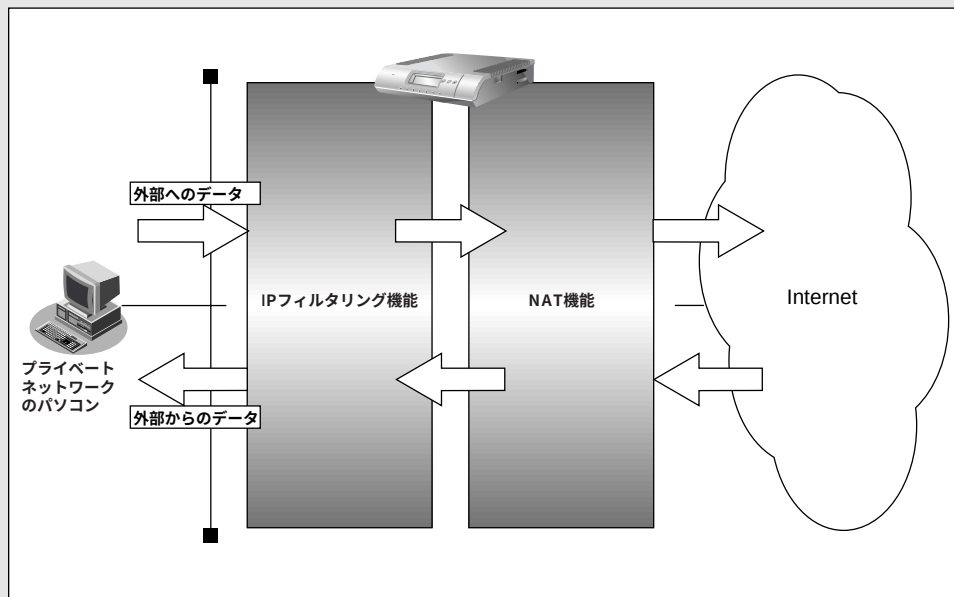
アドレスマスクとは→「用語集」(P.297)



◆アドレス変換(NAT)機能利用時のIPフィルタリングのかかるタイミング

プライベートネットワークからインターネット上に向かう場合は、アドレス変換でアドレスが変更される前にフィルタリング処理を通過します。また、インターネットからプライベートネットワークに向かう場合は、アドレス変換でアドレスが変更されたあとでフィルタリング処理を通過します。つまり、IPフィルタリングは「プライベートアドレス」を対象に行います。

NetVehicleのIPフィルタリングとアドレス変換の位置付けは以下のとおりです。



補足 IPフィルタリング機能とNAT機能を同時に使用する場合、回線切断時にNAT機能の情報が消えてしまうため、回線切断後に再度接続してもサーバからの応答が正しくアドレス変換されず、IPフィルタリング機能によってパケットは破棄されます。

フィルタリングの設計方針には大きく分類して以下の2つがあります。

- A. 基本的にはパケットをすべて遮断し、特定の条件のものだけを透過させる。
- B. 基本的にはパケットをすべて透過させ、特定のものを遮断する。

設計方針Aの例として、以下の設定例について説明します。

- 外部の特定サービスへのアクセスのみ許可する
- 外部から特定サーバへのアクセスのみ許可する

設計方針Bの例として、以下の設定例について説明します。

- 利用者が意図しない発信を防ぐ
- 特定アドレスへのアクセスを禁止する
- 回線が接続している時だけ許可する

補足 TCP接続要求の設定は、プロトコルにTCPまたはすべてを指定した場合にだけ有効です。それ以外のプロトコルを指定した場合は無効となります。



こんな事に気をつけて

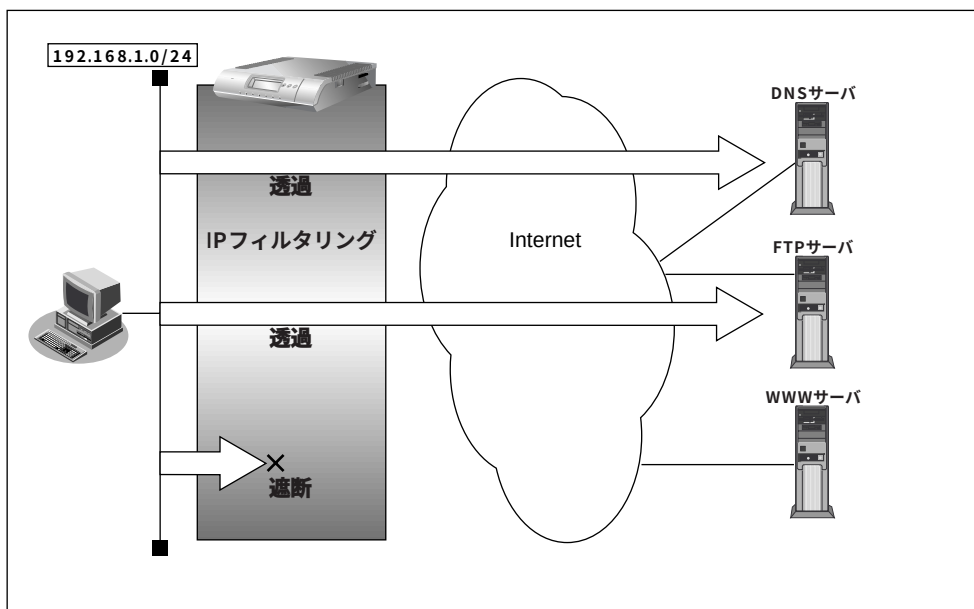
フィルタリング条件が複数存在する場合、それぞれの条件に優先順位がつき、数値の小さいものから優先的に採用されます。設定内容によっては通信できなくなる場合がありますので、優先順位を意識して設定してください。

.....

外部の特定サービスへのアクセスのみ許可する

ここでは、LAN上のパソコンからインターネット上のすべてのFTPサーバに対してアクセスすることのみを許可し、他のサーバ（WWWサーバなど）へのアクセスを禁止する場合の設定方法を説明します。ただし、FTPサーバ名を解決するためにDNSサーバへのアクセスを許可する設定にします。

- 補足 ● ftpでホスト名を指定する場合、DNSサーバに問い合わせが発生するため、DNSサーバへのアクセスを許可する必要があります。DNSサーバへのアクセスを許可することによって、ftpサービス以外でもドメイン名で指定されるとDNSサーバへの発信が発生します。あらかじめ接続するftpサーバが決まっている場合は、NetVehicleのDNSサーバ機能を利用することによって、DNSサーバへの発信を抑止することができます。
- NetVehicle は、ftp-dataの転送に関するフィルタルールを自動的に作成します。



●フィルタリング設計

- LAN上のホスト（192.168.1.0/24）から任意のFTPサーバへのアクセスを許可
- LAN上のホスト（192.168.1.0/24）からWANの先のDNSのサーバへのアクセスを許可
- その他はすべて遮断

●フィルタリングルール

- FTPサーバへのアクセスを許可するには
 - 192.168.1.0/24の任意のポートから、任意のFTPサーバのポート21（ftp）へのTCPパケットを透過させる
 - (1)の応答パケットを透過させる
- DNSサーバへのアクセスを許可するには
 - 192.168.1.0/24の任意のポートから、DNSサーバのポート53（domain）へのUDPパケットを透過させる
 - (1)の応答パケットを透過させる
- その他をすべて遮断するには
 - すべてのパケットを遮断する

- 補足 ● このルールではpassiveモードによるデータ転送はできません。

上記のフィルタリングルールを設定を行う場合を例に説明します。

任意の FTP サーバのポート 21 への TCP パケットを透過させる (LAN → インターネット)

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] でフィルタリングの設定を行うネットワーク情報の欄の [修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [IP フィルタリング情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「IP フィルタリング情報設定」ページが表示されます。

4. [IP フィルタリング情報] で以下の項目を指定します。

- 動作 → 透過
- プロトコル → tcp
- 送信元情報 (IP アドレス) → 192.168.1.0
- 送信元情報 (アドレスマスク) → 24
- 送信元情報 (ポート番号) → なにも設定しない
- 宛先情報 (IP アドレス) → なにも設定しない
- 宛先情報 (アドレスマスク) → なにも設定しない
- 宛先情報 (ポート番号) → 21 (ftp のポート番号)
- TCP 接続要求 → 対象

動作	☒ 透過 ☐ 透過(接続中のみ) ☐ 遮断	
プロトコル	tcp (番号指定: "その他"を選択時のみ有効です)	
送信元情報	IPアドレス	192 168 1 0
	アドレスマスク	24 (255.255.255.0)
	ポート番号[...]	
宛先情報	IPアドレス	
	アドレスマスク	0 (0.0.0.0)
	ポート番号[...]	21
TCP 接続要求	☒ 対象 ☐ 対象外	

5. [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページに戻ります。

FTP サーバからの応答パケットを透過させる（インターネット→LAN）

6. 手順 3.～5.を参考に、以下の情報を指定します。

[IP フィルタリング情報]

▪ 動作	→透過
▪ プロトコル	→tcp
▪ 送信元情報（IP アドレス）	→なにも設定しない
▪ 送信元情報（アドレスマスク）	→なにも設定しない
▪ 送信元情報（ポート番号）	→21（ftp のポート番号）
▪ 宛先情報（IP アドレス）	→192.168.1.0
▪ 宛先情報（アドレスマスク）	→24
▪ 宛先情報（ポート番号）	→なにも設定しない
▪ TCP 接続要求	→対象外

DNS サーバのポート 53 への UDP パケットを透過させる（LAN→インターネット）

7. 手順 3.～5.を参考に、以下の情報を指定します。

[IP フィルタリング情報]

▪ 動作	→透過
▪ プロトコル	→udp
▪ 送信元情報（IP アドレス）	→192.168.1.0
▪ 送信元情報（アドレスマスク）	→24
▪ 送信元情報（ポート番号）	→なにも設定しない
▪ 宛先情報（IP アドレス）	→なにも設定しない
▪ 宛先情報（アドレスマスク）	→なにも設定しない
▪ 宛先情報（ポート番号）	→53（domain のポート番号）
▪ TCP 接続要求	→対象

DNS サーバからの応答パケットを透過させる（インターネット→LAN）

8. 手順 3.～5.を参考に、以下の情報を指定します。

[IP フィルタリング情報]

▪ 動作	→透過
▪ プロトコル	→udp
▪ 送信元情報（IP アドレス）	→なにも設定しない
▪ 送信元情報（アドレスマスク）	→なにも設定しない
▪ 送信元情報（ポート番号）	→53（domain のポート番号）
▪ 宛先情報（IP アドレス）	→192.168.1.0
▪ 宛先情報（アドレスマスク）	→24
▪ 宛先情報（ポート番号）	→なにも設定しない
▪ TCP 接続要求	→対象

9. 手順 3. ～ 5. を参考に、以下の情報を指定します。

[IP フィルタリング情報]

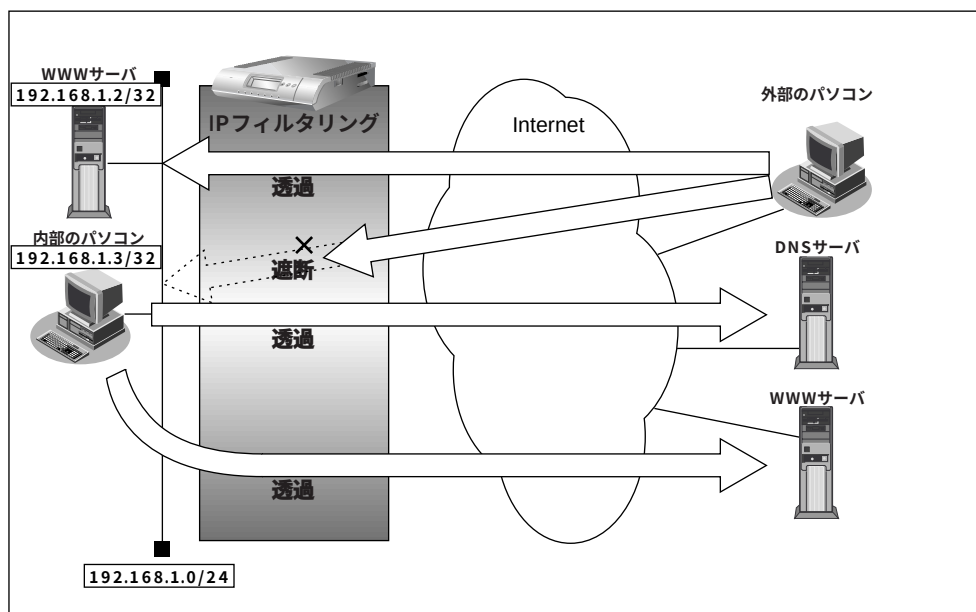
▪ 動作	→ 遮断
▪ プロトコル	→ すべて
▪ 送信元情報 (IP アドレス)	→ なにも設定しない
▪ 送信元情報 (アドレスマスク)	→ なにも設定しない
▪ 送信元情報 (ポート番号)	→ なにも設定しない
▪ 宛先情報 (IP アドレス)	→ なにも設定しない
▪ 宛先情報 (アドレスマスク)	→ なにも設定しない
▪ 宛先情報 (ポート番号)	→ なにも設定しない
▪ TCP 接続要求	→ 対象

10. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

外部から特定サーバへのアクセスのみ許可する

ここでは、LAN 上の WWW サーバに対する外部のパソコンからのアクセスを許可し、LAN 上の他のパソコンへのアクセスは禁止する場合の設定方法を説明します。また、LAN 上の他のパソコンはインターネット上の WWW サーバに対してアクセスすると想定されるため、そのアクセスには制限はつけません。



●フィルタリング設計

- LAN 上のホスト (192.168.1.2/32) を WWW サーバとして利用することを許可
- LAN 上のホスト (192.168.1.3/32) から任意の WWW サーバへのアクセスを許可
- LAN 上のホスト (192.168.1.0/24) から WAN の先の DNS サーバへのアクセスを許可
- その他はすべて遮断

●フィルタリングルール

- LAN 上のホストの WWW サーバとしての利用を許可するには
 - (1) 192.168.1.2/32 のポート 80 (www-http) へのパケットを透過させる
 - (2) (1) の応答パケットを透過させる
- 任意の WWW サーバへのアクセスを許可するには
 - (1) 192.168.1.3/32 の任意のポートから任意の WWW サーバのポート 80 (www-http) へのパケットを透過させる
 - (2) (1) の応答パケットを透過させる
- DNS サーバへのアクセスを許可するには
 - (1) 192.168.1.0/24 の任意のポートから DNS サーバのポート 53 (domain) への UDP パケットを透過させる
 - (2) (1) の応答パケットを透過させる
- その他をすべて遮断するには
 - (1) すべてのパケットを遮断する

上記のフィルタリングルールの設定を行う場合を例に説明します。

LAN 上のホストのポート 80 へのパケットを透過させる (インターネット→LAN)

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] でフィルタリングの設定を行うネットワーク情報の欄の [修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [IP フィルタリング情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「IP フィルタリング情報設定」ページが表示されます。
4. [IP フィルタリング情報] で以下の項目を指定します。

■ 動作	→透過
■ プロトコル	→tcp
■ 送信元情報 (IP アドレス)	→なにも設定しない
■ 送信元情報 (アドレスマスク)	→なにも設定しない
■ 送信元情報 (ポート番号)	→なにも設定しない
■ 宛先情報 (IP アドレス)	→192.168.1.2
■ 宛先情報 (アドレスマスク)	→32
■ 宛先情報 (ポート番号)	→80 (WWW-http のポート番号)
■ TCP 接続要求	→対象
5. [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページに戻ります。

6. 手順 3. ～ 5. を参考に、以下の情報を指定します。

[IP フィルタリング情報]

- 動作 → 透過
- プロトコル → tcp
- 送信元情報 (IP アドレス) → 192.168.1.2
- 送信元情報 (アドレスマスク) → 32
- 送信元情報 (ポート番号) → 80 (WWW-http のポート番号)
- 宛先情報 (IP アドレス) → なにも設定しない
- 宛先情報 (アドレスマスク) → なにも設定しない
- 宛先情報 (ポート番号) → なにも設定しない
- TCP 接続要求 → 対象外

任意の WWW サーバのポート 80 へのパケットを透過させる (LAN → インターネット)

7. 手順 3. ～ 5. を参考に、以下の情報を指定します。

[IP フィルタリング情報]

- 動作 → 透過
- プロトコル → tcp
- 送信元情報 (IP アドレス) → 192.168.1.3
- 送信元情報 (アドレスマスク) → 32
- 送信元情報 (ポート番号) → なにも設定しない
- 宛先情報 (IP アドレス) → なにも設定しない
- 宛先情報 (アドレスマスク) → なにも設定しない
- 宛先情報 (ポート番号) → 80 (WWW-http のポート番号)
- TCP 接続要求 → 対象

任意の WWW サーバからの応答パケットを透過させる (インターネット → LAN)

8. 手順 3. ～ 5. を参考に、以下の情報を指定します。

[IP フィルタリング情報]

- 動作 → 透過
- プロトコル → tcp
- 送信元情報 (IP アドレス) → なにも設定しない
- 送信元情報 (アドレスマスク) → なにも設定しない
- 送信元情報 (ポート番号) → 80 (www-http のポート番号)
- 宛先情報 (IP アドレス) → 192.168.1.3
- 宛先情報 (アドレスマスク) → 32
- 宛先情報 (ポート番号) → なにも設定しない
- TCP 接続要求 → 対象外

9. 手順 3. ～ 5. を参考に、以下の情報を指定します。

[IP フィルタリング情報]

▪ 動作	→ 透過
▪ プロトコル	→ udp
▪ 送信元情報 (IP アドレス)	→ 192.168.1.0
▪ 送信元情報 (アドレスマスク)	→ 24
▪ 送信元情報 (ポート番号)	→ なにも設定しない
▪ 宛先情報 (IP アドレス)	→ なにも設定しない
▪ 宛先情報 (アドレスマスク)	→ なにも設定しない
▪ 宛先情報 (ポート番号)	→ 53 (domain のポート番号)
▪ TCP 接続要求	→ 対象外

DNS サーバからの応答パケットを透過させる (インターネット → LAN)

10. 手順 3. ～ 5. を参考に、以下の情報を指定します。

[IP フィルタリング情報]

▪ 動作	→ 透過
▪ プロトコル	→ udp
▪ 送信元情報 (IP アドレス)	→ なにも設定しない
▪ 送信元情報 (アドレスマスク)	→ なにも設定しない
▪ 送信元情報 (ポート番号)	→ 53 (domain のポート番号)
▪ 宛先情報 (IP アドレス)	→ 192.168.1.0
▪ 宛先情報 (アドレスマスク)	→ 24
▪ 宛先情報 (ポート番号)	→ なにも設定しない
▪ TCP 接続要求	→ 対象外

残りのパケットをすべて遮断する

11. 手順 3. ～ 5. を参考に、以下の情報を指定します。

[IP フィルタリング情報]

▪ 動作	→ 遮断
▪ プロトコル	→ すべて
▪ 送信元情報 (IP アドレス)	→ なにも設定しない
▪ 送信元情報 (アドレスマスク)	→ なにも設定しない
▪ 送信元情報 (ポート番号)	→ なにも設定しない
▪ 宛先情報 (IP アドレス)	→ なにも設定しない
▪ 宛先情報 (アドレスマスク)	→ なにも設定しない
▪ 宛先情報 (ポート番号)	→ なにも設定しない
▪ TCP 接続要求	→ 対象

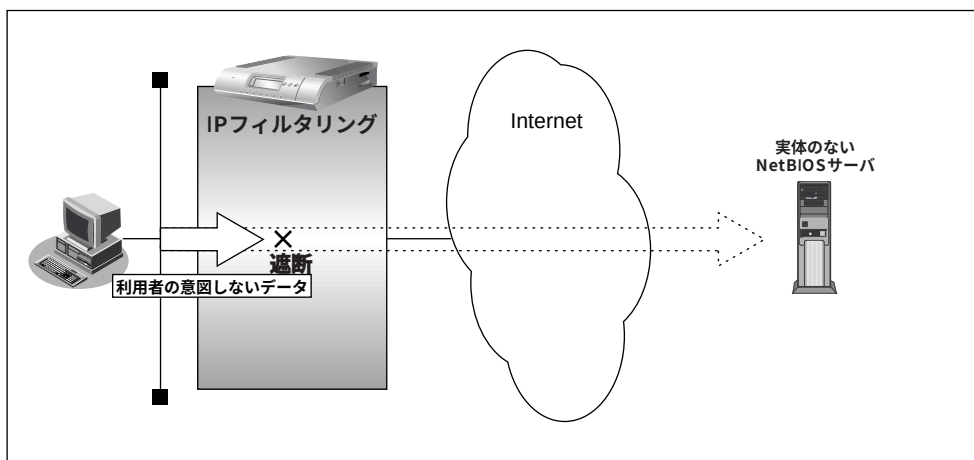
12. [更新 + 設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

■ 利用者が意図しない発信を防ぐ

LAN 上のパソコンは、利用者の意志とは無関係に、実体のない NetBIOS サーバにアクセスすることがあります。そのとき、回線が接続され、利用者が意識しないところで通信料金がかかってしまいます。

ここでは、上記のような、回線に対する無駄な発信を抑止するフィルタリング設定方法について説明します。



3

● フィルタリング設計

- ポート 137 ～ 139 (NetBIOS サービス) へのアクセスを禁止

● フィルタリングルール

- ポート 137 ～ 139 へのアクセスを禁止するには
 - (1) 任意のアドレスのポート 137 ～ 139 へのすべてのパケットを遮断する
 - (2) 任意のアドレスのポート 137 ～ 139 からのすべてのパケットを遮断する

補足 Windows® (TCP 上の NetBIOS) 環境のネットワークでは、セキュリティ上の問題と無駄な課金を抑えるために、ポート番号 137 ～ 139 の外向きの転送経路をふさいでおく必要があります (「かんたん設定」の「かんたんフィルタ」では、自動的にこれらのポートをふさぐように設定されます)。

上記のフィルタリングルールの設定を行う場合を例に説明します。

任意のアドレスのポート 137 ～ 139 へのすべてのパケットを禁止する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] でフィルタリングの設定を行うネットワーク情報の欄の [修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [IP フィルタリング情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「IP フィルタリング情報設定」ページが表示されます。

- 4.** [IP フィルタリング情報] で以下の項目を指定します。
- 動作 → 遮断
 - プロトコル → すべて
 - 送信元情報 (IP アドレス) → なにも設定しない
 - 送信元情報 (アドレスマスク) → なにも設定しない
 - 送信元情報 (ポート番号) → なにも設定しない
 - 宛先情報 (IP アドレス) → なにも設定しない
 - 宛先情報 (アドレスマスク) → なにも設定しない
 - 宛先情報 (ポート番号) → 137-139
 - TCP 接続要求 → 対象

- 5.** [更新] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページに戻ります。

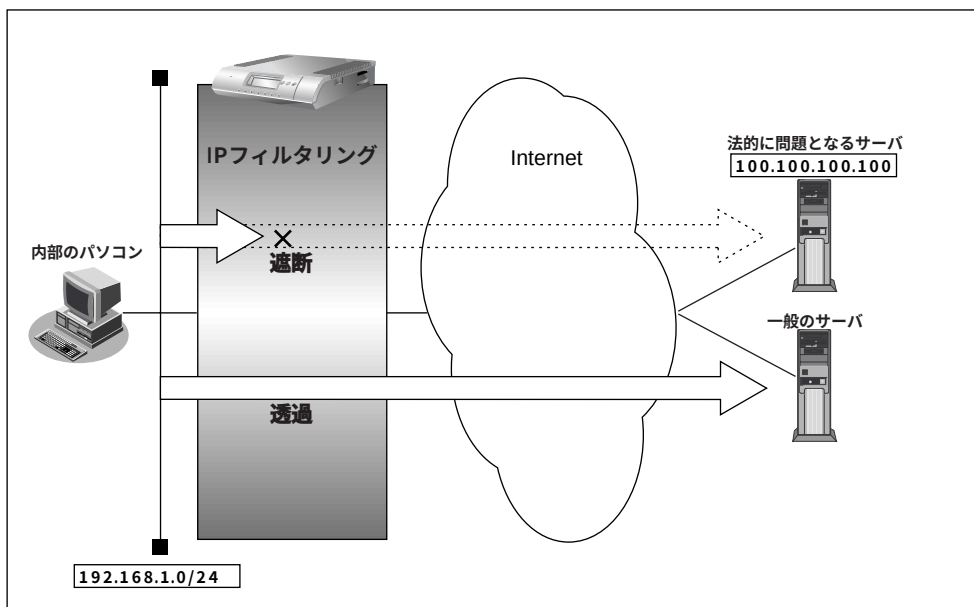
ポート 137 ~ 139 からのすべてのパケットを遮断する

- 6.** 手順 3. ~ 5. を参考に、以下の情報を設定します。
[IP フィルタリング情報]
- 動作 → 遮断
 - プロトコル → すべて
 - 送信元情報 (IP アドレス) → なにも設定しない
 - 送信元情報 (アドレスマスク) → なにも設定しない
 - 送信元情報 (ポート番号) → 137-139
 - 宛先情報 (IP アドレス) → なにも設定しない
 - 宛先情報 (アドレスマスク) → なにも設定しない
 - 宛先情報 (ポート番号) → なにも設定しない
 - TCP 接続要求 → 対象

- 7.** [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

■ 特定アドレスへのアクセスを禁止する

ここでは、インターネット上の不当なサーバ（法的に問題となるようなサーバなど）に対するアクセスを禁止する場合の設定方法について説明します。



● フィルタリング設計

- LAN上のホスト（192.168.1.0/24）からアドレス 100.100.100.100 へのアクセスを禁止

● フィルタリングルール

- 特定アドレスへのアクセスを禁止するには
(1) 192.168.1.0/24から100.100.100.100の任意のポートへのすべてのパケットを遮断する

上記のフィルタリングルールの設定を行う場合を例に説明します。

アドレス（100.100.100.100）へのすべてのパケットを遮断する（LAN→インターネット）

1. 詳細設定メニューのルータ設定の「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] でフィルタリングの設定を行うネットワーク情報の欄の [修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [IP フィルタリング情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「IP フィルタリング情報設定」ページが表示されます。

4. [IP フィルタリング情報] で以下の項目を指定します。

- 動作 → 遮断
- プロトコル → すべて
- 送信元情報 (IP アドレス) → 192.168.1.0
- 送信元情報 (アドレスマスク) → 24
- 送信元情報 (ポート番号) → なにも設定しない
- 宛先情報 (IP アドレス) → 100.100.100.100
- 宛先情報 (アドレスマスク) → 32
- 宛先情報 (ポート番号) → なにも設定しない
- TCP 接続要求 → 対象

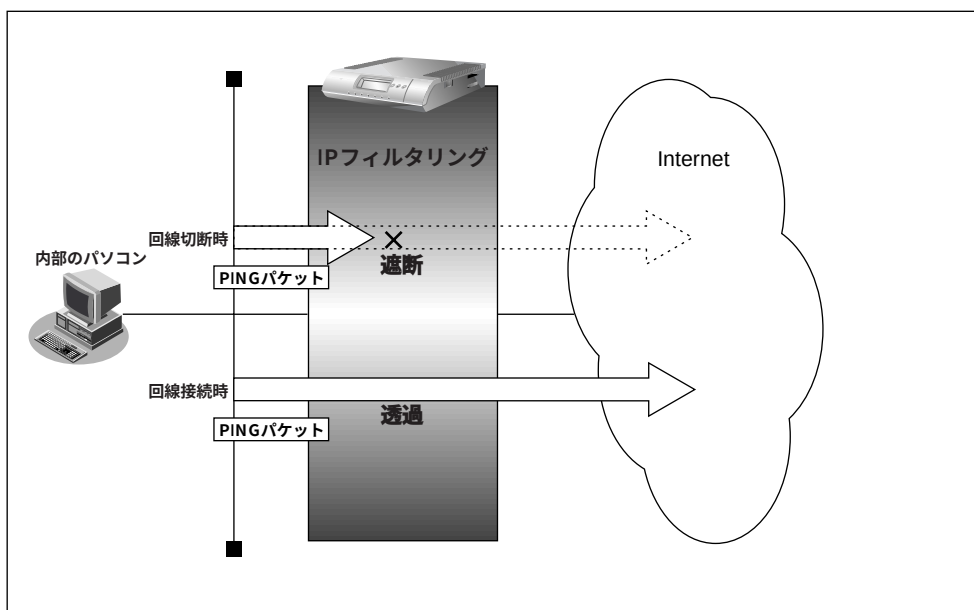
5. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

回線が接続している時だけ許可する

一部のパソコンでは、ネットワークの設定によって、ログイン時に自動的に PING を発行して回線を接続してしまうものがあります。回線接続を必要とする ICMP パケットを遮断することにより、意図しない PING による無駄な発信を抑止することができます。ここでは、回線が接続されているときのみ ICMP パケットを透過させる場合の設定方法について説明します。

補足 IP アドレスを直接指定せず、DNS による名前アドレス変換を利用した場合、発信を抑止することはできません。



●フィルタリング設計

- すでに回線が接続している場合だけ、PING を許可

●フィルタリングルール

- すでに回線が接続している場合だけ PING を許可するには
(1) 回線接続中だけ ICMP パケットを透過させる

上記のフィルタリングルールの設定を行う場合を例に説明します。

回線が接続している場合だけ ICMP パケットを透過させる

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] でフィルタリングの設定を行うネットワーク情報の欄の [修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [IP フィルタリング情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「IP フィルタリング情報設定」ページが表示されます。
4. [IP フィルタリング情報] で以下の項目を指定します。

▪ 動作	→透過（接続中）
▪ プロトコル	→icmp
▪ 送信元情報（IP アドレス）	→なにも設定しない
▪ 送信元情報（アドレスマスク）	→なにも設定しない
▪ 送信元情報（ポート番号）	→なにも設定しない
▪ 宛先情報（IP アドレス）	→なにも設定しない
▪ 宛先情報（アドレスマスク）	→なにも設定しない
▪ 宛先情報（ポート番号）	→なにも設定しない
5. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



マルチルーティングを利用する

マルチルーティング機能を使うと、設定した条件によって接続先を変更することができます。

NetVehicle には以下の 3 種類のマルチルーティング機能があります。

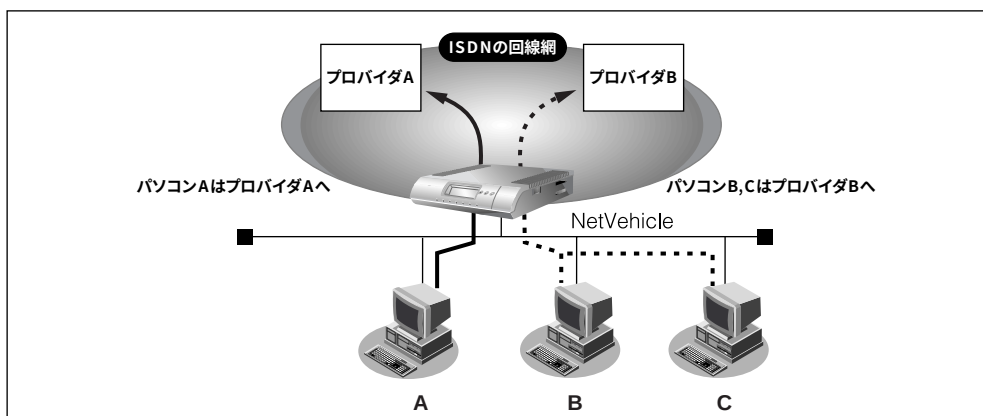
- ・パソコンごとに別々のプロバイダを利用する（ソースアドレスルーティング機能）
- ・目的ごとに別々のプロバイダに接続する（ポートルーティング機能）
- ・課金単位でプロバイダを切り替える

これらの機能は組み合わせて利用できます。

パソコンごとに別々のプロバイダを利用する（ソースアドレスルーティング機能）

ソースアドレスルーティング機能では、パソコンの IP アドレスごとに接続先を変えることができます。

例えばパソコンが複数あって、それぞれ別のプロバイダに接続したい場合、NetVehicle のソースアドレスルーティング機能を使うと便利です。

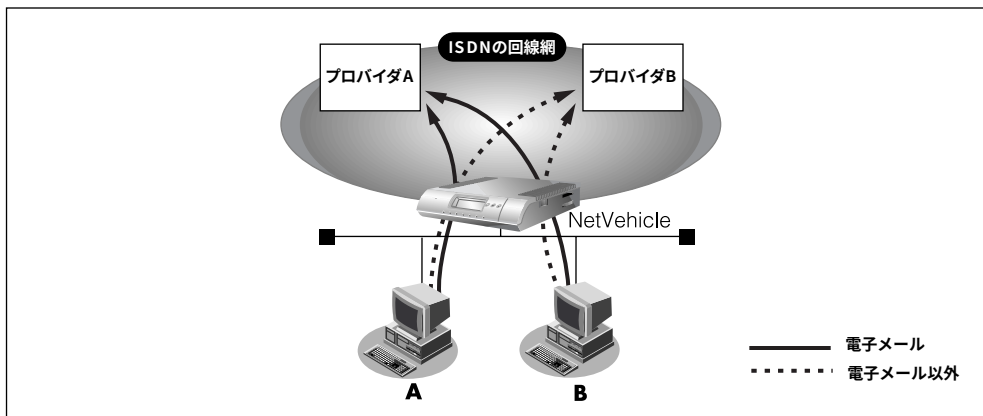


「複数プロバイダと端末型接続する」(P.72)

目的ごとに別々のプロバイダに接続する（ポートルーティング機能）

ポートルーティング機能では、インターネットで利用するアプリケーション（WWW、電子メールなど）ごとに接続先を変えることができます。

例えば電子メールはプロバイダ A で、WWW ブラウザはプロバイダ B で利用するといったことも可能です。



通信条件

- 電子メール利用時はプロバイダ A に接続
- プロバイダ A のメールサーバホスト名：mailhost.provider.or.jp
- 電子メール以外（WWW 利用など）はプロバイダ B に接続



こんな事に気をつけて.....

ProxyDNS を使う設定にする必要があります。



ProxyDNS とは→「DNS サーバを使いこなす（ProxyDNS）」（P.128）

3

マルチルーティング情報を設定する

ここでは、ネットワーク名（internet）配下の「接続先情報」としてプロバイダ A（接続先名：ISP-A）、プロバイダ B（接続先名：ISP-B）がすでに登録してある場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] で「internet」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [接続先一覧] で接続先「ISP-A」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。
4. [マルチルーティング] の「ポートルーティング」で[追加] ボタンをクリックします。
「ポートルーティング情報設定」ページが表示されます。
5. 電子メール利用時の設定を行います。
[ポートルーティング情報] で以下の項目を指定します。
 - ポート番号 → POP3
 - サーバホスト名 → mailhost.provider.or.jp（プロバイダから提示されたメールサーバホスト名）

[ポートルーティング情報]	
ポート番号	POP3 (番号指定: “その他”を選択時のみ有効です)
サーバホスト名	mailhost.provider.or.jp

6. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



この例ではサーバホスト名で設定した以外の DNS への要求は、ISP-B に発信します。

課金単位でプロバイダを切り替える

複数のプロバイダに加入していて、プロバイダのサービスによって通信料金の算定方法が違っている場合、プロバイダを有効に使い分けることができます。

例えば、2つのプロバイダ（プロバイダA、プロバイダB）に加入していて、契約が以下に示す内容だとします。

プロバイダ名	基本料金	追加料金
プロバイダA	2,000円 (接続時間900分まで)	10円/3分 (接続時間901分以降)
プロバイダB	970円 (接続時間600分まで)	10円/分 (接続時間601分以降)

1か月に20時間（1,200分間）インターネットを利用すると、プロバイダに支払う料金は以下のようになります。

・プロバイダAだけを利用

2,000円（プロバイダAの基本料金）+ 1,000円（プロバイダAの追加料金）+ 970円（プロバイダBの基本料金）= 3,970円

・プロバイダBだけを利用

2,000円（プロバイダAの基本料金）+ 970円（プロバイダBの基本料金）+ 6,000円（プロバイダBの追加料金）= 8,970円

・プロバイダAを900分利用し、プロバイダBを残り300分間利用

2,000円（プロバイダAの基本料金）+ 970円（プロバイダBの基本料金）+ 0円（追加料金）= 2,970円

このような使い方をすると、プロバイダに支払う金額はそれぞれのプロバイダの基本料金2,970円だけで済みます（どちらかのプロバイダを解約するよりも安くなります）。

この場合を例に設定方法を説明します。

通信条件

- 接続時間900分までプロバイダA（ISP-A）を利用する
- 接続時間901分以降はプロバイダB（ISP-B）を利用する

メインに使用するプロバイダの制限時間を指定する

ここではネットワーク名（internet）配下の「接続先情報」としてプロバイダA（接続先名：ISP-A）、プロバイダB（接続先名：ISP-B）がすでに登録してある場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] で「internet」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

- 3.** [接続先一覧] の接続先「ISP-A」の優先順位が「1」でない場合は、移動先の優先順位に「1」を入力し[移動] ボタンをクリックします。すでに優先順位が「1」になっている場合は、手順 4. へお進みください。



こんな事に気をつけて

接続先には優先度があるため、マルチルーティングの設定をしない接続先の優先度を高くすると、優先度の低いマルチルーティング設定は無効となります。接続先の優先順位に気をつけてください。

- 4.** [接続先一覧] で接続先「ISP-A」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。

- 5.** [マルチルーティング] で以下の項目を指定します。

- 接続制限 → 指定した時間を超えて接続しない / 15 時間

接続制限	☒ 指定した時間を超えて接続しない	15	時間
	☐ 指定した課金を超えて接続しない		円

- 6.** [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



こんな事に気をつけて

- 回線切断されるまでは接続制限処理が行われないため、900 分を超えてプロバイダに接続される場合があります。
- 本装置の電源を切ると、課金情報（通信時間累計、通信料金累計）はすべてクリアされます。



DNSサーバを使いこなす(ProxyDNS)

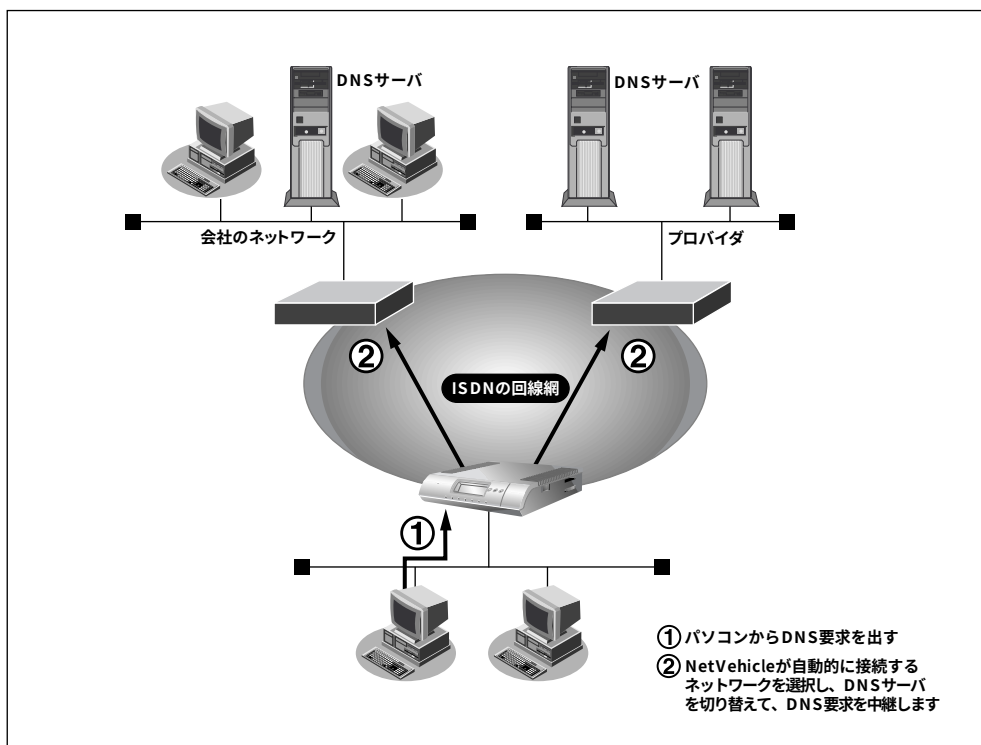
NetVehicle の ProxyDNS には、以下のような機能があります。

- DNS サーバの自動切り替え機能
- DNS サーバアドレスの自動取得機能
- DNS 問い合わせタイプフィルタ機能
- DNS サーバ機能

DNS サーバの自動切り替え機能

複数のプロバイダに接続するような場合、パソコン側で DNS サーバの IP アドレスを変更して、再起動する必要があります。

「ProxyDNS」を使えば、このような手続きはありません。パソコン側が DNS サーバを呼び出すと、ProxyDNS が自動的に接続するネットワークを選択し、DNS サーバを切り替えて中継します。



ここでは、会社のネットワークとプロバイダに接続する設定がすでにされている場合を例に説明します。また、ProxyDNS 情報は一切設定されていないものとします。

ネットワーク条件

[会社のネットワーク]

- ネットワークアドレス : 172.16.0.0/16
- ネットワークの名前 : kaisya
- 会社のドメイン名 : *.kaisya.co.jp

[プロバイダ]

- ネットワークの名前 : internet

会社の ProxyDNS 情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で、「ProxyDNS 情報」をクリックします。
「ProxyDNS 情報」ページが表示されます。
2. 「順引き情報一覧」で [追加] ボタンをクリックします。
「ProxyDNS 情報設定 (順引き)」ページが表示されます。
3. 以下の項目を指定します。

- ドメイン名 → *.kaisya.co.jp
- 動作 → 接続先の DNS サーバへ問い合わせる
- ネットワーク名 → kaisya

ドメイン名: *.kaisya.co.jp

タイプ: すべて (番号指定: [] “その他”を選択時のみ有効です。)

送信元情報

IPアドレス	[][][][]
アドレスマスク	0 (0.0.0.0)

動作

☐ 廃棄する

☒ 接続先の DNS サーバへ問い合わせる

ネットワーク名: kaisya

☐ 設定した DNS サーバへ問い合わせる

DNSサーバアドレス: [][][][]

4. [更新] ボタンをクリックします。
「ProxyDNS 情報」ページに戻ります。
5. 「逆引き情報一覧」で [追加] ボタンをクリックします。
「ProxyDNS 情報設定 (逆引き)」ページが表示されます。
6. 以下の項目を指定します。

- IP アドレス → 172.16.0.0
- アドレスマスク → 16 (255.255.0.0)
- 動作 → 接続先の DNS サーバへ問い合わせる
- ネットワーク名 → kaisya

IPアドレス: 172.16.0.0

アドレスマスク: 16 (255.255.0.0)

動作

☐ 廃棄する

☒ 接続先の DNS サーバへ問い合わせる

ネットワーク名: kaisya

☐ 設定した DNS サーバへ問い合わせる

DNSサーバアドレス: [][][][]

7. [更新] ボタンをクリックします。
「ProxyDNS 情報」ページに戻ります。

internet の ProxyDNS 情報を設定する

8. 手順 2. ～ 4. を参考に、以下の情報を設定します。

[ProxyDNS 情報設定 (順引き)]

- ドメイン名 → *
- 動作 → 接続先の DNS サーバへ問い合わせる
- ネットワーク名 → internet

9. 手順 5. ～ 6. を参考に、以下の情報を設定します。

[ProxyDNS 情報設定 (逆引き)]

- IP アドレス → なにも指定しない
- アドレスマスク → 0 (0.0.0.0)
- 動作 → 接続先の DNS サーバへ問い合わせる
- ネットワーク名 → internet

10. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

 **かんたん設定**のインターネットへの「ISDN 接続」で、DNS サーバを「自動取得」にすると、ProxyDNS 情報が自動的に設定されます。

 **基本編** 「かんたん設定 (インターネットへ ISDN 接続)」の省略値について (P.75)

パソコン側の設定を行う

ここでは Windows® 98 の場合を例に説明します。

1. [コントロールパネル] ウィンドウで [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

2. [ネットワーク] ダイアログボックスで [ネットワークの設定] タブをクリックします。

3. 一覧から「TCP/IP」を選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。

4. [TCP/IP のプロパティ] 画面で [DNS 設定] タブをクリックします。

5. 「DNS を使う」を選択します。

6. 「DNS サーバーの検索順」に、NetVehicle の IP アドレスを入力します。

 必要に応じて、ホスト名にパソコンの名前 (任意) を入力します。

7. [OK] ボタンをクリックします。

8. パソコンを再起動します。

再起動後に設定した内容が有効になります。



◆ NetVehicle の「DHCP サーバ機能」を使わない場合の設定は？

かんたん設定のインターネットへの「ISDN 接続」で、DNS サーバを「自動取得」にした場合、自動的に ProxyDNS 機能が有効になってます。パソコン側の「DNS サーバの設定」で NetVehicle の IP アドレスを設定すると、ProxyDNS 機能だけ利用できます。また、NetVehicle 以外の DHCP サーバを使用している場合でも、DHCP サーバで広報する DNS サーバの IP アドレスとして NetVehicle の IP アドレスを設定すると ProxyDNS が利用できます。

DNS サーバアドレスの自動取得機能

ProxyDNS が DNS サーバのアドレスを回線の接続時に接続先より自動的に取得するため、DNS サーバのアドレスをあらかじめ設定しておく必要がなくなります。

なお、この機能は接続先が DNS サーバアドレスの配布機能（RFC1877）に対応している場合にのみ利用できます。

3

NetVehicle 側の設定を行う

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「ProxyDNS 情報」をクリックします。
「ProxyDNS 情報」ページが表示されます。
2. [順引き情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「ProxyDNS 情報設定（順引き）」ページが表示されます。
3. 以下の項目を指定します。
 - ドメイン名 → *
 - 動作 → 接続先の DNS サーバへ問い合わせる
 - ネットワーク名 → DNS サーバを使用するネットワーク名

ドメイン名	*
タイプ	すべて (番号指定 "その他" を選択時のみ有効です。)
送信元情報	IPアドレス アドレスマスク
動作	☐ 廃棄する ☒ 接続先のDNSサーバへ問い合わせる ネットワーク名 internet ☐ 設定したDNSサーバへ問い合わせる DNSサーバアドレス

4. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

パソコン側の設定を行う

「DNS サーバの自動切り替え機能」の「パソコンの設定を行う」を参照して、パソコンの設定を行います。

DNS 問い合わせタイプフィルタ機能

端末が送信する DNS パケットのうち特定の問い合わせタイプ (QTYPE) のパケットを破棄することができます。

例えば、Windows® 2000 が送信する予期せぬ DNS パケットにより自動発信してしまう問題を回避するために、かんたん設定のかんたんフィルタを「使用する」に設定した場合は、問い合わせタイプが SOA (6) と SRV (33) のパケットは廃棄する設定を行います。



■基本編 「かんたん設定 (インターネットへISDN接続)」の省略値について (P.75)



こんな事に気をつけて.....

ProxyDNS 機能を使用する場合、問い合わせタイプが A (1) の DNS 問い合わせパケットを破棄する設定にすると、正常な通信が行えない状態になります。

.....

問い合わせタイプが SOA (6) の DNS 問い合わせパケットを破棄する設定を以下に示します。

NetVehicle 側の設定を行う

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「ProxyDNS 情報」をクリックします。
「ProxyDNS 情報」ページが表示されます。
2. [順引き情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「ProxyDNS 情報設定 (順引き)」ページが表示されます。
3. 以下の項目を指定します。
 - ドメイン名 → *
 - タイプ → SOA
 - 動作 → 廃棄する

ドメイン名		*	
タイプ		SOA (番号指定 [] “その他”を選択時のみ有効です。)	
送信元情報	IPアドレス	[][][][]	
	アドレスマスク	0.0.0.0	
動作		☒ 廃棄する	
		☐ 接続先のDNSサーバへ問い合わせる	
		☐ 設定したDNSサーバへ問い合わせる	

4. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

パソコン側の設定を行う

「DNS サーバの自動切り替え機能」の「パソコンの設定を行う」を参照して、パソコンの設定を行います。

DNS サーバ機能

NetVehicle のホストデータベースにホスト名と IP アドレスのペアを登録しておきます。登録されたホストに対する DNS リクエストがあった場合は、ProxyDNS が DNS サーバの代わりに応答します。LAN 内の情報をあらかじめホストデータベースに登録しておくと、LAN 内のホストの DNS リクエストによって回線が接続されてしまうといったトラブルを防止できます。

NetVehicle 側の設定を行う

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「ホストデータベース情報」をクリックします。
「ホストデータベース情報」ページが表示されます。

ホストデータベース情報

	ホスト名	IPアドレス	MACアドレス	Wake-up ID	修正／削除
1	-	-	-	-	修正 削除
2	-	-	-	-	修正 削除
3	-	-	-	-	修正 削除

2. 未設定の欄の「修正」ボタンをクリックします。
「ホストデータベース情報設定」ページが表示されます。

3. 以下の項目を指定します。

- ホスト名 → パソコンの名前
- IP アドレス → パソコンの IP アドレス

補足 ホストデータベース情報は「リモートパワーオン機能」、「DHCP スタティック機能」、「DNS サーバ機能」で使われており、それぞれ必要な項目だけを設定します。

ホスト名	hamster
IPアドレス	192.168.1.2

4. 「更新＋設定反映」ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

パソコン側の設定を行う

「DNS サーバの自動切り替え機能」の「パソコンの設定を行う」を参照して、パソコンの設定を行います。

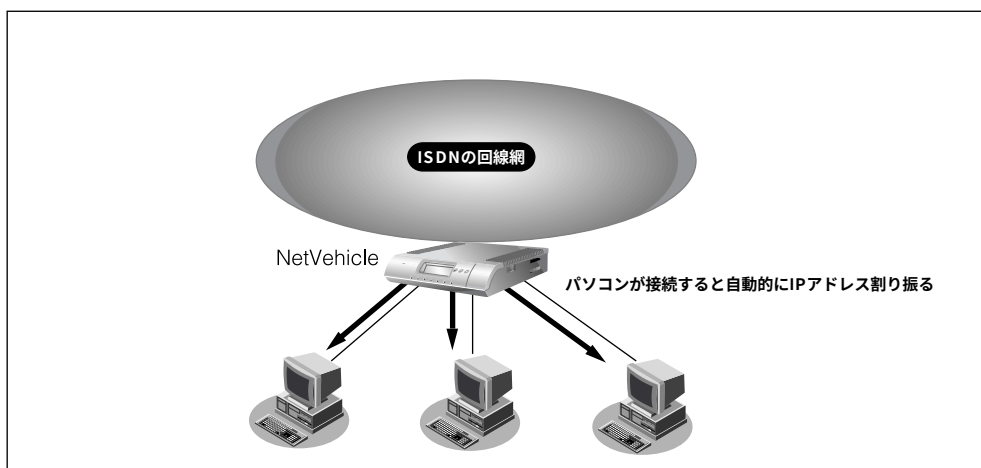


DHCP サーバ機能を使う

DHCPサーバ機能は、ネットワークに接続されているパソコンに対してIPアドレスの自動割り当てを行う機能です。IPアドレスは重複が許されず、また、パソコンが増えるたびに管理者が設定する必要がありますが、この機能を利用するとDHCPクライアント機能を持つパソコンにはIPアドレスの設定が不要になり、管理者の手間を大幅に省くことができます。

NetVehicleのDHCPサーバ機能は、以下の情報を広報することができます。

- IPアドレス
- ネットマスク
- デフォルトルータのIPアドレス
- DNSサーバのIPアドレス
- ドメイン名



DHCPサーバは空いているIPアドレスを一定期間（またはパソコンが返却するまで）割り当て、不要になったIPアドレスは自動的に再利用します。このため、パソコンのIPアドレスが変わることがあります。NetVehicleでは、IPアドレスとMACアドレスを対応づけることによって、登録されたパソコンからDHCP要求が発行されると、常に同じIPアドレスを割り当てることができます。これを「DHCPスタティック機能」といいます。

DHCPスタティック機能を利用する場合は、ホストデータベース情報にIPアドレスとMACアドレスを設定します。

- ④補足
- MACアドレスとは、LAN機器に設定されていて世界中で重複されないように管理されている固有のアドレスです。
 - NetVehicleがサポートしている「IPフィルタリング機能」、「静的NAT機能」、「マルチルーティング機能」などはパソコンのIPアドレスが固定されていないと使いにくい場合があります。これらの機能とDHCPサーバ機能の併用を実現するために、「DHCPスタティック機能」をサポートしています。

DHCP サーバ機能を使う

DHCP サーバ機能を使う場合を例に説明します。

通信条件

- NetVehicle の IP アドレス : 192.168.1.1
- DHCP サーバ機能を使用する
- パソコンに割り当てる IP アドレス : 192.168.1.2 ~ 192.168.1.32
- パソコンに割り当てる IP アドレス数 : 32 個
- LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.1.0/24

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「LAN 情報」をクリックします。
「LAN 情報設定」ページが表示されます。

2. [IP アドレス] で以下の項目を指定します。

- IP アドレス → 192.168.1.1 (NetVehicle の LAN 側の IP アドレス)
- ネットマスク → 24
- ブロードキャストアドレス → ネットワークアドレス + オール 1

[IPアドレス]

IPアドレス	192.168.1.1
ネットマスク	24 (255.255.255.0)
ブロードキャストアドレス	ネットワークアドレス + オール1

[DHCP 機能] で以下の項目を指定します。

- DHCP サーバ機能 → 使用する
- 割当て先頭 IP アドレス → 192.168.1.2
- 割当てアドレス数 → 32

補足 DHCP サーバ機能で割り当てることのできる最大数は 32 です。

[DHCP機能]

☐ 使用しない
☒ 使用する

割当て先頭IPアドレス	192.168.1.2
割当てアドレス数	32
リース期間	1 日
デフォルトルータ広報	192.168.1.1
DNSサーバ広報	192.168.1.1
セカンダリDNSサーバ広報	
ドメイン名広報	

※“割当て先頭アドレス”がNetVehicleのIPアドレスと同じネットワークアドレス内であることを確認してください。

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

DHCP スタティック機能を使う

DHCP スタティック機能を使う場合を例に説明します。

通信条件

- DHCP サーバ機能を使用する
- LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.1.0/24
- IP アドレスを固定したいパソコンの MAC アドレス : 00:00:0e:12:34:56
- 割当て IP アドレス : 192.168.1.2



こんな事に気をつけて

詳細設定の「LAN 情報」で DHCP サーバ機能を使用する設定をしていない場合は、DHCP スタティック機能の設定は有効になりません。

.....

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「ホストデータベース情報」をクリックします。
「ホストデータベース情報」ページが表示されます。

2. 未設定の欄の [修正] ボタンをクリックします。
「ホストデータベース情報設定」ページが表示されます。

3. 以下の項目を設定します。

- IP アドレス → 192.168.1.2
- MAC アドレス → 00:00:0e:12:34:56



ホストデータベース情報は「リモートパワーオン機能」、「DHCP スタティック機能」、「DNS サーバ機能」で使われており、それぞれ必要な項目だけを設定します。

IPアドレス	192	168	1	2		
MACアドレス	00	00	0e	12	34	56

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

4. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



DHCP スタティック機能で設定できるホストの最大数は32です。



外部のパソコンから着信接続する (アクセスサーバ機能)

ISDN 回線経由で外部のパソコンから NetVehicle に着信接続する場合、NetVehicle をリモートアクセスサーバとして使うこともできます。このようなアクセスができる環境は、以下のものが考えられます。

・デスクトップパソコン+TA	→ (ISDN) → NetVehicle
・ノート型パソコン+ISDN カード	→ (ISDN) → NetVehicle
・ノート型パソコン+PIAFS 通信カード+PHS	→ (PHS 網) → (ISDN) → NetVehicle
・NetVehicle	→ (ISDN) → NetVehicle

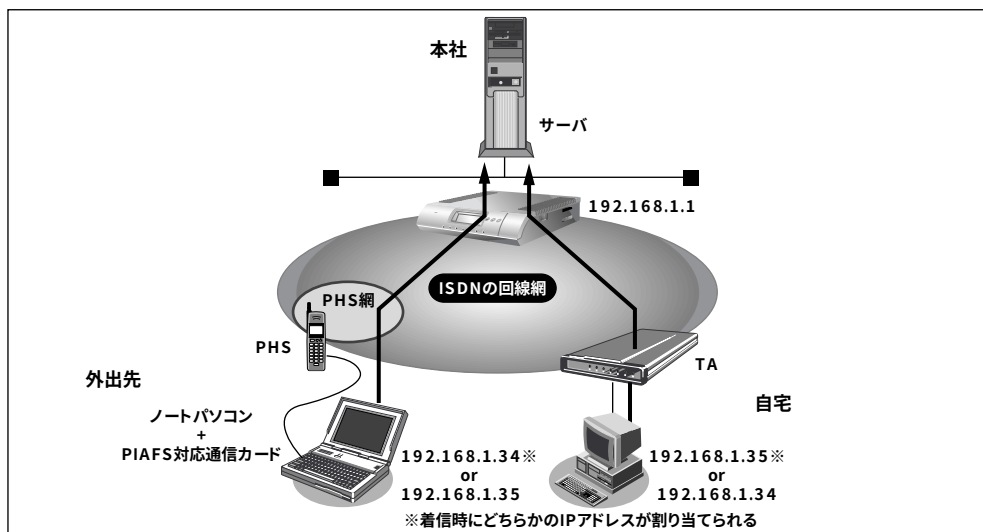


接続確認済みの PHS 端末および PIAFS 対応通信カードの組み合わせについては、NetVehicle のサポートページを参照してください。



設定方法→「外部のパソコンと接続する (TA&PHS)」(P.85)

本社の NetVehicle を設定する場合を例に説明します。LAN 情報に関する説明は省略しています。



通信条件

<ノートパソコン+ PHS> で外出先から接続

- 認証ID と認証パスワード
 - 受諾認証 : mobile
 - 受諾認証パスワード : mobilepass

■ PHS の電話番号は未登録

<パソコン+ TA> で自宅から接続

- 認証ID と認証パスワード
 - 受諾認証 : soho
 - 受諾認証パスワード : sohopass

■ 自宅の電話番号は未登録

■ 本社の LAN 側のネットワークアドレス / ネットマスク : 192.168.1.0/24

■ 外部のパソコンに割り当てる IP アドレス : 192.168.1.34、192.168.1.35



◆不正なアクセスを防止するには

NetVehicle には公衆電話からもアクセスできます。ただし公衆電話では、アクセスしてきた相手の電話番号を特定できないので、NetVehicle で使っている電話番号などの情報が外部に漏れてしまった場合はどうするのかといった問題が生じます。

NetVehicle を使ってセキュリティを向上させる方法としては、次のようなものがあります。

- ・認証情報（受諾認証ID やパスワードなど）を設定する
- ・コールバック機能を使う

回線情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「回線情報」をクリックします。
「回線情報設定」ページが表示されます。

2. [回線情報] で以下の項目を指定します。

- 回線インタフェース → ISDN

[回線情報]		?
回線インタフェース	☒ ISDN ☐ HSD(64Kbps) ☐ HSD(128Kbps)	

[ISDN 情報] で以下の項目を指定します。

- 着信動作 → 相手毎に設定

着信動作	☐ すべて禁止 ☒ 相手毎に設定

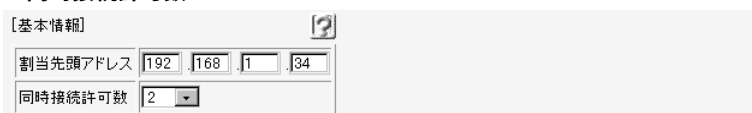
必要に応じて上記以外の項目を設定します。

3. [更新] ボタンをクリックします。

不特定な相手と着信接続するために必要な情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] の「不特定相手着信」の欄の[修正] ボタンをクリックします。
「不特定相手情報設定」ページが表示されます。
3. [基本情報] で以下の項目を指定します。

- 割当先頭アドレス → 192.168.1.34
- 同時接続許可数 → 2



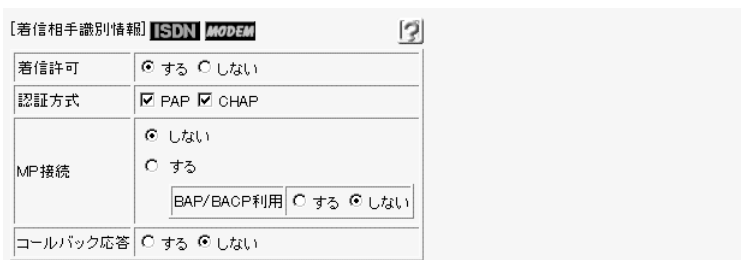
必要に応じて上記以外の項目を設定します。

4. [更新] ボタンをクリックします。

着信相手を識別するために必要な情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [着信相手識別情報] で以下の項目を指定します。

- 着信許可 → する
- 認証方式 → 「PAP」および「CHAP」
- MP 接続 → しない
- コールバック応答 → しない



必要に応じて上記以外の項目を設定します。

3. [更新] ボタンをクリックします。

受諾認証情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。

2. [受諾認証ID 情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「PPP 受諾認証情報」ページが表示されます。

3. [受諾認証情報] で以下の項目を指定します。

- 受諾認証ID → mobile
- 受諾認証パスワード → mobilepass



[受諾認証情報] ?	
受諾認証ID	mobile
受諾認証パスワード	*****

4. [更新] ボタンをクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。

5. 手順 2.、3. を参考に、＜パソコン＋TA＞の情報も追加してください。

- 受諾認証ID → soho
- 受諾認証パスワード → sohopass

6. [更新＋設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



認証ID による接続相手の識別

NetVehicle は着信時の相手識別を発信者番号通知によって行っています。

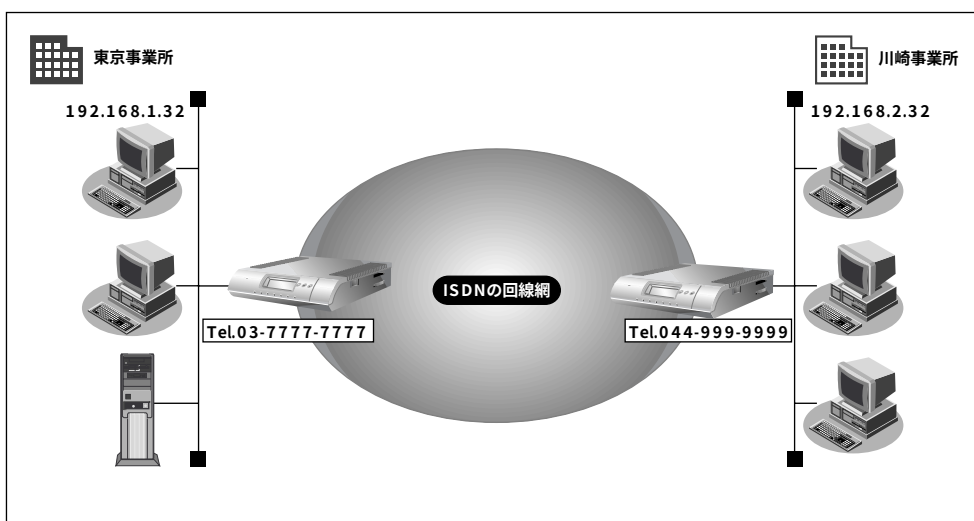
しかし、発信者番号から相手を特定できないことがあります。このような相手と通信する場合、PPP の認証プロトコルを利用することにより、認証ID による接続相手の識別が必要となります。

認証ID による相手識別は以下の場合に必要となります。

- ・着信時に発信者番号が通知されない場合
- ・同一相手からの着信時の発信者番号が毎回異なる場合

ここでは、東京事業所の NetVehicle の設定で、設定済みの接続先情報（川崎事業所）に認証ID で特定するための情報を追加する場合を例に説明します。ISDN 回線を介して2つの事業所（東京、川崎）のネットワークを接続します。

一方の事業所でサーバを公開していて、着信接続します。



通信条件

- 認証ID と認証パスワード（川崎事業所用）
 - 受諾認証 : kawasaki
 - 受諾認証パスワード : kawapass
 - 東京事業所でサーバを公開している
 - 川崎事業所では電話番号を通知しない設定をしている
- 電話番号から特定できない相手との着信処理
- 認証方式 PAP/CHAP
 - MP 接続しない
 - コールバック応答しない

参照する情報

[東京事業所]

- 川崎事業所のネットワークの名前 : kaisya
- 接続先の名前 : kawasaki



接続先情報の設定→「事業所 LAN どうしを ISDN で接続する」(P.75)

回線接続情報（東京事業所）を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「回線情報」をクリックします。
「回線情報設定」ページが表示されます。

2. [ISDN 情報] で以下の項目を指定します。

- 着信動作 → 相手毎に設定

着信動作	☐ すべて禁止 ☒ 相手毎に設定

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

3. [更新] ボタンをクリックします。

着信相手を識別するために必要な情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。

2. [着信相手識別情報] で以下の項目を指定します。

- 着信許可 → する
- 認証方式 → 「PAP」および「CHAP」
- MP 接続 → しない
- コールバック応答 → しない

[着信相手識別情報] ISDN MODEM ?	
着信許可	☒ する ☐ しない
認証方式	☒ PAP ☒ CHAP
MP 接続	☒ しない ☐ する BAF/BACP利用 ☐ する ☒ しない
コールバック応答	☐ する ☒ しない

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

3. [更新] ボタンをクリックします。

接続先の情報（川崎事業所）を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] で「kaisya」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [接続先一覧] で「kawasaki」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。
4. [着信情報] で以下の項目を指定します。
 - 着信許可 → する
 - 認証 ID → kawasaki
 - 認証パスワード → kawapass

[着信情報]	
着信許可	☒ する ☐ しない
受諾認証情報	認証ID: kawasak i
	認証パスワード: *****

[発信者番号識別による着信情報] で以下の項目を指定します。

- 発信者番号による識別 → 番号チェックをしない

[発信者番号識別による着信情報]	
発信者番号による識別	☒ 番号チェックをしない ☐ 番号チェックをする

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

5. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



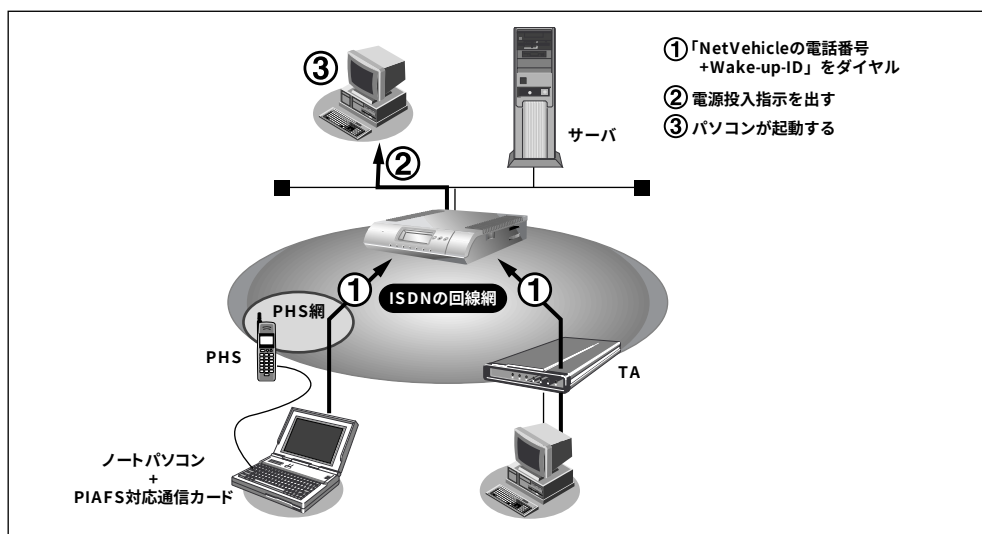
外出先や自宅から会社のパソコンを起動させる（リモートパワーオン機能）

NetVehicleの「リモートパワーオン機能」は、Wakeup on LAN 機能を使用して電源OFF状態のパソコンを、外出先や自宅のサブアドレスを使用できる電話機（PHSを含む）から起動させることができます。



こんな事に気をつけて

サブアドレスを指定できないアナログ電話からはこの機能を利用できません。



◆ Wakeup on LAN 機能とは？

AMD 社が開発したネットワーク上の電源OFF状態のパソコンを遠隔操作で起動する機能です。起動は Magic Packet と呼ばれるパケットを送付して行います。なお、Wakeup on LAN 機能はパソコンを起動するだけで電源OFFは行いません。

電源OFFする場合は、別途、電源制御用ソフトウェアが必要になります。



- ・本機能は、Wakeup on LAN に対応したパソコンだけで利用できます。Wakeup on LAN 対応機種については、パソコンのメーカーにお問い合わせください。
- ・本機能は、サブアドレスを指定できる ISDN 機器（電話、PHS 等）で利用できます。
- ・本機能を使用するだけでは、課金されません。

起動条件を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「ホストデータベース情報」をクリックします。
「ホストデータベース情報」ページが表示されます。
2. 未設定の欄の「修正」ボタンをクリックします。
「ホストデータベース情報設定」ページが表示されます。
3. 以下の項目を指定します。
 - MAC アドレス → 起動させたいパソコンの MAC アドレス
 - Wake-up-ID → 起動させるためのキー番号（任意の英数字で 19 文字まで）



こんな事に気をつけて

「Wake-up-ID」と実際に存在する ISDN 機器のサブアドレスが重複しないようにしてください。



- ・この「Wake-up-ID」による依頼を受けた NetVehicle は、同じ「Wake-up-ID」を持つ、すべてのパソコンに Magic Packet を送信し電源投入指示を行います。
- ・複数のパソコンに同じ「Wake-up-ID」を設定すると、一回のリモートパワーオン依頼で複数のパソコンを起動することができます。
- ・ホストデータベース情報は「リモートパワーオン機能」、「DHCP スタティック機能」、「DNS サーバ機能」で使われており、それぞれ必要な項目だけを設定します。



MAC アドレス → ■基本編 「補足」(P. 66)

ホスト名	
IPアドレス	192 . 168 . 1 . 2
MACアドレス	00 : 00 : 0e : 22 : 01 : 23
Wake-up-ID	5678

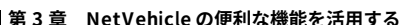
4. 「更新+設定反映」ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

リモートパワーオン機能を使う

1. パソコンまたは電話機で、NetVehicle の電話番号（ISDN 契約者番号）を入力します。
2. 相手先サブアドレスに、起動させたいパソコンの「Wake-up-ID」を指定します。
NetVehicle が該当するパソコンに対して「Magic Packet」を送信し、パソコンが起動します。



- ・パソコンが Magic Packet を受信してから起動が完了するまで、数十秒から数分かかります（お使いの機種や OS によって異なります）。



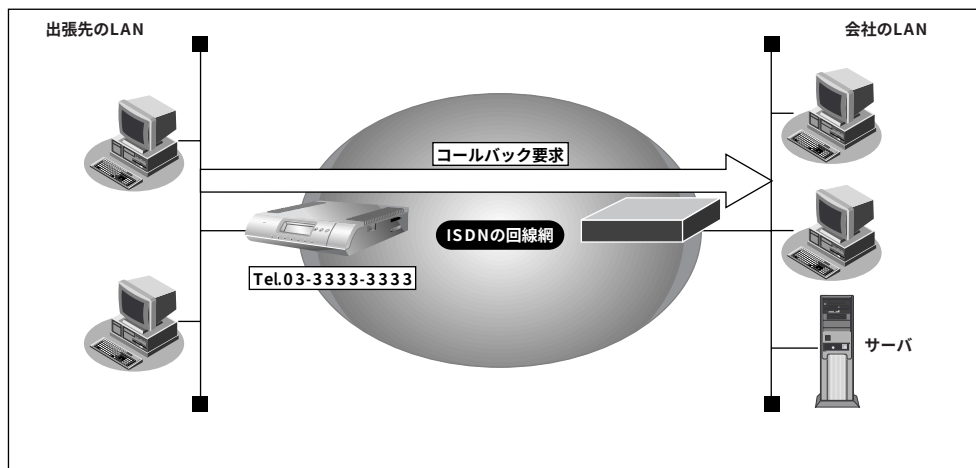
以下にコールバック機能を利用した設定例を記述します。

- (1) CBCP 方式でコールバック要求する
- (2) CBCP 方式でコールバック応答する
- (3) 無課金コールバックでコールバック要求する
- (4) 無課金コールバックでコールバック応答する

ここでは、設定済みの接続先にコールバックを追加する場合を例に説明します。

CBCP 方式でコールバック要求する

出張先のパソコンから会社のサーバにアクセスする際、コールバック要求を発行する例について説明します。



通信条件

- コールバックは CBCP 方式を指定
- コールバック時の電話番号 : 03-3333-3333
- コールバックウェイトタイム : 60 秒

参照する情報

- 会社のネットワークの名前 : kaisya
- 接続先の名前 : office



接続先情報の設定→「インターネットと LAN に同時接続する」(P.81)

コールバックを要求する接続先の情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] で「kaisya」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [接続先一覧] で「office」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。

4. [発信情報] で以下の項目を指定します。

- コールバック要求 → する
- コールバック方式 → CBCP
- コールバックウェイトタイマ → 60 秒
- コールバック電話番号 → 03-3333-3333

- ⓧ 補足
- ・「コールバック電話番号」および「コールバックサブアドレス」で設定した番号は、コールバック元に対して通知するかけ直し電話番号およびサブアドレスを設定します。
 - ・「コールバックウェイトタイマ」とはコールバック要求発行後、相手からのコールバック着信までの待ち時間です。この時間内に着信が行われない場合、コールバックは失敗となります。(推奨値：60 秒)
コールバックがうまく動作しないときは、この時間を長くしてみてください。

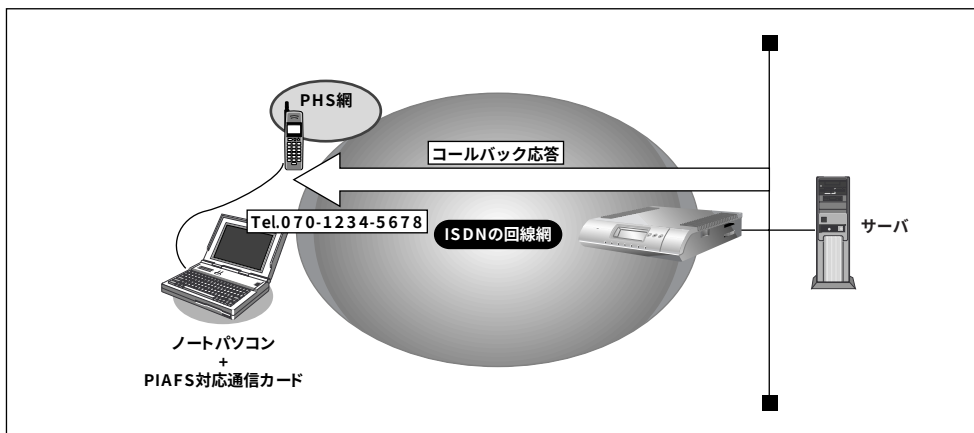
コールバック要求 ISDN	☐ しない	
	☒ する	
	コールバック方式	CBCP
	コールバックウェイトタイマ	60 秒
	コールバック電話番号	03-3333-3333
	コールバックサブアドレス	

5. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

CBCP 方式でコールバック応答する

出張先から会社のサーバに<ノートパソコン+ PHS>からアクセスがあった場合に、コールバック応答する例について説明します。



通信条件

- ノートパソコン + PHS で出張先からアクセスする
- コールバックはCBCP方式を指定
- コールバックウェイトタイム : 10 秒

参照する情報

- 出張時のネットワークの名前 : outside
- 接続先の名前 : PHS



接続先情報の設定→「外部のパソコンと接続する(TA&PHS)」(P.85)

コールバック応答する接続先の情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] でネットワーク名「outside」欄の [修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [接続先一覧] で「PHS」欄の [修正] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。

4. [発信者番号識別による着信情報] で以下の項目を指定します。

- コールバック応答 → する
- コールバック方式 → CBCP
- コールバックウェイトタイマ → 10 秒
- コールバック電話番号 → 070-1234-5678

コールバック応答	☐ しない	
	☒ する	
	コールバック方式	CBCP ▼
	コールバックウェイトタイマ	10 秒
	コールバック電話番号	070-1234-5678
	コールバックサブアドレス	

◆補足◆ ・着信情報で「コールバック電話番号」および「コールバックサブアドレス」を設定した場合、コールバック時には、着信時に相手から通知される電話番号とサブアドレスではなく、ここに設定された番号を優先して使用します。

・「コールバックウェイトタイマ」とはコールバック要求を受け取ってからかけ直すまでの待ち時間です。回線が切断されても交換機でしばらくは回線空き状態に戻らないため、それを待ち合わせるために使用します。
(推奨値：10 秒)
コールバックがうまく動作しないときは、この時間を長くしてみてください。

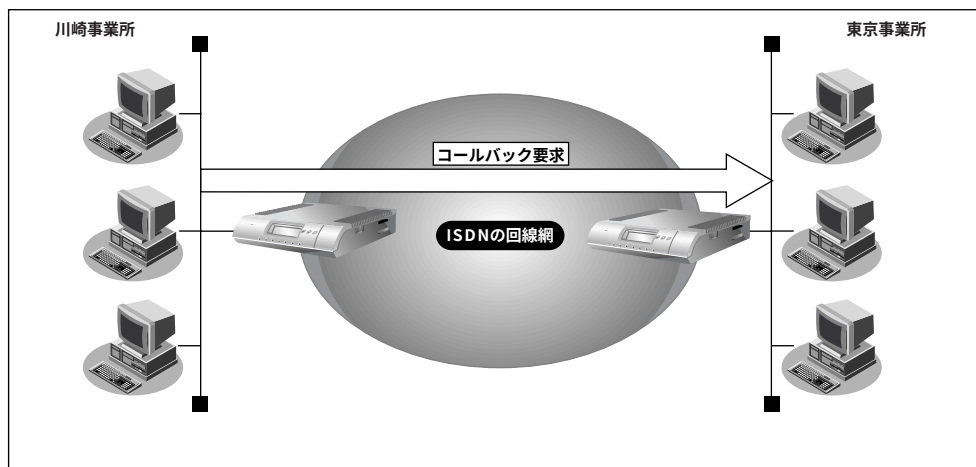
5. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

◆補足◆ 上記のように出張先からの着信接続を行うための設定方法として「外部のパソコンから着信接続する（アクセスサーバ機能）」(P.137)があります。その設定方法でも、コールバック応答を指定することができます。

無課金コールバックでコールバック要求する

NetVehicle どうしを使って、ISDN 回線を介して2つの事業所（東京、川崎）のネットワークを接続した場合を例に説明します。川崎事業所から東京事業所に接続する際、コールバック要求をする情報を追加します。



通信条件

- コールバックは無課金方式を使用
- コールバックウェイトタイム : 60 秒

参照する情報

[川崎事業所]

- 東京事業所のネットワークの名前 : kaisya
- 接続先の名前 : tokyo



「事業所 LAN どうしを ISDN で接続する」(P.75)

コールバック要求する接続先の情報を設定する（川崎事業所）

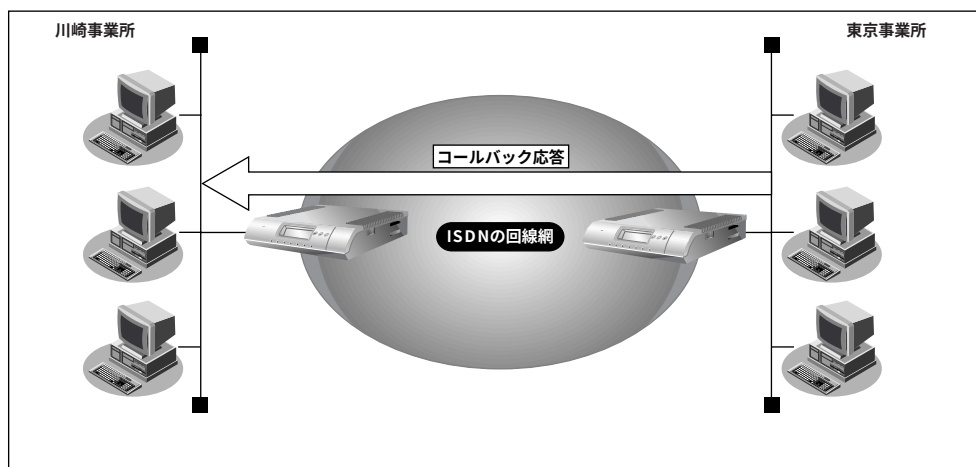
1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] でネットワーク名「kaisya」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [接続先一覧] で「tokyo」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。
4. [発信情報] で以下の項目を指定します。
 - コールバック要求 → する
 - コールバック方式 → 無課金
 - コールバックウェイトタイム → 60 秒

補足 無課金コールバックでは[発信情報]で「コールバック電話番号」および「コールバックサブアドレス」を設定しても、これらの番号は相手に通知されません。

- 5.** [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

■ 無課金コールバックでコールバック応答する

NetVehicle どうしを使って、ISDN回線を介して2つの事業所（東京、川崎）のネットワークを接続した場合を例に説明します。川崎事業所から東京事業所に接続する際、東京事業所からコールバック応答をする情報を追加します。



通信条件

- コールバックは無課金方式を使用
- コールバックウェイトタイム : 10 秒

参照する情報

[東京事業所]

- 川崎事業所のネットワークの名前 : kaisya
- 接続先の名前 : kawasaki

 参照 「事業所 LAN どうしを ISDN で接続する」(P.75)

コールバック応答する接続先の情報を設定する（東京事業所）

- 1.** 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
- 2.** [ネットワーク情報一覧] で「kaisya」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
- 3.** [接続先一覧] で「kawasaki」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。
- 4.** [発信者番号識別による着信情報] で以下の項目を指定します。
 - コールバック応答 → する
 - コールバック方式 → 無課金
 - コールバックウェイトタイム → 10 秒

5. **【更新＋設定反映】** ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



マルチ TA 機能を使う

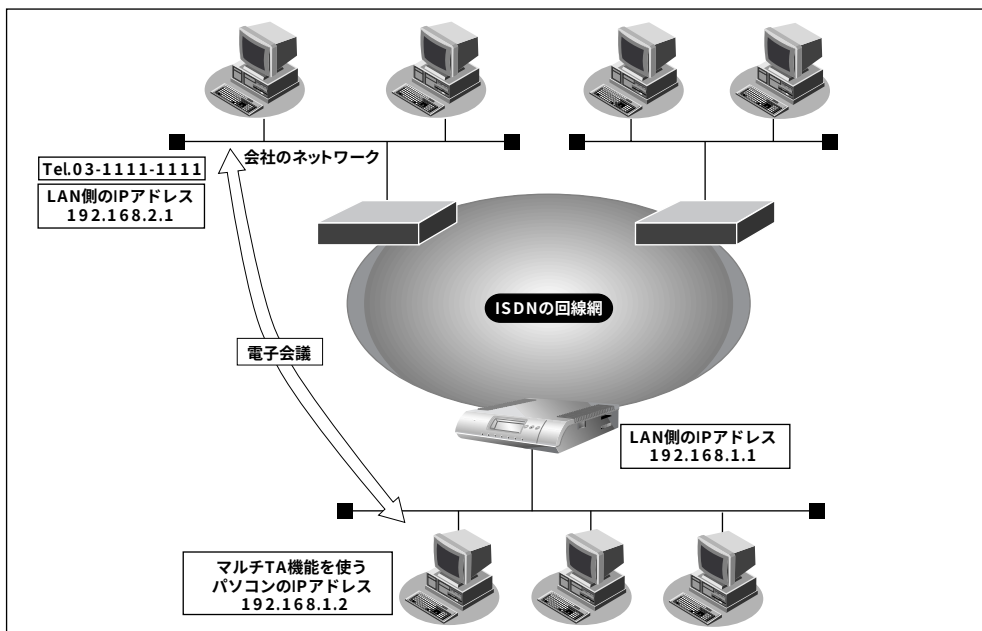
NetVehicle はマルチ TA 機能をサポートしています。マルチ TA 機能を使用すると、LAN 上につながれたパソコンから NetVehicle を擬似的な TA として共有できます。マルチ TA 機能とルータ機能を同時に使用することもできます。パソコンから、NAT を使用せずに通信が行えるので、NAT を利用すると通信できないアプリケーション（例えば、電子会議やインターネットゲームなど）を使用する際に便利です。



こんな事に気をつけて

- マルチ TA 機能は、Windows® 95、Windows® 98 または Windows® 2000 のダイヤルアップネットワークに含まれる VPN の機能を利用して、装置に RS232C 接続された TA からの発信と同等の PPP セッションを確立を行うことが可能です。動作確認済みの OS は、Windows® 95/98/2000 です。Windows® 95 の場合は、Microsoft® Windows® 95 ダイヤルアップネットワーク 1.3 アップグレードが必要です。
- マルチ TA 機能を使用する場合、以下の動作は行えません。
 - ・着信
 - ・コールバック
 - ・MP
 - ・課金制御機能
 - ・スケジュール機能
- マルチ TA 機能の使用中は、かんたん操作の「強制切断」は使用できません。
- パソコン側の設定で DNS サーバが指定されており、かつ、ルータ設定で「相手情報」の「自動ダイヤル」に「する」が設定されている場合にマルチ TA 機能を使用すると、2 回線（B チャネル 1 本をルータ機能、もう 1 本をマルチ TA 機能）接続されるため異常課金の原因になることがあります。また、アナログ機器で先に回線を 1 本使用している場合、マルチ TA 機能を使用できない場合があります。

ここでは、ある特定のパソコンでマルチ TA 機能を利用して電子会議を行う場合を例に説明します。



通信条件

- ISDN に接続する
- 端末型ダイヤルアップ接続を行う
- 電子会議をするパソコンの IP アドレス : 192.168.1.2
- 会社のルータが接続されている電話番号 : 03-1111-1111
- 会社のルータの IP アドレス : 192.168.2.1
- 5 時間経過した場合回線を強制切断する
- ユーザ認証 ID (会社) : user1
- ユーザ認証パスワード (会社) : userpass

マルチ TA 情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「マルチ TA 情報」をクリックします。
「マルチ TA 情報」ページが表示されます。

2. 以下の項目を指定します。
 - マルチ TA の使用 → 使用する
 - 同時アクセス数 → 1
 - アクセス制限 → 下記のパソコンのみ許可する
 - IP アドレス → 192.168.1.2
 - アドレスマスク → 32
 - 強制切断タイマ → 5

マルチTAの使用	☐ 使用しない ☒ 使用する
同時アクセス数	1
アクセス制限	☐ 全て許可する
	☒ 下記のパソコンのみ許可する
	IPアドレス: 192.168.1.2 アドレスマスク: 32 (255.255.255.255)
強制切断タイマ	5 時間

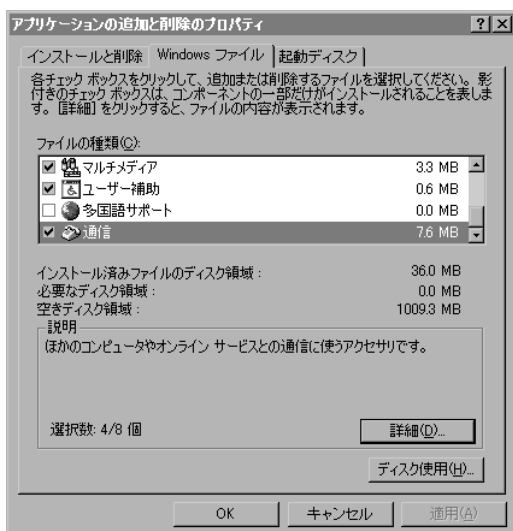
3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

VPN アダプタを準備する (Windows® 95 / 98 の場合)

Windows® 95 をお使いの場合は、Microsoft® Windows® 95 ダイアルアップネットワーク 1.3 アップグレードのマニュアルを参照してください。

Windows デスクトップの設定で「Web スタイル」を指定してある場合は、「ダブルクリック」と記載してあるところは「シングルクリック」で操作できます。

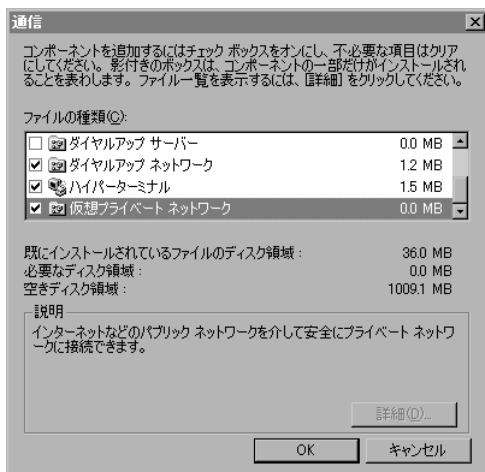
1. 「コントロールパネル」ウィンドウを開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。
2. 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログボックスで「Windows ファイル」タブをクリックして選択します。「ファイルの種類」ボックスで「通信」を選択し、[詳細] ボタンをクリックします。



「通信」ダイアログボックスが表示されます。

ここで「ファイルの種類」ボックスに「ダイアルアップネットワーク」および「仮想プライベートネットワーク」が選択されているかを確認し、なければ次に示す手順で準備します。

3. 「ダイアルアップネットワーク」および「仮想プライベートネットワーク」をチェックし、[OK] ボタンをクリックします。



4. 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログボックスで [OK] ボタンをクリックします。

ダイヤルアップネットワークの設定をする (Windows® 95 / 98 の場合)

1. Windows® の画面左上の「マイコンピュータ」をダブルクリックします。
2. 「マイコンピュータ」の「ダイヤルアップネットワーク」をダブルクリックします。
3. 「ダイヤルアップネットワーク」の「新しい接続」をダブルクリックします。
4. 「新しい接続」で以下の項目を指定します。
 - 接続名 → ISP 仮想接続
 - モデム → Microsoft VPN Adapter



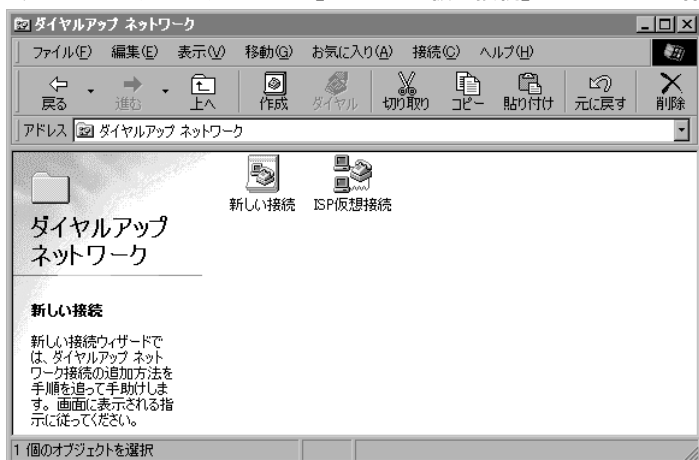
5. [次へ] ボタンをクリックします。
6. 以下の項目を指定します。
 - ホスト名または IP アドレス → 192.168.1.1 03-1111-1111 (IP アドレスと電話番号の間に半角空白を入れます)



補足 相手のサブアドレスを指定する場合は、電話番号の後ろに * で続けて指定します。

7. [次へ] ボタンをクリックします。

8. [完了] ボタンをクリックします。
「ダイヤルアップネットワーク」に「ISP 仮想接続」のアイコンが作成されます。



9. 「ISP 仮想接続」のアイコンを選択し、「ファイル」メニューから「プロパティ」を選択します。

10. 「サーバーの種類」タブをクリックします。

11. 以下の項目を指定します。

- 使用できるネットワークプロトコル → TCP/IP



!! こんな事に気をつけて

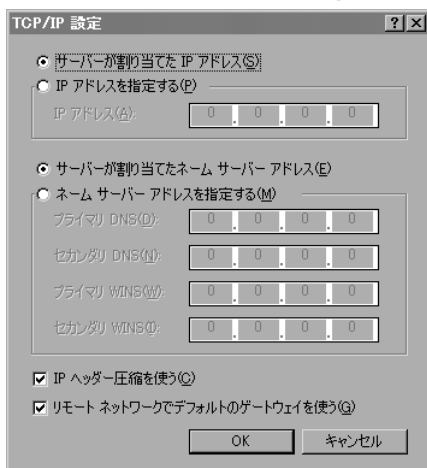
[詳細オプション] の「データの暗号化を使う」は選択（使用）しないでください。

.....

12. [TCP/IP 設定] をクリックします。

13. 以下の項目を指定します。

- サーバーが割り当てた IP アドレス → 選択する
- サーバーが割り当てたネームサーバアドレス → 選択する
- IP ヘッダー圧縮を使用 → 選択する
- リモートネットワークでデフォルトのゲートウェイを使用 → 選択する

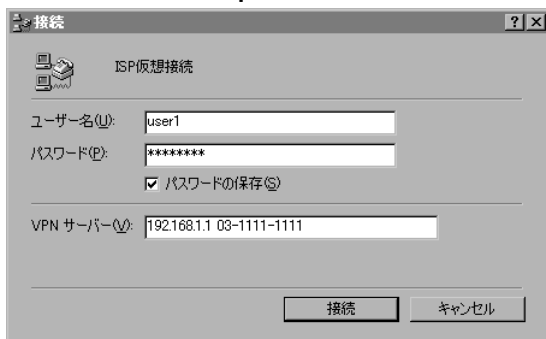


14. [OK] ボタンをクリックします。

15. 「ISP 仮想接続」ダイアログボックスで [OK] ボタンをクリックします。 設定を終了します。

マルチTA機能を使って会社のネットワークに接続する (Windows® 95 / 98 の場合)

1. Windows の画面左上の「マイコンピュータ」の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
2. 「ダイヤルアップネットワーク」の「ISP 仮想接続」をダブルクリックします。
[接続] ダイアログボックスが表示されます。
3. 「ユーザー名」と「パスワード」を指定します。
 - ユーザー名 → user1
 - パスワード → userpass



4. [接続] ボタンをクリックします。

「ユーザー名」と「パスワード」の確認処理が終わると、回線が接続されます。
タスクバーにダイヤルアップネットワークのインジケータが表示されます。



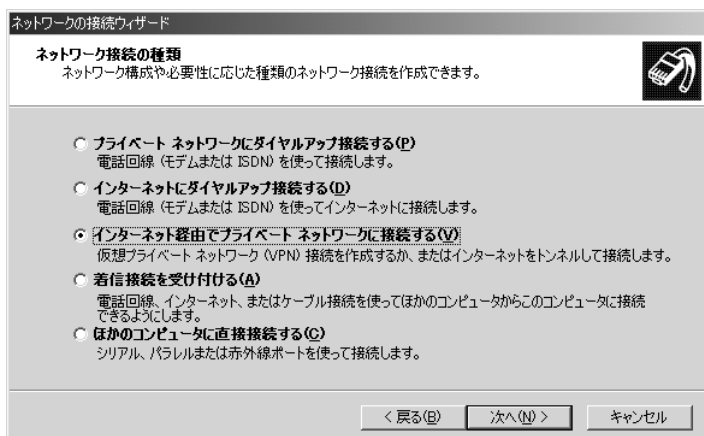
5. 回線を切断するときは、ダイヤルアップネットワークのインジケータをダブルクリックして、表示されたダイアログボックスで [切断] ボタンをクリックします。



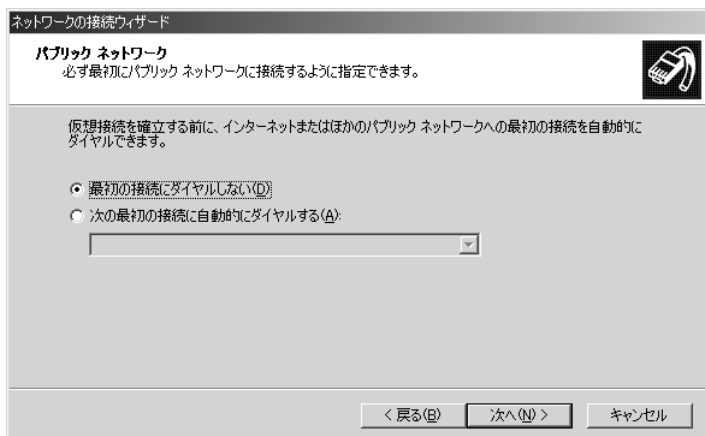
補足 NetVehicle、パソコン間がLANでつながっているため、「ISP 仮想接続に接続」画面上には、「10,000,000bpsで接続」と表示されます。

ダイヤルアップネットワークの設定をする (Windows® 2000 の場合)

1. 「コントロールパネル」ウィンドウを開き、「ネットワークとダイヤルアップ」アイコンをダブルクリックします。
2. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」の「新しい接続」をダブルクリックします。
3. [次へ] ボタンをクリックします。
4. 「ネットワーク接続の種類」で「インターネット経由でプライベートネットワークに接続する」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



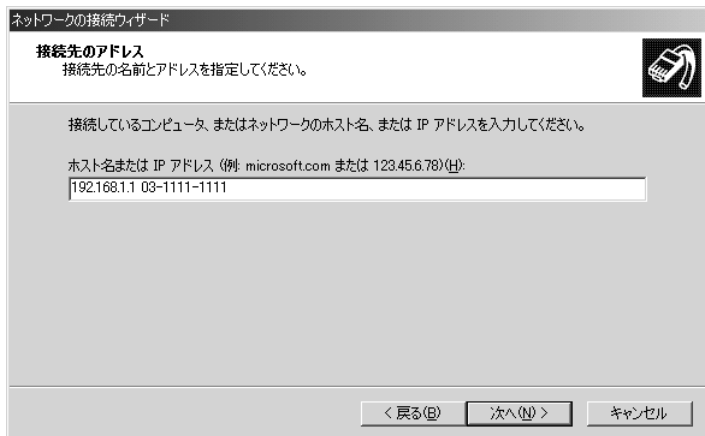
- 5.** 「パブリックネットワーク」で「最初の接続にダイヤルしない」のラジオボタンがチェックされていることを確認します。「パブリックネットワーク」設定画面が表示されない場合、手順 7. に進みます。



- 6.** [次へ] ボタンをクリックします。

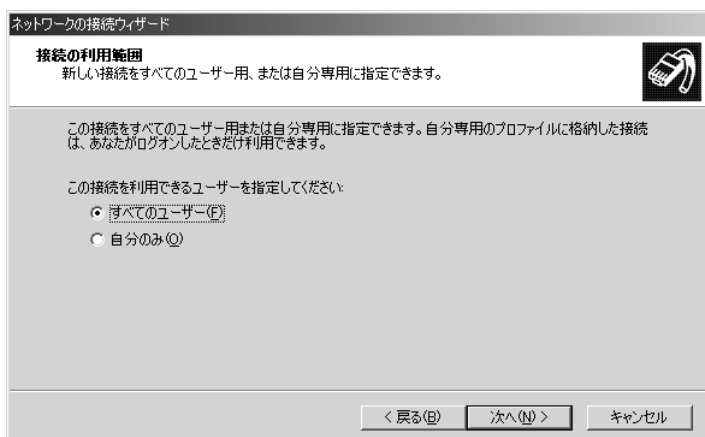
- 7.** 「接続先のアドレス」で以下の項目を指定します。

- ・ホスト名または IP アドレス → 192.168.1.1 03-1111-1111
(IP アドレスと電話番号の間に半角空白を入れます)



8. [次へ] ボタンをクリックします。

「接続の利用範囲」で「すべてのユーザ」のラジオボタンがチェックされていることを確認します。



9. [次へ] ボタンをクリックします。

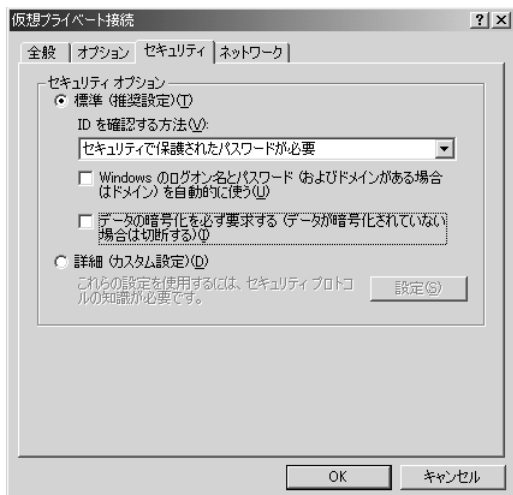
10. [完了] ボタンをクリックします。

11. 接続画面が表示されたら、「プロパティ」を選択します。



12. 「セキュリティ」タブをクリックします。

- 13 「セキュリティオプション」で「データの暗号化を必ず要求する（データが暗号化されていない場合は切断する）」のチェックボックスのチェックを外します。



14. [OK] ボタンをクリックします。
15. [キャンセル] ボタンをクリックして設定を終了します。

マルチ TA 機能を使って会社のネットワークに接続する（Windows® 2000 の場合）

1. 「コントロールパネル」ウィンドウを開き、「ネットワークとダイヤルアップ」アイコンをダブルクリックします。
2. 「仮想プライベートネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
3. 「ユーザ名」と「パスワード」を指定します。
 ユーザー名 → user1
 パスワード → userpass



4. [接続] ボタンをクリックします。

「ユーザ名」と「パスワード」の確認処理が終わると、回線が接続されます。
タスクバーにダイヤルアップネットワークのインジケータが表示されます。



5. 回線を切断するときは、ダイヤルアップネットワークのインジケータをダブルクリックして、表示されたダイアログボックスで [切断] ボタンをクリックします。





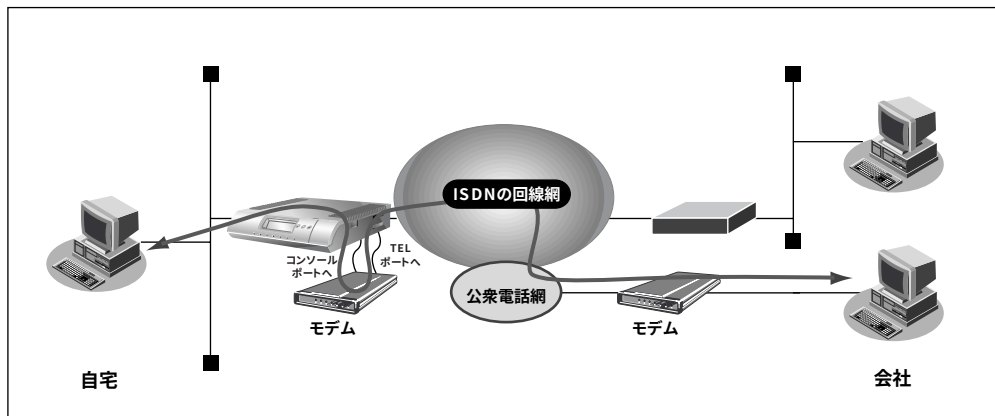
モデムを使ってアナログ回線と通信する

NetVehicleのシリアルポートにモデムを接続することにより、アナログ回線に接続されているパソコンと通信することができます。

主な使い方は以下のとおりです。

- ・ISDNの契約前に既存の電話回線を使用して通信する
- ・ISDNの契約後にアナログ回線で通信する

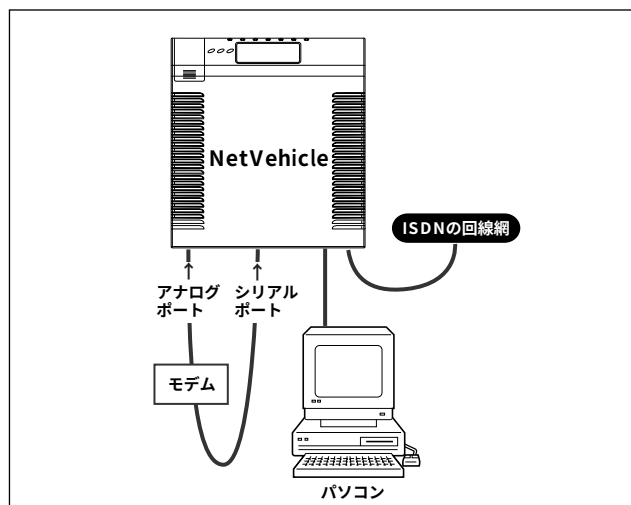
ここでは、ISDNの契約後にアナログ回線で通信する場合を例に説明します。



通信条件

- モデムを使って、会社のパソコンに接続する
- モデムの種類 : Fujitsu FMFX-311
- シリアルポート通信速度 : 115200bps
- 会社の電話番号 : 03-4444-5555
- ユーザ認証ID : USER31
- ユーザ認証パスワード : userpass

モデムは、以下の図のように接続します。



アナログポート情報を設定する

モデムを接続したポートのアナログポート情報を設定します。ここでは、アナログポート 1 に接続した場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。

2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 接続機器 → モデム

[装置の動作に関連する設定項目] 	
接続機器	☐ 電話 ☒ モデム
	☐ FAX ☐ FAX(無鳴動強制着信)
	☐ FAX(無鳴動識別着信) ☐ なし

3. [更新] ボタンをクリックします。

接続先の情報（会社）を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。

2. [ネットワーク情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。

3. [基本情報] で以下の項目を指定します。

- ネットワーク名 → kaisya（接続するネットワークの名称）
- 自動ダイヤル → する

[基本情報] 	
ネットワーク名	kaisya
データ圧縮	☒ VJ
WAN側IPアドレス	☒ 設定しない ☐ 設定する 相手IPアドレス 自側IPアドレス
MTUサイズ	1500 バイト
自動ダイヤル ISDN MODEM	☒ する ☐ しない

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

4. [接続先一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「このページの情報が変更されています。更新しますか？」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。

5. [基本情報] で以下の項目を指定します。

- 接続先名 → office
- ダイヤル 1 (電話番号) → 03-4444-5555
- 相手種別 → モデム

[基本情報]	
接続先名	office
ダイヤル1	電話番号 03-4444-5555
	サブアドレス
	相手種別 モデム

[発信情報] で以下の項目を指定します。

- 認証 ID → user31
- 認証パスワード → userpass

[発信情報]	
送信認証情報	送信認証ID user31
	認証パスワード ****

必要に応じて上記以外の項目を設定します。

6. [更新] ボタンをクリックします。 「ネットワーク情報設定」ページに戻ります。

7. [更新] ボタンをクリックします。 「相手情報設定」ページに戻ります。

8. [更新] ボタンをクリックします。

モデム情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「モデム情報」をクリックします。 「モデム情報設定」ページが表示されます。

2. [モデム情報ファイル読み込み] で [参照] ボタンを押します。お使いになるモデムのモデム情報ファイル名を指定し、[次へ] ボタンを押します。

 モデム情報ファイルは、必ず Windows® 95/98 用のものを指定してください。

「モデム情報設定」ページが表示されます。

3. [モデム名の選択] で以下の項目を指定します。

- モデム名 → Fujitsu FMFX-311（ご使用になるモデム名を指定）

[モデム名の選択] 

モデム名

4. [更新] ボタンをクリックします。

「モデム情報設定」ページに戻ります。選択したモデムに応じた情報が自動的に設定されます。

[基本情報] 

モデム名	Fujitsu FMFX-311
シリアルポート通信速度	115200
ATコマンドタイムアウト時間	10 秒
ダイヤル種別	☒ トーン ☐ パルス
スピーカの使用	☐ on ☒ 呼毎 ☐ off
スピーカ音量	☐ 大 ☒ 中 ☐ 小
ダイヤルトーン検知	☒ 検知する ☐ 検知しない

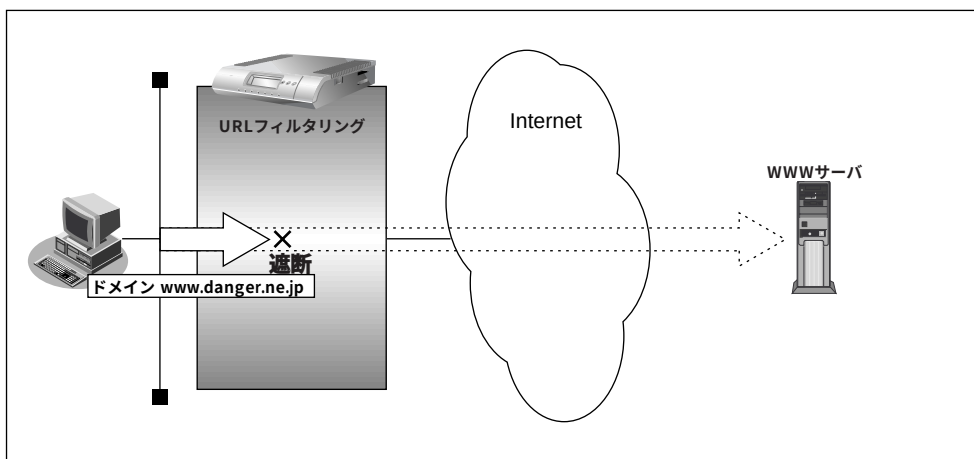
5. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



特定の URL へのアクセスを禁止する (URL フィルタ機能)

NetVehicleの「URL フィルタ機能」を利用すると、特定の URL へのアクセスを禁止することができます。URL フィルタ機能を使用する場合は、「ProxyDNS 情報」で設定します。以下に設定例を説明します。



通信条件

- アクセスを禁止するドメイン名：www.danger.ne.jp

URL の情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「URL フィルタ情報」をクリックします。「ProxyDNS 情報」ページが表示されます。
2. [順引き情報一覧] の [追加] ボタンをクリックします。「ProxyDNS 情報設定 (順引き)」ページが表示されます。
3. 以下の項目を指定します。
 - ドメイン名 → www.danger.ne.jp
 - 動作 → 破棄する

ドメイン名		www.danger.ne.jp	
タイプ		すべて (番号指定 "その他" を選択時のみ有効です。)	
送信元情報	IPアドレス		
	アドレスマスク	0.0.0.0	
動作	☒ 廃棄する		
	☐ 接続先のDNSサーバへ問い合わせる		
	ネットワーク名		
	☐ 設定したDNSサーバへ問い合わせる		
			DNSサーバアドレス

- 4.** [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



◆ 「*」は使えるの？

例えば「www.danger.ne.jp」と「XXX.danger.ne.jp」の両方をURLフィルタの対象とする場合は「*.danger.ne.jp」と指定することで両方を対象にできます。



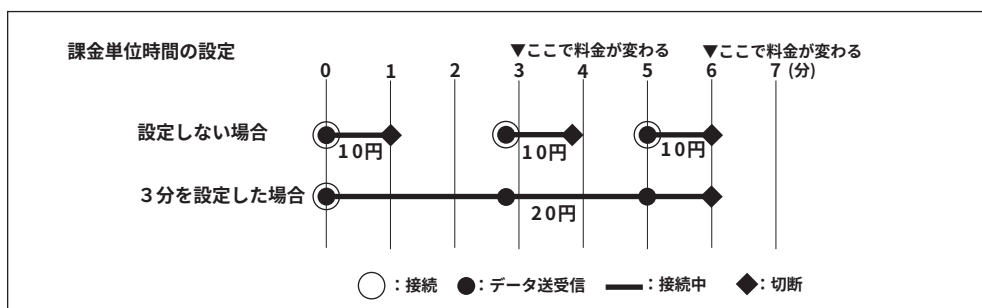
通信料金を節約する（課金制御機能）

NetVehicleは通信料金を節約するための機能を備えています。通信料金の無駄、使い過ぎを防ぐことができます。

ISDN回線やプロバイダの多くは一定時間を単位として料金を算定する従量課金制度を利用して料金を決めています。通信料金が3分10円で計算される場合、3分の中で何度も切断／接続を繰り返すと、料金額はその回数×10円になります。

そこで課金単位時間（通信料金が計算されるとき単位時間）を設定し、無通信監視タイマ（初期値設定：60秒）と連動することで、単位時間内は回線を切断させないようにします。無通信監視タイマとは、アクセスがなければ自動的に切断するときの単位時間です。

課金単位時間に3分間を指定した場合、以下ようになります。



また、データ通信に費やした通信時間や通信料金が一定の値を超えた場合、接続を禁止したり、ログにアラームを出したりする機能もあります（課金制御機能）。無意識のうちに通信料金を使いすぎてしまうのを防げます。

- 補足**
- ・超過課金対策のため、初期設定において1週間（毎週金曜日に課金情報をクリアする）で通信料金の累計が3,000円を超えると発信抑止されるように設定されています。
 - ・通信時間や通信料金が設定した値を超え接続できなくなった場合でもアナログ機器の動作には影響しません。



こんな事に気をつけて

- 設定前に NetVehicle の内部時計を正しくセットしてください。
- 課金制御機能は、指定された料金を超えた場合に発呼を抑制する機能ですが、運用中の回線を切断する機能ではありません。回線の接続中に指定された料金を超えても回線が接続中のままだと料金がかかり続けます。その結果、通信料金が指定された金額を超えるのでご注意ください。

課金単位時間を設定する

ここでは、ネットワーク名 (internet) 配下の「接続先情報」としてプロバイダ A (ISP-A) がすでに登録してある場合を例に説明します。

通信条件

- 無通信監視タイマ : 60 秒
- 課金単位時間
 - 昼間 (08:00 ~ 19:00) : 180 秒
 - 夜間 (19:00 ~ 23:00) : 180 秒
 - 深夜・早朝 (23:00 ~ 08:00) : 240 秒

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックします。
「相手情報設定」ページが表示されます。
2. [ネットワーク情報一覧] で「internet」欄の[修正] ボタンをクリックします。
「ネットワーク情報設定」ページが表示されます。
3. [接続先一覧] で[修正] ボタンをクリックします。
「接続先情報設定」ページが表示されます。
4. [基本情報] で以下の項目を指定します。
 - 無通信監視タイマ → 60 秒
 - 課金単位時間 (昼間) → 180 秒
 - 課金単位時間 (夜間) → 180 秒
 - 課金単位時間 (深夜・早朝) → 240 秒

無通信監視タイマ	60 秒
課金単位時間	昼間(月～金) (08:00～19:00) 180 0 秒
	夜間(土日の昼間) (19:00～23:00) 180 0 秒
	深夜・早朝 (23:00～08:00) 240 0 秒

5. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

課金制御機能を設定する

ここでは、接続累計時間が50時間、または通信料金の合計が10,000円になったら接続要求の抑止を設定する場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「回線情報」をクリックします。

「回線情報設定」ページが表示されます。

2. [ISDN 情報] で以下の項目を指定します。

- 課金制御 → する
- 上限時間 → 50 時間
- 制御動作 → 発信抑止（通信時間累計が上限値になった場合の動作）
- 上限金額 → 10,000 円
- 制御動作 → 発信抑止（通信料金累計が上限値になった場合の動作）

ⓧⓧ 「システムログ出力のみ」を選択した場合は、通信時間が「上限時間」で設定した値を超えた、または通信料金が「上限金額」で設定した値を超えたときに、システムログ情報に警告通知を記録します。

課金制御	☐ しない	
	☒ する	
	時間	上限時間 50 時間 ▼ 制御動作 ☒ 発信抑止 ☐ システムログ出力のみ
	金額	上限金額 10000 円 制御動作 ☒ 発信抑止 ☐ システムログ出力のみ

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

ⓧⓧ ・現在の課金情報は、表示メニューで「課金情報」をクリックすると表示されます。

・課金情報をクリアすることで、再度、発信ができるようになります。課金情報をクリアするには、表示メニューの「課金情報」から行います。



こんな事に気をつけて

- 本書の表記で使われる通信料金とは、INS ネット64基本サービスの「料金情報通知」をもとに、NetVehicleのソフトウェアが算出した値です。算出される値は、お客様の契約や回線利用状況により異なりますので、請求金額とは必ずしも一致しません。

例えば以下のような場合があります。

- INS テレホーダイサービス利用時
- NTT DoCoMo 以外の自動車電話・携帯電話と通話した場合
- PHS と通話した場合（PIAFS によるデータ通信も含む）

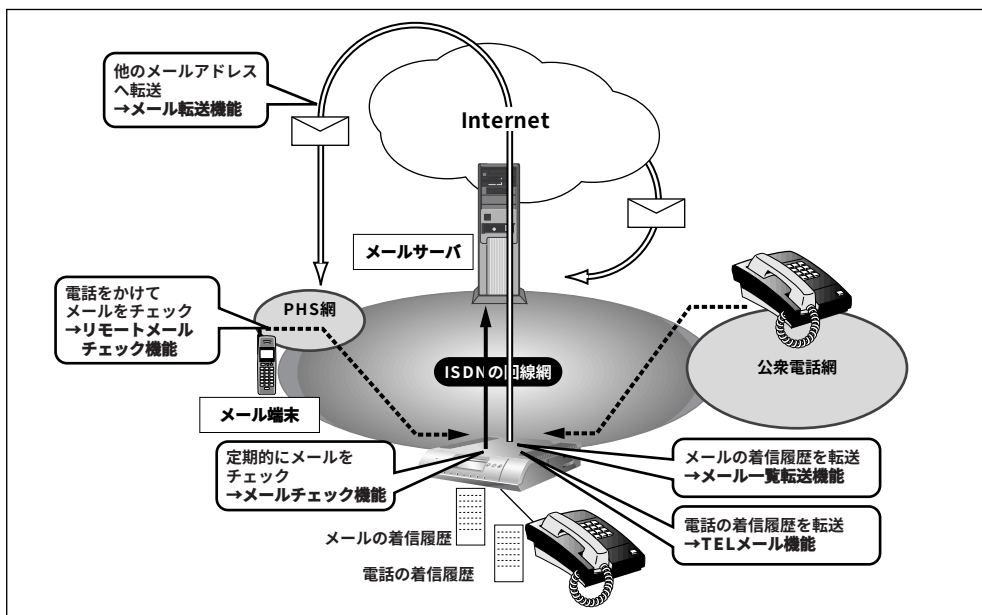
- 本装置の電源を切ると、課金情報（通信時間累計、通信料金累計等）はすべてクリアされます。
-



E メールエージェント機能を使う

NetVehicle の E メールエージェント機能には、以下の機能があります。

- ・メールチェック機能
- ・リモートメールチェック機能
- ・メール転送機能
- ・メール一覧送信機能
- ・TEL メール機能
- ・メール着信通知機能



こんな事に気をつけて

設定前に NetVehicle の内部時計を正しくセットしてください。



E メールエージェント機能は、スタンバイモードでも動作します。NetVehicle は、指定時刻になると動作し、終了するとスタンバイモードに戻ります。

メールチェック機能

NetVehicleのメールチェック機能は、NetVehicleが定期的にダイヤルアップし、メールサーバにメールが着信しているかどうか確認する機能です。メールが届いていた場合、操作パネルにメッセージが表示されます。

ここでは、NetVehicleから定期的にメールサーバに接続し、メールの着信を確認する場合を例に説明します。

通信条件

- メールの着信を 1 日 2 回（午前 10 時と午後 3 時）確認する
- メールサーバ名（POP サーバ） : pop.server.ne.jp
- メールのユーザ名 : user1
- メールのパスワード : himitu

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「E メールエージェント情報」をクリックします。
「E メールエージェント情報設定」ページが表示されます。
2. [メールチェック情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「メールチェック情報設定」ページが表示されます。

3. [メールチェック情報] で以下の項目を指定します。

- ユーザ名 → user1
- パスワード → himitu
- POP3 サーバ (ホスト名) → pop.server.ne.jp
- 確認時間 → 時刻で指定 (毎日 10:00、毎日 15:00)

[メールチェック情報] ?

ユーザー名 user1

パスワード *****

POP3サーバ
ホスト名 pop.server.ne.jp
ポート番号 110 番

確認時間

☒ 時刻で指定

毎日 10:00

毎日 15:00

毎日 : :

☐ 間隔で指定

分

メールチェックを行わない時間帯を指定する場合は、開始時刻／終了時刻を指定してください。

: : から : :

: : から : :

4. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

メールチェックの確認方法

NetVehicleは、指定した時刻になるとメールチェックを行います。確認のしかたには以下の方法があります。

- 操作パネルで件数を確認できます。
- 表示メニューで件数と差出人 / 題名 / 時刻を確認できます。



「電子メール着信通知を見る」(P.273)、■基本編 「操作パネル早見表」(P.147)

リモートメールチェック機能

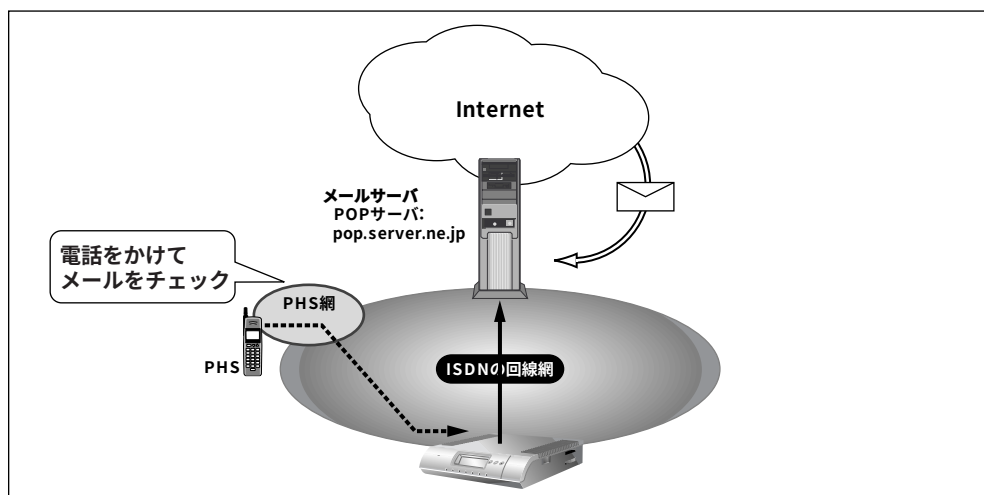
NetVehicleのリモートメールチェック機能は、PHSからNetVehicleに電話をかけて、NetVehicleにメールチェックさせる機能です。リモートメールチェック機能とメール転送機能もしくはメール一覧送信機能を使って、離れた所から必要ときにメールを受けたり、メールの一覧を確認したりできます。



こんな事に気をつけて

サブアドレスを指定できない携帯電話等のアナログ機器からは、この機能を利用できません。

ここでは、PHSからNetVehicleに電話をかけて、メールの着信を確認する場合を例に説明します。



通信条件

- PHSを使ってNetVehicleにメールチェックさせる
- リモートチェックID（サブアドレス） : 1234
- メールサーバ名 : pop.server.ne.jp
- メールのユーザ名 : user1
- メールのパスワード : himitu

補足 この例では、メール着信の結果はNetVehicleの操作パネル上に表示されます。離れた場所からメール端末等でメールを受け取ったり、メールの一覧を確認するには、メール転送機能またはメール一覧送信機能を使う必要があります。



「メール転送機能」(P.179)、「メール一覧送信機能」(P.181)

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「E メールエージェント情報」をクリックします。
「E メールエージェント情報設定」ページが表示されます。
2. [メールチェック情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「メールチェック情報設定」ページが表示されます。

3. [メールチェック情報] で以下の項目を指定します。

- ユーザ名 → user1
- パスワード → himitu
- メールサーバ (ホスト名) → pop.server.ne.jp
- リモートメールチェック ID → 1234

[メールチェック情報]	
ユーザ名	user1
パスワード	*****
POP3サーバ	ホスト名 pop.server.ne.jp ポート番号 110 番
確認時間	☒ 時刻で指定 毎日 [10] : [00] 毎日 [15] : [00] 毎日 [] : [] ☐ 間隔で指定 [] 分 メールチェックを行わない時間帯を指定する場合は、開始時刻/終了時刻を指定してください。 [] : [] から [] : [] [] : [] から [] : []
自動消去	☐ 使用する ☒ 使用しない
APOP認証	☐ 使用する ☒ 使用しない
リモートメールチェックID	1234



こんな事に気をつけて

リモートメールチェックIDは、アナログ設定の「アナログポート情報」の「サブアドレス」、「アナログ共通情報」の「設定変更用暗証番号」、および「留守確認用番号」と別の番号を設定してください。

4. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

メールチェックの操作方法

外から PHS 等の ISDN 機器を使って、NetVehicle に電話をかけます。
正常に受け付けられた場合は、ビジートーン（ブーブーという話中の音）が聞こえます。

- 相手電話番号✕サブアドレス（リモートメールチェックID）

例) 03-1111-1111✕1234

メールチェックの確認方法

NetVehicle に電話をかけるとメールチェックを行います。確認のしかたには以下の方法があります。

- 操作パネルで確認する
- 表示メニューで確認する



「電子メール着信通知を見る」(P.273)、■基本編 「操作パネル早見表」(P.147)

メール転送機能

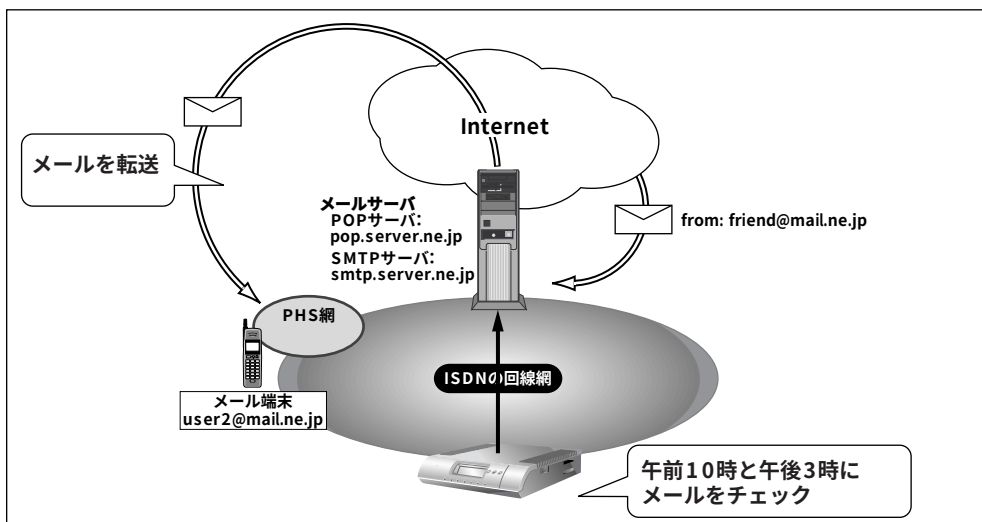
NetVehicleのメール転送機能は、メールサーバに着信しているメールを指定した別のメールアドレスに転送する機能です。



こんな事に気をつけて

メール転送機能を使って転送できるメールは、メールチェックで取得した新着メールのみです。

ここでは、着信しているメールをメール端末へ転送する場合を例に説明します。



通信条件

- 特定の人からのメールを 1 日 2 回（午前 10 時と午後 3 時）別のメールアドレスへ転送する
- 特定の人からのメールアドレス : friend@mail.ne.jp
- 転送先のメールアドレス : user2@mail.ne.jp
- メールサーバ名（POP サーバ） : pop.server.ne.jp
- メールサーバ名（SMTP サーバ） : smtp.server.ne.jp
- メールユーザ名 : user1
- メールパスワード : himitu

メールチェック情報を設定する

メール転送機能を使用するには、メールチェック機能またはリモートメールチェック機能の設定が必要です。この例では、user1 に対してメールチェックの設定を行っているものとして説明します。



「メールチェック機能」(P.175)、「リモートメールチェック機能」(P.177)

メール転送情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「E メールエージェント情報」をクリックします。
「E メールエージェント情報設定」ページが表示されます。

2. [メールチェック情報一覧] で user1 の欄の [修正] ボタンをクリックします。
「メールチェック情報設定」ページが表示されます。

3. [メール転送 / 一覧送信情報] で以下の項目を指定します。

- 転送 / 一覧送信 → メールを転送する
- SMTP サーバ (ホスト名) → smtp.server.ne.jp



4. 宛先メールアドレスの欄の [追加] ボタンをクリックします。
「このページの情報が変更されています。更新しますか？」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
「宛先メールアドレス設定」ページが表示されます。

5. 以下の項目を指定します。

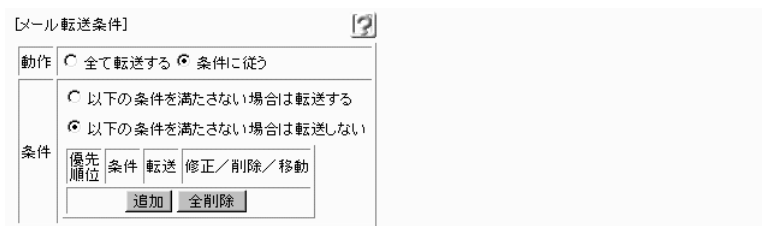
- メールアドレス → user2@mail.ne.jp



6. [更新] ボタンをクリックします。
「メールチェック情報設定」ページに戻ります。

7. [メール転送条件] で以下の項目を指定します。

- 動作 → 条件に従う
- 条件 → 以下の条件を満たさない場合は転送しない



8. 条件の欄の [追加] ボタンをクリックします。
「このページの情報が変更されています。更新しますか？」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
「条件設定」ページが表示されます。

9. 以下の項目を指定します。

- 転送 → する
- 条件 → 差出人に friend@mail.ne.jp が含まれる

転送	☒ する ☐ しない	
条件	差出人に	friend@mail.ne.jp が含まれる
	または、	
	宛先に	が 含まれる
	または、	
	題名に	が 含まれる

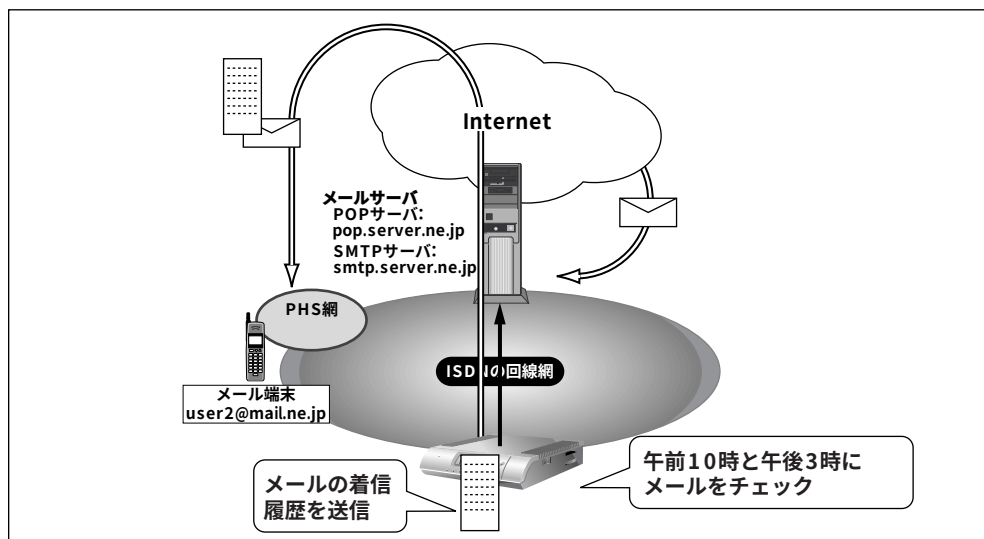
10. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

メール一覧送信機能

NetVehicleのメール一覧送信機能は、メールサーバに着信しているメールの一覧情報をメールで送信する機能です。

ここでは、着信しているメールの一覧情報をメール端末へ転送する場合を例に説明します。



通信条件

- メールの着信履歴を 1 日 2 回（午前 10 時と午後 3 時）送信する
- メールサーバ名（POP サーバ） : pop.server.ne.jp
- メールサーバ名（SMTP サーバ） : smtp.server.ne.jp
- メールのユーザ名 : user1
- メールのパスワード : himitu
- 送信先のメールアドレス : user2@mail.ne.jp

メールチェック情報を設定する

メール転送機能を使用するには、メールチェック機能またはリモートメールチェック機能の設定が必要です。この例では、user1 に対してメールチェックの設定を行っているものとして説明します。



「メールチェック機能」(P.175)、「リモートメールチェック機能」(P.177)

メール転送情報を設定する

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「E メールエージェント情報」をクリックします。
「E メールエージェント情報設定」ページが表示されます。

2. [メールチェック情報一覧] で user1 の欄の [修正] ボタンをクリックします。
「メールチェック情報設定」ページが表示されます。

3. [メール転送 / 一覧送信情報] で以下の項目を指定します。

- 転送 / 一覧送信 → メール一覧を送信する
- SMTP サーバ (ホスト名) → smtp.server.ne.jp
- 一覧形式 → 1 件を複数行で送信する

④⑤ PHS など表示できる一行の文字数が少ないメール端末では、一覧形式を「1 件を複数行で送信する」がおすすめです。

[メール転送/一覧送信情報]	
転送/一覧送信	☐ メールを転送する ☒ メール一覧を送信する
SMTPサーバ	ホスト名 smtp.server.ne.jp ポート番号 25 番
宛先メールアドレス	追加 全削除
差出人変更	☒ しない ☐ する 差出人メールアドレス
転送サイズ指定	☒ しない ☐ する 本文が半角で、約 文字以内 《メールを転送する場合のみ有効です》
一覧形式	☒ 1 件を複数行で送信 ☐ 1 件を 1 行で送信 《メール一覧を送信する場合のみ有効です》

4. 宛先メールアドレスの欄の [追加] ボタンをクリックします。
「このページの情報が変更されています。更新しますか？」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
「宛先メールアドレス設定」ページが表示されます。

5. 以下の項目を指定します。

- メールアドレス → user2@mail.ne.jp

[宛先メールアドレス設定]	
メールアドレス	user2@mail.ne.jp

6. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

メール一覧の受信例

この例では、以下のような一覧内容が届きます。

From: NetVehicle <user1@smtp.server.ne.jp> ※ 1
Subject: Mail list (user1)
01. 02/29 10:00 (送信時刻が表示されます)
差出人:
girl@mail.ne.jp ※ 2
題名:
Hello (メールの題名が表示されます)

- ※ 1:< >内は差出人のメールアドレスが記入されます。差出人変更の欄の差出人メールアドレスを指定した場合、指定したメールアドレスが記入されます。
- ※ 2:差出人名が書かれているメールの場合は、差出人名が表示されます。書かれていない場合は差出人メールアドレスが表示されます。

TEL メール機能

NetVehicleのTELメール機能は、かかってきた電話（アナログ）の着信履歴をメールで送信する機能です。

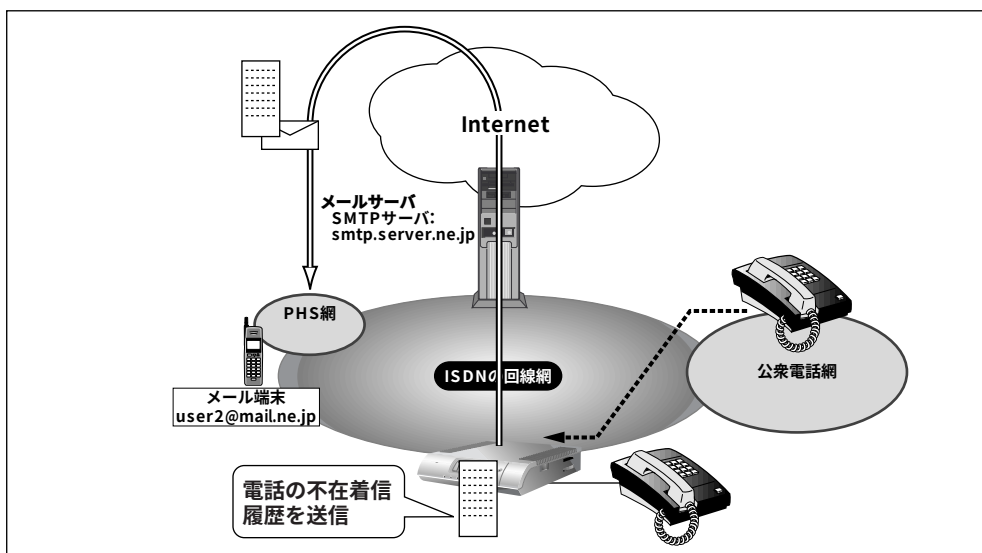


こんな事に気をつけて

- TELメールの送信情報が「発信者番号のみ送信する」に設定されている場合、発信者番号通知が非通知になっている電話からの着信履歴は送信されません。
- TELメールの送信情報が「発信者番号と着信番号を送信する」に設定されている場合、発信者番号と着信番号のどちらも有効な情報がない時は、TELメールによる着信履歴は送信されません。
- TELメールの着信番号は以下のように設定されます。
 - 1) ダイヤルインサービスおよびi・ナンバーサービスを利用しない場合
回線から通知されないため、TELメールの情報に着信番号は含まれません。「アナログ共通情報」の「網契約に関する設定項目」の「電話番号」に電話番号が設定されていれば、その番号がTELメールの着信番号として送信されます。
 - 2) ダイヤルインサービスを利用している場合
回線から通知された着信番号（ダイヤルイン番号）がTELメールの着信番号として送信されます。ただし、グローバル着信を利用している場合、契約者番号にかかってくると回線から着信番号が通知されません。この場合は、「アナログ共通情報」の「網契約に関する設定項目」の「電話番号」に電話番号が設定されていれば、その番号がTELメールの着信番号として送信されます。
 - 3) i・ナンバーサービスを利用している場合
「鳴り分け1」、「鳴り分け2」、または「鳴り分け3」がTELメールの着信番号として送信されます。ただし、「アナログ共通情報」の「網契約に関する設定項目」の「鳴り分け番号1/2/3」に電話番号が設定されていれば、その番号がTELメールの着信番号として送信されます。

.....

ここでは、定期的に電話の着信履歴をメールで送信する場合を例に説明します。



通信条件

- ダイヤルインサービスを利用する
- アナログポート 1 につながっている電話への着信履歴を 1 時間ごとにメールする
- 送信先のメールアドレス : user2@mail.ne.jp
- 差出人のメールアドレス : tel1@netvehicle
- メールサーバ名 : smtp.server.ne.jp

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「E メールエージェント情報」をクリックします。
「E メールエージェント情報設定」ページが表示されます。

2. [TEL メール情報] で以下の項目を指定します。

- TEL メール →使用する

[TELメール情報] ISDN			
TELメール	☒ 使用する ☐ 使用しない		
送信情報	アナログポート	メールアドレス	送信周期 修正／削除
	アナログポート1	-	修正 削除
	アナログポート2	-	修正 削除

3. 送信情報（アナログポート 1）の欄の [修正] ボタンをクリックします。
「このページの情報が変更されています。更新しますか？」というメッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックします。
[TEL メール情報設定]ページが表示されます。

4. [アナログポート 1] で以下の項目を指定します。

- 宛先メールアドレス → user2@mail.ne.jp
- 差出人メールアドレス → tel1@netvehicle
- SMTP サーバ (ホスト名) → smtp.server.ne.jp
- 認証情報 → POP 認証しない
- 送信周期 → 一定周期 (1 時間毎)
- 送信情報 → 発信者番号と着信番号を送信する

[アナログポート1] 

宛先メールアドレス	user2@mail.ne.jp		
差出人メールアドレス	tel1@netvehicle		
SMTPサーバ	ホスト名	smtp.sver.ne.jp	
	ポート番号	25	
認証情報	☒ POP認証しない ☐ POP認証する		
	ユーザ名		
	パスワード		
	POP3サーバ	ホスト名	
		ポート番号	110 番
	APOP認証	☐ 使用する ☒ 使用しない	
送信周期	☐ 着信毎 ☒ 一定周期 1 時間 毎		
	TELメールの送信を行わない時間帯を指定する場合は、開始時刻/終了時刻を指定してください。		
	: から : : から :		
送信情報	☒ 発信者番号と着信番号を送信する ☐ 発信者番号のみ送信する		

5. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

TEL メールを受信例

この例では、以下のような一覧内容が届きます。

From: NetVehicle<tel1@netvehicle>

Subject: TEL1 Mail

01. 02/29 10:00 (着信した時刻が表示されます)

発: 0311112222 (発信者番号が表示されます)

着: 0312345678 (ダイヤルイン番号にかかってきた場合、着信番号が表示されます)

メール着信通知機能

メール着信通知機能を使用すると、メールが着信するとCHECKランプが緑色で点滅し、プロバイダにダイヤルアップしなくてもメール着信を知ることができます。

ここでは、プロバイダ A に着信メールがあったら通知する場合を例に説明します。

- 補足
- ・プロバイダと「メール着信通知」の契約をしておく必要があります。
 - ・メール着信通知機能に対応しているプロバイダについては、NetVehicleのサポートページを参照してください。
 - ・NTTと「ユーザ間情報通知サービス」で「着信許可」の契約をしておく必要があります。
 - ・ダイヤルイン番号やサブアドレスを使用して着信させる場合は、「回線情報」の「着信番号チェック」でダイヤルイン番号やサブアドレスを指定しておく必要があります。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「E メールエージェント情報」をクリックします。
「E メールエージェント情報設定」ページが表示されます。

2. [メール着信通知情報] で以下の項目を指定します。

- メール着信通知 → 使用する
- サブアドレスチェック → チェックしない

補足

ダイヤルイン番号およびサブアドレスを使用して複数のISDN機器を識別している場合にチェックする内容を指定します。

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



◆ターミナルアダプタ (TA) と NetVehicle の両方を使用する場合には

TAとNetVehicleの両方を使用し、ダイヤルイン番号およびサブアドレスで複数のISDN機器を識別している場合に、それぞれにあてられたメールを識別するには以下の方法があります。

- ・電話番号（「回線情報」の自局番号チェックで指定）+サブアドレスで識別する
- ・メール着信用サブアドレスで識別する



スケジュール機能を使う

NetVehicle の「スケジュール機能」では、特定の動作とそれを行う時間を登録できます。スケジュール予約情報を登録しておくと、特定の時間帯にデータの発着信を制限する、定期的に課金情報をクリアするといった作業を NetVehicle が自動的に行います。スケジュール予約情報は、最大 16 件まで登録できます。

- 補足** ・テレホーダイ時間以外の動作を発信抑止することで、テレホーダイ時間のみ発信可能な設定をすることができます。
- ・初期設定では、毎週金曜日に課金情報がクリアされるように設定されています。



こんな事に気をつけて

設定前に NetVehicle の内部時計を正しくセットしてください。

スケジュールを予約する

ここでは、毎日午後 11 時以降テレホーダイを利用する場合を例に説明します。



こんな事に気をつけて

「INS テレホーダイ」は NTT が提供するサービスです。利用の際は、NTT との契約が必要です。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「スケジュール情報」をクリックします。
「スケジュール情報」ページが表示されます。

[月間／週間予約一覧]

動作	予約時刻	終了時刻	周期	修正／削除
1 課金情報クリア	00:00	-	毎週金曜	修正 削除
2 -	-	-	-	修正 削除
3 -	-	-	-	修正 削除

2. [月間／週間予約一覧] で未設定の欄の [修正] ボタンをクリックします。
「月間／週間予約情報設定」ページが表示されます。

3. 以下の項目を指定します。

- 動作 → テレホーダイ (動作は「発信抑止」、「着信抑止」、「テレホーダイ」、「課金情報クリア」、「強制切断」、「スタンバイモードへ移行」、「スタンバイモードを解除」、「留守モードへ移行」、「留守モードを解除」から選択できます。)
- 予約時刻 → 23:00 / 毎日
- 終了時刻 → 08:00

動作: テレホーダイ

予約時刻: 23:00

☒ 毎日
☐ 毎週 ☐ 日曜日 ☐ 月曜日 ☐ 火曜日 ☐ 水曜日
☐ 木曜日 ☐ 金曜日 ☐ 土曜日
☐ 毎月 日

終了時刻: 08:00



こんな事に気をつけて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 回線接続中に、発信抑止、着信抑止が実行されても回線は切断されません。
- 回線接続中に、スタンバイモードに移行した場合はデータ通信が切断されます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

4. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

電話番号変更を予約する

ここでは、1999年1月1日に電話番号を「06-123-4567」から「06-6123-4567」に変更する場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「スケジュール情報」をクリックします。
「スケジュール情報」ページが表示されます。

2. [電話番号変更予約一覧] で未設定の欄の[修正] ボタンをクリックします。
「電話番号変更予約設定」ページが表示されます。

3. 以下の項目を指定します。

- 実行日時 → 1999年1月1日/2時00分
- 電話番号変更情報(変更前1) → 06-123-4567
- 電話番号変更情報(変更後1) → 06-6123-4567

実行日時				1999年1月1日2時00分	
電話番号 変更情報	変更前1	06-123-4567	変更後1	06-6123-4567	
	変更前2		変更後2		
	変更前3		変更後3		
	変更前4		変更後4		

4. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



こんな事に気をつけて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

実行日時になると、データ通信が切断されますので注意してください。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



ブザー機能を使う

NetVehicleでは、設定した課金制御の値に達した時や回線エラー発生時にブザーを鳴らすことができます。また詳細設定メニューの「装置情報」の中で、それぞれの場合におけるブザー音の「あり」、「なし」を設定できます。

NetVehicleの「ブザー機能」を利用すると、以下のブザーを鳴らすことができます。

なお、それぞれの場合においてどのような音が鳴るのか確認してください。

- 課金制御通知音 : 課金制御設定値を超え、再度接続を試みたときにブザーが鳴ります。
- 回線接続音 : 回線が接続されたときにブザーが鳴ります。意図しないタイミングで回線接続音が鳴る場合は、勝手に回線が接続されてしまったことを示します。超過課金につながるおそれがあるので注意してください。
- 回線エラー通知音 : 接続に失敗したとき、または接続中に異常切断されたときにブザーが鳴ります。
- 課金単位時間通知音 : 回線接続中に課金単位時間の設定値を経過するごとにブザーが鳴ります。意図しないタイミングで課金単位時間通知音が一定間隔ごとに鳴る場合は、回線がつながったままになっていることを示します。超過課金につながるおそれがあるので注意してください。
- 装置起動音 : NetVehicleの電源を入れたときにブザーが鳴ります。
- メール着信通知音 : メール着信通知を「使用する」にしている場合に、メール着信通知を受けるとブザーが鳴ります。

補足 ご購入時の状態では、「課金制御通知音」、「回線接続音」、「回線エラー通知音」、「装置起動音」、「メール着信通知音」は鳴るように設定されています。

ブザー機能を設定する

ここでは、課金単位時間ごとにブザーを鳴らす設定をする場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「装置情報」をクリックします。
「装置情報設定」ページが表示されます。

2. [ブザー音設定] で以下の項目を指定します。

- 課金単位時間通知音 →あり

課金単位時間通知音	☐ なし ☒ あり	TEST

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

補足 ・[TEST] ボタンをクリックすると、ブザー音を確認できます。



操作パネルの動作を設定する

NetVehicle 前面の FUNCTION ボタンの機能、液晶ディスプレイに表示されるアナログ回線の発着信履歴の表示順序、および液晶ディスプレイのバックライトの点灯/消灯をあらかじめ割り当てることができます。FUNCTION ボタンに割り当てられる機能は以下のとおりです。

- ・スタンバイモードの切り替え
- ・回線の切断
- ・チャンネル数の増減
- ・メール着信の消去
- ・HUB の状態表示
- ・着信転送の切り替え
- ・疑似着信転送の切り替え
- ・メールチェック
- ・留守モード

液晶ディスプレイに表示される発着信履歴の表示順序は以下のとおりです。

- ・古い順に表示
- ・新しい順に表示

液晶ディスプレイのバックライトの動作は以下のとおりです。

- ・自動（回線接続中はバックライトが点灯します。
回線を接続してから 5 秒後にバックライトを消灯することもできます。）
- ・点灯
- ・消灯

FUNCTION ボタン情報を設定する

ここでは、FUNCTION ボタンを押したときに着信メール情報の消去を行う機能を設定する場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「装置情報」をクリックします。
「装置情報設定」ページが表示されます。

2. [操作パネル情報] で以下の項目を指定します。

- 動作 → メール着信消去

FUNCTION ボタン動作	メール着信消去

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

発着信履歴を設定する

ここでは、液晶ディスプレイに表示される発着信履歴の表示順序を新しい順に表示する場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「装置情報」をクリックします。
「装置情報設定」ページが表示されます。

2. [操作パネル情報] で以下の項目を指定します。

- 発着信履歴 →新しい順に表示

発着信履歴	☐ 古い順に表示
	☒ 新しい順に表示

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

バックライトを設定する

ここでは、液晶ディスプレイのバックライトが常時点灯する場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「装置情報」をクリックします。
「装置情報設定」ページが表示されます。

2. [操作パネル情報] で以下の項目を指定します。

- バックライト →点灯

バックライト	☐ 自動
	☐ 回線を接続してから5秒後に消灯する
	☒ 点灯
	☐ 消灯

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



留守モードの動作を設定する

NetVehicle では、あらかじめ「留守モード情報」に留守（外出）中の動作を設定しておくことにより、在宅時の設定（留守モード OFF）と留守中の設定（留守モード ON）をかんたんに切り替えることができます。「留守モード情報」には、以下の設定項目があります。必要に応じて留守モード中の動作を設定してください。

- ・留守中は、スタンバイモードで動作する。
- ・留守中は、メールチェックで取得したメールを転送する。
- ・留守中は、メールチェックで取得したメールの一覧情報をメールで送信する。
- ・留守中は、アナログポート毎の着信履歴をメールで送信する。
- ・留守中は、アナログの着信転送または疑似着信転送を行う。
- ・留守中は、アナログの留守確認機能を使用する。
- ・留守モードを解除する時に、メールチェックを行う。（メール転送およびメール一覧送信は行いません。）



こんな事に気をつけて

- スタンバイモードの設定以外は、「留守モード情報」とは別にそれぞれの機能を使用するための設定が必要です。



「メール転送機能」(P.179)、「メール一覧送信機能」(P.181)、「TEL メール機能」(P.183)、「フレックスホンを使う」(P.219)、「疑似着信転送を使う」(P.213)、「留守状態を確認する（無課金）」(P.261)

- なお、留守モード ON/OFF の切り替えを行うには、以下の方法があります。
 - ・ NetVehicle の「操作メニュー」の「留守モード切替え」から切り替える。
 - ・ 操作パネルの FUNCTION ボタン押下により切り替える。
 - ・ アナログポートに接続された電話機から切り替える。
 - ・ スケジュール機能を使用して切り替える。



「留守モードの ON/OFF を設定する」(P.268)、「FUNCTION ボタン情報を設定する」(P.190)、「留守モードの設定を行う」(P.255)、「スケジュール機能を使う」(P.187)

.....

留守モードの動作を設定する

ここでは、留守モード中はスタンバイモードで動作し、また TEL メールを送信する設定を行う場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのルータ設定で「装置情報」をクリックします。
「装置情報設定」ページが表示されます。

2. [留守モード情報] で以下の項目を指定します。

- 動作 →留守モード中は、スタンバイモードで動作する
→留守モード中は、TEL メールを送信する

動作	☒ 留守モード中は、スタンバイモードで動作する
	☐ 留守モード中は、メールを転送する
	☐ 留守モード中は、メールの一覧を送信する
	☒ 留守モード中は、TELメールを送信する
	☐ 着信転送
	☒ 留守モード中は、着信転送を行う ☐ 留守モード中は、疑似着信転送を行う
	☐ 留守モード中は、アナログの留守確認機能を使用する ☐ 留守モードを解除する時にメールチェックを行う

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



NetVehicle のアナログ機能を利用する

この章では、

NetVehicle につないだアナログ機器を利用する方法を説明します。

スタンバイモードで使用する	196
アナログ機器を利用するにあたって	197
内線通話・内線転送機能を使う	198
内線通話をする	198
外からかかってきた電話をもう一方のアナログポートに転送する	198
L モード（メッセージ到着お知らせ）機能を使う	200
メッセージ到着お知らせ機能を設定する	200
登録した番号への発信を規制する	203
識別着信機能を使う	204
相手電話番号識別機能を使う（優先着信機能）	205
着信電話番号識別機能を使う	207
疑似迷惑電話お断りを使う	209
疑似キャッチホンを使う	211
疑似着信転送を使う	213
疑似三者通話を使う	215
疑似通信中転送を使う	217
フレックスホンを使う	219
フレックスホンのいろいろな機能を使う	220
フレックスホン自動切り替え機能を使う	224
INS ボイスワープを利用する	225
発信者番号表示（ナンバー・ディスプレイ）を使う	227
発信者番号表示（キャッチホン・ディスプレイ）を使う	229
発信者番号通知の設定を変更する	231
発信者電話番号を選択する	232
無鳴動 FAX 受信機能を使う	233
i・ナンバー着信機能を使う	234
サブアドレスを設定する	235
ダイヤルイン／グローバル着信機能を使う	236
ダイヤルイン／グローバル着信機能を設定する	236
モデムダイヤルイン機能を使う	238
モデムダイヤルイン機能を設定する（その 1：自局電話番号を送出する）	238
モデムダイヤルイン機能を設定する（その 2：任意の番号を送出する）	241
アナログダイヤルイン機能を使う	244
アナログダイヤルイン機能を設定する（その 1：自局電話番号を送出する）	244
アナログダイヤルイン機能を設定する（その 2：任意の番号を送出する）	246
リバースパルス送出機能を使う	248
電話機を利用して設定を変更する	249
時計を設定する	250
IP アドレスを設定する	250
アナログ機能を設定する	251
着信転送先の設定を行う	253
TEL メールの設定を行う	254
メールチェックを実行する	254
メール着信を消去する	254
留守状態の設定を行う	255
留守モードの設定を行う	255
外線から設定を変更する（無課金）	256
設定変更用暗証番号を設定する	256
外線からアナログ機能の設定を変更する	257
外線から着信転送先の設定を行う	258
外線から TEL メールの設定を行う	259
外線から留守状態の設定を行う	260
留守状態を確認する（無課金）	261



スタンバイモードで使用する

データ通信を行わない場合などは、必要最小限の部分だけを動作させ、NetVehicleの消費電力を抑えることができます。「スタンバイモード」では、アナログ機器だけが使用できます。



こんな事に気をつけて

「スタンバイモード」にすると、10BASE-Tポートにつないだ機器どうして通信ができなくなります。

スタンバイモードにする

「通常モード」と「スタンバイモード」の切り替えは、アナログポートにつないだアナログ機器から行います。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

こんな事に気をつけて

利用する回線に「専用線」を設定している場合は、「通常モード」と「スタンバイモード」の切り替えはできません。

2. をダイヤルします。

3. ビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

4. 受話器を置きます。

スタンバイモードで動作中は、NetVehicleのPOWERランプが緑色で点滅（点灯約2.5秒、消灯約0.5秒）します。POWERランプ以外は消灯します。

通常モードにする

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. をダイヤルします。

3. ビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

4. 受話器を置きます。



◆すぐにモードを変更するには

NetVehicle出荷時には番号をダイヤルしてを1回押すと、すぐにモードを変更できるようになっています。「#機能ボタン使用」の設定はアナログ設定の「アナログ共通情報」で設定します。



アナログ機器を利用するにあたって

アナログ機器は、NetVehicle で設定を行うとさらに便利な使い方ができます。電話機をつなぐ場合は、アナログポートにモジュラを差し込むだけで使用できます。



こんな事に気をつけて

- 電話機を1台だけつなぐ場合は、TEL1ポートにつないでください。また、TEL2ポートを使用しないように設定を変更してください（アナログ設定の「アナログポート2情報」で「接続機器」を「なし」に設定してください）。
- NetVehicle を専用線で利用している場合は、アナログ機器は使えません（電話機を使用してIPアドレスの設定は行えます）。
- ナンバー・ディスプレイ対応アナログ機器の機種によっては、発信者番号が正常に表示されない場合があります。

4

電話の受話音量を調節する

ここでは、電話機をつないだアナログポートがポート1で、電話の受話音量を設定する場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。
「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 受話音量 → 「小」、「中」または「大」を選択する
3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



◆すぐに発信するには

NetVehicle 出荷時には、番号をダイヤルして[#]を1回押すと、すぐに発信するようになっています。「#機能ボタン使用」の設定は、アナログ設定の「アナログ共通情報」ページで設定します。

◆LCR機能等の付いた電話機を使うときには

LCR機能を備えた電話機で相手先とうまくつながらない場合は、アナログ設定の「アナログ共通情報」の順に選択し、「ダイヤル桁間タイマ」の時間を長め（10秒程度）に設定してみてください。

電話機のダイヤルで操作する手順の一覧を付録に載せています。



■基本編 「ダイヤル操作早見表」(P.144)



内線通話・内線転送機能を使う

内線通話をする

1. 受話器を上げ、ツーツという音が聞こえることを確認します。
2. **※ 0** と押すと、呼び出し音が鳴ります。
3. 受話器を置いて、通話を終了します。

外からかかってきた電話をもう一方のアナログポートに転送する

内線転送には、転送する側の電話に相手が出たあとに転送する場合と相手の応答を待たないでそのまま転送する場合の2種類があります。

他のアナログポートが応答したあとに転送する

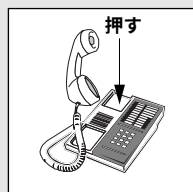
1. 通話中に受話器のフックを押し（以降フッキングと呼ばます）、電話を保留にします。
第2ダイヤルトーン（プッププツという音）が聞こえてきます。
2. **※ 0** と押して、もう一方のアナログポートにつないだ電話機を呼び出します。

フッキングを行うと、保留中の相手と再度通話できます。



◆フッキングとは

受話器のフックを押してすぐに離すと、通話を保留できます。これを「フッキング」といいます（フックを長く押しつづけると通話が切れてしまいます）。アナログ設定の「アナログ共通情報」の「フッキング時間」で、フックを押してから通話が切れるまでの時間を変えられます。



電話機にフックボタン、キャッチボタン、またはフラッシュボタンがある場合は、このボタンを使って通話を保留にします。

3. 相手が出たら、転送することを伝えます。
4. 受話器を置いて、通話を転送します。
もう一方のアナログポートで、保留されていた相手と通話できるようになります。

こんな事に気をつけて・・
もう一方のアナログポートが通話中の場合は、この機能を使えません。
・・

他のアナログポートが応答する前に転送する

1. 通話中に受話器のフックを押し、電話を保留にします。
第2ダイヤルトーン（プッププッという音）が聞こえてきます。
2. **※ 0** と押して、もう一方のアナログポートにつないだ電話機を呼び出します。
補足 フッキングを行うと、保留中の相手と再度通話できます。
3. 受話器を置くと、通話が転送されます。
もう一方のアナログポートで受話器を取ると、保留されていた相手と通話できるようになります。



こんな事に気をつけて

- もう一方のアナログポートが通話中の場合は、この機能を使えません。
- 受話器を置いたあとは、外線電話に戻ることができません。



L モード（メッセージ到着お知らせ）機能を使う

L モードは、NTT が提供するサービスです。このサービスは、家庭の電話機・FAX（L モード対応機器）からメールの送受信や情報の検索等のインターネットサービスが利用できます。NetVehicle では、メッセージ到着お知らせ機能を使用し、L モードのメール受信をアナログポートに接続したアナログ機器に通知することができます。

こんな事に気をつけて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 利用する場合は、NTT が提供する「L モード」の契約が必要です。
- ご使用になるアナログ機器が L モードに対応している必要があります。（アナログ機器の設定も必要です。アナログ機器のマニュアルをご覧ください。）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

メッセージ到着お知らせ機能を設定する

ここでは、次のような場合を例に説明します。

- アナログポート 1 に L モード対応電話機をつなぐ
- i・ナンバー契約を行う
- 契約者番号（鳴り分け番号 1：03-1111-2222）で L モード契約を行う
- メッセージ（メール）を受信した場合、NetVehicle の CHECK ランプが緑色に点滅し、アナログポート 1 に接続した電話機に通知する

アナログ共通情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
[アナログ共通情報] ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で「アナログ共通情報」をクリックします。

- i・ナンバー →使用する
- [i・ナンバー情報 1]
- 動作モード →ポート 1 のみ着信
- [i・ナンバー情報 2]
- 動作モード →ポート 2 のみ着信
- [i・ナンバー情報 3]
- 動作モード →両ポート着信

○ 使用しない
● 使用する

[i・ナンバー情報1]
鳴り分け番号1
動作モード ポート1のみ着信 ▼

[i・ナンバー情報2]
鳴り分け番号2
動作モード ポート2のみ着信 ▼

[i・ナンバー情報3]
鳴り分け番号3
動作モード 両ポート着信 ▼

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。 設定した内容が有効になります。

アナログポート 1 情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- ダイヤルイン番号 → 03-1111-2222
- 発信者番号通知 → する
- メッセージ到着お知らせ → 使用する
- Lモード契約電話番号 → 鳴り分け番号 1

[網契約に関連する設定項目]	
ダイヤルイン番号	03-1111-2222
グローバル着信	☒ する ☐ しない
発信者番号通知	☒ する ☐ しない ☐ 網契約に従う
キャッチホン	☐ キャッチホン ☒ 使用しない ☐ 疑似キャッチホン
Lモード (メッセージ到着お知らせ)	☐ 使用しない ☒ 使用する Lモード契約電話番号 鳴り分け番号1

補足 Lモードを利用する場合、Lモード契約番号を発信時に通知する必要があります。ダイヤルイン番号に必ずLモード契約電話番号を設定してください。

3. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 通信前情報通知 → モデム信号での通知
→ メッセージあり情報を通知する
- メッセージあり状態表示 → メッセージありをランプ表示する

通信前情報通知	☐ 使用しない ☒ モデム信号での通知 ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する ☐ モデムダイヤルインを使用する ☒ メッセージあり情報を通知する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + モデムダイヤルインを使用する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + メッセージあり情報を通知する 使用モード設定: モード1 ☐ PB信号での通知 アナログダイヤルインを使用する
メッセージあり状態表示	☐ メッセージありをランプ表示しない ☒ メッセージありをランプ表示する

4. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



登録した番号への発信を規制する

あらかじめ登録しておいた局番や電話番号への外線発信を規制します。規制した局番の電話番号でも、特定相手だけを外線発信を許可することもできます。また、ポートごとに発信を抑止する番号、発信を許可する番号を設定できます。

外線発信規制番号を設定する

ここでは、アナログポート1から局番「06」への発信を抑止するが、「06-2222-4444」への発信だけは許可する場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。
「アナログポート1情報」ページが表示されます。
2. [発信規制情報設定] で「外線発信を抑止する局番または電話番号」の欄の[追加] ボタンをクリックします。
「発信規制情報（アナログポート1）」ページが表示されます。

3. [外線発信抑止番号設定] で以下の項目を指定します。

- 抑止番号 → 06

[外線発信抑止番号設定]		?
抑止番号	06	

4. [更新] ボタンをクリックします。
「発信規制情報（アナログポート1）」ページに戻ります。
5. [発信規制情報設定] で「外線発信を許可する局番または電話番号」の欄の[追加] ボタンをクリックします。
「発信規制情報（アナログポート1）」ページが表示されます。

6. [外線発信許可番号設定] で以下の項目を指定します。

- 許可番号 → 06-2222-4444

[外線発信許可番号設定]		?
許可番号	06-2222-4444	

7. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



識別着信機能を使う

NetVehicleには、次のような識別着信機能があります。

- ・相手電話番号識別：相手先電話番号（10件まで）を登録しておけば、登録した番号からの電話がかかってきたときに、呼び出し音を変えたり、指定のアナログポートだけを呼び出すことができます。また、相手ごとに着信条件を設定したり、着信拒否を設定できます。公衆電話からかけてきた電話や、発信者番号を通知してこない電話に対しても着信拒否などの動作を設定できます。

動作モード	説 明
両ポート着信	着信時、両方のポートに接続された電話機の着信音が鳴ります。
ポート1のみ着信 ポート2のみ着信	着信時、指定したポートに接続された電話機だけ、着信音が鳴ります。
ポート1優先 ポート2優先	着信時、指定したポートに接続された電話機を優先して着信音が鳴ります。
着信拒否	着信しません。

- ・着信電話番号識別：着信電話番号に応じて、呼び出し音を変えることができます。



こんな事に気をつけて

相手電話番号識別機能を利用するには、NTTとの「INS ナンバー・ディスプレイ」契約が必要です。ただし、相手の方がINS ネット 64 から発信者番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも利用できます。



◆リング音（呼び出し音）で区別する

NetVehicle では、アナログ機器への着信音（外線リング音、内線リング音、識別リング音）を 3 種類のリング音（リング音 1～3）で区別することができます。

リング音は、お好みに合わせて選択できます。ご購入時は以下のように設定されています。

- ・外線リング音 リーン・リーン（リング音 1）
- ・内線リング音 リンリン・リンリン（リング音 2）
- ・識別リング音 リンリンリン・リンリンリン（リング音 3）

■ 相手電話番号識別機能を使う（優先着信機能）

ここでは、次のような場合を例に説明します。

- 「03-5555-5555」からの電話
ポート 1 のみを識別リング音（リング音 3）で呼び出す。このときポート 1 を 5 回以上呼び出しても受話器を取らない場合はポート 2 も識別リング音（リング音 3）で呼び出す。
- 「03-5555-5555」以外からかかってきた電話
ポート 2 のみを外線リング音（リング音 1）で呼び出す。

外線リング音を設定する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 外線リング音 → リング音 1
3. [更新] ボタンをクリックします。
4. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

外線リング音	リング音1

識別情報を設定する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「識別着信情報」をクリックします。
「識別着信情報」ページが表示されます。
2. [識別着信共通情報] で以下の項目を指定します。
 - 識別着信優先リング回数 → 5
 - 識別リング音 → 相手電話番号識別 → リング音 3
3. [識別着信情報一覧] でデフォルト定義のテーブルの欄の [修正] ボタンをクリックします。
「識別着信情報設定」ページが表示されます。
4. [識別着信情報] で以下の項目を指定します。
 - 動作モード → ポート 2 のみ着信

[識別着信共通情報]	
識別着信優先リング回数	5 回
識別リング音	相手電話番号識別 リング音3

[識別着信情報]	
動作モード	ポート2のみ着信

5. [更新] ボタンをクリックします。
「識別着信情報」ページに戻ります。
6. [識別着信情報一覧] で公衆電話着信のテーブルの欄の [修正] ボタンをクリックします。
「識別着信情報設定」ページが表示されます。

7. [識別着信情報] で以下の項目を指定します。

- 動作モード →ポート 2 のみ着信

8. [更新] ボタンをクリックします。
「識別着信情報」ページに戻ります。

9. [識別着信情報一覧] で発信者番号非通知着信のテーブルの欄の [修正] ボタンをクリックします。
「識別着信情報設定」ページが表示されます。

10. [識別着信情報] で以下の項目を指定します。

- 動作モード →ポート 2 のみ着信

11. [更新] ボタンをクリックします。
「識別着信情報」ページに戻ります。

12. [識別着信情報一覧] で [追加] ボタンをクリックします。
「識別着信情報設定」ページが表示されます。

13. [識別着信情報] で以下の項目を指定します。

- 識別定義名 → sikibetu1 (他の識別定義名と重複しない任意の定義名を指定します。)
- 相手電話番号 → 03-5555-5555
- 動作モード →ポート 1 優先

14. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

着信電話番号識別機能を使う

ここでは、次のような場合を例に説明します。

- 契約者回線番号（鳴り分け番号 1）で着信したときは両ポートに着信し、リング音 1 で呼び出す。
- 追加番号（鳴り分け番号 2）で着信したときはアナログポート 1 のみに着信し、リング音 2 呼び出す。
- 追加番号（鳴り分け番号 3）で着信したときはアナログポート 2 のみに着信し、リング音 3 呼び出す。



こんな事に気をつけて

利用するには、NTT との「i・ナンバーサービス」の契約が必要です。

i・ナンバーを設定する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- i・ナンバー →使用する
- [i・ナンバー情報 1]
- 動作モード →両ポート着信
- [i・ナンバー情報 2]
- 動作モード →ポート 1 のみ着信
- [i・ナンバー情報 3]
- 動作モード →ポート 2 のみ着信

i・ナンバー	☐ 使用しない
	☒ 使用する
	[i・ナンバー情報 1]
	鳴り分け番号1
	動作モード 両ポート着信
	[i・ナンバー情報 2]
	鳴り分け番号2
	動作モード ポート1のみ着信
	[i・ナンバー情報 3]
	鳴り分け番号3
	動作モード ポート2のみ着信

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

識別情報を設定する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「識別着信情報」をクリックします。
「識別着信情報」ページが表示されます。

2. [識別着信共通情報] で以下の項目を指定します。

- 識別リング音 → 着信電話番号識別
 - 鳴り分け電話番号 1 → リング音 1
 - 鳴り分け電話番号 2 → リング音 2
 - 鳴り分け電話番号 3 → リング音 3

識別リング音	☐ 相手電話番号識別	リング音3
	☒ 着信電話番号識別	
	契約者番号	リング音1
	ポート1のダイヤルイン番号	リング音3
	ポート2のダイヤルイン番号	リング音3
	鳴り分け番号1	リング音1
	鳴り分け番号2	リング音3
	鳴り分け番号3	リング音3

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



疑似迷惑電話お断りを使う

迷惑電話をかからないように設定することができます。かけてほしくない相手の電話番号を登録しておき、その相手電話番号から電話がかかってきたときに、着信しないようにします。
また、かかってきた電話が迷惑電話だった場合などに、通話中にダイヤル操作で相手の電話番号を登録し、以降、その電話番号からの電話は着信しないように設定できます。



こんな事に気をつけて
利用するには、NTTとの「INS ナンバー・ディスプレイ」契約が必要です。ただし、相手の方がINS ネット 64 から発信者番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも利用できます。
.....

疑似迷惑電話お断りを設定する

ここでは、次のような場合を例に説明します。

- 「03-9999-9999」からの電話を着信拒否する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「識別着信情報」をクリックします。
「識別着信情報」ページが表示されます。
2. 「識別着信情報一覧」で「追加」ボタンをクリックします。
「識別着信情報設定」ページが表示されます。
3. 「識別着信情報」で以下の項目を指定します。
 - 識別定義名 → meiwaku（他の識別定義名と重複しない任意の定義名を指定します。）
 - 相手電話番号 → 03-9999-9999
 - 動作モード → 着信拒否

[識別着信情報]	
識別定義名	meiwaku
相手電話番号	03-9999-9999
相手サブアドレス	
動作モード	着信拒否

4. 「更新+設定反映」ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

疑似迷惑電話お断りに登録する

通話中の相手電話番号を疑似迷惑電話お断りの対象として登録します。



こんな事に気をつけて

- 外線着信で通話中の相手のみ登録可能です。外線発信して通話した相手を登録することはできません。また、通話中に相手から切断され、ビジートーン送出中の状態では登録できません。
- 識別着信情報にすでに10個の相手を設定している場合は、この機能は利用できません。
- 相手の方が発信者番号を通知しない契約を結んでいる、または通知しない設定をしている場合は、登録することはできません。

1. 迷惑電話との通話中に、✖9# と押します。



ダイヤル時、識別着信情報には、次の内容が登録されます。

- ・ 識別定義名 : meiwaku0 ~ meiwaku9 (登録済みの定義名は使用しません)
- ・ 相手電話番号 : 通話相手の電話番号
- ・ 相手サブアドレス : 通話相手のサブアドレス
- ・ 動作モード : 着信拒否

2. 受話器を置きます。

以降、その相手からの電話は着信しません。



疑似キャッチホンを使う

外線で話をしているときに別の人から電話がかかってきた場合、通話中の方を保留にして、かけてきた方とお話することができます。フレックスホンサービスに含まれる「INSキャッチホン」と同様の機能ですが、疑似キャッチホンではNTTとの契約は必要ありません。



こんな事に気をつけて

- データ通信中、およびもう一方のアナログポート使用中は電話をかけてきた側で話中になるのでこの機能を利用できません。
- この機能を使用中は、もう一方のアナログポートは使用できません。また、データ通信も利用できません。



「接続機器」で「電話」および「FAX（キャッチホン着信）」以外を指定した場合は、通信を妨げないようにするため、疑似キャッチホンは利用できません。

4

疑似キャッチホン機能を設定する

ここでは、電話機をアナログポート1につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。
「アナログポート1情報」ページが表示されます。

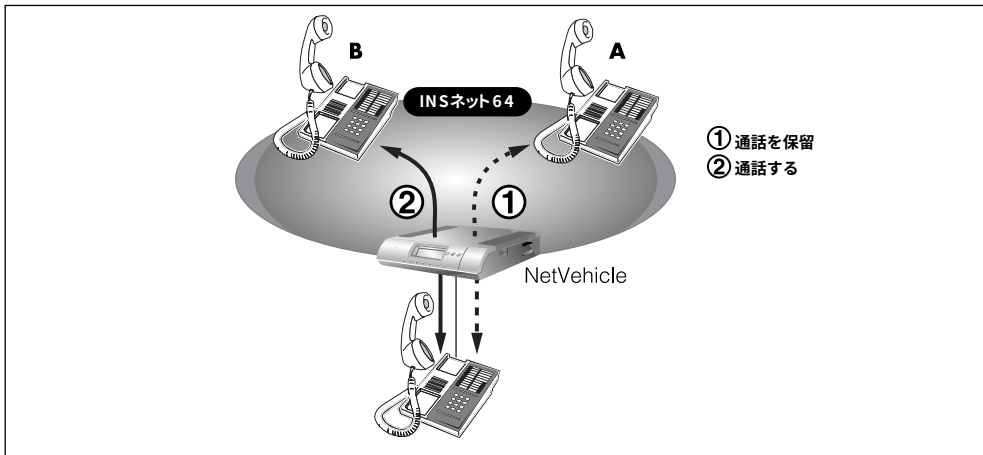
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- キャッチホン → 疑似キャッチホン

キャッチホン	☐ キャッチホン ☐ 使用しない ☒ 疑似キャッチホン

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

疑似キャッチホンを使う



1. 相手 A との通話中に相手 B から電話がかかってくると、受話器から通話中着信音が流れてきます。

- 補足** ・通話中着信音を送出する時間を指定しておくことができます。「アナログポート1/2情報」(P.60)を参照してください。
- ・通話中着信音は、識別着信機能で相手に登録してあるリング音に対応して以下の表のようになります。
 - ・通話中着信音は、「識別着信共通情報」の「識別リング音」の設定により異なります。
「識別リング音」を「相手電話番号識別」に設定した場合、識別着信情報一覧で追加定義した相手からの着信は「ブブッ」、それ以外の着信は「ブッ」となります。
「識別リング音」を「着信電話番号識別」に設定した場合、着信電話番号ごとに設定したリング音に対応して以下次の表のようになります。

リング音の設定	通話中着信音
リング音1	ブブッ
リング音2	ブッ
リング音3	ブブブッ

2. フッキングをします。

相手 B と通話できます。相手 A との通話は保留になります。

3. 相手 A と通話するときは、もう一度フッキングをします。

相手 B との通話が保留になり、相手 A と通話ができます。

4. 通話中の相手との通話を終了するときは、受話器を置きます。

リング音が鳴ります。

5. 受話器を取ります。

保留にしていた相手と通話できます。



疑似着信転送を使う

かかってきた電話が、あらかじめ設定しておいた着信転送の条件に一致すると、NetVehicleは電話を転送します。フレックスホンサービスに含まれる「着信転送」と同様の機能ですが、疑似着信転送ではNTTとの契約は必要ありません。



こんな事に気をつけて

データ通信中、およびアナログポート使用中は、電話をかけてきた側で話中になるのでこの機能を利用できません。

疑似着信転送機能を設定する

ここでは、次のような場合を例に説明します。

- 契約者番号にかかってきた電話を「03-6666-6666」に転送する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

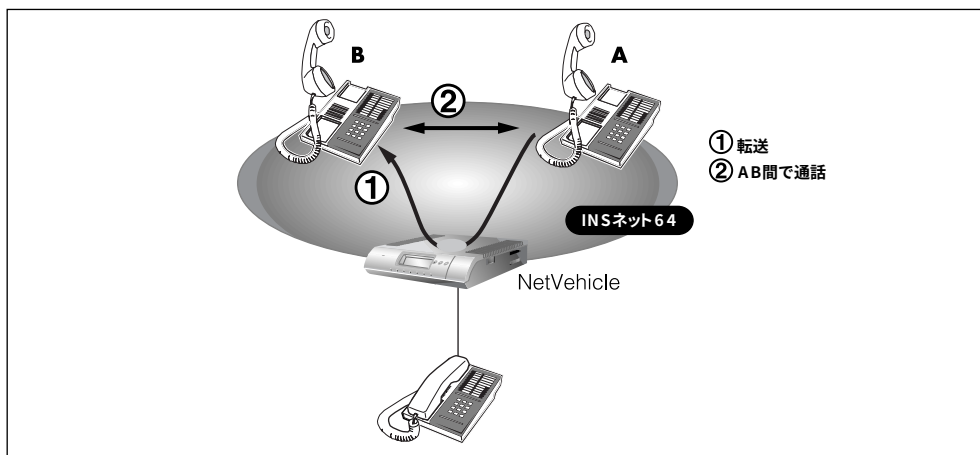
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 着信転送 → 疑似着信転送
- 契約者番号の転送先 → 03-6666-6666

着信転送	☐ 使用しない	
	☐ 着信転送	
	☒ 疑似着信転送	
	契約者番号の転送先	03-6666-6666
	ポート1のダイヤルインの転送先	
	ポート2のダイヤルインの転送先	
	鳴り分け番号1の転送先	
	鳴り分け番号2の転送先	
	鳴り分け番号3の転送先	
	※グローバル着信ありの場合の転送先は契約者番号の転送先に設定してください	
転送元トーク	☐ あり ☒ なし	
転送トーク	☐ あり ☒ なし	
※疑似着信転送を使用する場合、転送元／転送トークの指定は無効になります		

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

疑似着信転送を使う



- ◆補足◆
- NetVehicle に電話機をつないでいなくても、疑似着信転送を利用できます。
 - 着信相手から NetVehicle までの電話料金は着信相手に課金され、NetVehicle から転送先までの電話料金は、NetVehicle 側に課金されます。



疑似三者通話を使う

外線で話をしているときに、通話中の方を保留にして、別の人に電話をかけてお話することができます。また、3人で同時にお話することもできます。



こんな事に気をつけて

- データ通信中、およびもう一方のアナログポート使用中は、別の人に電話をかけると話中になるのでこの機能を利用できません。
- この機能を使用中は、もう一方のアナログポートは使用できません。また、データ通信も利用できません。

疑似三者通話機能を設定する

4

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

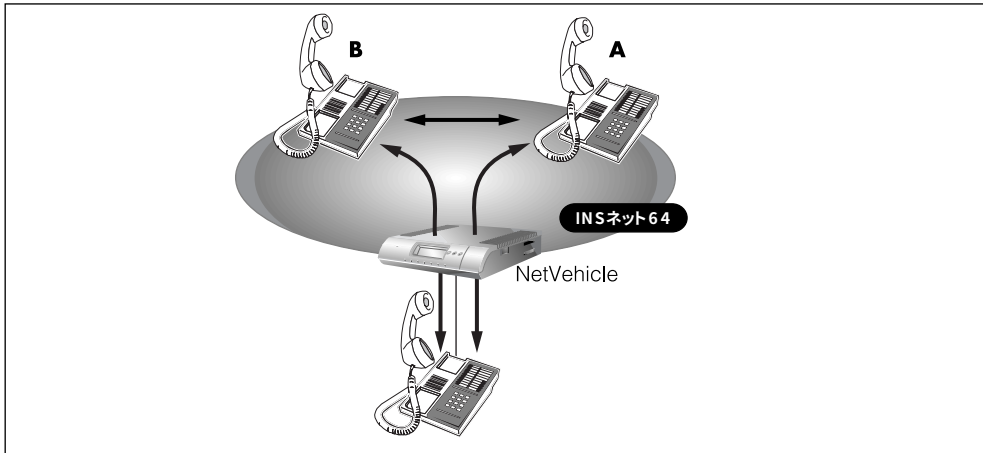
2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- フレックスホン → 疑似フレックスホン
- 三者通話 → 使用する

フレックス ホン	☐ フレックスホン
	☒ 疑似フレックスホン
	三者通話 ☐ 使用しない ☒ 使用する
	通信中転送 ☒ 使用しない ☐ 使用する

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

疑似三者通話を使う



- 1. 相手 A との通話中にフッキングをします。**
通話が保留になり、第 2 ダイヤルトーン（プップップという音）が聞こえてきます。
- 2. 相手 B へダイヤルします。**
呼び出し音（ブルルルという音）が聞こえます。相手 A には保留音が聞こえています。
- 3. 相手 B がでたら、通話を始めます。**
この間、相手 A には保留音が聞こえています。
- 4. ダブルフックをします。**
「自分+相手 A +相手 B」の三者で同時通話ができます（ミキシングモード）。
- 5. もう一度、ダブルフックをします。**
相手 A との通話は保留され、相手 B との通話状態になります（切り替えモード）。
- 6. 通話中の相手との通話を終了するときは、受話器を置きます。**
リング音が鳴ります。
- 7. 受話器を取ります。**
保留中の相手と通話できます。



疑似通信中転送を使う

外線通話中の電話を、別の相手に転送することができます。



こんな事に気をつけて

- データ通信中、およびもう一方のアナログポート使用中は、別のの人に電話をかけると話中になるのでこの機能を利用できません。
- この機能を使用中は、アナログポートは使用できません。また、データ通信も利用できません。

疑似通信中転送を設定する

4

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

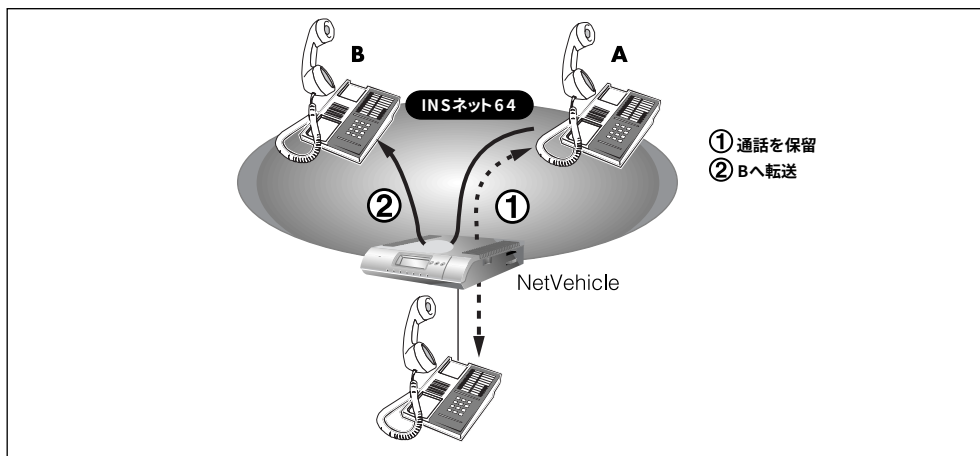
- フレックスホン → 疑似フレックスホン
- 通信中転送 → 使用する

フレックス ホン	☐ フレックスホン
	☒ 疑似フレックスホン
	三者通話 ☐ 使用しない ☒ 使用する
	通信中転送 ☒ 使用しない ☐ 使用する

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

疑似通信中転送を使う

「疑似通信中転送」機能を使って、通話中の電話を別の相手に転送できます。



1. 相手 A からの通話中にフッキングをします。
通話が保留になり、第 2 ダイヤルトーン（プッププツという音）が聞こえてきます。
2. 相手 B へダイヤルします。
呼び出し音（プルルルという音）が聞こえます。相手 A には、保留音が聞こえています。
3. 相手 B がでたら、転送中の電話があることを伝えます。
この間、相手 A には保留音が聞こえています。
4. いったんフッキングをして、すぐに受話器を置きます。
相手 A と相手 B とで通話ができるようになります。



◆疑似通信中転送したときの通話料はどうなるの？

疑似キャッチホンおよび疑似三者通話から、疑似通信中転送を行った場合、次のようにそれぞれ発信者に課金されます。

	最初の通話 (相手A)	2番目の通話 (相手B)	疑似通信中 転送	課金 対象
疑似キャッチホンの場合	Aから 自分から	Bから Bから	できる できる	A、B 自分、B
疑似三者通話の場合	Aから 自分から	自分から 自分から	できる できる	A、自分 自分、自分



フレックスホンを使う

フレックスホンはNTTが提供するサービスで、「キャッチホン」「三者通話」「通信中転送」「着信転送」の4つがあります。必要な機能だけを選んで契約できます。

着信転送の設定を行う

ここでは、「着信転送」について次の場合を例に説明します。

- 「着信転送」を使う
- 「転送元トーキ」「転送トーキ」とともに「あり」を選択する
- 契約者番号にかかってきた電話を「03-6666-6666」に転送する

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 着信転送 → 着信転送
- 契約者番号の転送先 → 03-6666-6666
- 転送元トーキ → あり
- 転送トーキ → あり

着信転送	☐ 使用しない	
	☒ 着信転送	
	☐ 疑似着信転送	
	契約者番号の転送先	03-6666-6666
	ポート1のダイヤルインの転送先	
	ポート2のダイヤルインの転送先	
	鳴り分け番号1の転送先	
	鳴り分け番号2の転送先	
	鳴り分け番号3の転送先	
	※グローバル着信ありの場合の転送先は契約者番号の転送先に設定してください	
転送元トーキ	☒ あり ☐ なし	
転送トーキ	☒ あり ☐ なし	
※疑似着信転送を使用する場合、転送元／転送トーキの指定は無効になります		

3. [更新＋設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



◆転送元トーキ／転送トーキ

かかってきた電話を他の番号に転送する際に流れるメッセージです。

- ・転送元トーキ：「電話が転送されます。」等
- ・転送トーキ：「ただいま電話を転送しますので、しばらくお待ちください。」等

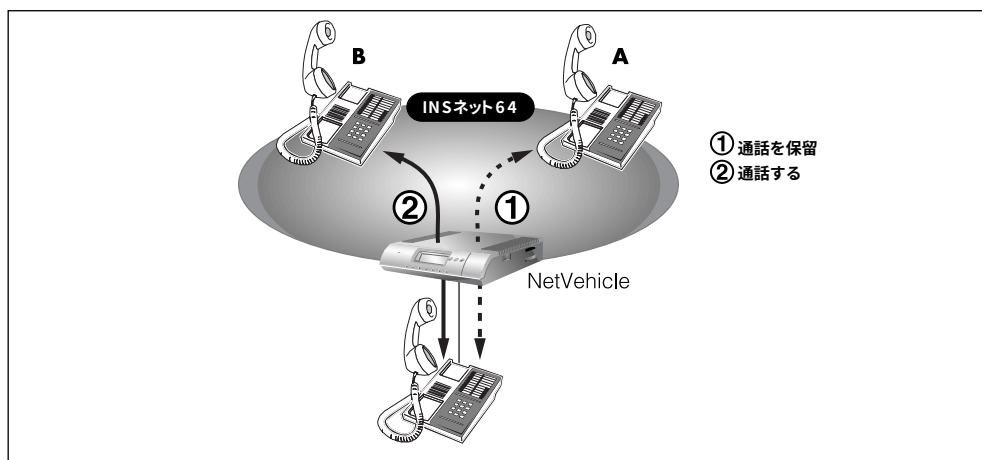
フレックスホンのいろいろな機能を使う

ここでは、フレックスホンの使い方を説明します。

INS キャッチホン

「INS キャッチホン」は NTT が提供するサービスです。利用の際は NTT との契約が必要です。
通話中に電話を着信した場合、いったん通話を保留にしてあとからかけてきた相手と話すことができます。

〔補足〕「接続機器」で「電話」および「FAX（キャッチホン着信）」以外を指定した場合は、通信を妨げないようにするため、INS キャッチホンは利用できません。



1. 相手 A との通話中に相手 B から電話がかかってくると、受話器から通話中着信音が流れます。

- 〔補足〕
- ・通話中着信音を送出する時間を指定しておくことができます。「アナログ共通情報」(P.58) を参照してください。
 - ・通話中着信音は、識別着信機能で相手に登録してあるリング音に対応して次の表のようになります。
 - ・通話中着信音は、「識別着信共通情報」の「識別リング音」の設定により異なります。
「識別リング音」を「相手電話番号識別」に設定した場合、識別着信情報一覧で追加定義した相手からの着信は「ブブブッ」、それ以外の着信は「ブブッ」となります。
「識別リング音」を「着信電話番号識別」に設定した場合、着信電話番号ごとに設定したリング音に対応して次の表のようになります。

リング音の設定	通話中着信音
リング音1	ブブッ
リング音2	ブッ
リング音3	ブブブッ

2. フッキングをします。

相手 B と通話できます。相手 A との通話は保留になります。

3. 相手 A と通話するときは、もう一度フッキングをします。

相手 B との通話が保留になり、相手 A と通話ができます。



NTTと三者通話、または通信中転送の契約をしている場合は、この状態から以下の動作が可能です。

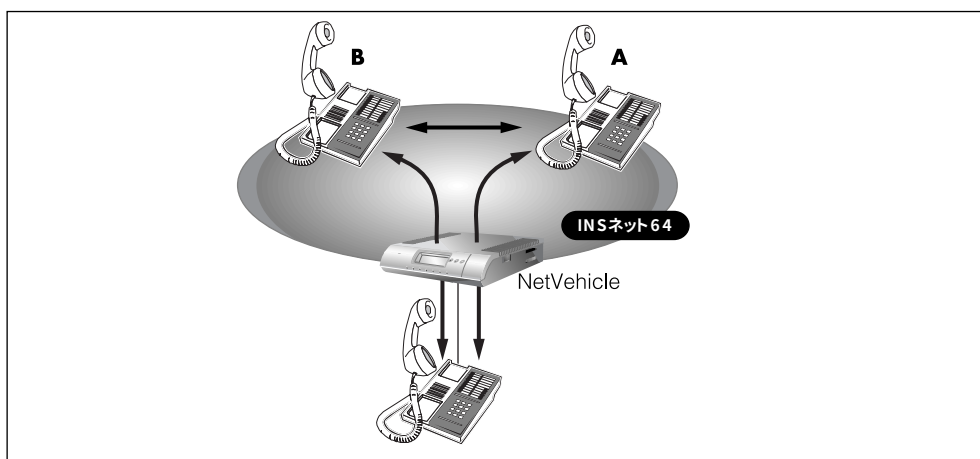
- ・2回フッキングをする（以降、ダブルフックとよびます）と、「自分+相手A+相手B」の三者で同時通話ができます。（三者通話）
- ・いったんフッキングして、すぐに受話器を置くと、通信中転送ができます（通信中転送）。

4. 通話中の相手との通話を終了するときは、受話器を置きます。
リング音が鳴ります。

5. 受話器を取ります。
保留にしていた相手と通話できます。

三者通話

「三者通話」はNTTが提供するサービスです。利用の際はNTTとの契約が必要です。

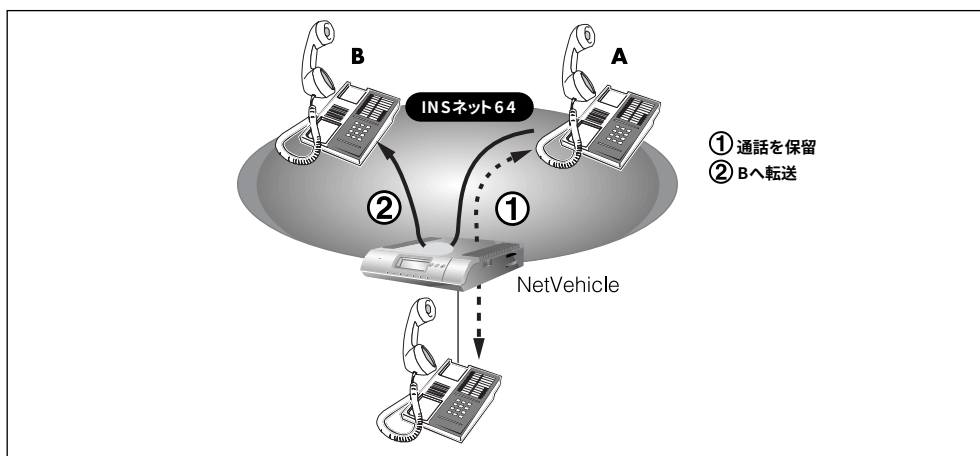


- 1. 相手Aとの通話中にフッキングをします。**
通話が保留になり、第2ダイヤルトーン（プッププツという音）が聞こえてきます。
- 2. 相手Bへダイヤルします。**
呼び出し音（プルルルという音）が聞こえます。相手Aには保留音が聞こえています。
- 3. 相手Bがでたら、通話を始めます。**
この間、相手Aには保留音が聞こえています。
- 4. ダブルフックをします。**
「自分+相手A+相手B」の三者で同時通話ができます（ミキシングモード）。
- 5. もう一度、ダブルフックをします。**
相手Aとの通話は保留され、相手Bとの通話状態になります（切り替えモード）。
- 6. 通話中の相手との通話を終了するときは、受話器を置きます。**
リング音が鳴ります。
- 7. 受話器を取ります。**
保留中の相手と通話できます。

通信中転送

「通信中転送」は NTT が提供するサービスです。利用の際は NTT との契約が必要です。

「通信中転送」機能を使って、通話中の電話を別の相手に転送できます。



1. 相手 A からの通話中にフッキングをします。
通話が保留になり、第 2 ダイヤルトーン（プッププツという音）が聞こえてきます。
2. 相手 B へダイヤルします。
呼び出し音（ブルルルという音）が聞こえます。相手 A には、保留音が聞こえています。
3. 相手 B がでたら、転送中の電話があることを伝えます。
この間、相手 A には保留音が聞こえています。
4. いったんフッキングをして、すぐに受話器を置きます。
相手 A と相手 B とで通話ができるようになります。



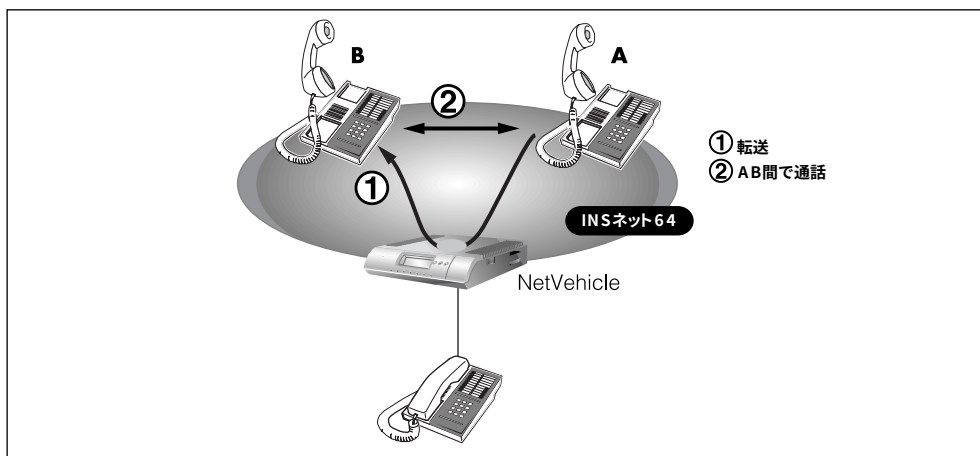
◆通信中転送したときの通話料はどうかの？

INS キャッチホンおよび三者通話から、通信中転送を行った場合、次のようにそれぞれ発信者に課金されます。

	最初の通話 (相手A)	2番目の通話 (相手B)	通信中 転送	課金 対象
INSキャッチホンの場合	Aから 自分から	Bから Bから	できる できる	A、B 自分、B
三者通話の場合	Aから 自分から	自分から 自分から	できる できない	A、自分 —

着信転送

「着信転送」は、NTTが提供するサービスです。利用の際はNTTとの契約が必要です。
かかってきた電話が、あらかじめ設定しておいた着信転送の条件に一致すると、NetVehicleは電話を転送します。



- 補足
- ・NetVehicleに電話機をつないでいなくても、着信転送を利用できます。
 - ・着信相手からNetVehicleまでの電話料金は着信相手に課金され、NetVehicleから転送先までの電話料金は、NetVehicle側に課金されます。



フレックスホン自動切り替え機能を使う

フレックスホンを利用して通話しているとき、話している相手から電話を切断した場合に自動的に（フッキング操作をしないで）保留になっていた相手と通話できるようにする機能です。この機能は疑似キャッチホン、疑似三者通話、疑似通話中転送を使用している場合でも利用できます。

フレックスホン自動切り替え機能を設定する

ここでは、電話機をアナログポート 1 につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。

2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - フレックスホン自動切替 →使用する

フレックスホン自動切替	☒ 使用する ☐ 使用しない

3. [更新＋設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



INS ボイスワープを利用する

INSボイスワープはNTTが提供する高機能な着信転送サービスです。利用の際はNTTとの契約が必要です。INSボイスワープのカスタマコントロール機能(INSボイスワープを制御する手順)の詳細については、NTT支店または営業所にお問い合わせください。

ダイヤルインサービスを契約されている場合は、発信者番号通知の設定を通知するにしてください。

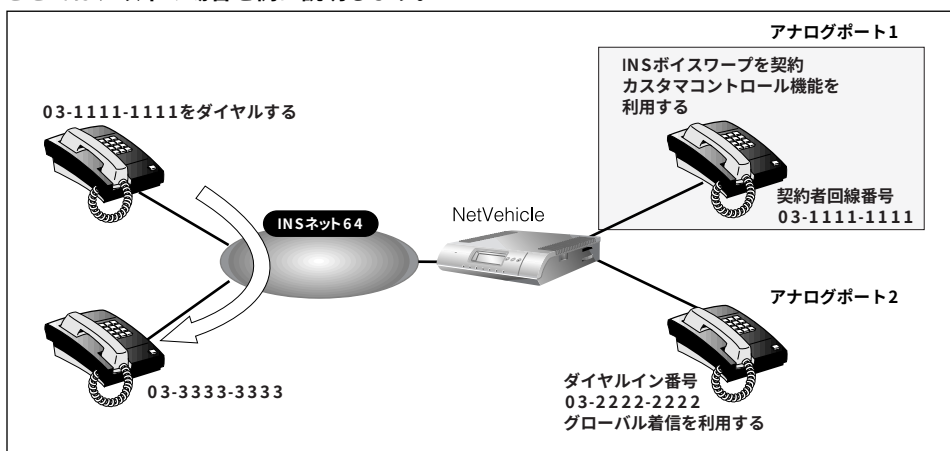


「発信者番号通知の設定を変更する」(P.231)

また、INSボイスワープを契約した番号(契約者番号または、ダイヤルイン番号)によって以下の設定が必要です。ダイヤルインサービスを契約していない場合は、設定の必要はありません。

INS ボイスワープを契約者番号(アナログポート1)で契約した場合の設定

ここでは、以下の場合を例に説明します。



1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

■ 電話番号 → 03-1111-1111 (契約者回線番号)

[網契約に関連する設定項目]		[?]
電話番号	03-1111-1111	

3. [更新] ボタンをクリックします。

4. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。
[アナログポート1情報] が表示されます。

5. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 発信者番号通知 → する

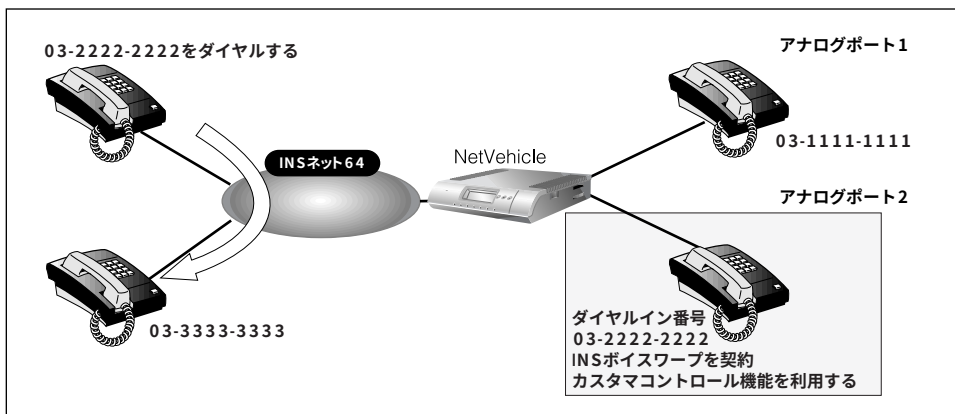
発信者番号通知	☒ する ☐ しない ☐ 網契約に従う

6. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

INS ボイスワープをダイヤルイン番号（アナログポート 2）で契約した場合の設定

ここでは、以下の場合を例に説明します。



1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 2 情報」をクリックします。 「アナログポート 2 情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- ダイヤルイン番号 → 03-2222-2222（ダイヤルイン番号）
- 発信者番号通知 → する

[網契約に関連する設定項目]		?
ダイヤルイン番号	03-2222-2222	
グローバル着信	☒ する ☐ しない	
発信者番号通知	☒ する ☐ しない ☐ 網契約に従う	

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



発信者番号表示 (ナンバー・ディスプレイ) を使う

電話をかけてきた相手の方の電話番号（発信者番号）または発信者番号が通知されない理由を、アナログポートに接続したアナログ機器に表示することができます。

!! こんな事に気をつけて

- 「INS ナンバー・ディスプレイ」は NTT が提供するサービスです。利用の際は NTT との契約が必要です。ただし、相手の方が INS ネット 64 から発信者番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも発信者番号をアナログ機器に表示することができます。
- ナンバー・ディスプレイに対応していないアナログ機器をご使用の場合、発信者番号は表示されません。

- ⓧⓧ
- ・ 相手の方がアナログ回線からかけてくる場合、発信者番号を通知させるには NTT との利用契約が必要です。
 - ・ 相手の方が電話番号を通知しない契約を結んでいる、または電話番号を通知しない操作をした場合などは、本装置に接続したアナログ機器に発信者番号は表示されません。

発信者番号が通知されない主な理由は以下のとおりです。

- 公衆電話からの電話のとき
- かけてきた相手の方が電話番号を通知しない操作をしたとき、または通知しない契約になっているとき

ナンバー・ディスプレイ機能を設定する

ここでは、電話機をアナログポート 1 につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。

2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 通信前情報通知 → モデム信号での通知
→ ナンバー・ディスプレイを使用する
- 使用モード設定 → モード 1

通信前情報通知	☒ 使用しない
	☐ モデム信号での通知
	☒ ナンバー・ディスプレイを使用する ☐ モデムダイヤルインを使用する ☐ メッセージあり情報を通知する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + モデムダイヤルインを使用する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + メッセージあり情報を通知する
	使用モード設定: モード1
	☐ PB信号での通知 アナログダイヤルインを使用する

- ⓧⓧ 「使用モード設定」で「モード 1」を指定して正常に動作しない場合は、「モード 2」を指定してください。

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



こんな事に気をつけて

- アナログポートに接続したアナログ機器に発信者番号を表示させるためには、以下の条件を満たす必要があります。
 - 本装置のアナログポートにナンバー・ディスプレイ対応のアナログ機器を接続し、アナログ機器のナンバー・ディスプレイ機能を「使用する」に設定する
 - アナログ機器を接続したアナログポートの「アナログポート情報」で「ナンバー・ディスプレイを使用する」に設定する
- お使いになるアナログ機器がナンバー・ディスプレイに対応していない場合や、ナンバー・ディスプレイを利用しない設定になっている場合は、誤鳴音や雑音（モデム信号）が聞こえるなど、正常に動作しない場合があります。
- 「アナログポート情報」で「通信前情報通知」を「ナンバー・ディスプレイを使用する」設定にした場合は、「アナログ共通情報」で「外線リング音」、「内線リング音」の設定を、「識別着信情報」で「識別リング音」の設定を「リング音 1」に設定することをお勧めします。それ以外の設定（「リング音 2」「リング音 3」）を行った場合には、外線着信、内線着信および識別着信が正常に動作しないことがあります。
- 相手の方がサブアドレス番号を通知してきてもサブアドレス番号は表示されません。
- ナンバー・ディスプレイ対応アナログ機器の機種によっては、発信者番号が正常に表示されない場合があります。
- 無鳴動 FAX 受信機能を使用する場合、ナンバー・ディスプレイ機能は利用できません。



- ・ 内線通話で着信した場合、呼び出し操作を行ったアナログポート番号「01」または「02」が表示されます。
- ・ 内線転送操作からの着信時は、転送される相手の番号が表示されます。
- ・ ナンバー・ディスプレイに対応していないアナログ機器を利用してもNetVehicleのシステムログ情報には発信者番号が表示されます。
- ・ ナンバー・ディスプレイ対応確認機種については、NetVehicle のサポートページを参照してください。



発信者番号表示（キャッチホン・ディスプレイ）を使う

通話中に電話をかけてきた相手の方の電話番号（発信者番号）または発信者番号が通知されない理由を、アナログポートに接続したアナログ機器に表示することができます。

!! こんな事に気をつけて

- 利用の際は NTT が提供する「INS ナンバー・ディスプレイ」の契約が必要です。ただし、相手の方が INS ネット 64 から発信者番号を通知して電話をかけてきた場合は、未契約でも発信者番号をアナログ機器に表示することができます。
- キャッチホン・ディスプレイに対応していないアナログ機器をご使用の場合、発信者番号は表示されません。

- ⓧⓧ
- ・ 相手の方がアナログ回線からかけてくる場合、発信者番号を通知させるには NTT との利用契約が必要です。
 - ・ 相手の方が電話番号を通知しない契約を結んでいる、または電話番号を通知しない操作をした場合などは、本装置に接続したアナログ機器に発信者番号は表示されません。

発信者番号が通知されない主な理由は以下のとおりです。

- 公衆電話からの電話のとき
- かけてきた相手の方が電話番号を通知しない操作をしたとき、または通知しない契約になっているとき

キャッチホン・ディスプレイ機能を設定する

ここでは、電話機をアナログポート 1 につないだ場合を例に説明します。

- ⓧⓧ キャッチホン・ディスプレイ機能を使用するには、「キャッチホン」の設定も必要です。

参照 「疑似キャッチホンを使う」(P.211)

参照 「発信者番号表示（ナンバー・ディスプレイ）を使う」(P.227)

1. 詳細設定メニューの「アナログ設定」で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。

2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- キャッチホン・ディスプレイ → 使用する（モード 1）

キャッチホン・ディスプレイ	使用する(モード1)

- ⓧⓧ 「使用する（モード 1）」を指定して正常に動作しない場合は、「使用する（モード 2）」、「使用する（モード 3）」または「使用する（モード 4）」を指定してください。

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。



こんな事に気をつけて

- アナログポートに接続したアナログ機器に発信者番号を表示させるためには、以下の条件を満たす必要があります。
 - 本装置のアナログポートにキャッチホン・ディスプレイ対応のアナログ機器を接続し、アナログ機器のキャッチホン・ディスプレイ機能を「使用する」に設定する
 - アナログ機器を接続したアナログポートの「アナログポート情報」で「キャッチホン・ディスプレイを使用する」に設定する
- お使いになるアナログ機器がキャッチホン・ディスプレイに対応していない場合や、キャッチホン・ディスプレイを利用しない設定になっている場合は、誤鳴音や雑音（モデム信号）が聞こえるなど、正常に動作しない場合があります。
- 相手の方がサブアドレス番号を通知してきてもサブアドレス番号は表示されません。
- キャッチホン・ディスプレイ対応アナログ機器の機種によっては、発信者番号が正常に表示されない場合があります。



- ・キャッチホン・ディスプレイに対応していないアナログ機器を利用してもNetVehicleのシステムログ情報には発信者番号が表示されます。
- ・キャッチホン・ディスプレイ対応確認機種については、NetVehicleのサポートページを参照してください。



発信者番号通知の設定を変更する

「発信者番号通知」は NTT が提供する基本サービスです。

発信するときに、発信者番号（契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号）を通知するかどうかを NTT の契約と NetVehicle の設定との組み合わせにより選ぶことができます。発信者番号を通知する契約をしている場合でも、アナログポート 1 と 2 をそれぞれ通知しないように設定できます。

網契約	NetVehicle の設定 (発信者番号通知)			相手ダイヤル番号前に付加	
	網契約に従う	する	しない	184 を付加	186 を付加
通常通知	通知する	通知する	通知しない	通知しない	通知する
通常非通知	通知しない				

発信者番号通知を設定する

ここでは、電話機をアナログポート 1 につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 発信者番号通知 → 「する」、「しない」または「網契約に従う」を選択する

発信者番号通知	☒ する ☐ しない ☐ 網契約に従う

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。

設定した内容が有効になります。

補足 「アナログポート情報」でダイヤルイン番号に電話番号を設定し、発信者番号通知を行う設定をした場合、相手先にはダイヤルイン番号に設定した電話番号を通知します。
鳴り分け番号を通知する場合、「アナログポート情報」のダイヤルイン番号に鳴り分け番号を設定してください。



発信者電話番号を選択する

外線発信時に、ダイヤルする相手電話番号の前にプレフィックス番号を付加することによって、相手に通知する発信者番号を選択することができます。



こんな事に気をつけて

- 利用するには、NTT との「ダイヤルインサービス」または「i・ナンバーサービス」の契約が必要です。
- この機能を利用する場合、アナログポート情報の「発信者番号通知」の設定は無効となり、プレフィックスで指定した番号を相手に通知します。ただし、網契約により相手に通知されない場合があります。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. プレフィックス番号に続けて相手電話番号をダイヤルします。
通知したい発信者番号に対応するプレフィックス番号を付加します。

[ダイヤルインサービス契約（グローバル着信する）の場合]

通知する電話番号の種別	付加するプレフィックス番号
契約者回線番号	*70
アナログポート1情報に設定したダイヤルイン番号	*71
アナログポート2情報に設定したダイヤルイン番号	*72

[i・ナンバー契約の場合]

通知する電話番号の種別	付加するプレフィックス番号
鳴り分け番号1（契約者回線番号）	*73
鳴り分け番号2（追加番号）	*74
鳴り分け番号3（追加番号）	*75

3. 呼び出し音が聞こえます。



無鳴動 FAX 受信機能を使う

無鳴動着信機能（FAXを受信したときに、着信音を鳴らさずに応答する機能）を持つFAXをアナログポートに接続した場合、着信音（リング音）を鳴らさずにFAXに着信させることができます。



こんな事に気をつけて

無鳴動 FAX 受信機能を使用する場合、ナンバー・ディスプレイ機能は利用できません。

無鳴動 FAX 受信機能を設定する

ここでは、FAX をアナログポート 1 につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。

2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

■ 接続機器 → 「FAX（無鳴動強制着信）」または「FAX（無鳴動識別着信）」を選択する



・「FAX（無鳴動強制着信）」を指定すると、FAX 受信時に無鳴動着信処理を行います。

・「FAX（無鳴動識別着信）」を指定すると、相手から FAX 通信を行うという情報（高位レイヤ整合性：G3FAX）が着信時に通知された場合のみ無鳴動着信処理を行います。それ以外の着信は、鳴動着信処理を行います。

[装置の動作に関連する設定項目]



接続機器

☐ 電話 ☐ FAX(キャッチホン着信) ☐ モデム
☐ FAX ☒ FAX(無鳴動強制着信)
☐ FAX(無鳴動識別着信) ☐ なし

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

4



i・ナンバー着信機能を使う

i・ナンバーはNTTが提供するサービスで、ご使用になる場合は契約が必要です。着信するアナログポートを特定できます。



◆ i・ナンバー

NTTの「i・ナンバー」を契約すると、1つのINSネット64に通常の電話番号に加えて、別の追加電話番号を2つまで割り当てることができます。それぞれの電話番号を使い分けることで、INSネット64につないでいる機器を呼び分けられるようになります。

i・ナンバー着信機能を設定する

ここでは、次のような場合を例に説明します。

- 契約者回線番号（鳴り分け番号1）で着信したときは両ポートに着信
- 追加番号（鳴り分け番号2）で着信したときはアナログポート1のみに着信
- 追加番号（鳴り分け番号3）で着信したときはアナログポート2のみに着信

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- i・ナンバー → 使用する
- [i・ナンバー情報1]
- 動作モード → 両ポート着信
- [i・ナンバー情報2]
- 動作モード → ポート1のみ着信
- [i・ナンバー情報3]
- 動作モード → ポート2のみ着信

i・ナンバー	☐ 使用しない
	☒ 使用する
	[i・ナンバー情報1]
	鳴り分け番号1
	動作モード 両ポート着信
	[i・ナンバー情報2]
	鳴り分け番号2
	動作モード ポート1のみ着信
	[i・ナンバー情報3]
	鳴り分け番号3
	動作モード ポート2のみ着信

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



サブアドレスを設定する

サブアドレスを設定すると、着信するアナログポート（ポート 1、またはポート 2）を特定できます。サブアドレスは、発信側が INS ネット 64 に加入している場合のみ利用できます。

外から電話をかけるとき、電話番号に続いて✱とサブアドレスをダイヤルすれば、そのサブアドレスを設定した方のアナログポートに着信させることができます。ただし、サブアドレスの番号は完全に一致しないと着信できません。

④⑤ 相手電話番号✱サブアドレス

例) 03-1111-1111✱123



こんな事に気をつけて

サブアドレスで着信ポートを特定する場合は、発信する相手側はサブアドレスを指定できる ISDN 機器（電話、PHS 等）の必要があります。

.....

サブアドレスを設定する

ここでは、電話機をアナログポート 1 につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。

2. [装置の動作に関連する設定項目] でサブアドレスを指定します（19 桁以内）。

■ サブアドレス → 123

サブアドレス	123

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



ダイヤルイン／グローバル着信機能を使う

ダイヤルインはNTTが提供するサービスで、ご使用になる場合は契約が必要です。着信するアナログポート（ポート1、またはポート2）を特定できます。



◆ダイヤルインサービスとグローバル着信

NTTの「ダイヤルインサービス」とは、1つのINSネット64に通常の電話番号（以降、契約者回線番号とよびます）に加えて、「ダイヤルイン番号」とよばれる番号を割り当てるサービスです。契約者回線番号とダイヤルイン番号を使い分けることで、INSネット64につないでいる機器を呼び分けられるようになります。

一方「グローバル着信」とは、契約者回線番号で電話がかかってきたとき、どの電話番号で着信したかをINSネット64につないでいる機器に通知しないようにするオプションです。わかりやすく言うと、この場合呼び分けせずにすべての電話機を鳴らすわけです。ちなみに「ダイヤルインサービス」を契約する際、「グローバル着信利用しない」という契約にすると、相手先がダイヤルした番号に対応する電話機だけを鳴らします。

ダイヤルイン番号を1つ追加して「グローバル着信利用しない」という契約にすると、ダイヤルイン番号を2つ追加した場合と同じ料金がかかります。かかってきた電話すべてについて呼び分けをするためです。ただし、NetVehicleではアナログポートごとに「グローバル着信を行う／行わない」の設定ができるので、「グローバル着信利用」と契約しておけば、ダイヤルイン番号1つ分の使用料で済みます。

INSネット64の基本機能であるサブアドレスでも同じように呼び分けができます。ただし、相手がアナログ回線である場合には、サブアドレス情報のやり取りができないため、呼び分けができません。

ダイヤルイン／グローバル着信機能を設定する

ここでは、契約者番号で着信したときは、アナログポート1のみで着信し、ダイヤルイン番号（03-2222-2222）で着信したときはアナログポート2のみで着信する場合を例に説明します。

アナログポート情報1の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート1情報」をクリックします。
「アナログポート1情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- ダイヤルイン番号 → なにも設定しない
- グローバル着信 → する

[網契約に関連する設定項目]	
ダイヤルイン番号	
グローバル着信	☒ する ☐ しない

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

アナログポート情報 2 の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 2 情報」をクリックします。
「アナログポート 2 情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- ダイヤルイン番号 → 03-2222-2222
- グローバル着信 → しない

[網契約に関連する設定項目] 	
ダイヤルイン番号	03-2222-2222
グローバル着信	☐ する ☒ しない

3. [往診＋設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



モデムダイヤルイン機能を使う

モデムダイヤルインは、電話と FAX など機能ごとに個別の番号を持つことができます。着信したときに、モデム信号で自局電話番号または送出着信情報で設定した番号を電話機に通知します。

自局電話番号を送出する場合の設定例は（その 1）で、送出着信情報で設定する任意の番号を送出する場合の設定例は（その 2）で説明します。



こんな事に気をつけて

- 利用するには、NTT との「ダイヤルインサービス」または「i・ナンバーサービス」の契約が必要です。
- この機能を使用する場合、アナログダイヤルイン機能は利用できません。また、ご使用になる電話機がモデムダイヤルイン機能に対応している必要があります（電話機の設定も必要です。電話機の取扱説明書をご覧ください）。

モデムダイヤルイン機能を設定する（その 1：自局電話番号を送出する）

ここでは、以下の場合を例に説明します。

- アナログポート 1 に FAX 機能付き電話をつなぐ
- i・ナンバー契約を行う
- 契約者番号（鳴り分け番号 1：03-2222-2222）で着信した場合は電話に着信する
(送出番号：03-2222-2222)
- 追加番号（鳴り分け番号 2：03-3333-3333）で着信した場合は FAX に着信する
(送出番号：03-3333-3333)

ここでは「i・ナンバー」契約をしている場合の設定例を説明していますが、「ダイヤルインサービス」を契約している場合は、「アナログダイヤルイン機能を使う」で説明している設定例を参考にして設定を行ってください。



「アナログダイヤルイン機能を使う」(P.244)

アナログ共通情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- i・ナンバー → 使用する
- [i・ナンバー情報 1]
- 鳴り分け番号 1 → 03-2222-2222
- 動作モード → ポート 1 のみ着信
- [i・ナンバー情報 2]
- 鳴り分け番号 2 → 03-3333-3333
- 動作モード → ポート 1 のみ着信

i・ナンバー	☐ 使用しない	
	☒ 使用する	
	[i・ナンバー情報 1]	
	鳴り分け番号1	03-2222-2222
	動作モード	ポート1のみ着信
	[i・ナンバー情報 2]	
	鳴り分け番号2	03-3333-3333
	動作モード	ポート1のみ着信
	[i・ナンバー情報 3]	
	鳴り分け番号3	
	動作モード	両ポート着信

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

アナログポート 1 情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 通信前情報通知 → モデム信号での通知
→ モデムダイヤルインを使用する
 - 使用モード設定 → モード 1

通信前情報通知

☐ 使用しない
☒ モデム信号での通知

☐ ナンバー・ディスプレイを使用する
☒ モデムダイヤルインを使用する
☐ メッセージあり情報を通知する
☐ ナンバー・ディスプレイを使用する
 + モデムダイヤルインを使用する
☐ ナンバー・ディスプレイを使用する
 + メッセージあり情報を通知する

使用モード設定: 

☐ PB信号での通知
 アナログダイヤルインを使用する

- ### 3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。 設定した内容が有効になります。

モデムダイヤルイン機能を設定する（その2：任意の番号を送出する）

ここでは、次のような場合を例に説明します。

- アナログポート 1 に FAX 機能および子機付き電話をつなぐ
- i・ナンバー契約を行う
- 契約者番号（鳴り分け番号 1）で着信した場合は電話に着信する（送出番号：1111）
- 追加番号（鳴り分け番号 2）で着信した場合は FAX に着信する（送出番号：2222）
- 追加番号（鳴り分け番号 3）で着信した場合は子機に着信する（送出番号：3333）

ここでは「i・ナンバー」契約をしている場合の設定例を説明していますが、「ダイヤルインサービス」を契約している場合は、「アナログダイヤルイン機能を使う」で説明している設定例を参考にして設定を行ってください。



「アナログダイヤルイン機能を使う」（P.244）

アナログ共通情報の設定

4

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- i・ナンバー → 使用する
- [i・ナンバー情報 1]
- 動作モード → ポート 1 のみ着信
- [i・ナンバー情報 2]
- 動作モード → ポート 1 のみ着信
- [i・ナンバー情報 3]
- 動作モード → ポート 1 のみ着信

i・ナンバー	☐ 使用しない	
	☒ 使用する	
	[i・ナンバー情報1]	
	鳴り分け番号1	
	動作モード	ポート1のみ着信
	[i・ナンバー情報2]	
	鳴り分け番号2	
	動作モード	ポート1のみ着信
	[i・ナンバー情報3]	
	鳴り分け番号3	
	動作モード	ポート1のみ着信

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

アナログポート 1 情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 通信前情報通知 → モデム信号での通知
→ モデムダイヤルインを使用する
 - 使用モード設定 → モード 1

通信前情報通知	☐ 使用しない
	☒ モデム信号での通知
	☐ ナンバー・ディスプレイを使用する ☒ モデムダイヤルインを使用する ☐ メッセージあり情報を通知する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + モデムダイヤルインを使用する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + メッセージあり情報を通知する 使用モード設定: モード1 
	☐ PB信号での通知 アナログダイヤルインを使用する

- ### 3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。 設定した内容が有効になります。

送出着信番号情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「送出着信番号情報」をクリックします。
「送出着信番号情報」ページが表示されます。

2. [送出着信番号情報] で以下の項目を指定します。

- 番号送出方法設定 → 指定された番号を送出する
- 送出番号設定
 - 鳴り分け番号 1 での着信時 → 1111
 - 鳴り分け番号 2 での着信時 → 2222
 - 鳴り分け番号 3 での着信時 → 3333

[送出着信番号情報]	
番号送出方法設定	☐ 網から通知された番号を送出する ☒ 指定された番号を送出する
送出番号設定	・ 契約者番号での着信時
	・ ポート1のダイヤルイン番号での着信時
	・ ポート2のダイヤルイン番号での着信時
	・ 鳴り分け番号1での着信時 1111
	・ 鳴り分け番号2での着信時 2222
	・ 鳴り分け番号3での着信時 3333

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



アナログダイヤルイン機能を使う

アナログダイヤルインは、電話とFAXなど機能ごとに個別の番号を持つことができます。着信したときに、PB信号で自局電話番号または送出着信情報で設定した番号を電話機に通知します。

自局電話番号を送出する場合の設定例は（その1）で、送出着信情報で設定する任意の番号を送出する場合の設定例は（その2）で説明します。

!! こんな事に気をつけて

- 利用するには、NTTとの「ダイヤルインサービス」または「i・ナンバーサービス」の契約が必要です。
- この機能を使用する場合、ナンバー・ディスプレイおよびモデムダイヤルイン機能は利用できません。また、ご使用になる電話機がアナログダイヤルイン機能に対応している必要があります。（電話機の設定も必要です。電話機の取扱説明書をご覧ください。）

.....

■ アナログダイヤルイン機能を設定する（その1：自局電話番号を送出する）

ここでは以下の場合を例に説明します。

- アナログポート1にFAX機能付き電話をつなぐ
- ダイヤルイン契約を「グローバル着信を利用する」で契約
- 契約者番号（03-2222-2222）で着信した場合は電話に着信する（送出番号：2222）
- ダイヤルイン番号（03-2222-3333）で着信した場合はFAXに着信する（送出番号：3333）

ここでは「ダイヤルインサービス」契約をしている場合の設定例を説明していますが、「i・ナンバー」を契約している場合は、「モデムダイヤルイン機能を使う」で説明している設定例を参考にして設定を行ってください。

 参照 「モデムダイヤルイン機能を使う」（P.238）

アナログ共通情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 電話番号 → 03-2222-2222

[網契約に関連する設定項目]		
電話番号	03-2222-2222	

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

アナログポート 1 情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- ダイヤルイン番号 → 03-2222-3333

[網契約に関連する設定項目]



ダイヤルイン番号 03-2222-3333

[装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 通信前情報通知 → PB 信号での通知

通信前情報通知	☐ 使用しない
	☐ モデム信号での通知
	☐ ナンバー・ディスプレイを使用する ☒ モデムダイヤルインを使用する ☐ メッセージあり情報を通知する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + モデムダイヤルインを使用する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + メッセージあり情報を通知する 使用モード設定: モード1
	☒ PB信号での通知 アナログダイヤルインを使用する

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

■ アナログダイヤルイン機能を設定する(その2:任意の番号を送出する)

ここでは、次のような場合を例に説明します。

- アナログポート 1 に FAX 機能付き電話をつなぐ
- ダイヤルイン契約を「グローバル着信を利用する」で契約
- 契約者番号で着信した場合は電話に着信する（送出番号：1111）
- ダイヤルイン番号（03-2222-3333）で着信した場合は FAX に着信する（送出番号：2222）

ここでは「ダイヤルインサービス」契約をしている場合の設定例を説明していますが、「i・ナンバー」を契約している場合は、「モデムダイヤルイン機能を使う」で説明している設定例を参考にして設定を行ってください。



「モデムダイヤルイン機能を使う」(P.238)

アナログポート 1 情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。

2. [網契約に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- ダイヤルイン番号 → 03-2222-3333

[網契約に関連する設定項目]



ダイヤルイン番号 03-2222-3333

[装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。

- 通信前情報通知 → PB 信号での通知

通信前情報通知	☐ 使用しない
	☐ モデム信号での通知
	☐ ナンバー・ディスプレイを使用する ☒ モデムダイヤルインを使用する ☐ メッセージあり 情報を通知する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + モデムダイヤルインを使用する ☐ ナンバー・ディスプレイを使用する + メッセージあり 情報を通知する 使用モード設定: モード1
	☒ PB信号での通知 アナログダイヤルインを使用する

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

送出着信番号情報の設定

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「送出着信番号情報」をクリックします。
「送出着信番号情報」ページが表示されます。

2. [送出着信番号情報] で以下の項目を指定します。

- 番号送出方法設定 → 指定された番号を送出する
- 送出番号設定
 - 契約者回線番号での着信時 → 1111
 - ポート1ダイヤルイン番号での着信時 → 2222

[送出着信番号情報]

番号送出方法設定

☐ 網から通知された番号を送出する

☒ 指定された番号を送出する

送出番号設定

- ・ 契約者番号での着信時
1111
- ・ ポート1のダイヤルイン番号での着信時
2222
- ・ ポート2のダイヤルイン番号での着信時
[]
- ・ 鳴り分け番号1での着信時
[]
- ・ 鳴り分け番号2での着信時
[]
- ・ 鳴り分け番号3での着信時
[]

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



リバースパルス送出機能を使う

リバースパルスは、外から電話がかかってきて通話中に相手から電話を切った場合に、NetVehicle がアナログポートに接続された機器に対して通話が終了したことを知らせるために送出する信号です。例えば、留守番電話で相手が切断了ら同時にメッセージの録音を終了する機能を備えているときに有効です。



こんな事に気をつけて

接続したアナログ機器がリバースパルスを認識する機能を備えていない場合は、リバースパルスを送出する設定を行わないでください。誤動作する場合があります。

リバースパルス送出を設定する

ここでは、電話機をアナログポート 1 につないだ場合を例に説明します。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログポート 1 情報」をクリックします。
「アナログポート 1 情報」ページが表示されます。
2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - リバースパルス送出 →送出する

リバースパルス送出	☒ 送出する ☐ 送出しない
3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。



電話機を利用して設定を変更する

NetVehicle のアナログポート（ポート 1、ポート 2）に接続したアナログ機器から設定できる項目を以下に示します。

- ・時計の設定
- ・IP アドレスの設定
- ・アナログ機能の設定
 - スタンバイモードの設定
 - 着信転送の設定
 - アナログポートの接続機器の設定
 - ナンバー・ディスプレイの設定
 - i・ナンバーの設定
 - 鳴り分け番号の動作モードの設定
 - ダイヤルイン番号の設定
 - グローバル着信の設定
 - メッセージ到着お知らせ機能の設定
 - メッセージあり状態表示機能の設定
 - メッセージあり情報通知機能の設定
- ・着信転送先の変更
- ・TEL メールの設定
- ・メールチェックの実行
- ・メール着信の消去
- ・留守状態の設定
- ・留守モードの設定

 スタンバイモードの設定は「スタンバイモードで使用する」(P.196) で説明していますが、ここで説明する方法でも設定が可能です。また、外線からも設定が可能です。

 外線から設定を変更する→「外線から設定を変更する（無課金）」(P.256)

 **こんな事に気をつけて**

データ通信中に電話機を利用して設定を変更するとデータ通信が切断されます。
ただし、「時計の設定」、「メールチェックの実行」、「メール着信の消去」の場合は切断されません。

.....

時計を設定する

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. **[*][0][*][8][2][0]** + **[*]** 日付+時刻 (yyymmddHHMMSS) をダイヤルします。
例) 時刻を 1999 年 10 月 21 日午後 2 時 30 分 00 秒に設定する場合
[*][0][*][8][2][0][*][9][9][1][0][2][1][1][4][3][0][0][0] をダイヤルします
 - yy →西暦の下 2 桁を指定します。00 ~ 36 の場合は西暦 2000 年以降とみなします。
 - mm →月を 01 ~ 12 までの数字で指定します。
 - dd →日付を 01 ~ 31 までの数字で指定します。
 - HH →時間を 00 ~ 23 までの数字で指定します。
 - MM →分を 00 ~ 59 までの数字で指定します。
 - SS →秒を 00 ~ 59 までの数字で指定します。
3. ピピッという音が 2 回とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

 正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

IP アドレスを設定する

NetVehicle のアナログポート（ポート 1、ポート 2）に接続したアナログ機器から IP アドレスの設定を行います。

 操作パネルで IP アドレスを設定する → ■基本編 「操作パネルで設定する」(P.105)

-  **こんな事に気をつけて**
- NetVehicle の IP アドレスの変更を行うと LAN 間通信や ISDN でのデータ通信ができなくなる場合があります。
 - DHCP サーバ機能を利用する場合には、WWW ブラウザから設定を変更してください。
 - DHCP サーバ機能を利用している場合は、NetVehicle の IP アドレスの変更は行わないようにしてください。IP アドレスを変更すると、DHCP サーバ機能は利用できません。
-

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. **[*][0][*][8][1][0]** + **[*]** IP アドレス+ネットマスク+ブロードキャストアドレスをダイヤルします。

IP アドレス、ネットマスク、ブロードキャストアドレスの数字の区切りに **[*]** を使います。
ブロードキャストアドレスは、指定するブロードキャストアドレスに対応する数値を以下の表から選択します。

選択値	ブロードキャストアドレスの設定
0	0.0.0.0
1	255.255.255.255
2	IP アドレス／ネットマスクから求められるネットワークアドレス+オール 0
3	IP アドレス／ネットマスクから求められるネットワークアドレス+オール 1

例) IPアドレスを「192.168.2.1」、ネットマスクを「24」、ブロードキャストアドレスを「3（ネットワークアドレス+オール1）」に設定する場合

✳0✳810✳192✳168✳2✳1✳24✳3をダイヤルします。

3. ピピッという音が2回とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

◀補足▶ 正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

■ アナログ機能を設定する

アナログポートに接続したアナログ機器から、次のアナログ機能の設定を行えます。

- スタンバイモードの設定（通常モード／スタンバイモード）
- 着信転送の設定（しない／する／疑似着信転送）
- 接続機器の設定（なし／電話／モデム／FAX／FAX（無鳴動強制着信／無鳴動識別着信／キャッチホン着信）
- ナンバー・ディスプレイの設定（使用しない／使用する（モード1）／使用する（モード2））
- i・ナンバーの設定（使用する／使用しない）
- 鳴り分け番号の動作モードの設定（ポート1のみ着信／ポート2のみ着信／両ポート着信／着信拒否）
- ダイヤルイン番号の設定（ダイヤルイン番号／省略時：ダイヤルイン番号削除）
- グローバル着信の設定（しない／する）
- メッセージ到着お知らせ機能の設定（使用しない／使用する（契約者回線番号）／使用する（ダイヤルイン番号）／使用する（鳴り分け番号1）／使用する（鳴り分け番号2）／使用する（鳴り分け番号3））
- メッセージあり状態表示機能の設定（ランプ表示しない／ランプ表示する）
- メッセージあり情報通知機能の設定（通知しない／通知する（モード1）／通知する（モード2））

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

✳0✳に続けて操作番号をダイヤルします。

機 能		操作番号
スタンバイモード	通常モード	8001
	スタンバイモード	8002
着信転送	しない	6001
	する	6002
	疑似着信転送	6003
接続機器の設定	なし	40P1
	電話	40P2
	モデム	40P3
	FAX	40P4
	FAX（無鳴動強制着信）	40P5
	FAX（無鳴動識別着信）	40P6
	FAX（キャッチホン着信）	40P7

機 能		操作番号
ナンバー・ディスプレイ	使用しない	41P1
	使用する（モード1）	41P2
	使用する（モード2）	41P3
i・ナンバーの設定	使用しない	2201
	使用する	2202
鳴り分け番号の動作モード	ポート1のみ着信	22i1
	ポート2のみ着信	22i2
	両ポート着信	22i3
	着信拒否	22i4
ダイヤルイン番号の設定		42PS
グローバル着信の設定	しない	43P1
	する	43P2
メッセージ到着お知らせ機能の設定	使用しない	44P1
	使用する（契約者回線番号）	44P2
	使用する（ダイヤルイン番号）	44P3
	使用する（鳴り分け番号1）	44P4
	使用する（鳴り分け番号2）	44P5
	使用する（鳴り分け番号3）	44P6
メッセージあり状態表示機能の設定	ランプ表示しない	45P1
	ランプ表示する	45P2
メッセージあり情報通知機能の設定	通知しない	46P1
	通知する（モード1）	46P2
	通知する（モード2）	46P3

P には、設定を変更するアナログポートのポート番号（1 または 2）を入れます。

i には、鳴り分け番号 1 ～ 3 の番号（1、2 または 3）を入れます。

S には、ダイヤルイン番号／省略時：ダイヤルイン番号削除

例）ポート 2 の接続機器を「なし」にする場合

※0※4021 をダイヤルします。

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

〔補足〕 ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。

例）「接続機器」の設定を「なし」に設定した場合、ピピッ（1 回）プープープー

正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

着信転送先の設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、着信転送および疑似着信転送の転送先の設定を行います。



「着信転送の設定を行う」(P.219)、「疑似着信転送を使う」(P.213)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

＊0＊に続けて操作番号＋転送先電話番号をダイヤルします。

機 能	操作番号
契約者回線番号の転送先	610
ポート1のダイヤルインの転送先	611
ポート2のダイヤルインの転送先	612
鳴り分け番号1の転送先	613
鳴り分け番号2の転送先	614
鳴り分け番号3の転送先	615

例) 契約者回線番号を「03-1111-2222」に着信転送する設定を行う場合

＊0＊6100311112222をダイヤルします。

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

補足 ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります。

- ・ 契約者回線番号の転送先を設定した場合 : 1回
- ・ ポート1のダイヤルイン番号の転送先を設定した場合 : 2回
- ・ ポート2のダイヤルイン番号の転送先を設定した場合 : 3回
- ・ 鳴り分け番号1の転送先を設定した場合 : 4回
- ・ 鳴り分け番号2の転送先を設定した場合 : 5回
- ・ 鳴り分け番号3の転送先を設定した場合 : 6回

正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

TEL メールの設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、TELメールの設定を行えます。

 「TELメール機能」(P.183)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

 に続けて操作番号をダイヤルします。

機 能		操作番号
TELメール機能の設定	使用しない	2101
	使用する	2102

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

 ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。
正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

メールチェックを実行する

アナログポートに接続したアナログ機器から、メールチェックを実行できます。

 「メールチェック機能」(P.175)

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2.  をダイヤルします。

3. ピピッという音が2回とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

 正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

メール着信を消去する

アナログポートに接続したアナログ機器から、メール着信を消去できます。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2.  をダイヤルします。

3. ピピッという音が2回とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

 正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

留守状態の設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、留守確認機能の留守状態の設定を行えます。



「留守状態を確認する（無課金）」（P.261）

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

✳0✳に続けて操作番号をダイヤルします。

機 能		操作番号
留守状態の設定	在宅	2001
	留守	2002

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

ⓧⓧ ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。
正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。

留守モードの設定を行う

アナログポートに接続したアナログ機器から、留守モードの設定を行えます。



「留守モードの動作を設定する」（P.192）

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

✳0✳に続けて操作番号をダイヤルします。

機 能		操作番号
留守モードの設定	解除	8401
	実行	8402

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。

ⓧⓧ ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。
正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。



外線から設定を変更する(無課金)

外線から設定できる項目を以下に示します。

- ・スタンバイモードの設定
- ・着信転送の設定
- ・アナログポートの接続機器の設定
- ・ナンバー・ディスプレイの設定
- ・着信転送先の設定
- ・TEL メールの設定
- ・留守状態の設定



こんな事に気をつけて

サブアドレスを使用するので、発信側はサブアドレスを指定できるISDN機器（電話、PHS等）の必要があります。

アナログポート（内線）からも設定の変更が可能です。



内線から設定を変更する→「電話機を利用して設定を変更する」(P.249)

設定変更用暗証番号を設定する

外線から設定を変更するには暗証番号が必要です（数字4桁）。

ここでは、設定変更用暗証番号を「5678」に設定する場合を例に説明します。



こんな事に気をつけて

設定変更用暗証番号は「アナログポート情報」の「サブアドレス」の設定と別のものを設定してください。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [装置の動作に関する設定項目] で以下の項目を設定します。

- 設定変更用暗証番号 → 5678（任意の数字4桁を指定します）

[装置の動作に関連する設定項目]		?
設定変更用暗証番号	****	

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

ⓧⓧ 外線からの設定変更をやめたい場合は、設定変更用暗証番号を削除してください。

外線からアナログ機能の設定を変更する

外線の電話機から、次のアナログ機能の設定を行います。

- スタンバイモードの設定（通常モード／スタンバイモード）
- 着信転送の設定（しない／する／疑似着信転送）
- 接続機器の設定（なし／電話／モデム／FAX／FAX（無鳴動強制着信／無鳴動識別着信／キャッチホン着信））
- ナンバー・ディスプレイの設定（使用しない／使用する（モード1）／使用する（モード2））
- ダイヤルイン番号の設定（ダイヤルイン番号／省略時：ダイヤルイン番号削除）
- グローバル着信の設定（しない／する）
- メッセージ到着お知らせ機能の設定（使用しない／使用する（契約者回線番号）／使用する（ダイヤルイン番号）／使用する（鳴り分け番号1）／使用する（鳴り分け番号2）／使用する（鳴り分け番号3））
- メッセージあり状態表示機能の設定（ランプ表示しない／ランプ表示する）
- メッセージあり情報通知機能の設定（通知しない／通知する（モード1）／通知する（モード2））

補足 すでにBチャネルを2本使用しているときに、外線から設定を変更する場合、NTTの通信中着信サービスの契約が必要です。

4

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号に続けて、サブアドレスとして〔設定変更用暗証番号（4桁）〕＋操作番号をダイヤルします。

機 能		操作番号
スタンバイモード	通常モード	8001
	スタンバイモード	8002
着信転送	しない	6001
	する	6002
	疑似着信転送	6003
接続機器の設定	なし	40P1
	電話	40P2
	モデム	40P3
	FAX	40P4
	FAX（無鳴動強制着信）	40P5
	FAX（無鳴動識別着信）	40P6
	FAX（キャッチホン着信）	40P7
ナンバー・ディスプレイ	使用しない	41P1
	使用する（モード1）	41P2
	使用する（モード2）	41P3

機 能		操作番号
ダイヤルイン番号の設定		4 2 P S
グローバル着信の設定	しない	4 3 P 1
	する	4 3 P 2
メッセージ到着お知らせ機能の設定	使用しない	4 4 P 1
	使用する（契約者回線番号）	4 4 P 2
	使用する（ダイヤルイン番号）	4 4 P 3
	使用する（鳴り分け番号1）	4 4 P 4
	使用する（鳴り分け番号2）	4 4 P 5
	使用する（鳴り分け番号3）	4 4 P 6
メッセージあり状態表示機能の設定	ランプ表示しない	4 5 P 1
	ランプ表示する	4 5 P 2
メッセージあり情報通知機能の設定	通知しない	4 6 P 1
	通知する（モード1）	4 6 P 2
	通知する（モード2）	4 6 P 3

P には、設定を変更するアナログポートのポート番号（1 または 2）を入れます。

S には、ダイヤルイン番号／省略時：ダイヤルイン番号削除

3. 呼び出し音が聞こえます。

- Ⓐ・設定変更用暗証番号を間違えた場合は、以下のメッセージが聞こえます。
「おかけになった電話番号にはあなたと通信できる機器が接続されていません」
・正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。
・この場合、NetVehicle 側には着信音は鳴りません。

4. 受話器を置きます。

■ 外線から着信転送先の設定を行う

外線の電話機から、着信転送および疑似着信転送の転送先の設定を行えます。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号に続けて、サブアドレスとして〔設定変更用暗証番号（4 桁）〕＋操作番号＋転送先電話番号をダイヤルします。

機 能	操作番号
契約者回線番号の転送先	610
ポート1のダイヤルインの転送先	611
ポート2のダイヤルインの転送先	612
鳴り分け番号1の転送先	613
鳴り分け番号2の転送先	614
鳴り分け番号3の転送先	615

3. 呼び出し音が聞こえます。

- ⓧ**補足** ・ 設定変更用暗証番号を間違えた場合は、以下のメッセージが聞こえます。
「おかけになった電話番号にはあなたと通信できる機器が接続されていません」
・ 正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。
・ この場合、NetVehicle 側には着信音は鳴りません。

4. 受話器を置きます。

外線から TEL メールの設定を行う

外線の電話機から、TEL メールの設定を行えます。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号に続けて、サブアドレスとして〔設定変更用暗証番号（4桁）〕＋操作番号をダイヤルします。

機 能		操作番号
TELメール機能の設定	使用しない	2101
	使用する	2102

3. 呼び出し音が聞こえます。

- ⓧ**補足** ・ 設定変更用暗証番号を間違えた場合は、以下のメッセージが聞こえます。
「おかけになった電話番号にはあなたと通信できる機器が接続されていません」
・ 正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。
・ この場合、NetVehicle 側には着信音は鳴りません。

4. 受話器を置きます。

■ 外線から留守状態の設定を行う

外線の電話機から、留守確認機能の留守状態の設定を行えます。



「留守状態を確認する（無課金）」（P.261）

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。

2. ダイヤル操作で設定を変更します。

契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号に続けて、サブアドレスとして〔設定変更用暗証番号（4桁）〕＋操作番号をダイヤルします。

機 能		操作番号
留守状態の設定	在宅	2001
	留守	2002

3. 呼び出し音が聞こえます。



- ・設定変更用暗証番号を間違えた場合は、以下のメッセージが聞こえます。
「おかけになった電話番号にはあなたと通信できる機器が接続されていません」
- ・正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。
- ・この場合、NetVehicle 側には着信音は鳴りません。

4. 受話器を置きます。



留守状態を確認する（無課金）

留守中に外線から着信した場合、留守番電話に切り替わることなく相手に留守中であることを知らせる機能です。留守の場合は呼び出し音のあとにビジートーン（プープープーという話中の音）が送出され、在宅の場合は通常の呼び出し音が鳴ります。留守番電話に切り替わらないので、電話料金がかかりません。

留守確認用番号の設定をする

留守状態を確認するには、確認用番号が必要です（数字4桁）。



こんな事に気をつけて

確認用番号は「アナログポート情報」の「サブアドレス」の設定と別のものを設定してください。

1. 詳細設定メニューのアナログ設定で「アナログ共通情報」をクリックします。
「アナログ共通情報」ページが表示されます。

2. [装置の動作に関連する設定項目] で以下の項目を指定します。
 - 留守確認用番号 → 7890（任意の数字4桁を指定します。）

留守確認用番号

7890

3. [更新+設定反映] ボタンをクリックします。
設定した内容が有効になります。

「留守」または「在宅」の設定をする

外出時、帰宅時は以下のように「留守」、「在宅」を設定してください。

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. ダイヤル操作で設定を変更します。

✳0✳に続けて操作番号をダイヤルします。

機 能		操作番号
留守状態の設定	在宅	2001
	留守	2002

3. ピピッという音とビジートーン（プープープーという話中の音）が聞こえます。



ピピッという音の鳴る回数は設定した機能によって異なります（操作で入力した最後の数字の回数です）。
正常に設定できなかった場合は、ビジートーン（プープープーという話中の音）だけが聞こえます。

4. 受話器を置きます。



「留守状態の設定を行う」（P.255）、「外線から留守状態の設定を行う」（P.260）

外線から「留守」または「在宅」を確認する

1. 受話器を上げ、ツーという音が聞こえることを確認します。
2. 契約者回線番号、ダイヤルイン番号、または鳴り分け番号に続けて、サブアドレスとして
[留守確認用番号（4桁）] をダイヤルします。
3. 呼び出し音が聞こえます。
[留守が設定されている場合]
呼び出し音のあと、約3秒後にビジートーンが聞こえます。

[在宅が設定されている場合]
相手が受話器をあげると、通話状態になります。
4. 受話器を置きます。



運用管理とメンテナンス

この章では、
NetVehicle で、ISDN 回線の運用状況などの管理や確認を行う方法を説明します。

操作メニューを使う	264
操作メニューを表示する	264
手動で回線を接続する／切断する	264
手動でチャンネルを増やす／減らす	265
ネットワークの接続を確認する	266
時計を設定する	266
テレホーダイ機能を使う	267
留守モードの ON/OFF を設定する	268
表示メニューを使う	269
表示メニューを表示する	269
回線接続状況を確認する	270
課金情報で運用状況を確認する	270
IP 統計情報を見る	272
電子メール着信通知を見る	273
チャンネル統計情報を見る	274
回線ログ情報で運用状況を確認する	274
システムログを見る	275
ルーティング情報を見る	275
現在時刻を見る	275
経過時間情報を見る	275
掲示板に投稿する	276
掲示板を見る	277
メンテナンスメニューを使う	278
メンテナンスメニューを表示する	278
バージョン情報	279
PPP フレームトレース情報を見る	279
エラーログ情報	280
NetVehicle のファームウェアを更新する	280
オンラインサポート機能	281
構成定義情報を退避する／復元する	282
電話番号を変更する	283



操作メニューを使う

操作メニューでは、回線の手動接続／切断、チャンネル数の増加／減少、疎通確認ができます。また、時刻設定、テレホーダイ設定／テレホーダイ終了、留守モード切り替えができます。

操作メニューを表示する

NetVehicleのトップページで、画面上部の「操作」アイコンをクリックすると、操作メニューが表示されます。



手動で回線を接続する／切断する

接続先を指定して、手動で回線の接続／切断ができます。

回線を接続する

1. 操作メニューで「回線手動接続」をクリックします。
「回線手動接続」ページが表示されます。

回線手動接続

このページでは、指定した 接続先に回線を手動接続することができます。

《情報一覧より相手を選択して接続をクリックしてください。》

接続ごとに認証IDや認証パスワードを変更する場合には、ワンタイムパスワードの設定を行ってから接続をクリックしてください。

【接続先情報一覧】

ネットワーク名	接続先名	電話番号1	サブアドレス1	接続
		電話番号2	サブアドレス2	
		電話番号3	サブアドレス3	
internet	ISP-A	03-2222-2222		接続

2. 【接続先情報一覧】で接続先の欄の【接続】 ボタンをクリックします。
回線接続のメッセージが表示されます。

回線を切断する

1. 操作メニューで「回線手動切断」をクリックします。
「回線手動切断」 ページが表示されます。

回線手動切断

このページでは、指定した 接続中の回線を手動切断することができます。

《情報一覧より相手を選択して切断をクリックしてください。》

【接続先情報一覧】

ネットワーク名	接続先名	電話番号	通信時間	切断
internet	ISP-A	0322222222*	0000.00.00.00	切断

2. 【接続先情報一覧】で回線を切断する接続先の欄の【切断】 ボタンをクリックします。
回線切断のメッセージが表示されます。

手動でチャネルを増やす／減らす

回線接続中に、通信に使用する B チャネルの数を手動で増減できます。



こんな事に気をつけて

プロバイダが MP に対応している場合だけ、この機能を利用できます。

1. チャネルの数を増加する場合は、操作メニューで「手動チャネル増加」をクリックします。
「チャネル数の増加要求を発行しました。」というメッセージが表示されます。
チャネルの数を減らす場合は、操作メニューで「手動チャネル減少」をクリックします。
「チャネル数の減少要求を発行しました。」というメッセージが表示されます。

ネットワークの接続を確認する

ping コマンドを使って、IP 接続が成立しているかどうか確認できます。



こんな事に気をつけて

- ping 実行中は、通話料金がかかります。
- かんたんフィルタがかかっているときは、ping を送信できないので応答はありません。
- かんたんフィルタを使用している場合、ISDN 回線が接続されません。

1. 操作メニューで「疎通確認」をクリックします。

「疎通確認 (ping)」ページが表示されます。

疎通確認(ping)

このページでは、pingコマンド(ICMP ECHOパケット)による通信の確認ができます。

ping送信先

設定終了後、ping送信をクリックしてください。設定を元に戻す場合はキャンセルをクリックしてください。

2. 「ping 送信先」に送信先の IP アドレスを入力します。

3. [Ping 送信] ボタンをクリックします。

「ping 実行中」というメッセージが表示されたあと、ブラウザ画面に ping 送信結果が表示されます。

時計を設定する

NetVehicle の内部時計の時刻を設定できます。時刻設定する方法は以下の 3 つがあります。

- ブラウザを利用しているパソコンの時刻を取得する方法
- ネットワーク上の TIME サーバまたは NTP サーバから時刻を取得する方法
- 任意の時刻を設定する方法



こんな事に気をつけて

電源を切ると時刻情報が失われます。

ここでは任意の時刻を設定する場合の例を以下に示します。

1. 操作メニューで「時刻設定」をクリックします。

「時刻情報設定」ページが表示されます。

時刻情報設定

⚠ 電源を切ると時刻が初期化されます。

[時刻の設定]

パソコンから時刻を取得	パソコンの現在時刻 2000 年 3 月 5 日 10 時 7 分 30 秒	設定
タイムサーバから時刻を取得	サーバアドレス 設定されていません。	-
任意の時刻を設定	1970 年 01 月 01 日 00 時 00 分 00 秒	設定

2. 「任意の時刻を設定」を指定する場合は現在の日時を入力します。

指定する時刻の設定方法の [設定] ボタンをクリックします。

「時刻を〇〇〇〇に設定しました。」というメッセージが表示されます。

テレホーダイ機能を使う

INS テレホーダイは、NTT が提供するサービスです。午後 11 時から午前 8 時の深夜・早朝時間帯に、あらかじめ指定した 2 つの電話番号に対してかけ放題になります。

テレホーダイ機能利用時は、指定された時間だけ無通信監視機能を停止して自動切断させないようにします。



こんな事に気をつけて

INS テレホーダイサービスを利用する場合は NTT との契約が必要です。



ルータ設定の「相手情報」で、接続先ごとにテレホーダイの使用有無を設定できます。

テレホーダイの時間帯を設定する

1. 操作メニューで「テレホーダイ設定」をクリックします。
「テレホーダイ設定」ページが表示されます。

テレホーダイ設定

設定した時間内は回線の自動切断を行いません。このため、テレホーダイなどのサービスを利用する場合に便利です。

時間を設定し「テレホーダイ開始」を選択してください。初期値は「回線情報設定」の回線接続保持タイマで設定した値が設定されています。

現在のタイマ状況: 時間0分

テレホーダイタイマ 時間

2. 「テレホーダイタイマ」で、回線を接続したままにしておきたい時間を入力します。
3. [テレホーダイ開始] ボタンをクリックします。
設定した時間、回線が接続されたままになります。

テレホーダイを開始する／停止する

1. テレホーダイを開始するときは、操作メニューの「テレホーダイ設定」ページで [テレホーダイ開始] ボタンをクリックします。
テレホーダイを停止するときは [テレホーダイ終了] ボタンをクリックします。
[テレホーダイ終了] ボタンをクリックすると、「テレホーダイタイマをキャンセルしました」というメッセージが表示されます。



こんな事に気をつけて

[テレホーダイ開始] ボタンをクリックすると、テレホーダイ時間帯以外でもずっとつながった状態となります。

留守モードの ON/OFF を設定する

NetVehicle では、あらかじめ「装置情報設定」の「留守モード情報」に留守（外出）中の動作を設定しておくことにより、在宅時の設定（留守モード OFF）を留守中の設定（留守モード ON）にかんたんに切り替えることができます。

!! こんな事に気をつけて

「留守モード中は、スタンバイモードで動作する」が設定されている場合は、留守モードへ移行するとスタンバイモードが動作するため、操作メニューから留守モード解除ができなくなります。留守モードを解除する場合は、アナログポートに接続されている電話機、または操作パネルで解除してください。

.....

留守モードを ON に設定する

1. 操作メニューで「留守モード切替え」をクリックします。

「留守モード切替え」ページが表示されます。

留守モード切替え

現在の状態: 留守モードOFF

留守モードへ移行

留守モード切替えを行うには、「装置情報設定」の留守モード情報が設定されている必要があります。

装置情報設定へ移る

2. 留守モードを ON にするときは、[留守モードへ移行] ボタンをクリックします。

「留守モードへ移行しました」というメッセージが表示されます。

留守モード情報の設定を変更する場合は、[装置情報設定へ移る] ボタンをクリックします。

「装置情報設定」の「留守モード情報」が表示されます。

留守モードを OFF に設定する

1. 操作メニューで「留守モード切替え」をクリックします。

「留守モード切替え」ページが表示されます。

留守モード切替え

現在の状態: 留守モードON

留守モードを解除

2. 留守モードを OFF にするときは、[留守モードを解除] ボタンをクリックします。

「留守モードを解除しました」というメッセージが表示されます。



表示メニューを使う

表示メニューでは、回線接続状況、回線への課金情報、IP統計情報、メール着信通知、メールチェック、チャネル統計情報、回線ログ情報、システムログ情報、ルーティング情報、現在時刻、経過時間情報、掲示板を確認できます。

表示メニューを表示する

NetVehicleのトップページで、画面上部の「表示」アイコンをクリックすると、表示メニューが表示されます。



回線接続状況を確認する

ISDN 回線への接続状況を確認することができます。

1. 表示メニューで「回線接続状況」をクリックします。

「回線接続状況」ページが表示されます。

【回線接続状況】

チャンネル番号	回線状態	接続形態	ネットワーク名 接続先名	電話番号	送信回線使用率	受信回線使用率	通信時間	IPアドレス
B1	通信中	発呼	internet ISP-1	03-1111-1111*	0%	0%	0000.00:06:30	172.16.32.45
B2	未使用	-	-	-	-	-	0000.00:00:00	-
MODEM	未使用	-	-	-	-	-	-	-

課金情報で運用状況を確認する

NetVehicle の電源を入れてから現在までの、ISDN 回線に対する課金情報を確認することができます。

1. 表示メニューで「課金情報」をクリックします。

【データ通信課金情報】、【アナログポート課金情報】、【接続先別データ通信課金情報】、【マルチ TA 課金情報】が表示されます。

2. 以下の項目を確認します。

【データ通信課金情報】

- 通信総時間 → データ通信の通信時間の累計です。
- 課金合計金額 → データ通信の通信料金の累計です。
- 最長通信 → データ通信の過去の記録において、1 回の通信で最長の時間、通信料金、接続相手先です。
- 最高課金 → データ通信の過去の記録において、1 回の通信で最高金額、通信時間、接続相手先です。
- 最終接続 → データ通信において、最新の通信での通信時間、通信料金、接続相手先です。

【接続先別データ通信課金情報】

接続先ごとの通信時間の累計および通信料金の累計が表示されます。

【マルチ TA 課金情報】

- 通信総時間 → マルチ TA 通信の通信時間の累計です。
- 課金合計金額 → マルチ TA 通信の通信料金の累計です。

■ データ通信課金情報クリア → 【データ通信課金情報クリア】 ボタンをクリックすると、現在保持している上記 3 つの情報をすべてクリアします。

【アナログポート課金情報】

- 最長通信 → アナログ通信の過去の記録において、1 回の通信で最長の時間、通信料金、相手先電話番号です。
- 最高課金 → アナログ通信の過去の記録において、1 回の通信で最高金額、通信時間、相手先電話番号です。
- 最終接続 → アナログ通信において、最新の通信での通信時間、通信料金、相手先電話番号です。
- 合計 → アナログ通信の通信時間と通信料金の累計です。

■アナログポート課金情報クリア → [アナログポート課金情報クリア] ボタンをクリックすると、現在保持しているアナログポート課金情報をすべてクリアします。

■全ての課金情報クリア → [全ての課金情報クリア] ボタンをクリックすると、現在保持している課金情報をすべてクリアします。

【データ通信課金情報】

通信総時間	0000.00:00:00		
課金合計金額	0 円		
最長通信	ネットワーク名	-	
	接続先名	-	
	時間	0000.00:00:00	
	金額	0 円	
最高課金	ネットワーク名	-	
	接続先名	-	
	時間	0000.00:00:00	
	金額	0 円	
最終接続	ネットワーク名	-	
	接続先名	-	
	時間	0000.00:00:00	
	金額	0 円	

接続先別データ通信課金情報			
ネットワーク名	接続先名	時間	金額
TEST2	TEST2	0000.00:00:00	0円

マルチTA課金情報	
通信総時間	0000.00:00:00
課金合計金額	0 円

データ通信課金情報クリア

【アナログポート課金情報】

	電話番号	時間	金額
ポート1	最長通信	-	0000.00:00:00 0円
	最高課金	-	0000.00:00:00 0円
	最終接続	-	0000.00:00:00 0円
	合計		0000.00:00:00 0円
ポート2	最長通信	-	0000.00:00:00 0円
	最高課金	-	0000.00:00:00 0円
	最終接続	-	0000.00:00:00 0円
	合計		0000.00:00:00 0円
トータル	最長通信	-	0000.00:00:00 0円
	最高課金	-	0000.00:00:00 0円
	最終接続	-	0000.00:00:00 0円
	合計		0000.00:00:00 0円

アナログポート課金情報クリア

全ての課金情報クリア

通信課金情報は、他通信事業者との網間接続使用ユーザにとっては正しい課金値とはなりません。
また通信時間は、網からトーン/アナウンスしている時間を含みます。
アナログポート課金情報のトータルはポート1とポート2の合計とは異なる場合があります。
(例: 疑似着信転送時の課金情報はポートを特定できないため、トータルのみ課金情報が反映されます。)



こんな事に気をつけて

- 本書の表記で使われる通信料金とは、INS ネット 64 基本サービスの「料金情報通知」をもとに、NetVehicle のソフトウェアが算出した値です。算出される値は、お客様の契約や回線利用状況により異なりますので、請求金額とは必ずしも一致しません。

例えば以下のような場合があります。

- INS テレホーダイ利用時
- NTT DoCoMo 以外の自動車電話・携帯電話と通話した場合
- PHS と通話した場合（PIAFS によるデータ通信も含む）

- 本装置の電源を切ると、課金情報はすべてクリアされます。

IP 統計情報を見る

回線を介した通信のプロトコルごとの内訳を確認できます。

1. 表示メニューで「IP 統計情報」をクリックします。
「IP 統計情報」ページが表示されます。

【IP統計情報】

```
tcp:
  2887 packets sent
    1450 data packets (1090994 bytes)
    5 data packets (9089 bytes) retransmitted
    0 resends initiated by MTU discovery
    1263 ack-only packets (247 delayed)
    0 URG only packets
    0 window probe packets
    0 window update packets
    189 control packets
  2878 packets received
    1302 acks (for 1090472 bytes)
    498 duplicate acks
    0 acks for unsent data
    536 packets (177914 bytes) received in-sequence
    1 completely duplicate packet (0 bytes)
    0 old duplicate packets
    1 packet with some dup. data (348 bytes duped)
    490 out-of-order packets (0 bytes)
    0 packets (0 bytes) of data after window
    0 window probes
    1 window update packet
    0 packets received after close
    0 discarded for bad checksums
    0 discarded for bad header offset fields
    0 discarded because packet too short
  3 connection requests
  513 connection accepts
  13 bad connection attempts
  19 listen queue overflows
  508 connections established (including accepts)
  515 connections closed (including 17 drops)
    0 connections updated cached RTT on close
    0 connections updated cached RTT variance on close
    0 connections updated cached ssthresh on close
  0 embryonic connections dropped
  1263 segments updated rtt (of 1264 attempts)
  4 retransmit timeouts
    0 connections dropped by rexmit timeout
  0 persist timeouts
    0 connections dropped by persist timeout
  0 keepalive timeouts
    0 keepalive probes sent
    0 connections dropped by keepalive
  3 correct ACK header predictions
  492 correct data packet header predictions

udp:
  50445 datagrams received
    0 with incomplete header
    5 with bad data length field
    23 with bad checksum
    0 dropped due to no socket
  39312 broadcast/multicast datagrams dropped due to no socket
    0 dropped due to full socket buffers
    0 not for hashed pcb
  16505 delivered
  0 datagrams output

ip:
  55000 total packets received
  14 bad header checksums
  0 with size smaller than minimum
  0 with data size < data length
  0 with header length < data size
  0 with data length < header length
  0 with bad options
  2 with incorrect version number
  0 fragments received
  0 fragments dropped (dup or out of space)
  0 fragments dropped after timeout
  0 packets reassembled ok
  59323 packets for this host
  1 packet for unknown/unsupported protocol
  5 packets forwarded
  1405 packets not forwardable
  5 redirects sent
  3183 packets sent from this host
  0 packets sent with fabricated ip header
  0 output packets dropped due to no bufs, etc.
  204 output packets discarded due to no route
  0 output datagrams fragmented
  0 fragments created
  0 datagrams that can't be fragmented

icmp:
  250 calls to icmp_error
  0 errors not generated 'cuz old message was icmp
  Output histogram:
    destination unreachable: 250
    routing redirect: 5
  0 messages with bad code fields
  0 messages < minimum length
  0 bad checksums
  0 messages with bad length
  Input histogram:
    echo reply: 1
  0 message responses generated
```

電子メール着信通知を見る

到着しているメールの確認ができます。

メールの着信を確認する場合は、「詳細設定」の「Eメールエージェント情報」で情報を指定してください。

! こんな事に気をつけて

メール着信通知に表示される最大件数は50件です。メール着信通知の数が50件を超えた場合、古い通知から順に削除されます。ただし、メール着信通知の件数は最大件数を超えてもカウントされます。

.....

メール着信通知

メール着信通知が到着すると、CHECKランプが緑色で点滅します。

1. 表示メニューで「メール着信通知」をクリックします。
「メール着信通知」ページが表示されます。

【メール着信通知】

メールが1件到着しています。

受信者	infoweb001
送信者	nvmail@mail.co.jp
題名	Hello !!!

メール着信通知消去

2. 確認が終了したら、[メール着信通知消去] ボタンをクリックします。
「メール着信通知を消去しました。」というメッセージが表示され、CHECKランプが消灯します。メール着信通知は削除されます。

メールチェック

到着しているメールがある場合は、CHECKランプが緑色で点滅します。POP3プロトコルを使用してメールサーバにアクセスしてメールの着信を確認します。

1. 表示メニューで「メールチェック」をクリックします。
「メールチェック」ページが表示されます。
2. チェックするメールのユーザ名の欄の [表示] ボタンをクリックします。
3. メールパスワードを入力し、[実行] ボタンをクリックします。

到着しているメールが表示されます。

【メールチェック】

サーバにメールが2件到着しています。

最近取得した2件を表示します。

[tsutomu]			
通番	差出人	題名	送信時刻
1	Girl Friend (cherry@mail.ne.jp)	HELLO!!	03/03 03:33 +0900
2	NetVehicle ML (nv@fujitsu.co.jp)	NetVehicleユーザのみなさまへ	03/04 10:00 +0900

メールチェック

消去

■ チャネル統計情報を見る

回線接続の情報を確認できます。

1. 表示メニューで「チャネル統計情報」をクリックします。
「チャネル統計情報」ページが表示されます。

【チャネル統計情報】

```
call setup count    = 0  
call busy count    = 0  
call error count   = 0  
called accept count = 0  
called reject count = 0
```

■ 回線ログ情報で運用状況を確認する

ISDN回線への接続、切断に関する情報を確認できます。通信エラーが発生した状況や、通信エラーの原因を示した「ログ内容」が表示されます。

1. 表示メニューで「回線ログ」をクリックします。
「回線ログ」ページが表示されます。

- ログ番号 → ログの番号です。
- 発生時刻 → ログが記録された時刻です。
- チャネル → ログが記録された事象が発生したチャネルです。
- ログ内容 → ログの内容です。
[詳細コード=XX/XX/XXYY] の「YY」は理由コードを示します。理由コードは「ISDN理由表示番号一覧」(P.288)を参照してください。

【回線ログ】

ログ番号	発生時刻	チャネル	ログ内容
01	1998/11/10 01:00:38	-	発信ログ IPパケットの転送が発生しました。 Protocol:TCP 128.1.2.146(32783)->192.168.1.1(21)
02	1998/11/10 01:16:44	B1ch	回線エラー発生 [詳細コード=30/00/82a9] エラーが発生しました。
03	1998/11/10 05:21:15	B1ch	発信失敗 [詳細コード=30/00/8095] エラーが発生しました。

【表示例】

発信ログ

IPパケットの転送が発生しました。

Protocol:TCP 192.168.1.2 (1149) → 202.248.2.226 (53)

【説明】

- 発信元が192.168.1.2でポート1149を使用して202.248.2.226へポート53でアクセスしたことを示します。
- ポート1149は送信元が内部で使用しているポート番号です。

システムログを見る

接続先や接続時間の情報などを確認できます。通信エラーや超過課金の原因を知る手がかりになります。

1. 表示メニューで「システムログ」をクリックします。

「システムログ」ページが表示されます。

【システムログ】

```
Oct 1 00:00:00 init: system statrup now
Oct 1 00:01:00 protocol: connected B1ch to simple(0123-456-7890)
Oct 1 00:03:55 protocol: disconnected B1ch from simple : charge=10yen time=0000.00:02:55
```

ルーティング情報を見る

ルーティングテーブルを確認できます。

1. 表示メニューで「ルーティング情報」をクリックします。

「ルーティング情報」ページが表示されます。

【ルーティング情報】

Routing tables

Internet: Destination	Gateway	Flags	Refs	Use	Netif	Expire
127.0.0.1	127.0.0.1	UH	0	0	lo0	
128.1.2/24	link#1	UC	0	0		
128.1.2.5	8:0:20:74:1f:55	UHLW	6	175	lan0	980
128.1.2.51	0:0:e:57:0:3	UHLW	0	10	lo0	
128.1.2.146	0:80:17:48:61:c0	UHLW	1	440	lan0	204
192.168.1.1	128.1.2.51	UH	1	4	lo0	

現在時刻を見る

現在時刻を確認できます。

1. 表示メニューで「現在時刻」をクリックします。

「現在時刻」ページが表示されます。

【現在時刻】

Tue Nov 30 17:04:00 1999

経過時間情報を見る

電源投入後、経過した時間を確認できます。

1. 表示メニューで「経過時間情報」をクリックします。

「経過時間情報」ページが表示されます。

【経過時間情報】

0000.07:19:42

■ 掲示板に投稿する

掲示板にメッセージを投稿できます。一部のHTMLタグを使用して、メッセージの色の変更や文字の強調ができます。

1. 表示メニューで「掲示板」をクリックします。
「掲示板」ページが表示されます。
2. メッセージを投稿する場合は、[メッセージを投稿] ボタンをクリックします。
「メッセージ投稿」ページが表示されます。
名前とメッセージを入力します。

名前

メッセージ

下のテキストボックスに、メッセージを入力してデザインを選択するとHTMLタグをかんとんに挿入できます。
9時までには帰ります。

デザイン選択
デザイン選択
赤
青
水色
ピンク
黒
斜線
下線
リンク

投稿 キャンセル

!! こんな事に気をつけて

投稿者の名前は半角 32 文字（全角 16 文字）以内で入力してください。また、HTML タグは入力しないでください。

メッセージは半角 200 文字（全角 100 文字）以内で入力してください。半角 200 文字を超えた場合、超えた文字は投稿されません。

.....

3. [投稿] ボタンをクリックします。
「投稿内容確認」ページが表示されます。

投稿者: ミカ

メッセージ: ママへ 今日が残業なので遅くなります。

デザイン: 斜線

確認後、OKをクリックしてください。内容を変更する場合は、1つ 前に戻るをクリックしてください。

4. 確認が終了したら、[OK] ボタンをクリックします。
投稿した掲示板が表示されます。

掲示板を見る

掲示板に投稿されたメッセージを見ることができます。

1. 表示メニューで「掲示板」をクリックします。

「掲示板」ページが表示されます。

掲示板

メッセージは最大32件保存できます。32件を超える投稿があった場合は、一番古いメッセージから削除されます。



電源断、再起動時は、投稿内容が消去されます。

今日は 1 件のメッセージがよせられています。

メッセージを投稿

投稿者:ミカ	09/02 17:59

ママへ

今日は残業なので遅くなります。

9時までには帰ります。

全削除

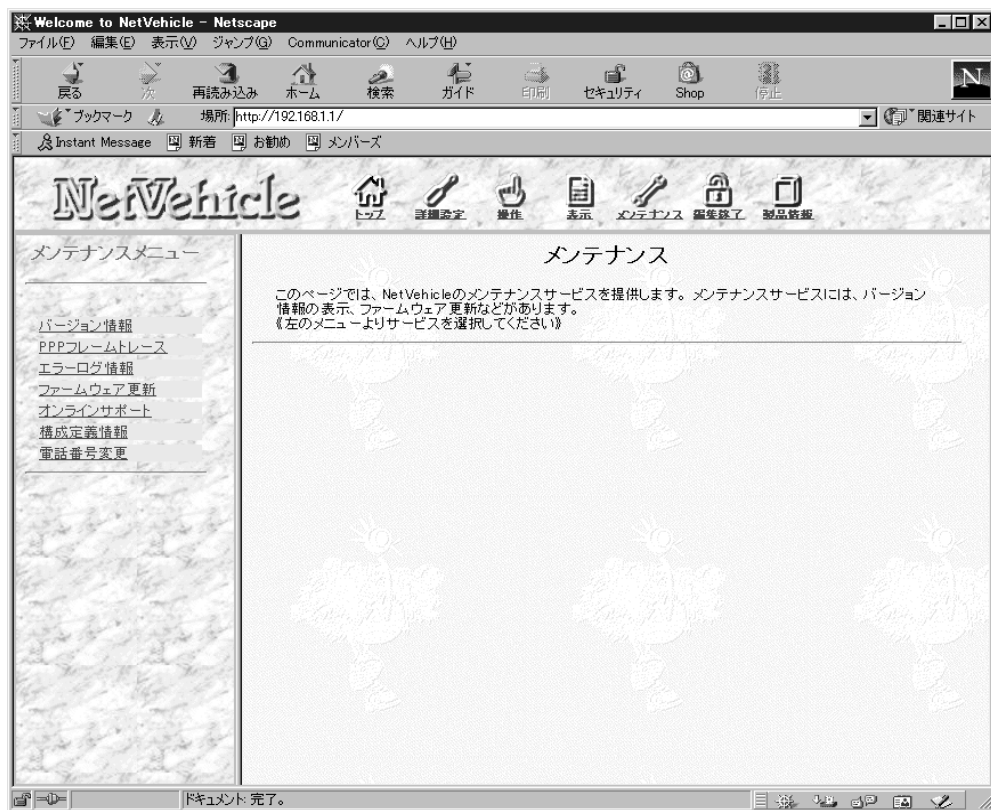


メンテナンスメニューを使う

メンテナンスメニューでは、NetVehicleのファームウェアを更新したり、各種情報の確認ができます。

メンテナンスメニューを表示する

NetVehicleのトップページで、画面上部の[メンテナンス]アイコンをクリックすると、メンテナンスメニューが表示されます。



バージョン情報

NetVehicle 内蔵ファームウェアのバージョンを確認できます。

1. メンテナンスメニューで「バージョン情報」をクリックします。
「バージョン情報」ページが表示されます。

【バージョン情報】

```
NetVehicle-GX5  
00000ed0850d  
00000ed1850d  
ROM:1.5  
FIRM:E30L51  
PTF:ST0003
```

PPP フレームトレース情報を見る

PPPのプロトコル情報を表示します。回線がつながりにくい場合は、ここに表示される情報を確認します。

 PPP フレームトレースの情報は、装置の電源を切るまでは保持されます。

1. メンテナンスメニューで「PPP フレームトレース」をクリックします。
「PPP フレームトレース情報」ページが表示されます。

フレームトレース情報の見方

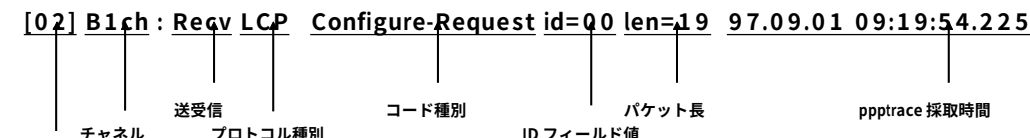
PPP フレームトレース情報は、次のように表示されます。

表示例)

```
[02] B1ch : Recv LCP Configure-Request id=00 len=19 97.09.01 09:19:54.225  
      data=c021 01 00 0013 0305 c223 0505 06f0 1e4a  
      5007 0208 02
```

表示されている情報は、次に示すような要素に分けられます。

[02] B1ch : Recv LCP Configure-Request id=00 len=19 97.09.01 09:19:54.225



この図は、フレームトレース情報の一行を要素ごとに分解しています。各要素は縦線とラベルで示されています。ラベルは、下から上に向かって「ログ番号を表す (01 ~ 99)」、「チャンネル」、「送受信」、「プロトコル種別」、「コード種別」、「ID フィールド値」、「パケット長」、「ppptrace 採取時間」です。

ログ番号を表す (01 ~ 99)



PPP フレームトレース情報の一覧→「PPP フレームトレース情報詳細」(P.286)

エラーログ情報

NetVehicle 本体の異常に関する情報が記録されている場合は、ここで確認できます。
添付の「修理・サービス網一覧表」をご覧の上、「富士通パーソナルエコーセンター」へ連絡してください。
その際、エラーログ情報の内容をお知らせください。

1. メンテナンスメニューで「エラーログ情報」をクリックします。
「エラーログ情報」ページが表示されます。

NetVehicle のファームウェアを更新する

ファームウェアを更新すると、NetVehicle に新しい機能を追加できます。

- !! こんな事に気をつけて
- ファームウェア更新中は、NetVehicle の電源を切らないでください。
 - ファームウェアを更新する前に、構成定義情報を退避しておいてください。
-

1. メンテナンスメニューで「ファームウェア更新」をクリックします。

FTPダウンロードによるファームウェア更新

以下の情報をもとにファームウェアを更新します。情報に誤りがない場合はOKボタンをクリックしてください。

転送元ホストIPアドレス	ログインID	ログインパスワード	ファイルロケーション
ftp.fujitsu.co.jp	ftp	hamster@fujitsu.com	/pub/NV/firm/GX5_SOFT.ftp
OK			

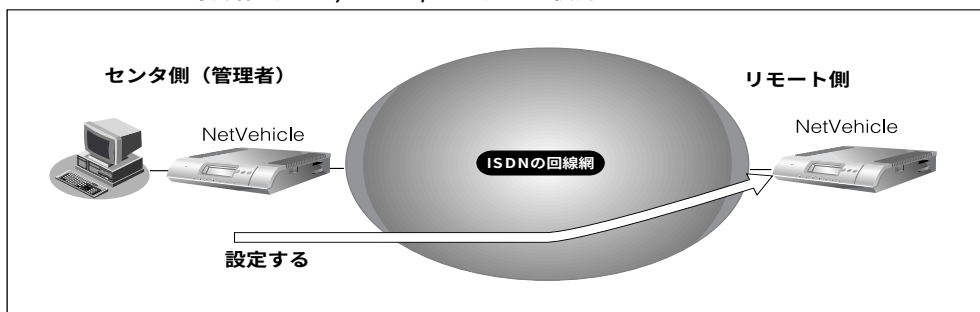
2. 表示されている内容を確認し、正しければ [OK] ボタンをクリックします。
ファームウェアの更新が始まります。

ⓧⓧ ・ファームウェアの更新を中止したいときは、[中止] ボタンをクリックします。
・回線の混み具合によっては、20 分以上かかる場合があります。
3. ファームウェア更新の終了を通知するポップアップ画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックします。ファームウェア更新画面の「正常終了」のメッセージを確認します。
4. [トップページに戻る] ボタンをクリックします。
トップページに戻ります。

オンラインサポート機能

遠隔地の NetVehicle を設定する機能です。ISDN 回線に接続された遠隔地（リモート側）の NetVehicle を、管理者側（センタ側）の NetVehicle を使用して直接設定できます。

本機能では PPP による IP 接続を必要としないので、ご購入時の状態の NetVehicle を設定することができます。ただし、専用線（HSD, DA64/128）では使用できません。



管理者側（センタ側）の NetVehicle で設定する方法を説明します。

1. メンテナンスメニューで「オンラインサポート」をクリックします。
「オンラインサポート」ページが表示されます。

オンラインサポート

このページでは、指定した電話番号へのオンラインサポートの開始／終了を行います。

オンラインサポート開始	
接続先電話番号	
暗証番号	
オンラインサポート終了	

2. リモート側の電話番号と暗証番号を指定し、[オンラインサポート開始] ボタンをクリックします。
補足 ご購入時の状態では暗証番号が設定されていないので、リモート側 NetVehicle の LAN ポート用 MAC アドレスを暗証番号として指定します。
3. 正常に接続されたあとは、センタ側の NetVehicle を設定するのと同様の手順でリモート側の設定を行うことができます。
4. [オンラインサポート終了] ボタンをクリックすると オンラインサポートを終了します。

補足 リモート側でオンラインサポートの接続をしないようにするには、ルータ設定の「装置情報」で「オンラインサポート接続」を「しない」に設定してください。

!! こんな事に気をつけて

- 本機能を使用しての発信にはINS ネット 64 の「ユーザ間情報通知サービス」を使用するため、1 回の発信につき 1 メッセージ分の料金が通信料金とは別にかかります。また、ISDN 回線を契約するときは、ユーザ間情報通知サービスを「着信許可」としてください。
- オンラインサポート中は、ISDN 回線は接続されたままとなります。無通信監視タイマによる自動切断は行われません。設定終了後は必ずオンラインサポートを終了し回線が切断されたことを確認してください。
- 暗証番号にはリモート側の NetVehicle に設定された暗証番号を指定してください。一致しない場合は接続できません。なお、リモート側の NetVehicle がご購入時の状態、またはオンラインサポート情報未設定の場合は、暗証番号として MAC アドレスを指定することにより接続できます。
- LAN ポート用 MAC アドレスは装置背面に表記されているとおり半角小文字の英数字で指定してください。
- オンラインサポートで設定できる項目はセンタ側の NetVehicle にある項目のみに限定されます。センタ側とリモート側で機種が異なる場合、およびファームウェアの版数が異なる場合は、設定できない項目があります。
- センタ側の電話番号および暗証番号はセキュリティ確保のために設定しておく必要があります。ルータ設定の「装置情報」で指定してください。

.....

構成定義情報を退避する／復元する

現在の NetVehicle の構成定義情報をファイルに保存し、退避しておきます。必要になったときに保存しておいた構成定義情報を復元できます。

- 構成定義情報の退避：メンテナンスメニューの「構成定義情報」ページを、WWW ブラウザ機能を使ってファイルに保存します。
- 構成定義情報の復元：WWW ブラウザで保存しておいた「構成定義情報」ページのファイルを開き、[復元] をクリックします。

!! こんな事に気をつけて

現在の NetVehicle の IP アドレスと保存時の IP アドレスが異なると復元できません。

.....

構成定義情報

このページでは、構成定義情報の退避および復元ができます。

構成定義情報の退避

ブラウザの機能を使ってこのページを名前をつけてファイルへ保存してください。

構成定義情報の復元

保存したファイルをブラウザで開き、下の復元ボタンをクリックしてください。

現在の NetVehicle の IP アドレスと保存時の IP アドレスが異なると、復元できません。保存時の IP アドレスは 192.168.1.1 です。

```
clear all
wan 0 line isdn ins64
wan 0 isdn global accept
wan 0 isdn number 0 any
wan 0 isdn number 1 any
wan 0 isdn numbersend default
wan 0 isdn limit charge 3000 yes
wan 0 isdn limit time 0d yes
wan 0 isdn accept enable
wan 0 isdn autodial enable
wan 0 isdn keep time 2h
lan 0 ip address 192.168.1.1/24 3
lan 0 ip rip off off 0 off
lan 0 ip dhcp info dns 192.168.1.1
lan 0 ip dhcp info address 192.168.1.2/24 32
lan 0 ip dhcp info time 1d
lan 0 ip dhcp info gateway 192.168.1.1
lan 0 ip dhcp service server
remote 0 name internet
remote 0 autodial enable
```

復元 キャンセル

電話番号を変更する

スケジュール情報の電話番号変更予約情報で設定した電話番号の変更を手動で行うことができます。

1. メンテナンスメニューで「電話番号変更」をクリックします。
「電話番号変更」ページが表示されます。

電話番号変更

このページでは、電話番号変更予約情報で設定した電話番号の変更を手動で実施することができます。

※実行日時が赤字で表示されている情報は、既に経過した日時の予約情報です。

《情報一覧より電話番号変更予約情報を選択し、実行してください。》

[電話番号変更予約情報一覧]

実行日時	電話番号変更情報	実行
2000/01/01 00:00	06-123-4567 -> 06-6123-4567	実行
-	-	実行
-	-	実行
-	-	実行

2. 変更する電話番号変更予約情報の「実行」ボタンをクリックします。
電話番号が変更されます。



付 録

この章では、
本書で使われている用語や、NetVehicle の仕様などを説明します。

PPP フレームトレース情報詳細	286
ISDN 理由表示番号一覧	288
液晶ディスプレイメッセージ一覧	290
NetVehicle の状態を表すメッセージ	290
データ通信の状態を表すメッセージ	291
アナログ通信の状態を表すメッセージ	293
用語集	297
Q&A	302
「詳細設定」で設定できる項目	320
索引	325



PPP フレームトレース情報詳細

表示形式

●表示例

```
[02] B1ch : Recv LCP Configure-Request id=00 len=19 97.09.01 09:19:54.225
      data=c021 01 00 0013 0305 c223 0505 06f0 1e4a
```

5007 0208 02

プロトコル種別 ID パケット長 データ

コード種別

●説明

```
[02] B1ch : Recv LCP Configure-Request id=00 len=19 97.09.01 09:19:54.225
```

ログ番号 (01～99) チャンネル 送受信 プロトコル種別 コード種別 ID フィールド値 パケット長 ppp trace 採取時間

チャンネル B1ch または B2ch が表示されます。

送受信 Send または Recv が表示されます。

プロトコル種別 PPPにおけるプロトコル種別が表示されます。以下のプロトコルが表示されます。プロトコル種別前にMP: が付加された場合は、そのパケットはMPによりカプセル化されていることを示します。

0xc021 LCP : Link Control Protocol
0xc023 PAP : Password Authentication Protocol
0xc223 CHAP : Challenge-Handshake Authentication Protocol
0x8021 IPCP : Internet Protocol Control Protocol
0x80FD CCP : Compression Control Protocol
0x80FB ICCP : Individual Compression Control Protocol
0xc02D BAP : Bandwidth Allocation Protocol
0xc02B BACP : Bandwidth Allocation Control Protocol
0xc029 CBCP : Callback Control Protocol

コード種別 各プロトコルにおけるコードの内容が表示されます。以下の文字列が表示されます。

ープロトコル種別が LCP、IPCP、CCP、ICCP の場合

0x01 Configure-Request
0x02 Configure-Ack
0x03 Configure-Nak
0x04 Configure-Reject
0x05 Terminate-Request
0x06 Terminate-Ack
0x07 Code-Reject

ープロトコル種別が LCP の場合

0x08 Protocol-Reject
0x09 Echo-Request
0x0A Echo-Reply
0x0B Discard-Request

ープロトコル種別が CCP、ICCP の場合

0x0E Reset-Request
0x0F Reset-Ack

ープロトコル種別が PAP の場合

0x01 Authenticate-Request
0x02 Authenticate-Ack
0x03 Authenticate-Nak

ープロトコル種別が CHAP の場合

0x01 Challenge
0x02 Response
0x03 Success
0x04 Failure

ープロトコル種別が BAP の場合

0x01 Call-Request
0x02 Call-Response
0x03 Callback-Request
0x04 Callback-Response
0x05 Link-Drop-Request
0x06 Link-Drop-Resp
0x07 Call-Status-Ind
0x08 Call-Status-Rsp

ープロトコル種別が CBCP の場合

0x01 Callback-Request
0x02 Callback-Response
0x03 Callback-Ack

ID フィールド値 PPP フレーム中の ID フィールドの値が、2 桁の 16 進数で表示されます。

パケット長 送受信したパケット長が 10 進数で表示されます。

data= 送受信したパケットの内容を 16 進数で表示します。最大 108 バイト分まで表示され、それよりあとは表示されません。

●例外

ネゴシエーション開始時は、例外的に特別なトレース情報が表示されます。以下のような表示形式となります。

[03] B1ch : PPP session start ログ番号 (01 ~ 99)	97.09.01 09:19:54.225 ppp trace 採取時間

チャンネル ネゴシエーション開始を表す



ISDN 理由表示番号一覧

正常イベントクラス

理由コード	理由表示番号	理由種別
0 1	# 1	欠番
0 2	# 2	指定中継網へのルートなし
0 3	# 3	相手へのルートなし
0 4	# 6	チャンネル利用不可
0 5	# 7	呼が設定済のチャンネルへ着呼
1 0	# 1 6	正常切断
1 1	# 1 7	着ユーザビジー
1 2	# 1 8	着ユーザレスポンスなし
1 3	# 1 9	相手ユーザ呼出中／応答なし
1 4	# 2 0	加入者不在
1 5	# 2 1	通信拒否
1 6	# 2 2	相手加入者番号変更
1 A	# 2 6	選択されなかったユーザの切断復旧
1 B	# 2 7	相手端末故障中
1 C	# 2 8	無効番号フォーマット（不完全番号）
1 D	# 2 9	ファシリティ拒否
1 E	# 3 0	状態問合せへの応答
1 F	# 3 1	その他の正常クラス

リソース不可クラス

理由コード	理由表示番号	理由種別
2 2	# 3 4	利用可回線／チャンネルなし
2 6	# 3 8	網故障
2 9	# 4 1	一時的故障
2 A	# 4 2	交換機輻輳
2 B	# 4 3	アクセス情報廃棄
2 C	# 4 4	要求回線／チャンネル利用不可
2 F	# 4 7	その他のリソース使用不可クラス

サービス利用不可クラス

理由コード	理由表示番号	理由種別
3 1	# 4 9	サービス品質（QOS）利用不可
3 2	# 5 0	要求ファシリティ未契約
3 9	# 5 7	伝達能力不許可
3 A	# 5 8	現在利用不可伝達能力
3 F	# 6 3	その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス

サービス未提供クラス

理由コード	理由表示番号	理由種別
4 1	# 6 5	未提供伝達能力指定
4 2	# 6 6	未提供チャネル種別指定
4 5	# 6 9	未提供ファシリティ要求
4 6	# 7 0	制限デジタル情報転送能力のみ可能
4 F	# 7 9	その他のサービスまたはオプションの未提供クラス

無効メッセージクラス

理由コード	理由表示番号	理由種別
5 1	# 8 1	無効呼番号使用
5 2	# 8 2	無効チャネル番号使用
5 3	# 8 3	指定された中断呼識別番号未使用
5 4	# 8 4	中断呼識別番号使用中
5 5	# 8 5	中断呼なし
5 6	# 8 6	指定中断呼切断復旧済
5 7	# 8 7	ユーザは CUG メンバでない
5 8	# 8 8	端末属性不一致
5 B	# 9 1	無効中継網選択
5 F	# 9 5	その他の無効メッセージクラス

手順誤りクラス

理由コード	理由表示番号	理由種別
6 0	# 9 6	必須情報要素不足
6 1	# 9 7	メッセージ種別未定義、または未提供
6 2	# 9 8	呼状態とメッセージ不一致、またはメッセージ別未定義または未提供
6 3	# 9 9	情報要素未定義
6 4	# 1 0 0	情報要素内容無効
6 5	# 1 0 1	呼状態とメッセージ不一致
6 6	# 1 0 2	タイマ満了による回復
6 F	# 1 1 1	その他の手順誤りクラス

インタワーキングクラス

理由コード	理由表示番号	理由種別
7 F	# 1 2 7	その他のインタワーキングクラス



液晶ディスプレイメッセージ一覧

NetVehicle の液晶ディスプレイに表示されるメッセージの一覧です。

●表示メッセージの先頭文字は接続のモードを示します。

R：ルータ通信
M：マルチTA通信
O：オンラインサポート
A：アナログ通信

NetVehicle の状態を表すメッセージ

項番	表示内容	メッセージ 種別	バック ライト	意 味
1	Welcome!! ↓ NetVehicle-GX5 ExxLyy	通常	点灯	装置起動メッセージ xx、yyはファーム版数を示す。
2	Sun 06/16 19:25	通常	消灯	通常表示（上段）。 ” 曜日月/日時:分 ” の形式で表示される。 時刻未設定の場合は以下が表示される。 ” --- --/--- -:-- ”
3	Aテンソウ ON または Aテンソウ OFF	通常	消灯	通常表示（下段）。 FUNCTIONボタンに着信転送の切り替えを選択している 場合に現在の状態を示す。
4	Aキ`シ`テンソウ ON または Aキ`シ`テンソウ OFF	通常	消灯	通常表示（下段）。 FUNCTIONボタンに疑似着信転送の切り替えを選択して いる場合に現在の状態を示す。
5	Aルスモード` ON	通常	消灯	通常表示（下段）。 FUNCTIONボタンに留守モードの切り替えを選択して いる場合に現在の状態を示す。
6	ERROR:xxxxxxxx yyyyyyyyyy	通常	点灯	ROMまたはドライバのハードウェア診断においてエ ラーを検出したことを示す。 以下の形式で表示される。 xxxxxxxx:エラーコード yyyyyyyy:エラー詳細 エラーコードとエラー詳細を控えて、添付の「修理・ サービス網一覧表」をご覧ください、「富士通パーソナル エコーセンター」へ連絡してください。
7	FIRM UPDATE xxx% ■■■■.....	通常	点灯	ファームウェア更新時の状況が表示される。 更新状況を示す■が表示される。
8	✉メールチャクシン xxケン	通常	点灯	Eメールエージェント機能によるメール件数の表示。

データ通信の状態を表すメッセージ

ルータ通信

項番	表示内容	メッセージ 種別	バック ライト	意 味
※1	Rハツ <接続先> MP	通常	点灯	発信により相手システムと接続したことを示す。 このメッセージはISDN回線の場合のみ出力される。 MP：マルチリンクPPP接続であることを示す。
※2	Rチャク <接続先>	通常	点灯	着信により相手システムと接続したことを示す。 このメッセージはISDN回線の場合のみ出力される。
※3	Rセツタ`ン y y y円	一時	点灯	自側より回線切断を行い、回線が切断されたことを示す。 相手側、または網から回線切断が通知され、回線が切断されたことを示す。 このメッセージはISDN回線の場合のみ出力される。
※4	Rエラー PPPニンショウ	一時	点灯	PPPのエラーが発生したことを示す。
※5	Rエラー PPPネゴ`	一時	点灯	PPPのエラーが発生したことを示す。
※6	Rエラー レイヤ3 # x x x	一時	点灯	回線エラーが発生したことを示す。 x x x：理由表示番号
7	Rハッシンエラー ケツバ`ン	一時	点灯	発信時に呼制御エラーが発生したことを示す。 (#1欠番)
8	Rハッシンエラー アイテビ`シ`ー	一時	点灯	発信時に呼制御エラーが発生したことを示す。 (#17ユーザビジー)
9	Rハッシンエラー アイテオウトウナシ	一時	点灯	発信時に呼制御エラーが発生したことを示す。 (#18相手ユーザ応答なし)
10	Rハッシンエラー アイテツウシンキョヒ	一時	点灯	発信時に呼制御エラーが発生したことを示す。 (#21相手ユーザ通信拒否)
11	Rハッシンエラー レイヤ3 # x x x	一時	点灯	発信時に呼制御エラーが発生したことを示す。 (#1、#17、#18、#21以外の理由)
12	Rハッシンヨクシ b yスケジ`ユール	一時	点灯	自動発呼は抑止中であるので、自動発呼処理を中止した。 スケジュール：スケジュールによる抑止
13	Rハッシンヨクシ b yリミッタ	一時	点灯	自動発呼は抑止中であるので、自動発呼処理を中止した。 リミッタ：課金制限による抑止
14	Rハッシンヨクシ b yリタ`イヤル	一時	点灯	3分間に2回を超える再発信のため、自動発呼処理を中止した。
15	Rハッシンヨクシ t o <接続先>	一時	点灯	連続して30回の接続に失敗（ISDNでは接続されるがP通信 ができずに失敗の場合のみ）し、発信を禁止したことを示す。
16	Rリミットオーバ` y y y円	一時	点滅	課金制御条件の制限を超過して発呼しようとしたことを示す。 y y y：課金合計金額
17	Rリミットオーバ` HH：MM：SS	一時	点滅	課金制御条件の制限を超過して発呼しようとしたことを示す。 HH：MM：SS 通信総時間
18	Rチャクシンキョヒ <電話番号>	一時	点灯	着信を拒絶したことを示す。 このメッセージはISDN回線の場合のみ出力される。
19	ト`ウキハス`レ	一時	点滅	回線が同期外れ状態であることを示す。 (レイヤ1またはレイヤ2エラー)
20	ト`ウキカクリツ	一時	点灯	回線の同期確立が完了したことを示す。 このメッセージはHSD回線の場合のみ出力される。

※：表示内容の上段はB1の情報、下段はB2の情報を表します。

補足 モデムによる通信時はメッセージは表示されません。

マルチ TA

項番	表示内容	メッセージ 種別	バック ライト	意 味
※ 1	Mハツ <電話番号>	通常	点灯	発信により相手システムと接続したことを示す。
※ 2	Mセツタ`ン y y y円	一時	点灯	自側より回線切断を行い、回線が切断されたことを示す。 相手側、または網から回線切断が通知され、回線が切断されたことを示す。
※ 3	Mエラー レイヤ3 # x x x	一時	点灯	回線エラーが発生したことを示す。 x x x：理由表示番号
4	Mハッシンエラー レイヤ3 # x x x	一時	点灯	発信時に呼制御エラーが発生したことを示す。 x x x：理由表示番号

※：表示内容の上段は B1 の情報、下段は B2 の情報を表します。

オンラインサポート

項番	表示内容	メッセージ 種別	バック ライト	意 味
※ 1	Oハツ <電話番号>	通常	点灯	発信により相手システムと接続したことを示す。
※ 2	Oチャク <電話番号>	通常	点灯	着信により相手システムと接続したことを示す。
※ 3	Oセツタ`ン y y y円	一時	点灯	自側より回線切断を行い、回線が切断されたことを示す。 相手側、または網から回線切断が通知され、回線が切断されたことを示す。
※ 4	Oエラー レイヤ3 # x x x	一時	点灯	回線エラーが発生したことを示す。 x x x：理由表示番号
5	Oハッシンエラー レイヤ3 # x x x	一時	点灯	発信時に呼制御エラーが発生したことを示す。 x x x：理由表示番号
6	Oチャクシンキョヒ x x <電話番号>	一時	点灯	着信を拒絶したことを示す。 x x：拒否理由

※：表示内容の上段は B1 の情報、下段は B2 の情報を表します。

アナログ通信の状態を表すメッセージ

外線通話

項番	表示内容	メッセージ 種別	バック ライト	意 味
1	📞ハツ 発信相手の電話番号	通常	点灯	外線発信で、相手呼出中状態。
2	📞ハツ ケツバ ン	一時	点灯	外線発信で、相手番号が使用されてない番号の場合。
3	📞ハツ アイテビ シ ー	一時	点灯	外線発信で、相手が話中応答した場合。
4	📞ハツ アイテオウトウナシ	一時	点灯	外線発信で、相手が無応答の場合。
5	📞ハツ アイテツウシンキョヒ	一時	点灯	外線発信で、相手が通信を拒否した場合。
6	📞ハツ キョヒリユウ# x x x	一時	点灯	外線発信で、項番2、3、4、5以外の理由で拒否された場合。「x x x」は理由表示番号。
7	📞ハツ F 話中発信相手の電話番号	通常	点灯	話中発信で、相手呼出中状態。
8	📞ハツ F 拒否理由	一時	点灯	話中発信で、相手が着信を拒否した場合、拒否理由は、項番2～6の内容と同様。
9	📞チャク 着信相手の電話番号	通常	点灯	発信者番号が通知された外線着信の、着信音送出中状態。
10	📞チャク ヒョウシ ンケンガ イ	通常	点灯	発信者番号が通知されない外線着信の、着信音送出中状態。 発信者番号非通知理由との対応は以下のとおり。 項番 10 : O (サービス提供不可) 11 : P (ユーザ拒否) 12 : S (サービス競合) 13 : C (公衆電話)
11	📞チャク ヒツウチ			
12	📞チャク サービ スキョウゴ			
13	📞チャク コウシュウデ ンフ			
14	📞チャク F 着信相手の電話番号	通常	点灯	チャネルなし着信で、キャッチホンの話中着信音送出中状態。
15	📞ツウワ 発／着信相手の電話番号	通常	点灯	外線通話中状態。 発信者番号が通知されない外線着信で通話中になった場合は、相手電話番号を表示せず、項番10～13と同様に発信者番号非通知理由を表示する。
16	📞ツウワ F 発／着信相手の電話番号	通常	点灯	外線通話中状態で、フレックスホンの保留呼がある場合。 ミキシング状態も含む。 発信者番号が通知されない外線着信で通話中になった場合は、相手電話番号を表示せず、項番10～13と同様に発信者番号非通知理由を表示する。
17	📞ツウワ 通話相手の電話番号 📞ホリユウ保留相手の電話番号	通常	点灯	疑似キャッチホン中状態。 発信者番号が通知されない外線着信で疑似キャッチホン中になった場合は、相手電話番号を表示せず、項番10～13と同様に発信者番号非通知理由を表示する。
18	📞ホリユウ保留相手の電話番号 📞ツウワ 通話相手の電話番号			
19	📞ツウシンチュウテンソウキト ウ	一時	点灯	フレックスホンの通信中転送を起動した場合。
20	📞チャクシンテンソウキト ウ	一時	点灯	フレックスホンの着信転送を起動した場合。
21	📞キ シ 発／着信相手の電話番号 📞テンソウ着／発信相手の電話番号	通常	点灯	疑似着信転送で、転送先相手呼出中状態、または疑似着信転送中状態。 発信者番号が通知されない外線着信で疑似着信転送中になった場合は、相手電話番号を表示せず、項番10～13と同様に発信者番号非通知理由を表示する。
22	📞キ シ 着信相手の電話番号 📞テンソウ 拒否理由	一時	点灯	疑似着信転送で、転送先相手が着信を拒否した場合。 拒否理由は、項番2～6の内容と同様。 発信者番号が通知されない外線着信を疑似着信転送しようとして転送先に拒否された場合は、相手電話番号を表示せず、項番10～13と同様に発信者番号非通知理由を表示する。
23	📞キ シ 拒否理由 📞テンソウ着信相手の電話番号			

項番	表示内容	メッセージ 種別	バック ライト	意 味
24	Ⓐセツダ ン x x x 円	一時	点灯	外線通話を切断了した場合。「x x x」は通話料金。通話料金は、右詰めで表示する。
25	Ⓐト ウキハズ レハッセイ	一時	点滅	発／着信中や通話中に、同期外れが発生した場合。

アナログ設定変更

アナログ機器で設定を変更した場合に表示されるメッセージです。



こんな事に気をつけて

リモート設定（外線からの設定）では、外線着信の動作は行いません。

.....

項番	表示内容	メッセージ 種別	バック ライト	意 味
1	アナログ セッテイ スタンバイモード OFF	一時	点灯	スタンバイモードをOFFにした場合。
2	アナログ セッテイ スタンバイモード ON	一時	点灯	スタンバイモードをONにした場合。
3	アナログ セッテイ チャクシンテンソウOFF	一時	点灯	着信転送を「使用しない」に設定した場合。
4	アナログ セッテイ チャクシンテンソウON	一時	点灯	着信転送を「着信転送」に設定した場合。
5	アナログ セッテイ ギ シ ン チャクシンテンソウON	一時	点灯	着信転送を「疑似着信転送」に設定した場合。
6	アナログ セッテイ TEL x セツゾ クキキナシ	一時	点灯	TEL xポートの接続機器を「なし」に設定した場合。
7	アナログ セッテイ TEL x デ ン ワ	一時	点灯	TEL xポートの接続機器を「電話」に設定した場合。
8	アナログ セッテイ TEL x モ デ ム	一時	点灯	TEL xポートの接続機器を「モデム」に設定した場合。
9	アナログ セッテイ TEL x FAX	一時	点灯	TEL xポートの接続機器を「FAX」に設定した場合。
10	アナログ セッテイ TEL x FAX ムメイト ウキョウセイ	一時	点灯	TEL xポートの接続機器を「FAX（無鳴動強制着信）」に設定した場合。
11	アナログ セッテイ TEL x FAX ムメイト ウシキヘ ツ	一時	点灯	TEL xポートの接続機器を「FAX（無鳴動識別着信）」に設定した場合。
12	アナログ セッテイ TEL x FAX キャッチホンチャクシン	一時	点灯	TEL xポートの接続機器を「FAX（キャッチホン着信）」に設定した場合。
13	アナログ セッテイ TEL x シ ョウホウツウチOFF	一時	点灯	TEL xポートの通信前情報通知を「使用しない」に設定した場合。
14	アナログ セッテイ TEL x ナンバ ー・デ ィス プ レイ1	一時	点灯	TEL xポートの通信前情報通知を「ナンバー・ディスプレイを使用する（モード1）」に設定した場合。
15	アナログ セッテイ TEL x ナンバ ー・デ ィス プ レイ2	一時	点灯	TEL xポートの通信前情報通知を「ナンバー・ディスプレイを使用する（モード2）」に設定した場合。
16	アナログ セッテイ LAN x x x . x x x . x x x . x x x	一時	点灯	IPアドレスを設定した場合。「x x x . x x x . x x x . x x x」は設定したIPアドレス。

項番	表示内容	メッセージ 種別	バック ライト	意 味
17	アナログ セッテイ シ コク y y / mm / d d h h : mm	一時	点灯	時刻を設定した場合。「y y / mm / d d h h : mm」は設定した日付と時間。
18	ケイヤクシャ テンソウサキ x x x x x x x x x x	一時	点灯	アナログ設定変更により、契約者番号の着信転送先を設定した場合。「x x x x x x x x x x」は設定した転送先電話番号。
19	タ イヤルイン1 テンソウサキ x x x x x x x x x x	一時	点灯	アナログ設定変更により、ポート1のダイヤルインの着信転送先を設定した場合。「x x x x x x x x x x」は設定した転送先電話番号。
20	タ イヤルイン2 テンソウサキ x x x x x x x x x x	一時	点灯	アナログ設定変更により、ポート2のダイヤルインの着信転送先を設定した場合。「x x x x x x x x x x」は設定した転送先電話番号。
21	ナリワケ1 テンソウサキ x x x x x x x x x x	一時	点灯	アナログ設定変更により、鳴り分け番号1の着信転送先を設定した場合。「x x x x x x x x x x」は設定した転送先電話番号。
22	ナリワケ2 テンソウサキ x x x x x x x x x x	一時	点灯	アナログ設定変更により、鳴り分け番号2の着信転送先を設定した場合。「x x x x x x x x x x」は設定した転送先電話番号。
23	メイワクテ ソフトウロク x x x x x x x x x x	一時	点灯	通話中迷惑電話登録を実行し、正常に登録された場合。「x x x x x x x x x x」は登録した相手電話番号。
24	メイワクテ ソフトウロクエラー ステ ニトウロクサレティマス	一時	点灯	通話中迷惑電話登録を実行するが、相手電話番号が既に登録されている場合。
25	メイワクテ ソフトウロクエラー リストニアキカ アリマセン	一時	点灯	通話中迷惑電話登録を実行するが、識別着信リストに空きがなく、登録できない場合。
26	メイワクテ ソフトウロクエラー ヒツウチチャクシンデ ス	一時	点灯	通話中迷惑電話登録を実行するが、発信者番号非通知のため、登録できない場合。
27	アナログ セッテイ ルスシ ヨウタイ : サ イタク	一時	点灯	アナログ設定変更により、留守状態設定を「在宅」に設定した場合。
28	アナログ セッテイ ルスシ ヨウタイ : ルス	一時	点灯	アナログ設定変更により、留守状態設定を「留守」に設定した場合。
29	アナログ セッテイ TELメールOFF	一時	点灯	アナログ設定変更により、TELメールを「使用しない」に設定した場合。
30	アナログ セッテイ TELメールON	一時	点灯	アナログ設定変更により、TELメールを「使用する」に設定した場合。
31	アナログ セッテイ i・ナンバーOFF	一時	点灯	アナログ設定変更により、i・ナンバーを「使用しない」に設定した場合。
32	アナログ セッテイ i・ナンバーON	一時	点灯	アナログ設定変更により、i・ナンバーを「使用する」に設定した場合。
33	アナログ セッテイ ナリワケx ポ ート1ノミチャクシン	一時	点灯	アナログ設定変更により、鳴り分け番号xの動作モードを「ポート1のみ着信」に設定した場合。「x」は1~3のいずれかを指定。
34	アナログ セッテイ ナリワケx ポ ート2ノミチャクシン	一時	点灯	アナログ設定変更により、鳴り分け番号xの動作モードを「ポート2のみ着信」に設定した場合。「x」は1~3のいずれかを指定。

項番	表示内容	メッセージ 種別	バック ライト	意 味
35	アナログ セッテイ ナリワケ x リョウボ ートチャクシン	一時	点灯	アナログ設定変更により、鳴り分け番号 x の動作モードを「両ポート着信」に設定した場合。「x」は1～3のいずれかを指定。
36	アナログ セッテイ ナリワケ x チャクシンキョヒ	一時	点灯	アナログ設定変更により、鳴り分け番号 x の動作モードを「着信拒否」に設定した場合。「x」は1～3のいずれかを指定。
37	アナログ セッテイ メールチェックシ ッコウ	一時	点灯	アナログ設定変更により、メールチェックを実行した場合。
38	アナログ セッテイ ルスモード OFF	一時	点灯	アナログ設定変更により、留守モードを解除した場合。
39	アナログ セッテイ ルスモード ON	一時	点灯	アナログ設定変更により、留守モードを実行した場合。
40	アナログ セッテイ メールチャクシンクリア	一時	点灯	アナログ設定変更により、メール着信表示を削除した場合。
41	TEL x ダイアルイン x x x x x x x x x x	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x のダイヤルイン番号を設定した場合。
42	TEL x ダイアルイン サクシ ョ	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x のダイヤルイン番号を削除した場合。
43	アナログ セッテイ TEL x グ ローバ ルチャクシン OFF	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x のグローバル着信を「しない」に設定した場合。
44	アナログ セッテイ TEL x グ ローバ ルチャクシン ON	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x のグローバル着信を「する」に設定した場合。
45	TEL x Lモード シヨウシナイ	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x の L モードを「使用しない」に設定した場合。
46	TEL x Lモード ショウスル ケイヤクシャバ ンゴ ウ	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x の L モード契約電話番号を「契約者番号」に設定した場合。
47	TEL x Lモード ショウスル ダ イアルインバ ンゴ ウ	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x の L モード契約電話番号を「ダイヤルイン番号」に設定した場合。
48	TEL x Lモード ショウスル ナリワケバ ンゴ ウ1	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x の L モード契約電話番号を「鳴り分け番号 1」に設定した場合。
49	TEL x Lモード ショウスル ナリワケバ ンゴ ウ2	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x の L モード契約電話番号を「鳴り分け番号 2」に設定した場合。
50	TEL x Lモード ショウスル ナリワケバ ンゴ ウ3	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x の L モード契約電話番号を「鳴り分け番号 3」に設定した場合。
51	アナログ セッテイ TEL x メッセージ ランプ ON	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x のメッセージあり状態表示を「表示する」に設定した場合。
52	アナログ セッテイ TEL x メッセージ ランプ OFF	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x のメッセージあり状態表示を「表示しない」に設定した場合。
53	アナログ セッテイ TEL x メッセージ ツウチ OFF	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x の通信前情報通知「メッセージあり情報通知しない」に設定した場合。
54	アナログ セッテイ TEL x メッセージ ツウチ モード 1	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x の通信前情報通知「メッセージあり情報通知モード 1」に設定した場合。
55	アナログ セッテイ TEL x メッセージ ツウチ モード 2	一時	点灯	アナログ設定変更により、アナログポート x の通信前情報通知「メッセージあり情報通知モード 2」に設定した場合。



用語集

2 分岐モジュラコネクタ	1 本の回線を 2 つに分岐させるためのコネクタです。
DA64、DA128	デジタルアクセス 64、デジタルアクセス 128
DHCP (Dynamic Host Configurari on Protocol)	ネットワーク上のホストに対して、IP アドレスやネットマスクなどのネットワーク構成情報を動的に割り当てるための機能です。 NetVehicle は、DHCP サーバ機能をサポートしており、DHCP クライアント機能を持っているパソコンに対して、自動的に IP アドレスなどの情報を割り当てることができます。 →DHCP サーバ
DHCP サーバ	DHCP を用いて、IP アドレスなどの設定を配布・管理するシステムです。
DION (NEWEB)	KDDI が提供するインターネット専用線接続サービスです。
DNS (Domain Name System)	IP アドレスとドメイン名を対応させるシステムです。 →ドメイン名、DNS サーバ
DNS サーバ	IP アドレスとドメイン名の対応を管理するコンピュータまたはソフトです。
DSU (Digital Service Unit)	NTT の電話回線とデジタル通信機器の間につなぎます。 NetVehicle や ISDN 機器などのデジタル通信機器が送受信するデジタル信号と、ISDN 回線で使用されているデジタル信号とを変換します。デジタルサービス装置とも呼ばれます。 →ハイ・スーパー・デジタル線
HSD 線	INS ネット 64 の付加サービスです。このサービスをご契約になると契約者回線番号の他に 2 つの電話番号を持つことができます。動作モードを設定することによって、接続しているの端末を鳴り分けさせることができます。
i・ナンバー	INS ネット 64 の付加サービスです。このサービスをご契約になると契約者回線番号の他に 2 つの電話番号を持つことができます。動作モードを設定することによって、接続しているの端末を鳴り分けさせることができます。
INS ネット 64	NTT が提供する ISDN 通信網サービスです。回線 1 本につき 2 つの B チャンネル (64Kbps) と、1 つの D チャンネル (16Kbps) を備えています。
IP (Internet Protocol)	通信プロトコルのひとつです。インターネットで標準的に使われています。
IP アドレス	IP による通信 (IP ネットワーク) を行う際、ネットワーク上の機器を識別するためのものです。通常は「192.168.1.1」のように、ピリオドをはさんだ 4 つの数字 (0 ~ 255) で表します。
IP アドレスの静的割り当て	ネットワーク上のホストそれぞれに固有の IP アドレスを割り当てることをいいます。
IP アドレスの動的割り当て	ネットワーク上のホストに、必要に応じて IP アドレスを割り当てることをいいます。
ISDN (Integrated Services Digital Network)	デジタル通信網の国際標準規格です。
LAN (Local Area Network)	構内回線を使用した狭い地域でのコンピュータ・ネットワークです。局部地域通信網とも呼ばれます。企業内では社内 LAN と呼ばれます。
LAN カード	Ethernet ポートを持たないパソコンを LAN につなぐために使います。
MP (Multilink PPP)	INS ネット 64 で提供している B チャンネル (64Kbps) 2 本を論理的に束ねることによって、最大 128Kbps での通信を可能にします。

NAT (Network Address Translation)	アドレス変換機能ともいいます。NAT は、プライベートアドレスとグローバルアドレスを変換する機能です。NetVehicle では、NAT 機能を拡張したマルチ NAT もサポートしています。
OCN (Open Computer Network)	NTT が提供するインターネット接続サービスです。OCN ダイアルアップ、OCN エコノミー、OCN スタンダード、OCN エンタープライズの 4 種類があります。
OCN エコノミー	NTT が提供するインターネット専用線接続サービスです。
ODN エコノミー	日本テレコムが提供するインターネット専用線接続サービスです。
ping	IP による通信 (IP ネットワーク) で、疎通確認をするためのコマンドです。
USB	キーボードやマウスなどの周辺機器をパソコンと接続するデータ伝送路として利用されている。
WAN (Wide Area Network)	一般の電話回線、ISDN 回線、専用線などを使い、遠隔地の LAN どうしを接続するネットワークです。広域情報通信網とも呼ばれます。
WWW ブラウザ	HTTP (HyperText Transfer Protocol) を用いて取得した文字、画像などを表示するためのソフトです。主なものとして Netscape Navigator/ Communicator や Microsoft Internet Explorer などがあります。
アドレスマスク	IP アドレスを持ったパソコン、ホスト、サーバなどのネットワークに接続されている装置のグループを表現する時に使用します。アドレスマスクは、例えば、あるネットワーク内の端末全部をまとめて表現したい時などに便利な書き方です。このアドレスマスクには、ネットワーク全体を示すためのネットマスクと、ローカルなネットワーク (サブネット) を示すサブネットマスクなどがあります。また、ネットワークの形状とは無関係に IP アドレス n 番から n+m 番までの端末を指す場合にも使われます (ここで n と m は 2 のべき乗の数になります)。 これらマスク値には “ 24 ” などと書きます。これは 32bit の IP アドレスの最初の 24bit 分がマスク値であることを示すものです。また “ 255.255.255.0 ” などのようにドット表記で表現する場合もあります。 例えば、192.168.2.0 のネットワーク番号は Class C ですからネットマスク値は 24 (255.255.255.0) です。 ここでサブネットマスクとして 26 (255.255.255.192) を指定すれば、 ① 192.168.2.0 ~ 192.168.2.63 ② 192.168.2.64 ~ 192.168.2.127 ③ 192.168.2.128 ~ 192.168.2.191 ④ 192.168.2.192 ~ 192.168.2.255 の 4 つサブネットワークが作られます。 さらにここで①のサブネット内の端末のうち、192.168.2.192 ~ 192.168.2.207 の IP アドレスを持った 16 台の端末グループを表現したい場合には、アドレスマスク 192.168.2.192/28 (255.255.255.240) と指定します。 なお、ネットマスクとサブネットマスクは明確な区別なしに使われることも多いようです。本マニュアルではネットマスクとサブネットマスクの両方の意味も含めてネットマスクと呼びます。 NTT の従来 of 回線網です。NTT では加入者回線と呼びます。 無通信監視タイマと連動して単位時間内は回線を切断しないように動作させ、通信料金を節約することができます。
アナログ回線 課金単位時間	

カスケード接続	ハブどうしをつなぐことをいいます。
加入者回線	→アナログ回線
疑似キャッチホン	NTT との契約なしで、キャッチホンと同様の使いかたができます。
グローバルアドレス	インターネット上のホストを識別するために InterNIC などのアドレス管理機構から割り当てられる、唯一無二の IP アドレスです。
グローバル着信機能	NTT のダイヤルインサービスを利用している場合でも、ダイヤルイン番号による呼び分けを行わないようにする機能です。
サブアドレス	同一の ISDN 回線につないだ複数の ISDN 機器を呼び分けるときに使用します。通常の電話番号の末尾に設定しておきます。 (例：03 - 1111 - 1111 * 001)。
サブネットマスク	→ネットマスク
三者通話	通話中に電話がかかってきた場合、三者で通話できるサービスです。
終端抵抗	ISDN 機器をつなぐ配線を通るデジタル信号を安定させるためのものです。
詳細設定メニュー	[詳細設定] アイコンをクリックすると、このメニューが表示されます。
専用線接続	このメニューからルータ設定とアナログ設定ができます。 ハイ・スーパー・デジタル線 (HSD) やデジタルアクセス 64 / 128 (DA64/128) などのデジタル専用線を使ってプロバイダと常時接続します。
操作メニュー	[操作] アイコンをクリックすると、このメニューが表示されます。
ダイヤルインサービス	NTT が提供するサービスです。会社などの構内にある電話を、外部から直接呼び出せます。
ダイヤルイン番号	NTT のダイヤルインサービスで、電話機それぞれに割り当てられる番号です。
ダイヤルトーン	電話機の受話器を上げたときに聞こえる、「ツー」という音のことです。
ターミナルアダプタ	モデムやアナログ電話機、FAX などのアナログ機器を ISDN 回線につなぐための装置です。
ダブルフック	通話中に電話機のフックを 2 回押すことです。
端末型ダイヤルアップ接続	パソコン 1 台だけでプロバイダに接続するためのサービスです。インターネットを利用するたびにプロバイダにダイヤルします。接続するたびに IP アドレスが 1 個割り当てられます。
着信転送	かかってきた電話を受けずに、他の番号に転送します。
通信中転送	通話中の電話を、別の番号に転送します。
デジタル電話機	TA (ターミナルアダプタ) などを介さず、ISDN 回線に直接つながることができる電話機です。
テレホーダイ	NTT が提供するサービスです。午後 11 時から午前 8 時までの深夜・早朝時間帯に、あらかじめ指定した 2 つの電話番号に対してかけ放題になります。利用にあたっては、NTT との契約が必要です。
転送元／転送トーン	かかってきた電話を、別の電話に転送する際、相手にメッセージを流すかどうかを指定できます。この場合、NTT との契約が必要です。「アナログ共通情報」ページの「着信転送」で「する」を選択します。ここで転送トーン「あり」を選択すると、「ただいま電話を転送しますので、しばらくお待ちください。」などのメッセージが流れます。転送元トーン「あり」を選択すると、“電話が転送されます。”などのメッセージが流れます。
電池ボックス	NetVehicle の電池ホルダを収納します。
電池ホルダ	NetVehicle のバックアップ電池を収納します。電池ボックス内にあります。

ドメイン名	インターネットに接続されているコンピュータを識別するための名前です。例えば「xxx@△△△.ne.jp」という電子メールアドレスを持っている場合なら、「△△△.ne.jp」がドメイン名になります。ダイヤルする際に発信する信号の種類を切り替えるためのスイッチです。通常電話機の底面や背面にあります。
トーン／パルス切り替えスイッチ	
鳴り分け番号	i・ナンバーサービスを契約すると2つまで電話番号を追加できます。契約者回線番号が鳴り分け番号1となり、追加番号がそれぞれ鳴り分け番号2、3となります。
ナンバー・ディスプレイ	ナンバー・ディスプレイ対応電話機を使用している場合、「使用する」を選択すると、電話機に相手番号を表示させることができます。通常の電話機をご利用の場合は「使用しない」を選択してください。相手がISDN回線の場合は、NTTのINSナンバー・ディスプレイサービスを契約していなくても、相手番号が通知されます。相手がアナログ電話網の場合は、INSナンバー・ディスプレイサービスを契約しないと相手番号が通知されません。
ネットマスク	IPアドレスからネットワーク部とホスト部を分離するための区切りを表します。例えば、IPアドレスが「192.168.1.1」、ネットマスクが「255.255.255.0」の場合、ネットワーク部は「192.168.1」、ホスト部は「1」になります。
ネットワーク型ダイヤルアップ接続	複数のパソコンからプロバイダに接続するためのサービスです。インターネットを利用するたびにプロバイダにダイヤルします。契約した台数分のIPアドレスが割り当てられます。LAN型ダイヤルアップ接続とも呼びます。
ネットワーク部	→ネットマスク
ハイ・スーパー・デジタル線（HSD）	NTTが提供する高速ディジタル通信サービスです。特定の地点を専用線で接続します。料金は定額制です。
ハブ	3台以上のパソコンやワークステーションを10BASE-TケーブルでつないでLANを構築するときに使う装置です。
バックアップ用電池	NetVehicleで停電時のバックアップ用に使用します。単3アルカリ乾電池8本が必要です。
発信者番号通知	電話をかけてきた相手の番号を通知する機能です。
表示メニュー	[表示] アイコンをクリックすると、このメニューが表示されます。
ファームウェア	NetVehicleを操作するための内蔵ソフトウェアです。
フッキング	→メンテナンスメニュー
フックスホン	通話中に電話機のフックを1回押すことです。通話中の電話を保留にするとときに使います。
フレックスホン	NTTが提供するサービスです。コールウェイティング、三者通話、通信中転送、着信転送の4種類があります。
フレッツ・ISDN	NTTが提供するダイヤルアップ接続方式のサービスです。定額料金なので常時接続に近い形でインターネットができます。
ホスト部	→ネットマスク
マルチダイヤル機能	ダイヤルしたアクセスポイントにつながらないとき、登録しておいた別のアクセスポイントに自動的にダイヤルする機能です。
無通信監視タイマ	プロバイダとの通信が一定時間なかったとき、自動的に回線を切断する機能です。
メンテナンスメニュー	[メンテナンス] アイコンをクリックすると、このメニューが表示されます。
モジュラコネクタ	電話回線の屋内配線と電話機をつなぐための機具（大きさ約3×7cm）。取り付け、取り外しには電気通信工事担任者資格が必要です。現在ではモジュラジャックの使用が主流になっています。

モジュラジャック

一般家屋の電話線用などで使用する、壁面に取り付けられたモジュラケーブルの差込口です。



Q&A

DSU、アナログポート関連	
Q1.	U 点インタフェースとは何ですか？
Q2.	DSU を無効にして、既設の DSU に接続することはできますか？
Q3.	TA や G4FAX など、他の ISDN 機器が接続できますか？
Q4.	DSU 折り返し機能はありますか？
Q5.	NetVehicle を設定する前に、アナログポートにつないだ電話は使えますか？
Q6.	アナログポートごとに電話番号を割り当てられますか？
Q7.	今まで使っていた番号をそのまま使うことはできますか？
Q8.	アナログポートごとにダイヤルイン設定は可能ですか？
Q9.	ダイヤルインサービスを使わずに、アナログポートに優先順位をつけられますか？
Q10.	フレックスホンに対応していますか？
Q11.	MP 機能を使っているときに電話がかかってきたらどうなりますか？
Q12.	停電時でも電話が使えますか？
10BASE-T ハブについて	
Q13.	5 台以上のパソコンをハブポートにつなげられますか？
ネットワーク構成について	
Q14.	『端末型接続』と『ネットワーク型接続』にはどんな違いがありますか？
Q15.	NetVehicle に ISDN 回線を介して TA + パソコンから接続できますか？
Q16.	OCN エコノミー、OCN ダイアルアクセス、フレッツ・ISDN でも利用できますか？
Q17.	NetVehicle どうして接続できますか？
Q18.	PHS からの着信はできますか？
Q19.	一方をプロバイダ、一方を会社のルータに（同時に）つなぐことはできますか？
Q20.	複数のプロバイダを利用できますか？
Q21.	パソコン通信にも使えますか？
サポート機能について	
Q22.	複数台のパソコンから同時にインターネットにアクセスできますか？
Q23.	NetVehicle の LAN には最大何台のパソコンが接続できますか？
Q24.	どんなプロトコルをサポートしていますか？
Q25.	MP とは何ですか？
Q26.	DHCP とは何ですか？
Q27.	DNS とは何ですか？
Q28.	接続する相手を認証することはできますか？
Q29.	データ圧縮機能をサポートしていますか？
Q30.	マルチダイヤル機能とは何ですか？
Q31.	テレホーダイ機能とは何ですか？
Q32.	使用状況 / 稼働状況などを表示できますか？
Q33.	SNMP をサポートしていますか？
Q34.	発信専用にできますか？
NetVehicle の設定について	
Q35.	回線（ISDN / 専用線）に接続していなくても設定できますか？
Q36.	NetVehicle の設定にはどんなブラウザが利用できますか？
Q37.	IP アドレスを設定する場合、使ってはいけない IP アドレスはありますか？
Q38.	認証 ID / パスワードに日本語は使えますか？
Q39.	FTP だけデータを通すことはできますか？
Q40.	ポート番号によるフィルタリングはできますか？
Q41.	WAN 側に IP アドレスを割り当てられますか？
Q42.	WAN 側に IP アドレスを割り当てない unnumbered 設定はできますか？
Q43.	着信側になったときに、動的に IP アドレスを割り当てることができませんか？
Q44.	無駄な回線接続要求を止める方法は？
Q45.	時刻を設定することはできますか？
セキュリティについて	
Q46.	セキュリティはどのように確保しますか？
Q47.	発信元の電話番号を区別して着信許可 / 拒否することができますか？
Q48.	CHAP や PAP を使用していますか？
Q49.	特定のパソコンからインターネット接続を禁止することはできますか？

Q50.	特定のパソコンのみインターネットからアクセスできるようにしたい。
Q51.	インターネットから LAN 上のサーバへのアクセスを禁止したい。
運用について	
Q52.	NetVehicle で利用できるのはどんな端末ですか？
Q53.	回線をつなぐにはどうしたら良いのですか？
Q54.	ブラウザを終了すると回線は切れますか？
Q55.	ブラウザ以外から手動切断する方法はありますか？
Q56.	複数の人が同時にメールを読むことは可能ですか？
Q57.	プロキシサーバを使いたい。
Q58.	Windows® のネットワークコンピュータで WAN の先の相手のコンピュータを見ることはできますか？
Q59.	他の機種で DHCP サーバを動かしているけれど問題ないですか？
Q60.	電源はどうやって切ったら良いのですか？
ファームウェアのバージョンアップについて	
Q61.	ファームウェアのバージョンアップ情報はどうすれば入手できますか？
Q62.	ファームウェアのバージョンアップ対応製品と未対応製品では、その後、機能差はありますか？
Q63.	バージョンアップ方法とは？
Q64.	インターネットに接続していない場合のバージョンアップ方法とは？
パソコンについて	
Q65.	Windows® 95/98、Windows NT® で DHCP クライアント機能はどうやれば使えますか？
Q66.	DHCP サーバ機能を利用しない場合、パソコンの設定はどうやればできますか？ (Windows® 95/98、Windows NT®, Macintosh)
Q67.	IP アドレスを設定する場合、使ってはいけない IP アドレスはありますか？
NAT (マルチ NAT) について	
Q68.	NAT とは何ですか？
Q69.	NAT の設定方法は？
Q70.	(基本 / 静的 / 動的) NAT の違いは何ですか？
Q71.	NAT 機能を利用した場合、FTP が使えなくなるのですか？
Q72.	NAT 機能を利用した場合、UDP アプリケーションは利用できますか？
Q73.	NAT を使っている場合に、IP フィルタリングはどのタイミングで実行されますか？
Q74.	OCN エコノミーで NAT を使うにはどうやればできますか？
ログ関連について	
Q75.	どんなログを表示できますか？
Q76.	syslog は使えますか？
Q77.	syslog のファシリティのコードは何ですか？
Q78.	syslog でどんな情報 (プライオリティ) が入手できますか？
マルチ TA について	
Q79.	マルチ TA 機能って何？
Q80.	TA とはなにが違うの？
Q81.	どんな環境で利用できるの？
Q82.	どうやって使うの？
Q83.	どういうときに使うの？
Q84.	無通信監視機能はありますか？

DSU、アナログポート関連

Q1. U 点インタフェースとは何ですか？

A. 屋内に配線されたケーブルを挿入するためのインタフェースです。

ISDN 網は、次のような経路をたどります。この屋内配線で設置された口から伸びるケーブルを DSU が受けるインタフェースのことを U 点インタフェースといいます。

NTT の交換機—電線—屋内配線— [DSU—ISDN 機器] ※

※ [] 内は利用者施設です。

Q2. DSU を無効にして、既設の DSU に接続することはできますか？

A. できます。

Q3. TA や G4FAX など、他の ISDN 機器が接続できますか？

A. できます。

Q4. DSU 折り返し機能はありますか？

A. あります。

ISDN 回線を新規に申し込む場合には、『(DSU 折り返し) 機能あり』でお答えください。

Q5. NetVehicle を設定する前に、アナログポートにつないだ電話は使えますか？

A. ご利用できます。

ただし、設定するまでは『グローバル着信』と『電話 (モデム)』しか利用できません。ダイヤルインサービスや FAX をご利用する場合は、利用形態に合わせた設定をお早めに行ってください。

Q6. アナログポートごとに電話番号を割り当てられますか？

A. ダイヤルイン契約、または i・ナンバー契約をしていただくか、サブアドレスを設定することで割り当てられます。(P.234)

Q7. 今まで使っていた番号をそのまま使うことはできますか？

A. 可能です。

アナログ回線から ISDN 回線への『同番移行』が可能な地域であれば、今お使いの電話番号をそのまま利用できます。

Q8. アナログポートごとにダイヤルイン設定は可能ですか？

A. 設定できます。(P.236)

Q9. ダイヤルインサービスを使わずに、アナログポートに優先順位をつけられますか？

A. つけられます。(P.204)

Q10. フレックスホンに対応していますか？

A. 対応しています。(P.219)

Q11. MP 機能を使っているときに電話がかかってきたらどうなりますか？

A. 電話も受けることができます。

アナログ使用時縮退機能によって、電話用に 2B のうち 1B を解放します。ただし、アナログ使用時縮退機能を使わない設定になっているか接続先が別々の場合、または ISDN 回線契約上『通信中着信通知サービス』のご契約をされていない場合、回線は自動的に縮退されません。

Q12. 停電時でも電話が使えますか？

A. 次のようになります。

1. ISDN S/Tポートに接続されたデジタル電話機は乾電池が装着されているときのみご使用になれます。
2. TEL1 ポートに接続された電話機は、乾電池が装着されているときのみご使用になれます。

Q13. 5 台以上のパソコンをハブポートつなげられますか？

A. ハブを増設することによりつなげられます。

ネットワーク構成について

Q14. 『端末型接続』と『ネットワーク型接続』にはどんな違いがありますか？

A. IP アドレスの割り当てかたに違いがあります。

[端末型接続契約]

- 「TA + パソコン 1 台」または「モデム + パソコン 1 台」で接続する契約です。
- 端末型ダイヤルアップ契約という場合もあります。
- プロバイダのアクセスポイントに接続するごとに IP アドレスが動的に割り当てられるため、事前に IP アドレスをパソコンに設定する必要がありません（固定にできません）。

[ネットワーク型接続契約]

- LAN を単位とした接続をする契約です。
- LAN 型接続契約等という場合もあります。
- 事前に IP アドレスを各パソコンに設定しておく必要がありません。

 NetVehicle を利用する場合、パソコン 1 台しか接続できない端末型接続契約であっても、NAT 機能を用いることで複数のパソコンからインターネットに接続することができます（接続先のプロバイダが NAT 機能の使用を禁止しない限り可能）。

Q15. NetVehicle に ISDN 回線を介して TA + パソコンから接続できますか？

A. できます。（P.137）

Q16. OCN エコノミー、OCN ダイアルアクセス、フレッツ・ISDN でも利用できますか？

A. 利用できます。

Q17. NetVehicle どうして接続できますか？

A. NetVehicle どうしの（ネットワーク型）接続は可能です。（P.75）

ただし、2 台の NetVehicle それぞれを「かんたん設定」で設定しただけではつながりません。受信側の NetVehicle に、次のどちらかの設定を行ってください。

- 方法 1. 認証プロトコルを使用しない。
- 方法 2. 認証 ID とパスワードを設定する。

Q18. PHS からの着信はできますか？

A. できます。（P.137）

Q19. 一方をプロバイダ、一方を会社のルータに（同時に）つなぐことはできますか？

A. できます。（P.81）

Q20. 複数のプロバイダを利用できますか？

A. マルチルーティング機能を使えばできます。（P.124）

Q21. パソコン通信にも使えますか？

A. 使える場合もあります。

インターネットサービスプロバイダと契約している場合、ニフティサーブなどにインターネット経由（r2.nifty.ne.jp に telnet など）でアクセスできます。

また、この他にも ISDN 回線経由の接続をサポートしていれば、直接アクセスできる場合もあります。詳しくはご利用のパソコン通信会社のサポート窓口などにお問い合わせください。

サポート機能について

Q22. 複数台のパソコンから同時にインターネットにアクセスできますか？

A. できます。アクセス可能な台数は利用形態により異なります。

接続形態	NAT 使用形態	同時接続制限
端末型接続	基本 NAT	1 台（早い者勝ち）
	動的 NAT	最大 256 セッション
	静的 NAT	最大 256 セッション+マッピングした情報数
ネットワーク型接続	使わない	ネットワークのすべての端末
	基本 NAT	割り当てられたグローバル IP アドレスの数
	動的 NAT	最大 256 セッション
	静的 NAT	最大 256 セッション+マッピングした情報数

Q23. NetVehicle の LAN には最大何台のパソコンが接続できますか？

A. ネットワークのルールに従えば、接続台数の制限はありません。

例えば、192.168.1.0/255.255.255.0 のネットワークであった場合、192.168.1.1 ~ 192.168.1.254 の 254 台のうち、NetVehicle の 1 台分を差し引いた 253 台までのパソコンが接続できます。

 NetVehicle の DHCP サーバ機能を利用すると、最大 32 台まで IP アドレスなどの情報を自動的に割り当てられます。33 台以上パソコンがある場合は、33 台目から IP アドレスなどの情報をそれらに個別に設定してください。

Q24. どんなプロトコルをサポートしていますか？

A. インターネットプロトコル（IP）をサポートしています。

IP（Internet Protocol）は、その名のとおりインターネットで通信を行うためのプロトコルです。インターネットに接続する場合にはこのプロトコルが必要不可欠です。AppleTalk、IPX/SPX、FNA、SNA など、IP 以外の通信プロトコルではご利用いただけません。

Q25. MP とは何ですか？

A. MP（Multilink PPP）は複数の回線を束ね、回線速度を高速化する技術です。

例えば、ISDN 回線（2B=64Kbps × 2 本）を束ねて 128Kbps の速度を持つ 1 つの回線に見立てる機能です。回線の通信状況に合わせて MP は空き回線を利用し、複数回線（ISDN の場合、2 本）を 1 つの回線に見立てて回線速度を高速化し、通信状態を良くするプロトコルです。

NetVehicle の場合は、ISDN を 1 本（2B）収容できますので、64Kbps の回線を 2 本を 1 本に見立てて 128Kbps の回線速度を作り出します。ただし、MP 利用時の回線使用料金は 2 本分かかります。

Q26. DHCP とは何ですか？

- A.** DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) は、IP アドレスなどの情報を割り当てるためのプロトコルです。

これを利用することにより、管理元 (DHCP サーバ) から各パソコン (DHCP クライアント) に対し、IP アドレスやゲートウェイアドレスなどネットワークの各種設定を自動化できます。ネットワーク環境が変化した場合でも、管理元の設定を変更することでパソコン側の設定も変更できます。NetVehicle には DHCP サーバ機能が搭載されています。(P.134)

Q27. DNS とは何ですか？

- A.** DNS (Domain Name Service) は、ホスト名 (あるいは端末名) と IP アドレスを管理するデータベースです。

DNS にアクセスすることによって、そこに登録されている世界中のアドレス情報を取り出すことができます。例えば、よく使われている Web や e-mail で表記されるホスト名 (例えば、www.fujitsu.co.jp、ftp.fujitsu.co.jp) はこのデータベースを使い、IP アドレスに変換されます。Web などのアプリケーションは検索してきた結果 (IP アドレス) を利用して通信することができるようになります。

Q28. 接続する相手を認証することはできますか？

- A.** PAP または CHAP により認証できます。(P.75)

Q29. データ圧縮機能をサポートしていますか？

- A.** 次の圧縮方式をサポートしています。

- VJ 圧縮

ただし、データ圧縮機能は、接続開始時の交渉で、相手が同意した場合のみ有効になります。

Q30. マルチダイヤル機能とは何ですか？

- A.** 接続先の電話番号を 3 つまで登録して、1 つ目の電話番号が話中であれば、2 つ目の電話番号に自動的にダイヤルする機能です。話中でつながりにくいプロバイダに接続する時に有効です。

Q31. テレホーダイ機能とは何ですか？

- A.** 自動回線切断機能 (※) を簡単な操作で停止させて、指定した時間内は、回線を切断しないようにする機能です。NTT のテレホーダイサービス利用時に効果的です。

 ※一定時間 (無通信監視タイマの設定: 初期設定 1 分)、回線上の通信がない状態が続くと、回線使用料を余分に払わないようにするために自動的に回線を切断する機能です。

Q32. 使用状況 / 稼働状況などを表示できますか？

- A.** 表示メニュー (P.269) で表示できる情報は WWW ブラウザを介して表示 / 出力ができます。

Q33. SNMP をサポートしていますか？

- A.** サポートしていません。

Q34. 発信専用にありますか？

A. できます。

詳細設定メニューのルータ設定で「回線情報」をクリックし、「回線情報設定」ページの「ISDN 情報」の中の「着信動作」の設定で「すべて禁止」を選択します。

NetVehicle の設定について

Q35. 回線（ISDN / 専用線）に接続していなくても設定できますか？

A. 設定できます。

NetVehicle が回線設置より早く手元に届いても、事前に設定できます。

回線が設置されるまでは、NetVehicle を使って LAN 環境の構築などを行ってください。

Q36. NetVehicle の設定にはどんなブラウザが利用できますか？

A. Netscape Navigator Version 3.0 以降と Microsoft Internet Explorer Version 4.0 以降です。

Microsoft Internet Explorer Version 3.0 で NetVehicle の設定を行うと、設定した情報が正しく設定されないことがあります。

Q37. IP アドレスを設定する場合、使ってはいけない IP アドレスはありますか？

A. 次の 3 種類の IP アドレスは使わないでください。

■ すでにに利用されている IP アドレス

IP ネットワークでは、IP アドレスが世界中で必ず 1 つであることを条件に構成されています。プライベートアドレスを使って接続する端末型接続の場合でも、NAT 機能を用いて世界中で 1 つしかない IP アドレス（グローバルアドレス）に変換します。

■ ネットワーク部を示す IP アドレス（0 ブロードキャスト）

ネットワーク部（そのまま）+ ホスト部がすべて 0（2 進数表記）の IP アドレス

■ ブロードキャストアドレスを示す IP アドレス（1 ブロードキャスト）

ネットワーク部（そのまま）+ ホスト部がすべて 1（2 進数表記）の IP アドレス

ネットワーク部 / ホスト部の求めかたは次のとおりです。

ネットワーク部 = IP アドレス & ネットマスク（論理積）

ホスト部 = IP アドレス & (not ネットマスク)（論理積と排他）

例えば、NetVehicle のデフォルト IP アドレスである、192.168.1.1/255.255.255.0（24bit）の場合、ネットワーク部 / ホスト部は次のとおりです。

ネットワーク部

192.168.1.1 = 11000000.10101000.00000001.00000001

&255.255.255.0 = 11111111.11111111.11111111.00000000

192.168.1.0 = 11000000.10101000.00000001.00000000

ホスト部

192.168.1.1 = 11000000.10101000.00000001.00000001

&0.0.0.255 = 00000000.00000000.00000000.11111111

0.0.0.1 = 00000000.00000000.00000000.00000001

この場合、以下ようになります。

NetVehicle の IP アドレス = 192.168.1.1 (ホスト 1 番)
ネットワークアドレス = 192.168.1.0 (ホスト部: 00000000)
ブロードキャストアドレス = 192.168.1.255 (ホスト部: 11111111)

Q38. 認証 ID / パスワードに日本語は使えますか？

A. 使えません。

NetVehicle で扱えるのは英数字と記号（ただし、2 バイト文字は除く）だけです。プロバイダからもらったパスワードが日本語の場合、プロバイダに依頼して英数字に変更してください。

Q39. FTP だけデータを通すことはできますか？

A. IP フィルタリング機能を使えばできます。

Q40. ポート番号によるフィルタリングはできますか？

A. できます。

NetVehicle の IP フィルタリングは、IP アドレス / ポート番号 / TCP 接続要求を対象にするか（TCP のみ）などの設定が可能です。フィルタリング動作としては、透過 / 遮断 / 透過（接続中のみ）があります。

Q41. WAN 側 IP アドレスを割り当てられますか？

A. 割り当てられます。

詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックし、「相手情報設定」ページの「ネットワーク情報一覧」から「ネットワーク情報設定」ページを開き、「WAN 側 IP アドレス」の設定で「設定する」を選択し、かつ、IP アドレスを入力してください。

Q42. WAN 側 IP アドレスを割り当てない unnumbered の設定はできますか？

A. できます。

unnumbered 設定を行う場合、詳細設定メニューのルータ設定で「相手情報」をクリックし、「相手情報設定」ページの「ネットワーク情報一覧」から「ネットワーク情報設定」ページを開き、「WAN 側 IP アドレス」の設定で「設定しない」を選択します。

Q43. 着信側になったときに、動的に IP アドレスを割り当てることができますか？

A. 割り当てられます。最大 2 つまで割り当てることができます。（P.137）

Q44. 無駄な回線接続要求を止める方法は？

A. 回線ログと IP フィルタリングを利用します。

回線ログには発信契機となったパケット情報がページに出力されます。この情報を元に IP フィルタリングを行います。

例えば、

Protocol: ICMP 192.168.1.3 (xxx) → 164.71.2.5 (yyy)

という行が回線ログのページ上に複数個表示されたとします。この場合、このパケットを遮断することで、回線の無駄な発信が止められます。

次に IP フィルタリングの設定ページ（詳細設定）を表示します。設定画面の各項目を入力します。

動作	遮断
プロトコル	ICMP

[送信元情報]	
IP アドレス	192.168.1.3
アドレスマスク	32
ポート番号	なにも指定しない
[宛先情報]	
IP アドレス	164.71.2.5
アドレスマスク	32
ポート番号	なにも指定しない
TCP 接続要求	どちらでも可

再起動後（できれば電源を切ってから）、一定時間放置したあと、再度回線ログを確認してください。上記の情報が表示されていないことが確認できると思います。

Q45. 時刻を設定することはできますか？

A. 「端末から時刻を取得」、「タイムサーバから時刻を取得」、または「任意の時刻を設定」の3通りの方法で設定できます。

- 操作メニューの「時刻設定」でパソコンから時刻を取得、または、任意の時刻を設定することができます。
- 詳細設定メニューでルータ設定の「装置情報」をクリックし、「装置情報設定」ページの「タイムサーバ情報」の設定で、「使用する」を選択し、かつ、「プロトコル」「タイムサーバIPアドレス」「自動時刻設定間隔」を設定すると、NetVehicle からの時刻問い合わせにより自動的に時刻を合わせます。
また、「タイムサーバ情報」が設定されている場合、操作メニューの「時刻設定」で、タイムサーバからの時刻を取得の「設定」ボタンをクリックすることによって、即時に取得することもできます。

 電源を切ると時刻情報が失われます。

セキュリティについて

Q46. セキュリティはどのように確保しますか？

A. 発信者番号チェック、CHAP/PAP、IP フィルタリング、NAT などの機能で確保できます。（P.108）

- 発信者番号チェック：接続先の電話番号が登録されているものかどうかを確認。もし登録されていなければ回線は接続されません。
- CHAP/PAP：回線接続のプロトコル（PPP）で、接続を制御するための認証方式です。
- IP フィルタリング：特定の IP アドレスのみ透過（逆に遮断）し、不要な通信を遮断できます。
- NAT：NetVehicle を介して LAN 側とインターネット側の IP アドレスを変換して、LAN 側のアドレスをインターネット側から見えなくします。

Q47. 発信元の電話番号を区別して着信許可 / 拒否することができますか？

A. できます。（P.78）

なお、初期設定の状態では、事前に登録していない接続先からの着信要求は拒否するようになっています。

Q48. CHAP や PAP を使用していますか？

A. 使用しています。

NetVehicle は 2 点間で回線を接続するため PPP というプロトコル（手順）で行われますが、この処理の途中で CHAP/PAP といった認証プロトコルを使用します。NetVehicle では認証処理は以下のようになっています。

[発信時]

相手を認証する手順をふみません。

相手が認証を要求してきた場合は、手順に従い自側の認証ID/ パスワードを送出します。

[着信時]

相手を認証します（認証をしない設定にすることも可能）。

相手が認証を要求してきた場合は、手順に従い自側の認証ID/ パスワードを送出します。

Q49. 特定のパソコンからインターネット接続を禁止することはできますか？

A. 『IP フィルタリング（詳細設定）』を行うことで実現可能です。

例えば、192.168.1.3 から NetVehicle を介してインターネット接続できなくする場合の設定内容は次のようになります。

動作	遮断
プロトコル	すべて
IP アドレス	192.168.1.3
アドレスマスク	255.255.255.255

Q50. 特定のパソコンのみインターネットからアクセスできるようにしたい。

A. 『IP フィルタリング（詳細設定）』を行うことで実現可能です。

例えば、192.168.1.0/24 のネットワークの 192.168.1.3 へのアクセスを許す場合の設定内容は次のようになります。

[優先順位 1]

動作	透過
プロトコル	すべて
IP アドレス	192.168.1.3
アドレスマスク	255.255.255.255

[優先順位 2]

動作	遮断
プロトコル	すべて
IP アドレス	192.168.1.0
アドレスマスク	255.255.255.0

Q51. インターネットから LAN 上のサーバへのアクセスを禁止したい。

A. NAT 機能を利用することで、実現可能です。

NAT 機能は NetVehicle を介してインターネットにアクセスする段階で、元の IP アドレスを別の IP アドレスに振り替えてインターネット上のサーバと通信するための機能です。

パソコンの IP アドレス（プライベートアドレス）を、違う IP アドレス（グローバルアドレス）に変換して通信するため、LAN からインターネットに向かってアクセスできても、インターネットから LAN に向かってアクセスできません（IP アドレスの変換テーブルに変換情報がいないため）。

IP フィルタリング機能を使って細かい設定をすることなく、インターネットからのアクセスを止められます。

Q52. NetVehicle で利用できるのはどんな端末ですか？

- A.** 次の条件が揃っていれば、パソコン、ワークステーションはほとんどご利用いただけます。
- Ethernet ポート、Ethernet アダプタまたは USB ポートを備えている。
 - IP プロトコルをサポートしている。

Q53. 回線をつなぐにはどうしたら良いのですか？

- A.** アプリケーションを起動して、そのままインターネットにアクセスしていただければ回線はつながります。

例えば、ブラウザを例にしますと、以下の手順で回線が接続されます。

1. www.fujitsu.co.jp を指定します。
2. 端末はwww.fujitsu.co.jpのIPアドレスがわからないので、DNSサーバに対してwww.fujitsu.co.jpのIPアドレスが何であるかを問い合わせます。DNSサーバに対して要求を送る時には、ルーティングテーブルを見て NetVehicle にデータを転送すれば良いことを判断します。
3. データを受け取った NetVehicle は、ルーティングテーブルを見て回線の向こう側に DNS サーバがいることを判断した結果、回線を接続する必要があると理解し、回線を接続します。

Q54. ブラウザを終了すると回線は切れますか？

- A.** ブラウザを終了させただけでは切れません。

自動回線切断機能は、ある一定の時間ISDN回線上にデータが一つも流れなかったとき、はじめて回線切断処理を行います。このため、ブラウザをはじめとするアプリケーション終了時には回線は切断されません。ただし、NetVehicleの操作メニューで「手動切断」処理を行うことで、任意のタイミングで回線を切断できます。

なお、前記「一定時間」は設定できます。設定項目の名前は『無通信監視タイマ』です。

Q55. ブラウザ以外から手動切断する方法はありますか？

- A.** ありません。

緊急時は、回線側のケーブルを抜けば接続状態にある回線を切断できます。

Q56. 複数の人が同時にメールを読むことは可能ですか？

- A.** プロバイダのサービスに依存します。

例えば、プロバイダで、接続用のID一つに対して最大5個のメールアカウントを利用できるサービスがあるとします。このサービスを利用すれば、NetVehicle 経由で複数の人が同時にメールを読めます。

Q57. プロキシサーバを使いたい。

- A.** ご利用いただけます。

設定方法は、お使いのブラウザによって違います。「noProxy」や「Proxyサーバを使わない」などの項目にNetVehicleのIPアドレスを設定し、NetVehicleのみプロキシサーバを使わない設定にしてください。
(■基本編 P.58)

- Netscape Communicator 4.7 の場合は、次のように設定します。

- ① 「編集」メニューから「設定」を選択する。
- ② 設定画面の「カテゴリ」で「詳細ープロキシ」を選択する。
- ③ 「手動でプロキシを設定する」を選択し、[表示] ボタンをクリックする。
- ④ 「HTTP」にプロバイダの Proxy サーバを指定します。
- ⑤ 例外の「次ではじまるドメインにはプロキシサーバを使用しない」に NetVehicle の IP アドレス (192.168.1.1) を指定する。

- Microsoft Internet Explorer 5.5 の場合は、次のように設定します。
 - ① [ツール] メニューから「インターネットオプション」を選択する。
 - ② インターネットオプション画面の「接続」タブで、LAN の設定の「LAN の設定」ボタンをクリックする。
 - ③ プロキシサーバーの「プロキシサーバーを使用する」が選択されていることを確認し、[詳細] ボタンをクリックする。
 - ④ 「HTTP」にプロバイダの Proxy サーバを指定する。
 - ⑤ 例外の「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない」に NetVehicle の IP アドレス (192.168.1.1) を指定する。

Q58. Windows®のネットワークコンピュータでWANの先の相手のコンピュータを見ることはできますか？

A. ISDN 回線を介した場合、見られません。

lmhosts ファイルに、接続先のコンピュータの IP アドレスとホスト名を登録し、「検索」機能でホストを検索してください。

lmhosts ファイルを使用する代わりに、NetVehicle の ProxyDNS 機能で接続先のコンピュータの IP アドレスを登録しておくこともできます (P.128)。

Q59. 他の機種で DHCP サーバを動かしていますが問題ないですか？

A. NetVehicle の DHCP サーバ機能は止めてください。

NetVehicle の DHCP サーバ機能より、UNIX サーバや Windows NT サーバなど他の機種の方が、より細かい情報をパソコンに割り当てることができます。NetVehicle の DHCP サーバ機能は停止して、既存の DHCP サーバをそのまま使用されることをお勧めします。

Q60. 電源はどうやって切ったら良いのですか？

A. 通常運用では電源スイッチをそのまま切っていただいても、NetVehicle 本体には影響を与えません。

⚠注意

ファームウェアのバージョンアップ作業を行っている場合は絶対に電源を切らないでください。

ファームウェアのバージョンアップについて

Q61. ファームウェアのバージョンアップ情報はどうすれば入手できますか？

A. バージョンアップ情報は NetVehicle のサポートページで広報します。

NetVehicle のサポートページ(<http://telecom.fujitsu.com/jp/products/nv/>)では、バージョンアップ時期以外にも、追加・拡張された機能を紹介していきます。定期的にご覧ください。

Q62. ファームウェアのバージョンアップ対応製品と未対応製品では、その後、機能差はありますか？

A. バージョンアップを行っていただければ、同一機種ならば機能差はありません。

例えば、バージョンアップ対応製品が出荷されたあとでも、それ以前から店頭に並んでいる商品は旧バージョンの可能性があります。そのような製品を購入された場合にも、ファームウェアをバージョンアップしていただくことで機能を拡張できます。

Q63. バージョンアップ方法とは？

A. NetVehicle がインターネットに接続されていればできます。(P.278)

Q64. インターネットに接続していない場合のバージョンアップ方法とは？

A. ftp サーバを稼働させてください。

1. ftp サーバを準備します。

UNIX サーバをお持ちの方は適当なユーザを作っておいただければ可能です。Windows®95 の場合、Microsoft 社が提供しているパーソナルウェブサーバを利用すると簡単です。

2. 最新ファームウェアを入手します。

ニフティサーブのインターネット接続サービスを利用して NetVehicle 用のファームウェアを入手する場合は、次の手順で行います。

ニフティサーブ接続後の画面表示の例

```
> GO INTERNET
インターネット INTERNET
1. インターネットについて
2. 利用方法
3. Q&A コーナー
4. NIFTYMANAGER と WWW ブラウザー
5. ftp
6. fj/tnn news group (netnews)
7. telnet
8. フォーラム／ステーション
9. インターネットパイロットコーナー
```

```
> 5
```

```
ftp FTP
```

```
1. ご案内／利用方法
2. archie
3. anonymous ftp
4. ftp
```

```
> 3
```

```
anonymous ftp AFTP
```

```
1. 任意のサイトに入る
2. ftp.web.ad.jp に入る
3. ftp.ij.ad.jp に入る
```

```
> 1
```

```
ホスト名 (ドメイン名または URL 例:ftp://ftp.web.ad.jp/pub/README) :
```

```
ftp://ftp.fujitsu.co.jp/pub/NV/firm/GX5SOFT.ftp
```

```
ホスト名 : ftp.fujitsu.co.jp
```

```
ファイル名 : /pub/NV/firm/GX5SOFT.ftp
```

3. LAN 上の FTP サーバに、入手したファイルを置く。

同一のファイル名にしておくと便利です。ここでのファイル名は「/pub/NV/firm/GX5SOFT.ftp」です。

4. NetVehicle の「ファームウェア更新情報」を LAN 上の ftp サーバに向ける。

- 設定メニューで「詳細設定」の「装置情報」をクリックします。
- 「装置情報設定」ページの「ファームウェア更新情報」の中の「転送元ホスト名」に、FTP サーバの IP アドレスを入力します。
- 「ファイルロケーション」(ファイル名も含む)を変更した場合、正しいことを確認してください。
- 「更新」ボタンをクリックします。
- 「設定反映」ボタンをクリックします。

5. ファームウェアを更新する。

- 「メンテナンス」アイコンをクリックします。
- メンテナンスメニューで「ファームウェア更新」をクリックします。
- 指示に従い、ボタンをクリックしていきます。
- 設定内容表示ページが表示されたら、内容に間違いがないことを確認して [OK] ボタンをクリックします。
- ここからバージョンアップ処理が行われます。
(バージョンアップ中には電源を切らないように注意してください。)
- バージョンアップ終了を告げるメッセージが表示されると完了です。

パソコンについて

Q65. Windows® 95/98、Windows NT®, MacintoshでDHCPクライアント機能はどうか
れば使えますか？

A. 製品に添付されているマニュアルを参照してください。

Q66. DHCP サーバ機能を利用しない場合、パソコンの設定はどうやればできますか？
(Windows® 95/98/Me、Windows NT®, Macintosh)

A. 製品に添付されているマニュアルを参照してください。

Q67. IP アドレスを設定する場合、使ってはいけない IP アドレスはありますか？

A. 次の 3 種類の IP アドレスを使ってはいけません。(P.298)

- すでに利用されている IP アドレス
- IP ネットワークでは、IP アドレスが世界中で必ず 1 つであることを条件に構成されています。プライベートアドレスを使って接続する端末型接続の場合でも、NAT 機能を用いて世界中で 1 つしかない IP アドレスに変換します。
- ネットワークアドレスを示す IP アドレス (0 ブロードキャスト)
- ネットワーク部 (そのまま) + ホスト部がすべて 0 (2 進数表記) の IP アドレス
- ブロードキャストアドレスを示す IP アドレス (1 ブロードキャスト)
- ネットワーク部 (そのまま) + ホスト部がすべて 1 (2 進数表記) の IP アドレス

NAT (マルチ NAT) について

Q68. NAT とは何ですか？

A. Network Address Translation の略です。

簡単に言えば、NetVehicle と同じ LAN につながっているパソコンの IP アドレスが、NetVehicle を通ってインターネットに出て行く時に、違う IP アドレスになって出て行く機能です。

NetVehicle では NAT 機能を拡張したマルチ NAT をサポートしています。

Q69. NAT の設定方法は？

A. 詳細設定の相手情報から行います。

かんたん設定で端末型接続を選んだ場合、動的 NAT が動作するように設定されますが、それ以外の NAT 機能を利用する場合は、必ず詳細設定で動作を設定する必要があります。

Q70. (基本 / 静的 / 動的) NAT の違いは何ですか？

A. 同時接続できる台数、機能制限に以下のような違いがあります。

NATの種類	同時接続制限 (セッション数)	備考
基本NAT	割り当てIPアドレス数	割り当て時間内は外部を起点とした通信も可能
動的NAT	256セッション	外部を起点とした通信は不可能
静的NAT	256セッションとマッピングした情報	プライベートアドレス (とポート) をグローバルアドレス (とポート) にマッピングできる / マッピングしたアドレス (とポート) に関しては、外部を起点とした通信も可能

Q71. NAT 機能を利用した場合、FTP が使えなくなるのですか？

A. NetVehicle の NAT 機能ならば大丈夫です。

本来の NAT 機能の場合、IP 通信の要となる IP ヘッダ (葉書などの住所 / 郵便番号) 部分に書き込まれているプライベートアドレスをグローバルアドレス (またはその逆) に変換する機能です。

しかし FTP の場合、パソコンが IP ヘッダの上位層 (葉書でいうと文章) でローカル IP アドレス (住所) を伝え、サーバは教えられた "ローカル IP アドレス (プライベートアドレス)" にデータを送信しますが、存在しない (あるいは存在してもサービスを望んでいない) ため、通信は失敗に終わります。

そこで NetVehicle の NAT 機能は、FTP 通信を見つけると上位層のローカル IP アドレス (プライベートアドレス) をグローバルアドレスに書換えて正しく通信できるようにしています。

Q72. NAT 機能を利用した場合、UDP アプリケーションは利用できますか？

A. StreamWorks、RealPlayer、VDOLive などが利用できます。

UDP 通信は TCP 通信と違い、コネクション確立を行わない通信です。このため、大量のデータを送り込む動画転送アプリケーション (RealAudio など) に利用されます。

一般的な NAT 機能を利用している場合、ローカル IP アドレス (プライベートアドレス) とグローバルアドレスが 1 対 1 に対応しないため、外部を起点とした通信は行えません。このため、動画などのサーバを通信起点とした UDP アプリケーションには本来対応できません。

しかし、NetVehicle の NAT 機能は、回線接続一定時間 (アドレス保持タイマ) 後、回線切断前であればローカル IP アドレス (プライベートアドレス) とグローバルアドレスが 1 対 1 に対応しているため、StreamWorks、RealPlayer、VDOLive には対応しています。また、マルチ NAT 機能 ("基本 NAT" または "静的 NAT") を利用することで、複数端末が同時に外部接続し、UDP アプリケーションは特定の 1 台または割り当てられているグローバルアドレスの数の端末で利用することができます。

ただし、インターネットホンの類はご利用いただけません。インターネットホンも ftp と同様、上位層でローカル IP アドレス (プライベートアドレス) をサーバに送出しているアプリケーションであり、なおかつ、データのやりとりのしくみが非公開であるため、対応ができません (インターネットホンはアプリケーション間で互換性がない場合が多く、また、独自仕様の通信を行っています)。

[NetVehicle のインターネットホンへの対応状況]

■ Microsoft NetMeeting の音声 / 画像通信は利用不可 (マルチ TA 機能でご利用いただけます。)

■ CU SeeMe は利用可能

上記以外は未確認です。

Q73. NAT を使っている場合、IP フィルタリングはどのタイミングで実行されますか？

A. プライベートアドレスを使って行われます。

つまり、LANからインターネット上に向かう場合は、NAT機能でアドレスが変更される前にフィルタリング対象であるかどうかをチェックします。また、インターネットからLANに向かう場合は、NAT機能でアドレス変換されたあとでフィルタリング対象であるかどうかをチェックします。

どちらの場合でも、遮断処理の対象になったパケットは通信対象からはずれますから、不要なパケットが流れて発信契機または無通信監視タイマの対象から外れます。

Q74. OCNエコノミーでNATを使うにはどうやればできますか？

A. グローバルアドレスが割り当てられるので、静的NATを利用すると効果的です。

OCNエコノミーの場合、DNSサーバやWWWサーバなどに特定のIPアドレスに割り振られるので、静的NATを用いてサーバのプライベートアドレスをグローバルアドレスにマッピングし、外部からの通信ができるようになります。

ログ関連について

Q75. どんなログを表示できますか？

A. 次のログが見られます。

[表示メニューで確認できる内容]

- 回線接続状況： 現在の接続先情報が表示されます（回線状態（1B通信/MP通信）、接続形態（発信/着信）、接続先（名前/ダイヤル番号）、回線使用率（送信/受信）、通信時間（接続時間）、IPアドレス）。
- 課金情報： 電源投入（または再起動）後の回線使用料金が表示されます。
- IP統計情報： 回線を介した通信のプロトコルごとの内訳が表示されます。
- メール着信通知： NetVehicleのメール着信通知機能を使用している場合、メール着信通知の情報が表示されます。
- メールチェック： POP3プロトコルを使用してメールの着信を確認した情報が表示されます。
- チャンネル統計情報： 回線接続の情報が表示されます（発信回数、発信（接続）失敗回数、接続先話中回数）。
- 回線ログ： 回線接続に関する情報が表示されます（接続処理時間、接続契機パケット、回線接続失敗理由）。
- システムログ情報： 電源投入後のログが表示されます。
- ルーティング情報： ルーティングテーブルが表示されます。
- 現在時刻： 現在の時刻（設定時刻）が表示されます。TIMEサーバと連動させたり、手動で入力できます（電源切断ごとに初期化されます。初期日時は1970/01/01/00:00:00）。
- 経過時間情報： 電源投入後の時間が表示されます。

[メンテナンスメニューで確認できること]

- バージョン情報： ファームウェアバージョンを表示します。
- PPPフレームトレース： 回線接続ネゴシエーションを表示します。
- エラーログ情報： エラーログが表示されます。
- 構成定義情報： 設定情報が表示されます。

Q76. syslogは使えますか？

A. 使えます。システムログを設定できます。

Q77. syslog のファシリティのコードは何ですか？

A. 23（個人が割り当てできる数）が設定されます。

Q78. syslog でどんな情報（プライオリティ）が入手できますか？

A. 次の情報が入手できます。

- LOG_ERR エラーメッセージ
- LOG_WARN 警告メッセージ
- LOG_NOTICE エラー以外のシステムメッセージ
- LOG_INFO 回線情報など

マルチ TA について

Q79. マルチ TA 機能ってなに？

A. NetVehicle で TA と同じように通信する機能です。Windows® 95/98/2000 のダイヤルアップネットワークの仮想プライベートネットワークの機能を使って、TA を使った PPP 接続と同等の通信を行う機能です。

Q80. TA とはなにが違うの？

A. いろいろ違います。

まず、接続方法が違います。

TA の場合には、一般的にはパソコンのシリアルポートと TA のシリアルポートをシリアルケーブルを使って接続します。マルチ TA 機能は、パソコンの LAN ポートと NetVehicle の HUB ポートを LAN ケーブルを使って接続します。

このため、TA はシリアルケーブルで接続した 1 台のパソコンからしか使えませんが、マルチ TA は LAN に接続されていますので、LAN 上のどのパソコンからでも使うことができます。

また、TA を利用する場合にはシリアルポートの速度によっては ISDN の性能を生かしきれない場合がありますが、マルチ TA の場合にはパソコンと NetVehicle の間を 10 Mbps の LAN で接続しますから、ISDN の性能を生かすことができます。

いくつか、TA なら可能なことでもマルチ TA で不可能なことがありますので注意してください。

- パケット通信はできません。
- 着信やコールバックはできません。
- MP 通信はできません。
- 専用線では使えません。
- 非同期通信はできません。
- RVS-COM は使えません。
- AT コマンド操作はできません。

Q81. どんな環境で利用できるの？

A. Windows® 95/98/2000 から利用できます。

Windows® 98/2000 の場合には、Windows® 98/2000 があらかじめ持っている機能を利用します。

Windows® 95 の場合には、以下のソフトウェアが必要です。

- Windows® 95 ダイアルアップ ネットワーク 1.3 アップグレード

製品に添付の CD-ROM の中からインストールするか、または Microsoft のホームページよりダウンロードしてインストールすることで入手できます。

Q82. どうやって使うの？

A. TA やモデムでの接続と同じように使います。

接続をする場合には、ダイヤルアップネットワークから接続アイコンを選んで接続します。

切断をする場合には、接続ウィンドウから「切断」を選んで切断します。

TA やモデムでの接続と同じです。

Q83. どういうときに使うの？

A. NAT を利用すると不都合がある場合や、IP 以外のプロトコルを利用する場合にお使いください。

プロバイダとの端末型ダイヤルアップ契約では、NetVehicle で NAT を使わないと通信できませんが、NAT を使ってしまうと通信できないアプリケーションもいくつか存在します。

また、NetVehicle は IP ルータですので、IP 以外のプロトコルは利用できません。例えば IPX や NetBEUI などは利用できません。

マルチ TA は通常の TA と同等の通信を提供しますから、NAT は使われませんし、Windows® がサポートしているプロトコルであればどのプロトコルでも通信が可能です。

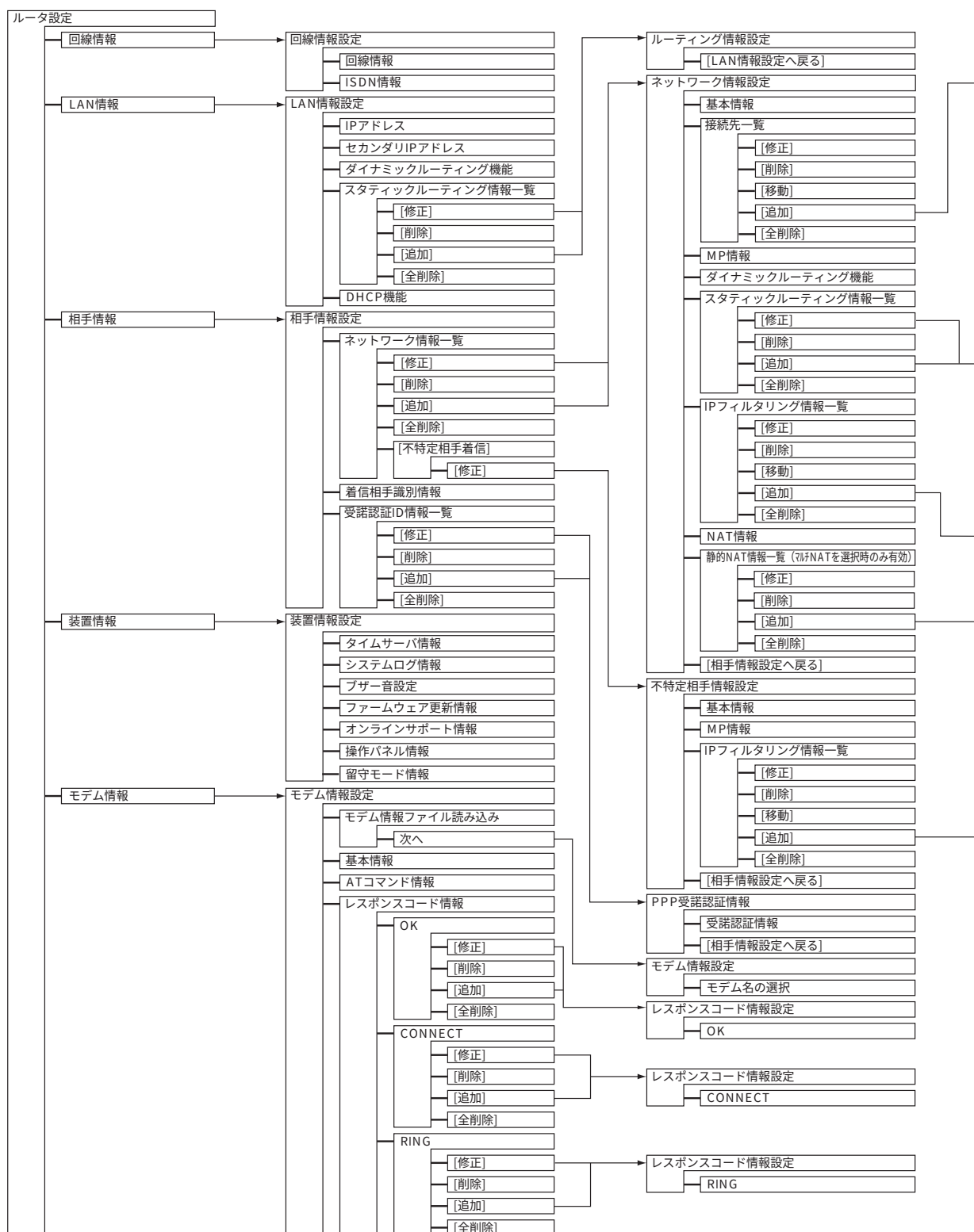
Q84. 無通信監視機能はありますか？

A. NetVehicle は無通信監視は行いません。

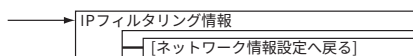
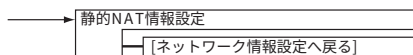
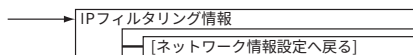
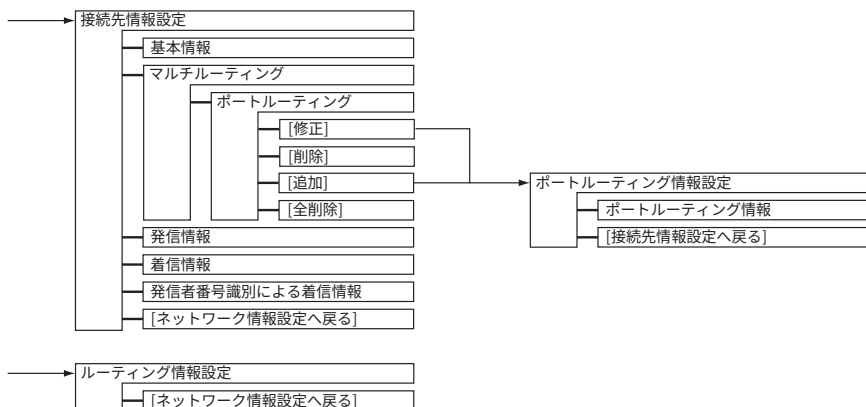
Windows® 95/98/2000 の機能を使えばできます。

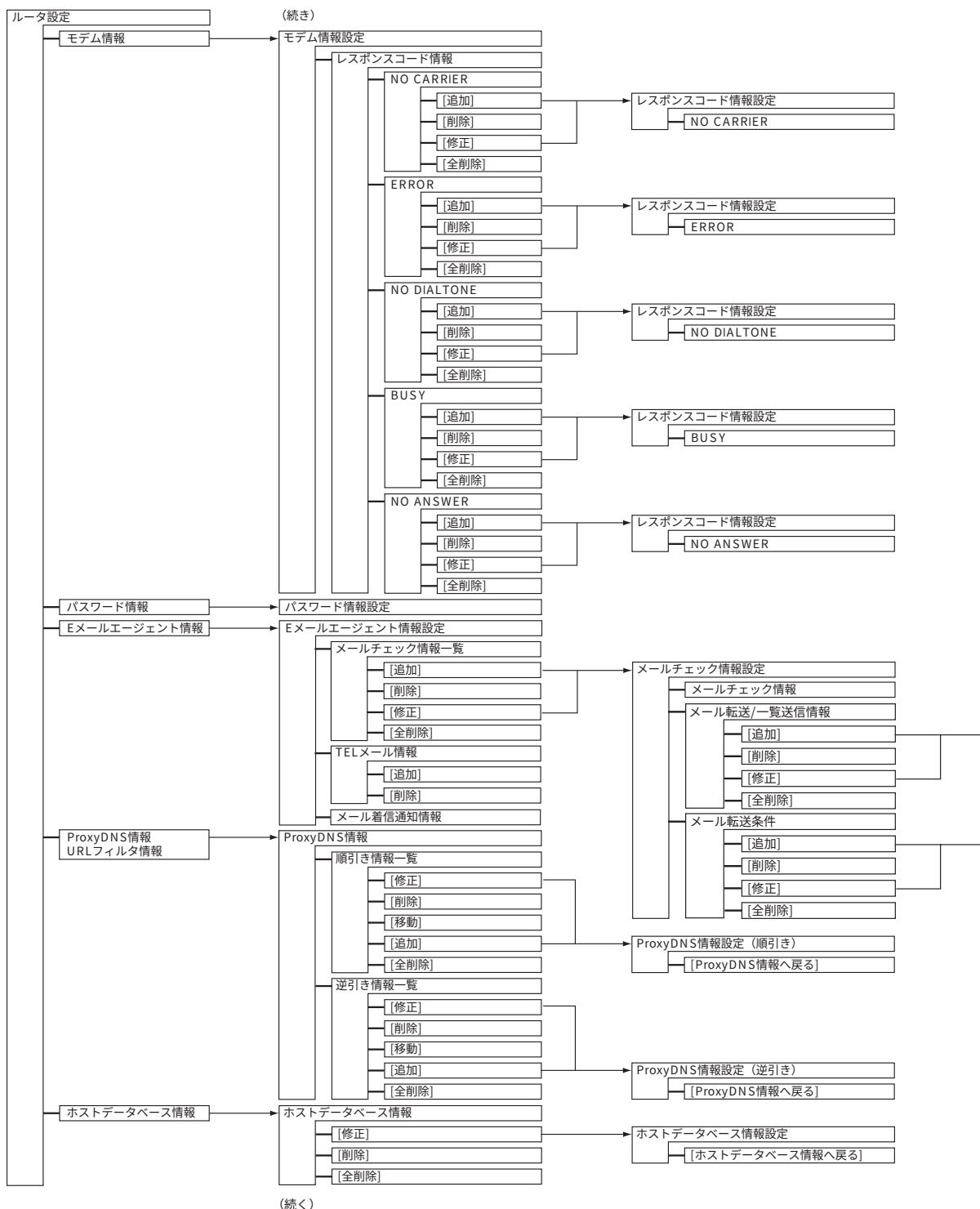


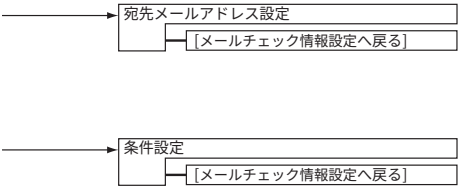
「詳細設定」で設定できる項目



(続く)











索引

英数字

CBCP 方式	146
CHECK ランプ	186, 273
DA128	90
DHCP サーバ機能	74, 134
DHCP スタティック機能	74, 134
DNS サーバ	112, 128
DNS サーバ機能	133
E メールエージェント	174
E メールエージェント情報設定	42
FUNCTION ボタン	190
IP アドレスの設定	250
IP 統計情報	269
IP フィルタリング情報	30
IP フィルタリング機能	74, 108, 134
ISDN 理由表示番号一覧	288
i・ナンバー着信機能	234
LAN 情報設定	18
LCR 機能	197
MAC アドレス ... 74, 86, 134, 145, 281	
Magic Packet	145
OCN エコノミー	94
PHS	137, 144
PIAFS 通信カード	137
ping コマンド	266
PPP 受諾認証情報	34
PPP フレームトレース情報	279, 286
Proxy ARP	86
ProxyDNS	84, 128
ProxyDNS 情報	49
ProxyDNS 情報設定(逆引き)	51
ProxyDNS 情報設定(順引き)	50
TCP 接続要求	109
TEL メール機能	174, 183
URL フィルタ機能	169
VPN アダプタ	156
Wake-up-ID	145
Wakeup on LAN	144
Windows® 2000	146
Windows® 95	146
Windows® 98	130, 146
Windows® Me	146
WindowsNT®	146

あ

相手情報設定	21
アクセスサーバ機能	137
アナログ回線	165
アナログ共通情報	58
アナログダイヤルイン	244
アナログポート	196, 198, 199, 204
アナログポート 1 / 2 情報	60
液晶ディスプレイ	290
エラーログ情報	280
オンラインサポート	281

か

回線情報設定	16
回線接続状況	269
外線発信規制	203
回線ログ情報	269
課金情報	269
課金制御機能	171
課金単位時間	171
カスタマコントロール機能	225
疑似キャッチホン	211
疑似三者通話	215
疑似着信転送	213
疑似通信中転送	217
疑似迷惑電話お断り	209
基本 NAT	101
基本 NAT 機能	107
キャッチホン・ディスプレイ	229
グローバルアドレス	100
グローバル着信	236
経過時間情報	269
掲示板	269
月間／週間予約設定	55
コールバック機能	146

さ

サブアドレス	144, 186, 235, 256
三者通話	219
識別着信機能	204
識別着信情報	66
識別着信情報設定	67
識別着信情報設定 (発信者番号非通知着信)	70

識別着信情報設定（公衆電話着信）	69
識別着信情報設定（デフォルト定義）	68
時刻設定	269
システムログ情報	269
詳細コード	274
詳細設定メニュー	14
スケジュール機能	187
スケジュール情報	54
スタンバイモード	196, 249, 256
静的 NAT	101
静的 NAT 機能	74, 107, 134
静的 NAT 情報設定	31
セキュリティ	108
設定変更用暗証番号	256
接続先情報設定	25
ソースアドレスルーティング	72
ソースアドレスルーティング機能	74, 124
操作パネル	190
操作メニュー	264
送着信番号情報	65
装置情報設定	35

た

ターミナルアダプタ（TA）	186
ダイヤルアップネットワーク	157, 160
ダイヤルイン	186
ダイヤルインサービス	225, 236
ダブルフック	221
着信転送	219, 249, 256
チャンネル統計情報	269
通信中転送	219
テレホーダイ	267
転送トーキ	219
転送元トーキ	219
電話番号変更予約設定	56
動的 NAT	101
動的 NAT 機能	107
時計の設定	249

な

ナンバー・ディスプレイ	204, 209, 227, 249, 256
ネットワーク情報設定	22

は

パスワード情報設定	41
発信規制情報設定（発信許可）	64
発信規制情報設定（発信抑止）	63
発信者番号通知	231
発信者番号通知サービス	146
表示メニュー	269
ファームウェアの更新	280
ファイアウォール	108
フッキング	198
不特定相手情報設定	32
プライベートアドレス	100
フレックスホン	219
フレックスホン自動切替え機能	224
プロバイダ	72, 124
ポートルーティング機能	124
ポートルーティング情報設定	28
ボイスワープ	225
ホストデータベース情報	52, 133, 134
ホストデータベース情報設定	53

ま

マルチ NAT	315
マルチ NAT 機能	100
マルチ TA 機能	154
マルチ TA 情報	57
マルチルーティング機能	124, 134
ミキシングモード	216, 221
無課金コールバック	146
無通信監視タイマ	171
無鳴動着信機能	233
メール一覧送信機能	174, 181
メールチェック	269
メールチェック機能	174, 175
メール着信通知	269
メール着信通知機能	174, 186
メール転送機能	174, 179
メンテナンスメニュー	278
モデム	165
モデム情報設定	38
モデム情報ファイル	167
モデムダイヤルイン	238

や

ユーザ間情報通知サービス	282

ら

リバースパルス	248
リモートパワーオン機能	144
リモートメールチェック機能	174, 177
リング音	204
ルーティング情報	269
ルーティング情報設定 (LAN 情報)	20
ルーティング情報設定 (ネットワーク情報)	29
留守モード動作設定	192
ログインパスワード	97

NetVehicle-GX5 取扱説明書 応用編

P3NK-E122-04

発行日 2002 年 8 月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- ・本書の一部または全部を無断で他に転載しないよう、お願いいたします。
 - ・本書は、改善のために予告なしに変更することがあります。
 - ・本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権、その他の権利、損害については、当社はその責を負いません。
 - ・落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。
-